

# 中央区政世論調査

---

---

## 報告書

---

---

第45回 平成27年5月実施

---



中央区



## は じ め に

区政運営のための指針づくりや施策の実施にあたっては、区民の皆さまの多様な意見・要望をさまざまな手段を講じて聴取し、把握・分析したうえでの確に反映させていくことが大切です。

そのため、区では、広聴はがき、行政広聴会、区政モニター制度など各種の広聴活動を行っています。

「区政世論調査」もその一つとして、区民の皆さまの意見を統計的に把握するもので、昭和40年から実施し今回で45回目となりました。今回の調査では、「定住性」「防災対策」「健康診査」「高齢者施策」「子育て支援」「障害者福祉」「男女共同参画社会」「防犯対策」「生涯学習」「スポーツ」「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」「施策の要望・評価」の12項目についてお伺いしました。調査結果は、今後の区政運営の基礎資料として活用していきますが、多くの皆さまに参考としていただければ幸いです。

おわりに、調査にご協力いただきました区民の皆さまに厚くお礼申し上げます。

平成27年9月

中央区企画部広報課



---

<b>I 調査のあらまし</b> .....	1
1 調査の目的 .....	3
2 調査の項目 .....	3
3 調査の設計 .....	3
4 回収結果 .....	4
5 地域区分 .....	4
6 この報告書の見方 .....	4
7 調査方法略歴 .....	6
<b>II 回答者の属性</b> .....	7
1 性別 .....	9
2 年齢 .....	9
3 職業 .....	9
4 居住地域 .....	10
5 同居家族 .....	10
6 住居形態 .....	10
7 家族構成 .....	11
8 家族の状況 .....	11
9 ライフステージ（7分類） .....	11
<b>III 地域別にみた回答者の属性</b> .....	13
1 年齢 .....	15
2 職業 .....	15
3 同居家族 .....	15
4 住居形態 .....	16
5 ライフステージ .....	16
<b>IV 調査結果の分析</b> .....	17
<b>【1 定住性】</b> .....	19
(1) 居住年数 .....	19
(2) 愛着心 .....	22
(3) 定住意向 .....	25
<b>【2 防災対策】</b> .....	28
(1) 家庭での災害に対する備え .....	28
(2) 家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備え .....	33
(3) 防災拠点の認知度 .....	35

# 目 次

---

(4) 災害に備えた地域の協力体制	38
(5) 避難の際に心配なこと	40
(6) 災害時に協力できる活動	44
(7) 災害情報を得る手段として有効だと思うもの	47
<b>【3 健康診査】</b>	50
(1) 加入している健康保険	50
(2) 健康診査の受診状況	53
(3) 健康診査を受けなかった理由	56
<b>【4 高齢者施策】</b>	60
(1) 要介護時における暮らし方	60
(2) 区に望む高齢者保健福祉サービス	64
(3) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス	67
<b>【5 子育て支援】</b>	69
(1) 子育てに関する悩みの相談	69
(2) 区に望む子育て支援策	73
(3) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス	77
<b>【6 障害者福祉】</b>	79
(1) 共生社会の実現	79
(2) 区に望む障害者支援施策	82
<b>【7 男女共同参画社会】</b>	84
(1) 男女の地位の平等感	84
(2) ワーク・ライフ・バランスについての考え方	106
(3) 望ましい位置づけに対しての現在の状況	110
(4) 女性センター「ブーケ21」の認知度	114
<b>【8 防犯対策】</b>	118
(1) 不安に感じる犯罪	118
(2) 防犯のために行っていること	122
(3) 区に特に力を入れてほしい施策	126
<b>【9 生涯学習】</b>	130
(1) 過去1年間に行った趣味や自己啓発の種類	130
(2) 趣味や自己啓発の活動場所や活動状況	133
(3) 過去1年間に趣味や自己啓発をしなかった理由	135

---

【10 スポーツ】	137
(1) 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類	137
(2) 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度	142
(3) スポーツへの参加機会を増やすために区に望むこと	146
【11 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会】	149
(1) 大会への思い	149
(2) 大会の開催に伴い期待していること	151
(3) 大会の開催に伴い懸念していること	154
【12 施策の要望・評価】	156
(1) 区の施策の満足度と重要度	156
(2) 区の施策への要望	163
V 結果の数表	167
VI 使用した調査票	189





# I 調査のあらまし



# I 調査のあらまし

## 1 調査の目的

区民の生活環境への意識、区の施策に対する評価および区政への意見・要望を把握し、本区の行政施策上の参考資料とする。

## 2 調査の項目

今回の調査では、次の12項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 防災対策
- (3) 健康診査
- (4) 高齢者施策
- (5) 子育て支援
- (6) 障害者福祉
- (7) 男女共同参画社会
- (8) 防犯対策
- (9) 生涯学習
- (10) スポーツ
- (11) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会
- (12) 施策の要望・評価

## 3 調査の設計

- |          |   |
|----------|---|
| (1) 調査対象 | 中央区に居住する満20歳以上の男女個人（外国人区民を除く）                                     |
| (2) 対象者  | 2,000人  |
| (3) 抽出方法 | 無作為抽出法<br>平成27年4月1日現在の住民基本台帳に登録された満20歳以上の男女114,519人より一定の割合で系統的に抽出 |
| (4) 調査方法 | 郵送法（郵送配布－郵送回収）  |
| (5) 調査時期 | 平成27年5月8日（金）～5月25日（月）   |
| (6) 調査機関 | 株式会社 市川環境アセス  |

## 4 回収結果

### (1) 地域別対象者数・回収数・回収率

地域	対象者	回収数	回収率(%)
京橋地域	507	242	47.7
日本橋地域	636	312	49.1
月島地域 (無回答)	857	455	53.1
計	2,000	1,027	51.4

### (2) 無効票(率)・無効内訳(率)

事故内訳	実数(率)	内訳比率
転居	11(0.6)	78.6
その他	3(0.2)	21.4
計	14(0.7)	100.0

\*宛名なしで返送されてきた調査票を転居とした。

\*高齢や病気等の理由により、調査辞退者をその他とした。

## 5 地域区分

集計にあたっては、地域特性を把握するため、区役所、特別出張所管内別に、京橋・日本橋・月島の3地域に区分した。

## 6 この報告書の見方

### (1) 注意事項

- ①この報告書の設問および図表中のnとは、設問に対する回答者数で、比率算出の基数を示す。
- ②回答の比率(%)はnを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位までを示した。したがって、合計が100%にならない場合がある。
- ③グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- ④回答者数が30に満たないものについては、図示するに留め、この報告書では特に取りあげていないものもある。
- ⑤本文中で、百分率の比較をする際には、ポイントと表記している。
- ⑥統計数値を考察するにあたっては、表現をおおむね以下のとおりとしている。

例	表現
20.0～20.4%	2割
20.5～20.9%	約2割
21.0～23.9%	2割を超える
24.0～26.4%	2割台半ば
26.5～28.9%	3割近く
29.0～29.4%	約3割
29.5～29.9%	3割

- ⑦クロス集計の図表では、分析軸となる質問（性別、性／年齢別など）に無回答だった人については掲載していない。そのため、各層のnの合計が総数とは一致しない場合がある。
- ⑧複数回答の設問におけるクロス集計の分析については、タイトルに（上位8項目）や（5項目）などと書き添えているものもある。その場合、「その他」や「無回答」などは項目数として含めずに数えている。

## （2）ライフステージについて

ライフステージとは、人間の一生を年齢や結婚、子どもの成長、子どもの独立、子どもの同居の有無などによっていくつかの段階に分けたものである。例えば、今回の調査で30歳代のライフステージ構成をみると、子どもがいないか未就学児のいる「家族形成期」（51.7%）が最も高いが、「独身期」（30.9%）や小・中学生の子どものいる「家族成長前期」（14.8%）もある。このように同じ30歳代でも人生段階は異なり、未就学児のいる人と小・中学生のいる人では、関心を持つ問題なども異なってくる。ライフステージによる分析は、単なる年齢別とは違う人生段階に目を向けた点に特徴がある。

今回の調査では、家族の状況を6分類して、回答者にどの段階であるかを答えてもらい、年齢を考慮して、最終的に「その他」を含む7分類にまとめた。

- ①独身期 = 独身（20・30歳代、学生など：親と同居含む）
- ②家族形成期 = 子どもがいない夫婦（20・30歳代）  
子どもあり（一番上が小学校入学前）
- ③家族成長前期 = 子どもあり（一番上が小・中学生）
- ④家族成長後期 = 子どもあり（一番上が高・大学生）
- ⑤家族成熟期 = 64歳以下で子どもあり  
（一番上または子ども全員が卒業、就職、結婚など）
- ⑥老齢期 = 65歳以上で子どもあり  
（一番上または子ども全員が卒業、就職、結婚など）  
独身（65歳以上）、子どもがいない夫婦（65歳以上）
- ⑦その他 = 独身（40～64歳）、子どもがいない夫婦（40～64歳）

### (3) 標本誤差

標本誤差（サンプル誤差）はおおよそ下記の通りである。等間隔抽出法、すなわち無作為抽出法の標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数(n)、および回答比率（P）によって異なる。

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b=標本誤差    N=母集団  
n=比率算出の基数（サンプル数）  
P=回答比率

回答比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,027	±1.86	±2.49	±2.85	±3.04	±3.11
700	±2.26	±3.01	±3.45	±3.69	±3.77
500	±2.68	±3.57	±4.09	±4.37	±4.46
300	±3.46	±4.61	±5.28	±5.65	±5.77

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数が1,027で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.04%以内（56.96～63.04%）である」とみることができる。

## 7 調査方法略歴

この報告書の一部の設問において過年度比較をしている。比較に用いている各調査年の調査手法をまとめた。

調査年	調査方法	説明
昭和63年	面接法	調査員による個別面接調査
平成4年	面接法	調査員による個別面接調査
平成8年	面接法	調査員による個別面接調査
平成12年	留置法	郵送配布－訪問回収
平成16年	留置法	郵送配布－訪問回収
平成17年	留置法	郵送配布－訪問回収
平成18年	留置法	郵送配布－訪問回収
平成19年	留置法	郵送配布－訪問回収
平成20年	郵送法	郵送配布－郵送回収
平成21年	郵送法	郵送配布－郵送回収
平成22年	郵送法	郵送配布－郵送回収
平成23年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収
平成24年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収
平成25年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収
平成26年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収

## Ⅱ 回答者の属性

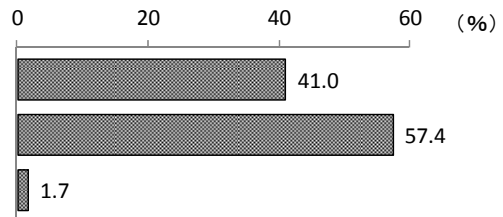




## Ⅱ 回答者の属性

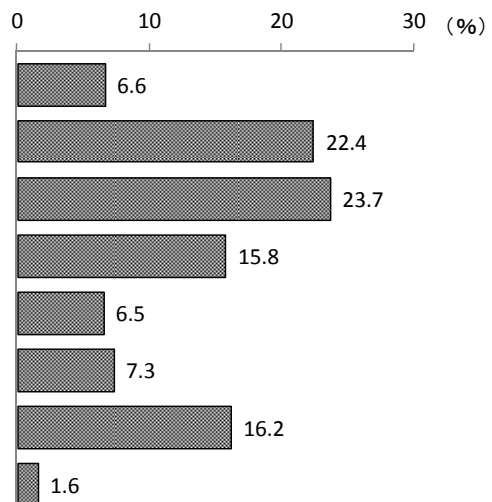
### 1 性別

	基数	構成比
1 男性	421	41.0%
2 女性	589	57.4%
(無回答)	17	1.7%
合計	1,027	100.0%



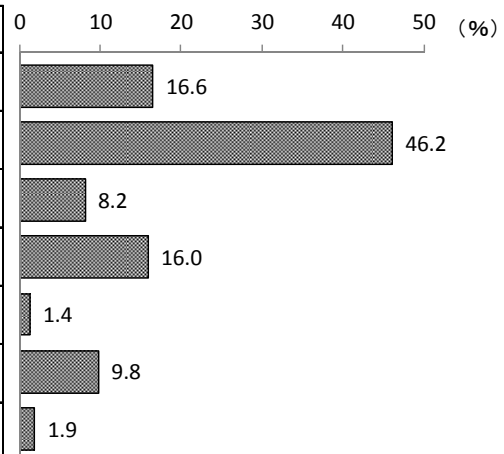
### 2 年齢

	基数	構成比
1 20歳代	68	6.6%
2 30歳代	230	22.4%
3 40歳代	243	23.7%
4 50歳代	162	15.8%
5 60～64歳	67	6.5%
6 65～69歳	75	7.3%
7 70歳以上	166	16.2%
(無回答)	16	1.6%
合計	1,027	100.0%



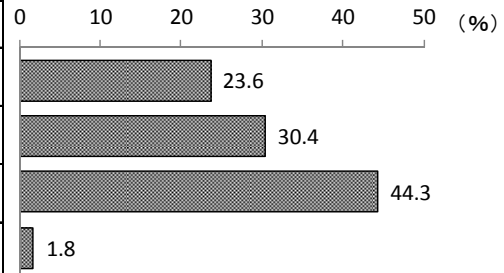
### 3 職業

	基数	構成比
1 自営業（家族従業を含む）	170	16.6%
2 勤め人	474	46.2%
3 アルバイト・パートタイマー	84	8.2%
4 無職（主婦）	164	16.0%
5 無職（学生）	14	1.4%
6 無職（その他）	101	9.8%
(無回答)	20	1.9%
合計	1,027	100.0%



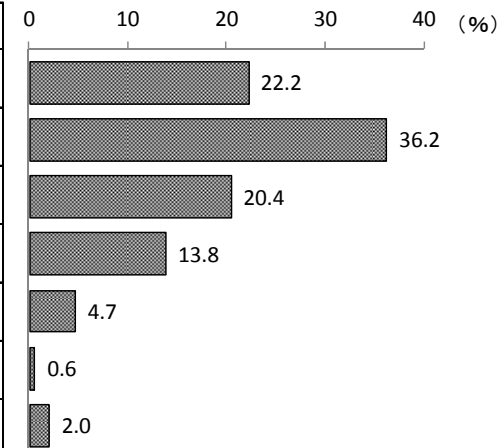
#### 4 居住地域

	基数	構成比
1 京橋地域	242	23.6%
2 日本橋地域	312	30.4%
3 月島地域	455	44.3%
(無回答)	18	1.8%
合計	1,027	100.0%



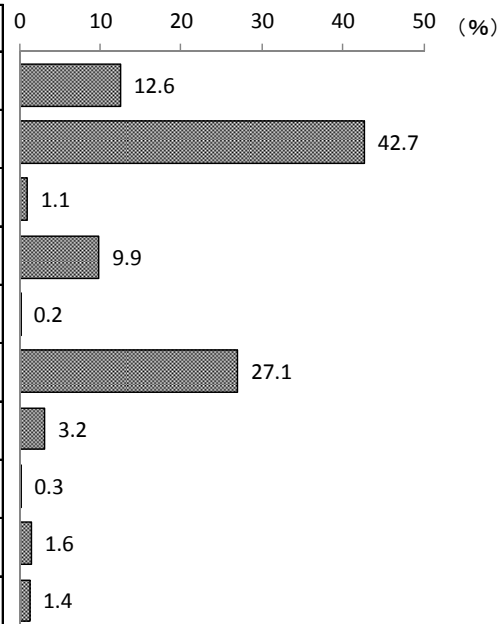
#### 5 同居家族

	基数	構成比
1 1人	228	22.2%
2 2人	372	36.2%
3 3人	210	20.4%
4 4人	142	13.8%
5 5人	48	4.7%
6 6人以上	6	0.6%
(無回答)	21	2.0%
合計	1,027	100.0%



#### 6 住居形態

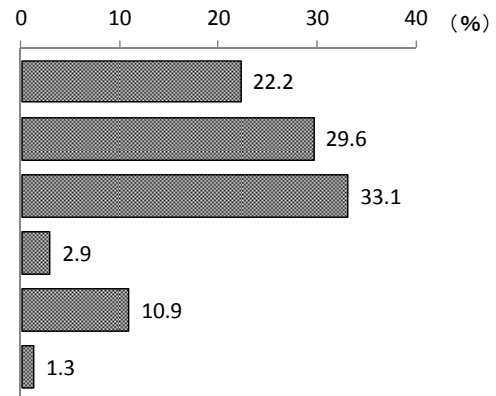
		基数	構成比
1	持家	一戸建	129 12.6%
2		分譲マンション	439 42.7%
3	借家	一戸建	11 1.1%
4		公共住宅(区立・区営・都営・公社・都市再生機構(旧公団))	102 9.9%
5		民間木造アパート	2 0.2%
6		民間鉄筋アパート・マンション	278 27.1%
7		社宅・官舎・寮	33 3.2%
8		間借り・住込み	3 0.3%
9		その他	16 1.6%
(無回答)		14	1.4%
合計		1,027	100.0%



\*その他の回答として、「ビル」、「老人ホーム」などの回答がみられた。

## 7 家族構成

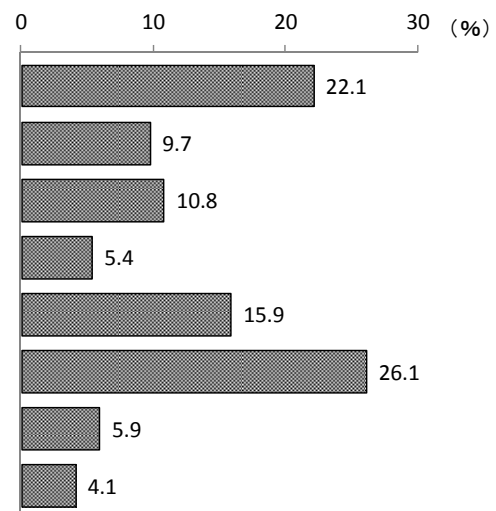
	基数	構成比
1 ひとり暮らし	228	22.2%
2 夫婦だけ（1世代）	304	29.6%
3 夫婦と子どもだけ（2世代）	340	33.1%
4 夫婦と子どもと親（3世代）	30	2.9%
5 その他	112	10.9%
（無回答）	13	1.3%
合計	1,027	100.0%



\*その他の回答として、「兄弟」、「友人」などの回答がみられた。

## 8 家族の状況

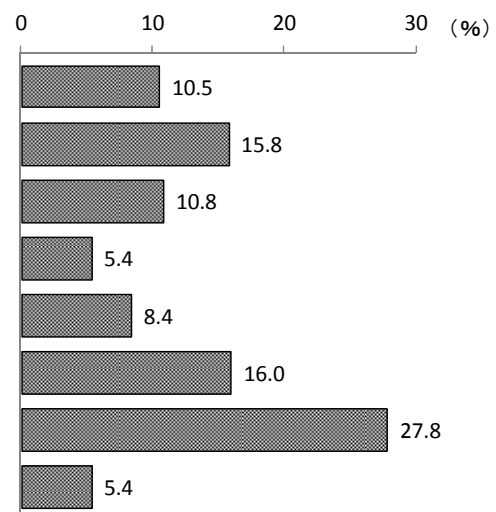
	基数	構成比
1 子どものいない夫婦	227	22.1%
2 一番上の子どもが小学校入学前	100	9.7%
3 一番上の子どもが小・中学生	111	10.8%
4 一番上の子どもが高校・大学生	55	5.4%
5 一番上の子どもが学校卒業	163	15.9%
6 独身	268	26.1%
7 その他	61	5.9%
（無回答）	42	4.1%
合計	1,027	100.0%



\*その他の回答は、「単身赴任」、「ひとり暮らし」など家族の状況が明白でないものとした。

## 9 ライフステージ（7分類）

	基数	構成比
1 独身期	108	10.5%
2 家族形成期	162	15.8%
3 家族成長前期	111	10.8%
4 家族成長後期	55	5.4%
5 家族成熟期	86	8.4%
6 老齢期	164	16.0%
7 その他	286	27.8%
（無回答）	55	5.4%
合計	1,027	100.0%



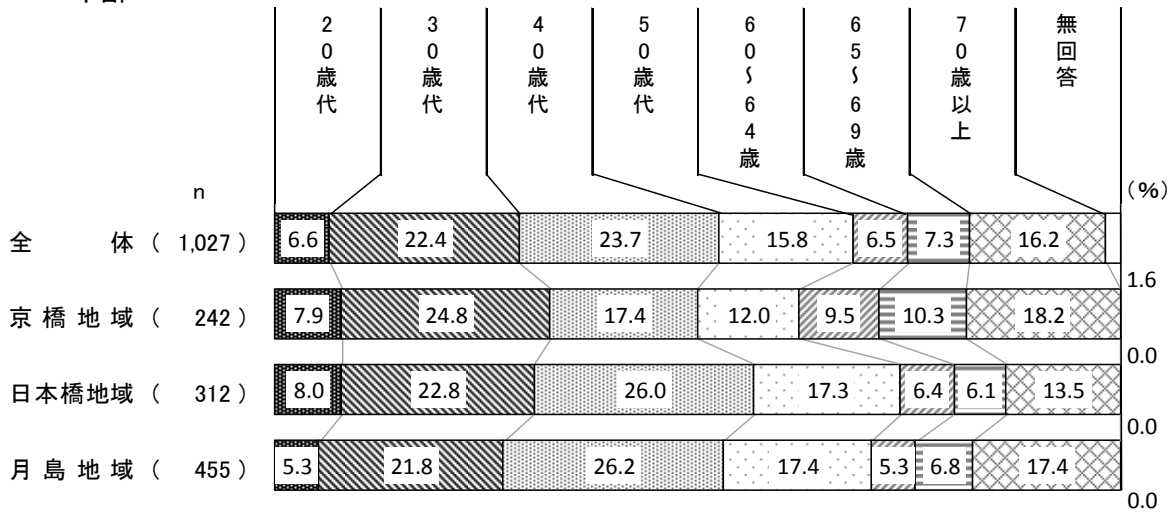


### Ⅲ 地域別にみた回答者の属性

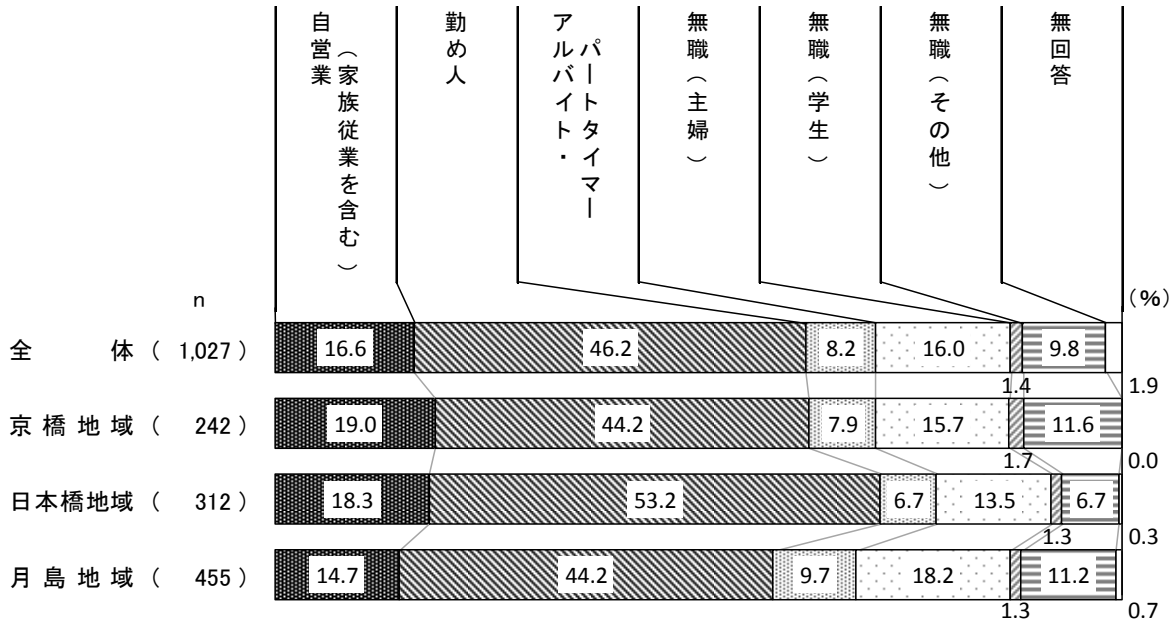


### Ⅲ 地域別にみた回答者の属性

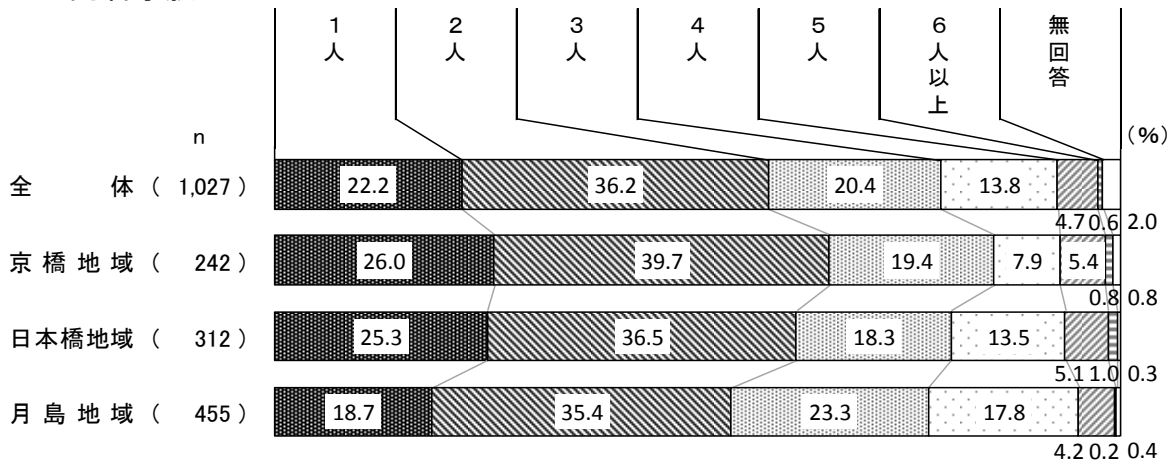
#### 1 年齢



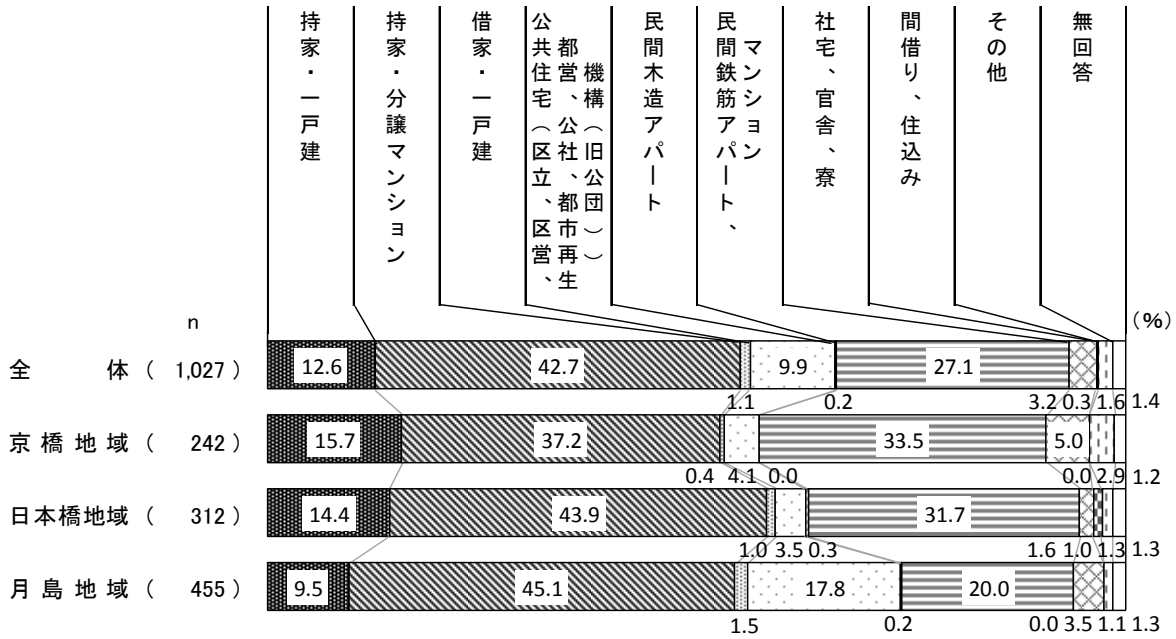
#### 2 職業



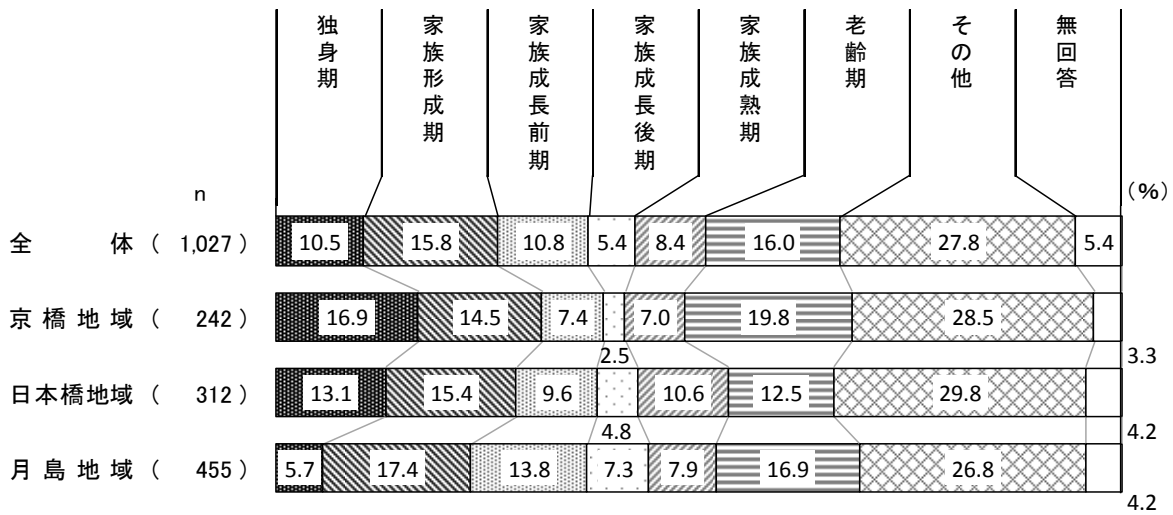
#### 3 同居家族



#### 4 住居形態



#### 5 ライフステージ





## IV 調査結果の分析



## IV 調査結果の分析

### 【1 定住性】

#### (1) 居住年数

◇『短期居住者』および『中期居住者』がそれぞれ3割台半ば

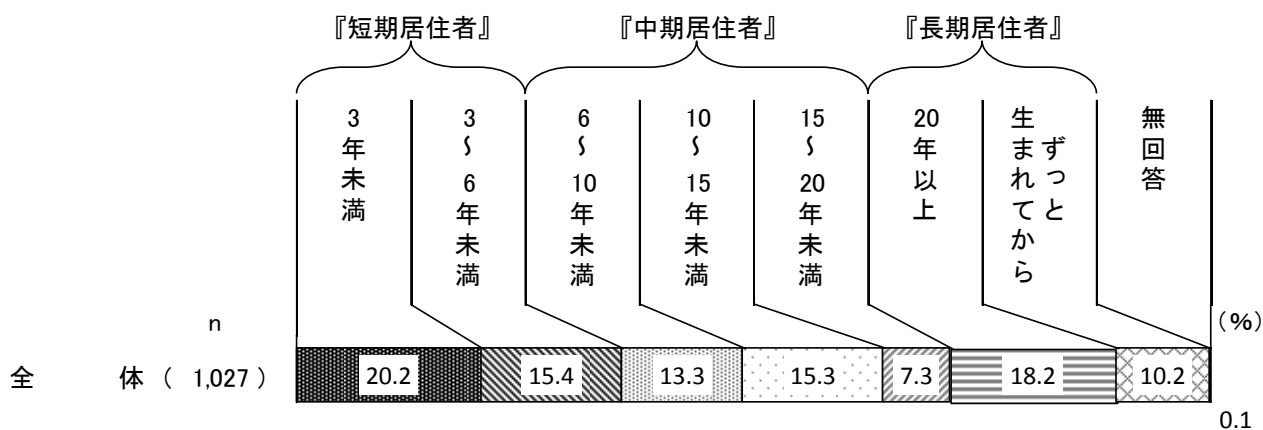
問1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。(○は1つ)					
n = 1,027					
1	3年未満	20.2%	5	15～20年未満	7.3
2	3～6年未満	15.4	6	20年以上	18.2
3	6～10年未満	13.3	7	生まれてからずっと	10.2
4	10～15年未満	15.3		(無回答)	0.1

居住年数は、「3年未満」(20.2%)が最も高くなっており、「3～6年未満」(15.4%)と合わせた『短期居住者』(35.6%)が3割台半ばとなっている。

また、「6～10年未満」(13.3%)と「10～15年未満」(15.3%)、「15～20年未満」(7.3%)を合わせた『中期居住者』(35.9%)も3割台半ばとなっている。「20年以上」(18.2%)と「生まれてからずっと」(10.2%)を合わせた『長期居住者』(28.4%)は3割近くとなっている。

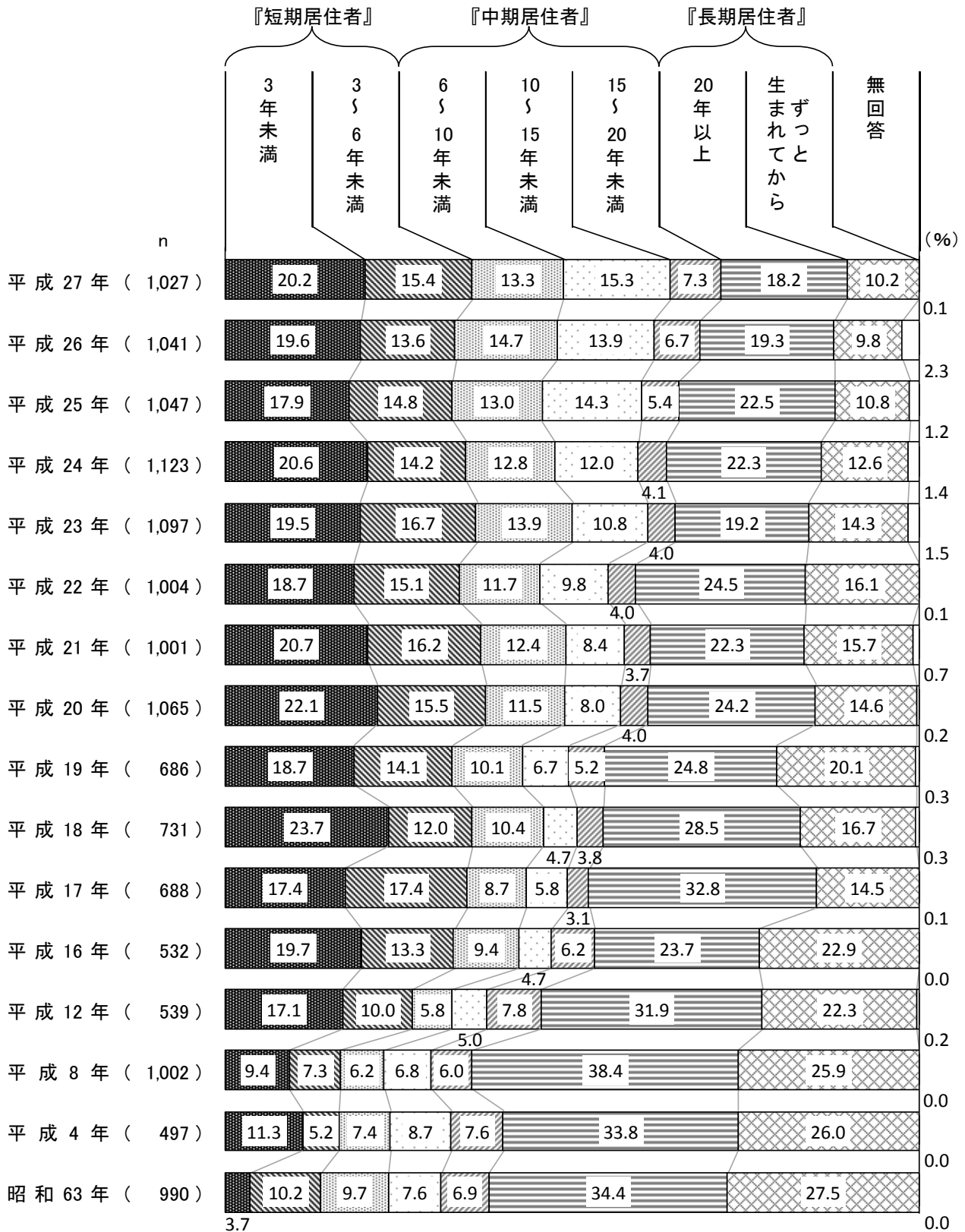
(図表1-1-1)

図表1-1-1 居住年数



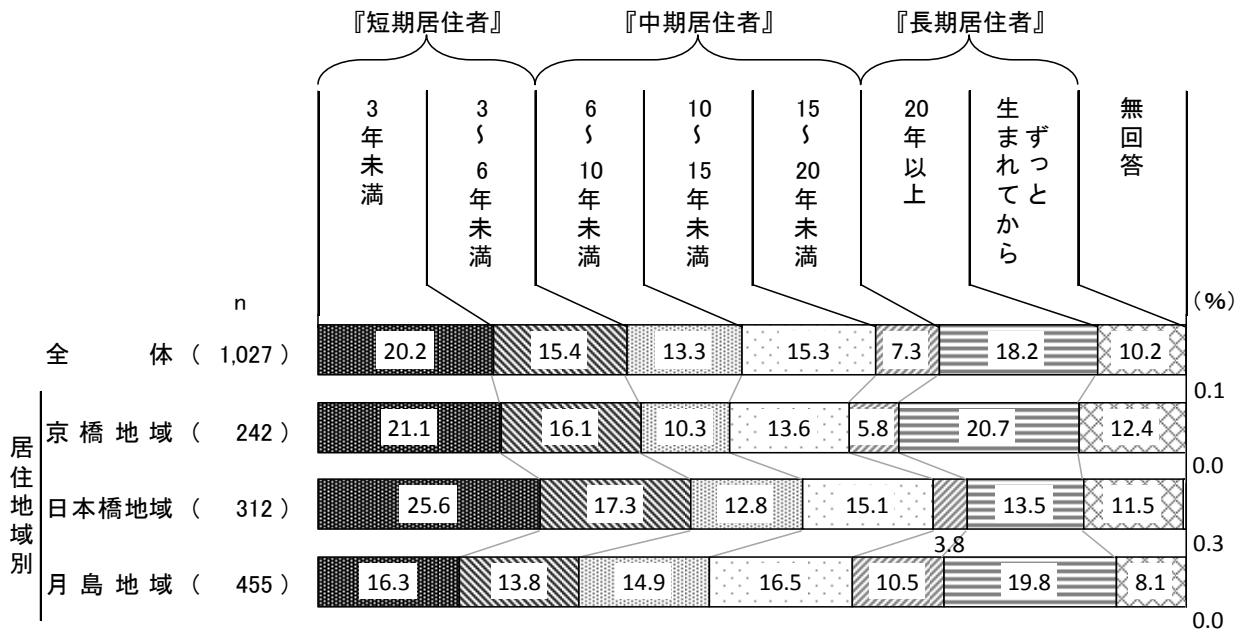
過去の調査結果と比較すると、『短期居住者』は2.4ポイント、『中期居住者』は0.6ポイント昨年より増加し、『長期居住者』は昨年より0.7ポイント減少している。(図表1-1-2)

図表1-1-2 居住年数一過年度比較



居住地域別でみると、「3年未満」と「3～6年未満」を合わせた『短期居住者』は日本橋地域、「6～10年未満」と「10～15年未満」、「15～20年未満」を合わせた『中期居住者』は月島地域で4割を超えており、「20年以上」と「生まれてからずっと」を合わせた『長期居住者』は京橋地域で3割を超えている。(図表1-1-3)

図表1-1-3 居住年数—居住地域別



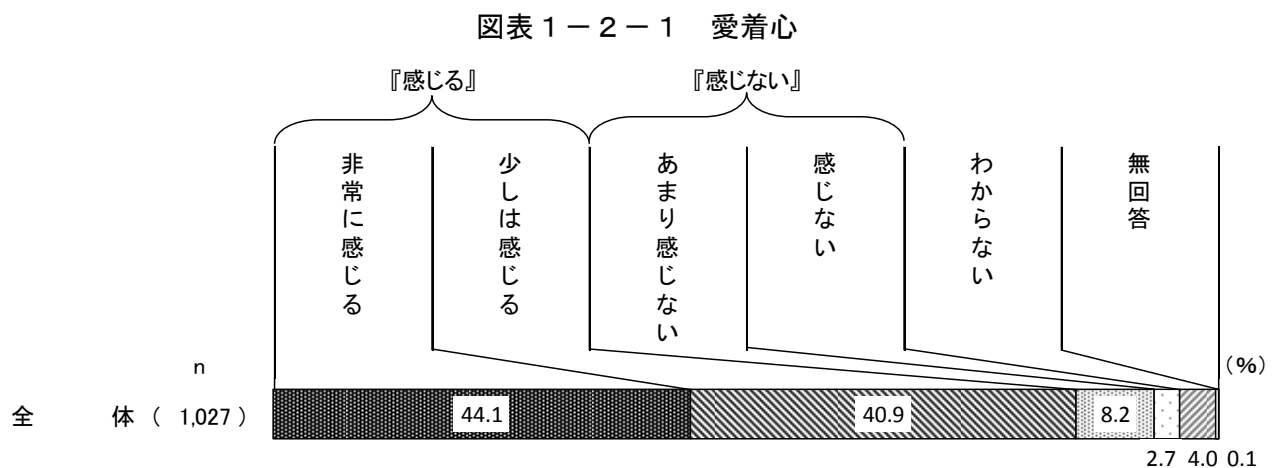
## (2) 愛着心

◇愛着を『感じる』人が8割台半ば

問2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。					
(○は1つ)					
n = 1,027					
1	非常に感じる	44.1%	4	感じない	2.7
2	少しは感じる	40.9	5	わからない	4.0
3	あまり感じない	8.2		(無回答)	0.1

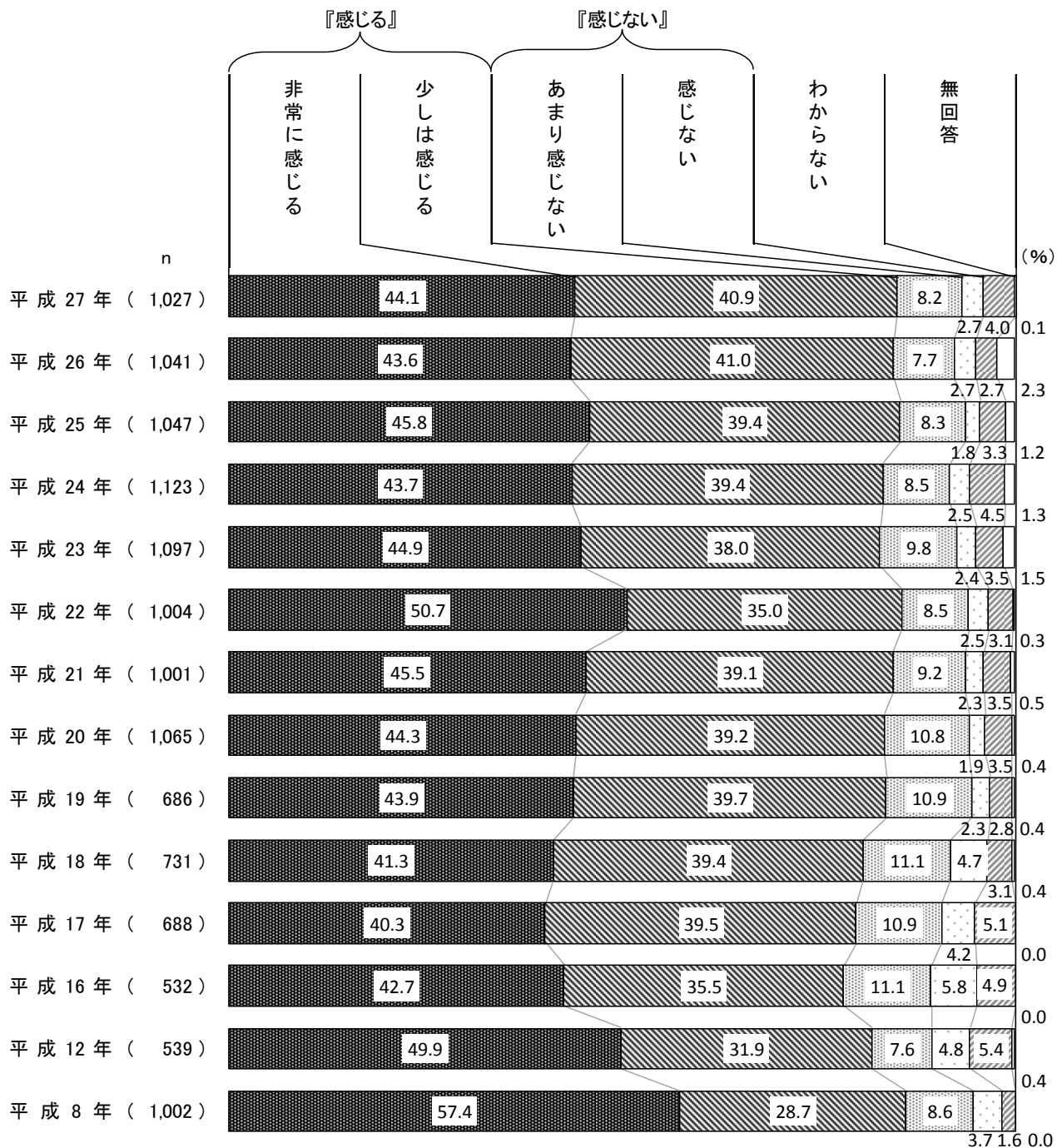
愛着心は、「非常に感じる」(44.1%)が最も高くなっており、「少しは感じる」(40.9%)と合わせた『感じる』(85.0%)が8割台半ばとなっている。

一方、「あまり感じない」(8.2%)と「感じない」(2.7%)を合わせた『感じない』(10.9%)は約1割となっている。(図表1-2-1)



過去の調査結果と比較すると、「非常に感じる」と「少しは感じる」を合わせた『感じる』は平成18年から継続して8割以上を占めている。(図表1-2-2)

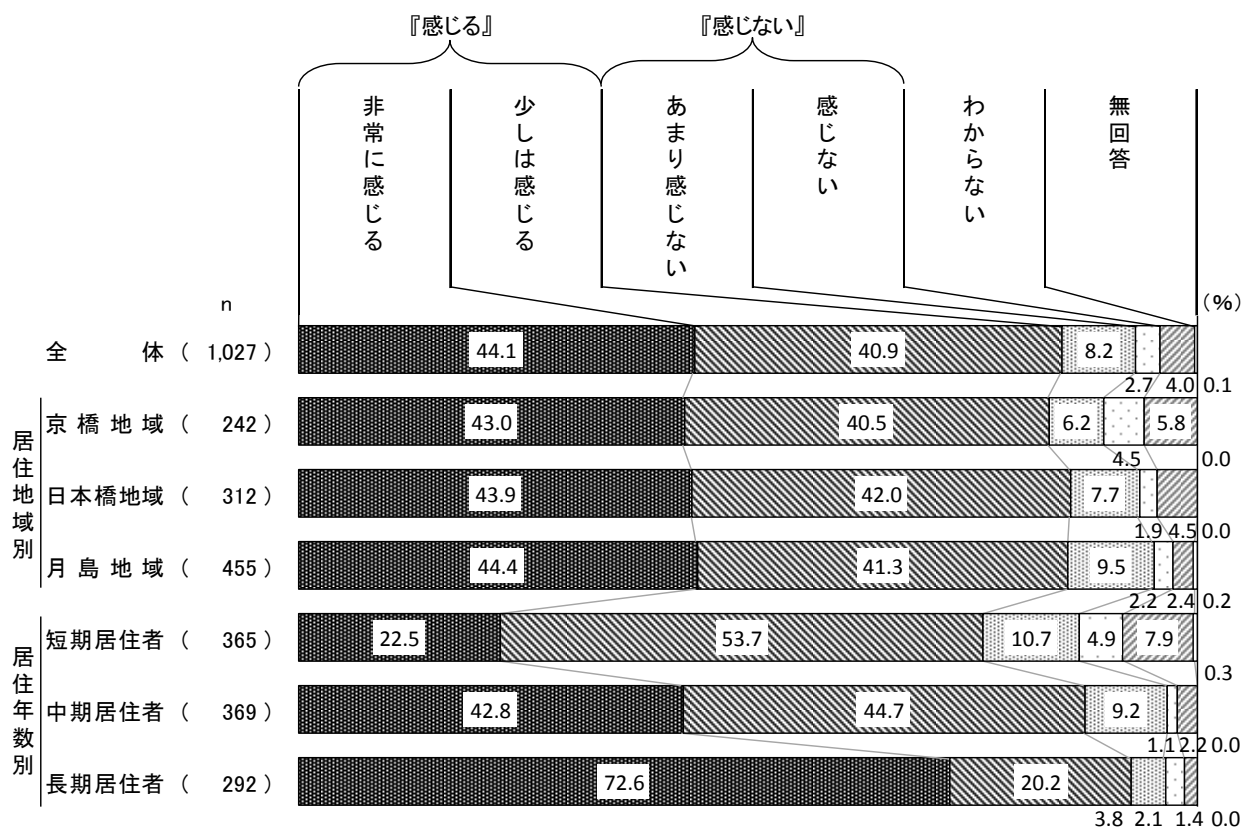
図表1-2-2 愛着心一過年度比較



居住地域別でみると、「非常に感じる」と「少しは感じる」を合わせた『感じる』はいずれの地域でも8割以上と高くなっている。

居住年数別でみると、『感じる』は居住年数が長くなるほど割合が高く、長期居住者で9割を超えて高くなっている。(図表1-2-3)

図表1-2-3 愛着心—居住地域別・居住年数別





### (3) 定住意向

◇『定住意向』が9割近く

問3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。(○は1つ)

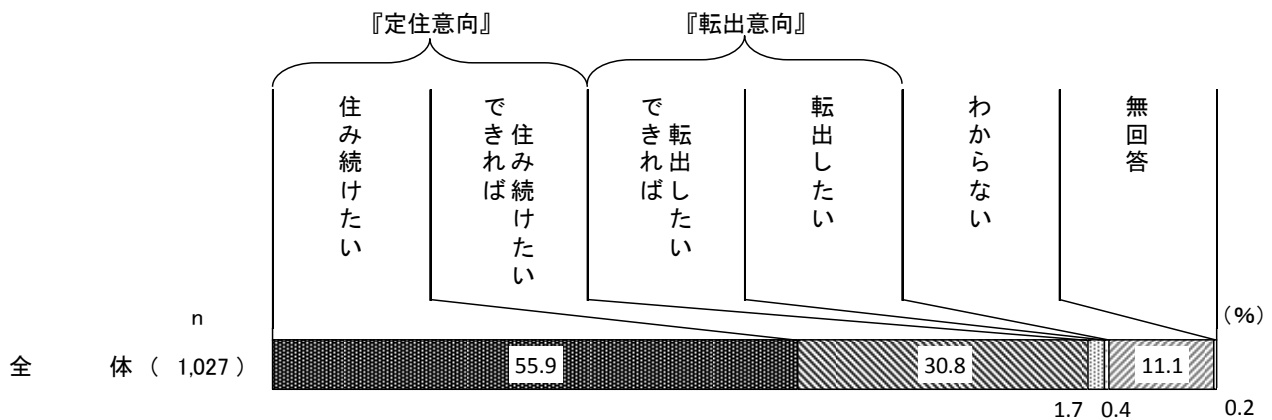
n = 1,027

1	住み続けたい	55.9%	4	転出したい	0.4
2	できれば住み続けたい	30.8	5	わからない	11.1
3	できれば転出したい	1.7	(無回答)		0.2

定住意向は、「住み続けたい」(55.9%)が最も高くなっており、「できれば住み続けたい」(30.8%)と合わせた『定住意向』(86.7%)が9割近くとなっている。

一方、「できれば転出したい」(1.7%)と「転出したい」(0.4%)を合わせた『転出意向』(2.1%)は1割未満となっている。(図表1-3-1)

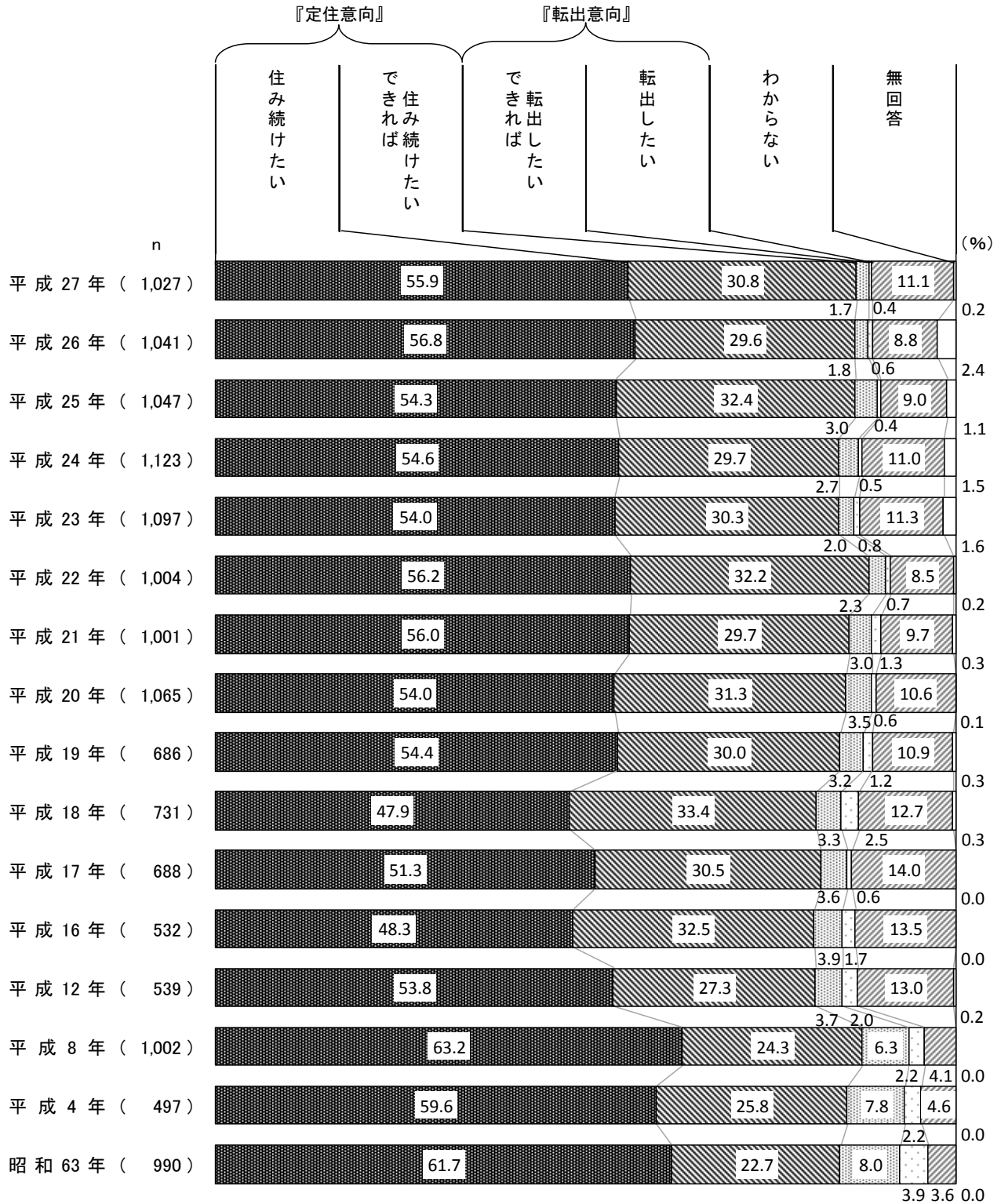
図表1-3-1 定住意向



過去の調査結果と比較すると、「住み続けたい」は昨年より0.9ポイント減少しているが、「できれば住み続けたい」と合わせた『定住意向』は、ほぼ同じ割合となっている。

(図表1-3-2)

図表1-3-2 定住意向一過年度比較

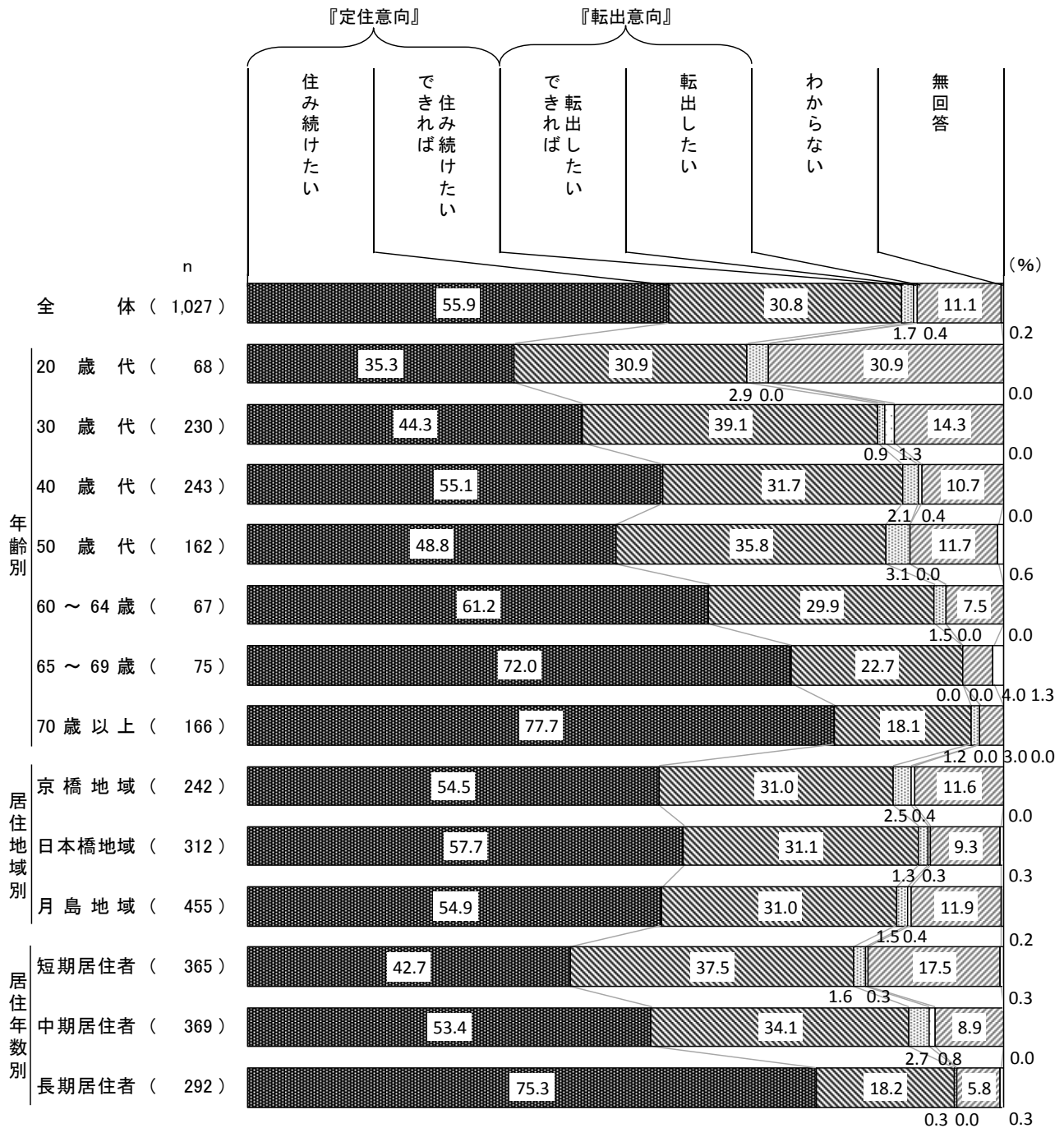


年齢別でみると、「住みたい」と「できれば住みたい」を合わせた『定住意向』は60～64歳以上の年代で9割以上と高くなっている。

居住地域別でみると、『定住意向』は日本橋地域で9割近くと高くなっている。

居住年数別でみると、『定住意向』は居住年数が長くなるほど割合が高く、長期居住者で9割を超えて高くなっている。(図表1-3-3)

図表1-3-3 定住意向一年齢別・居住地域別・居住年数別



## 【2 防災対策】

### (1) 家庭での災害に対する備え

◇「飲料水の備蓄」が6割を超える

問4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。(〇はいくつでも)

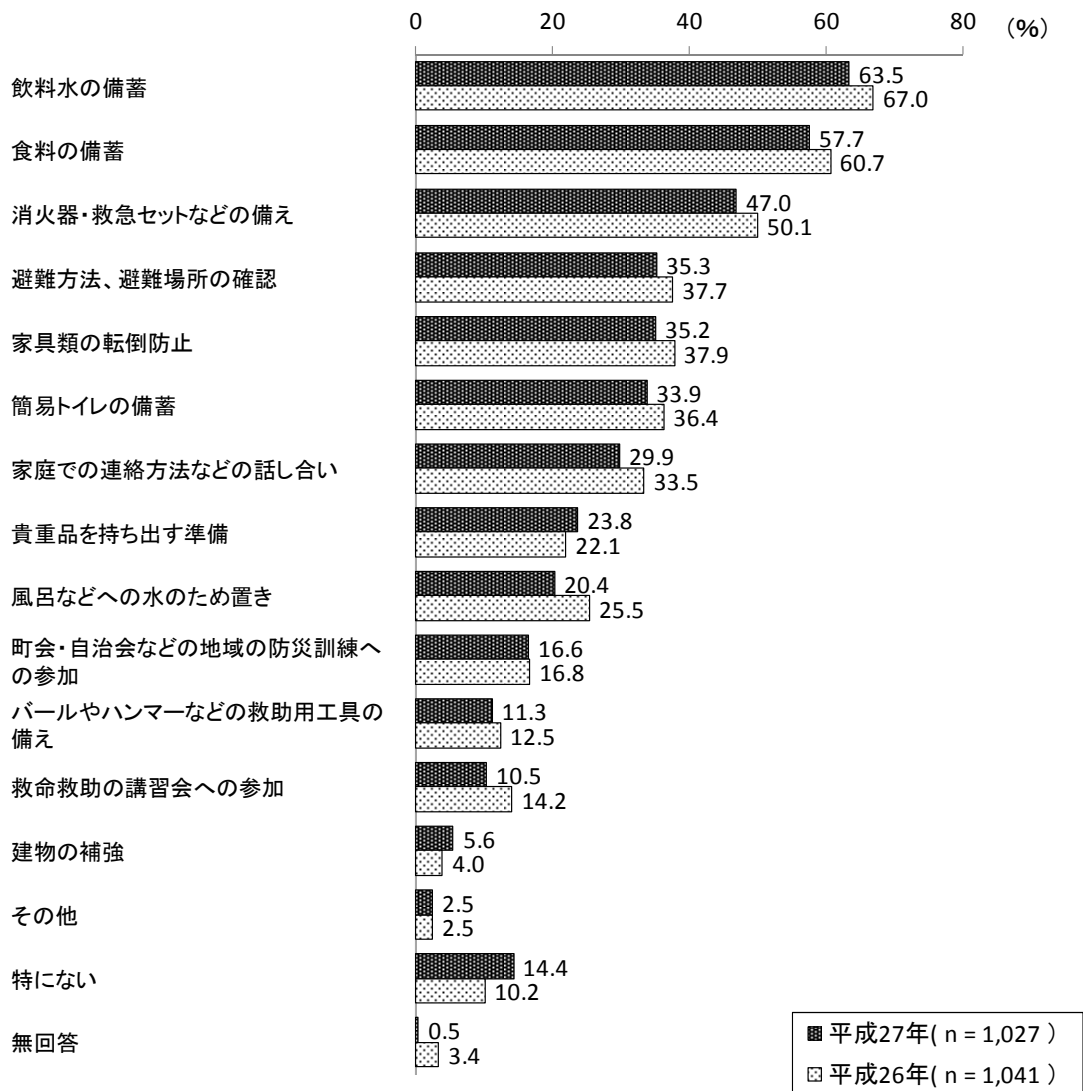
n = 1,027

1 食料の備蓄	57.7%
2 飲料水の備蓄	63.5
3 簡易トイレの備蓄	33.9
4 家具類の転倒防止	35.2
5 消火器・救急セットなどの備え	47.0
6 バールやハンマーなどの救助用工具の備え	11.3
7 貴重品を持ち出す準備	23.8
8 風呂などへの水のため置き	20.4
9 救命救助の講習会への参加	10.5
10 町会・自治会などの地域の防災訓練への参加	16.6
11 避難方法、避難場所の確認	35.3
12 家庭での連絡方法などの話し合い	29.9
13 建物の補強	5.6
14 その他	2.5
15 特にない (無回答)	14.4 0.5

家庭での災害に対する備えは、「飲料水の備蓄」(63.5%)が6割を超えて最も高くなっている。次いで、「食料の備蓄」(57.7%)、「消火器・救急セットなどの備え」(47.0%)、「避難方法、避難場所の確認」(35.3%)、「家具類の転倒防止」(35.2%)などとなっている。一方、「特にない」(14.4%)は1割台半ばとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「風呂などへの水のため置き」が5.1ポイント減少しているほか、「貴重品を持ち出す準備」と「建物の補強」を除き減少している。一方、「特にない」は4.2ポイント増加している。(図表2-1-1)

図表2-1-1 家庭での災害に対する備え（複数回答）

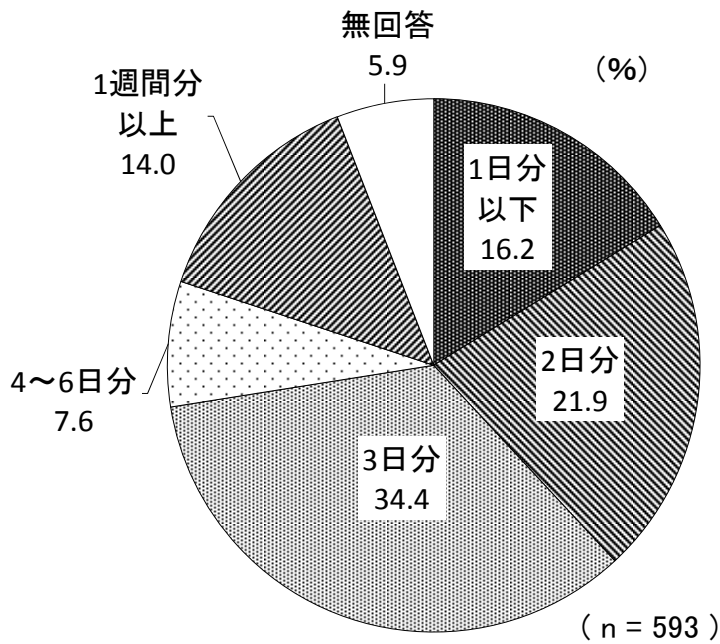


食料の備蓄日数は、「3日分」(34.4%)が3割台半ばと最も高く、平均備蓄日数は3.50日分となっている。(図表2-1-2)

飲料水の備蓄日数は、「3日分」(29.3%)が約3割と最も高く、平均備蓄日数は4.41日分となっている。(図表2-1-3)

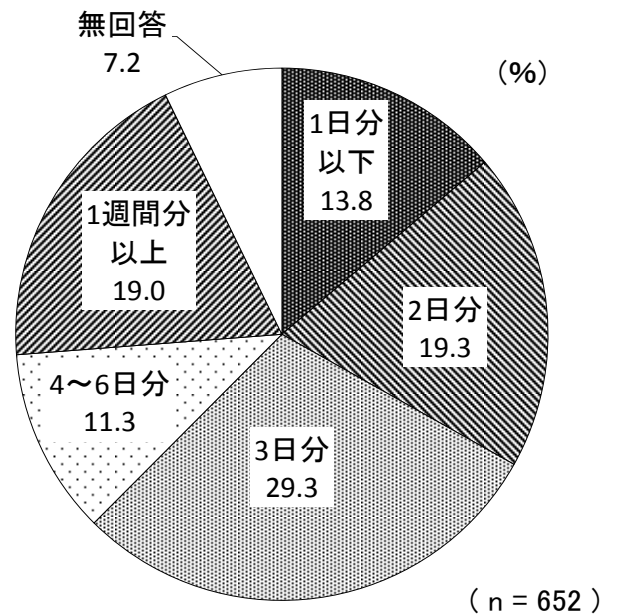
簡易トイレの備蓄日数は、「3日分」(31.9%)が3割を超えて最も高く、平均備蓄日数は4.14日分となっている。(図表2-1-4)

図表2-1-2 食料の備蓄日数



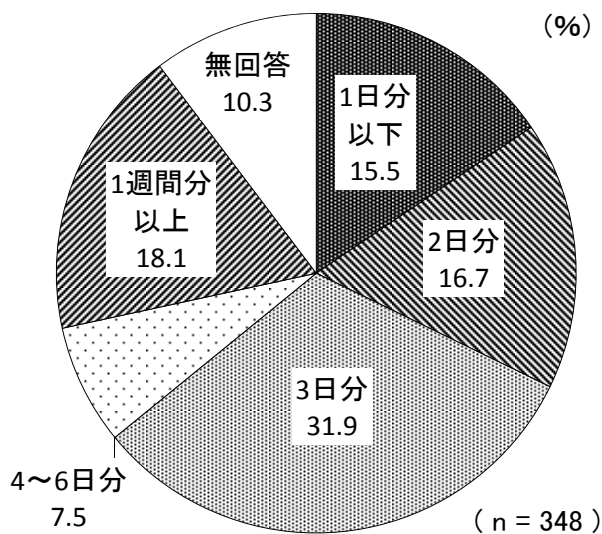
平均備蓄日数 : 3.50日

図表2-1-3 飲料水の備蓄日数



平均備蓄日数 : 4.41日

図表2-1-4 簡易トイレの備蓄日数



平均備蓄日数 : 4.14日

過去の調査結果と比較すると、平成22年以前は選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「飲料水の備蓄」、「食料の備蓄」、「消火器・救急セットなどの備え」が引き続き上位3項目となっている。(図表2-1-5)

図表2-1-5 家庭での災害に対する備え一過年度比較

単位：%

調査年	n	飲料水の備蓄	食料の備蓄	消火器・救急セットなどの備え	避難方法、避難場所の確認	家具類の転倒防止	簡易トイレの備蓄	家庭での話し合いの連絡方法などの	貴重品を持ち出す準備	風呂などへの水のため置き	町会・自治会などの参加地域の	防災訓練への参加	パルやハンマーなどの救助用工具の備え	救命救助の講習会への参加	建物の補強	その他	特にない	無回答
平成27年	1,027	63.5	57.7	47.0	35.3	35.2	33.9	29.9	23.8	20.4	16.6	11.3	10.5	5.6	2.5	14.4	0.5	
平成26年	1,041	67.0	60.7	50.1	37.7	37.9	36.4	33.5	22.1	25.5	16.8	12.5	14.2	4.0	2.5	10.2	3.4	
平成25年	1,047	67.1	60.6	49.5	36.9	37.0	30.0	34.7	24.7	28.5	18.6	13.1	11.2	4.8	3.1	8.8	1.5	
平成24年	1,123	67.7	58.9	51.6	35.5	40.1	23.5	36.2	26.2	27.0	16.5	13.1	11.0	4.2	2.2	9.0	1.8	
平成23年	1,097	63.1	51.0	39.5	30.5	36.7	19.3	35.1	31.6	28.4	11.5	8.5	6.2	2.3	1.9	7.1	2.0	
平成22年	1,004	42.8	37.3	39.5	26.7	※	※	21.2	17.5	21.8	16.6	6.7	7.2	5.8	1.9	19.9	2.0	
平成21年	1,001	41.0	36.4	37.2	24.3	21.0	※	23.1	13.4	19.9	14.2	4.7	7.5	3.0	0.9	20.3	1.4	
平成20年	1,065	41.1	24.8	31.7	29.6	23.6	※	26.1	11.0	19.5	14.3	4.2	6.5	2.1	1.6	20.5	1.9	
平成19年	686	42.6	26.5	36.7	24.3	21.3	※	16.9	12.8	22.6	14.0	4.5	6.0	1.6	0.7	25.8	0.7	

\* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

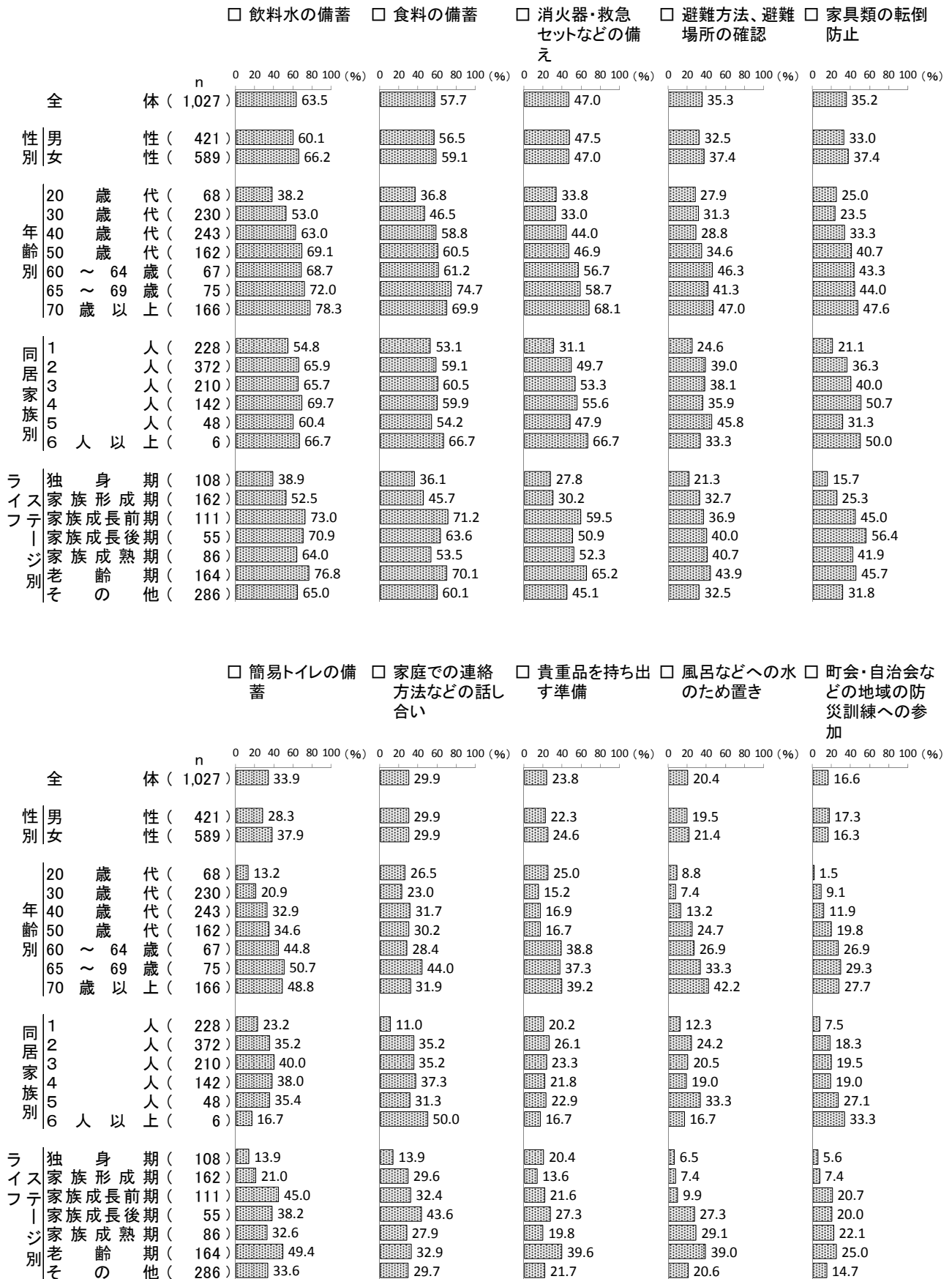
性別でみると、女性の方が男性よりも「簡易トイレの備蓄」で9.6ポイント、「飲料水の備蓄」で6.1ポイント、「避難方法、避難場所の確認」で4.9ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「飲料水の備蓄」は70歳以上で8割近く、「食料の備蓄」は65～69歳で7割台半ば、「消火器・救急セットなどの備え」は70歳以上で7割近くと高くなっている。

同居家族別でみると、「飲料水の備蓄」は同居家族4人で7割、「家具類の転倒防止」は同居家族4人で約5割と高くなっている。

ライフステージ別でみると、「飲料水の備蓄」は老齢期で8割近くと高くなっている。「食料の備蓄」は家族成長前期で7割を超えて、「消火器・救急セットなどの備え」は老齢期で6割台半ば、「家具類の転倒防止」は家族成長後期で5割台半ばと高くなっている。(図表2-1-6)

図表2-1-6 家庭での災害に対する備え—性別・年齢別・同居家族別・ライフステージ別  
(上位10項目)





## (2) 家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備え

◇「家具の配置を工夫している」が3割を超える

問5 大地震が発生した場合、家具の転倒やガラスの飛散により大けがをすることがあります。あなたのご自宅では、どのような備えを行っていますか。(〇はいくつでも)

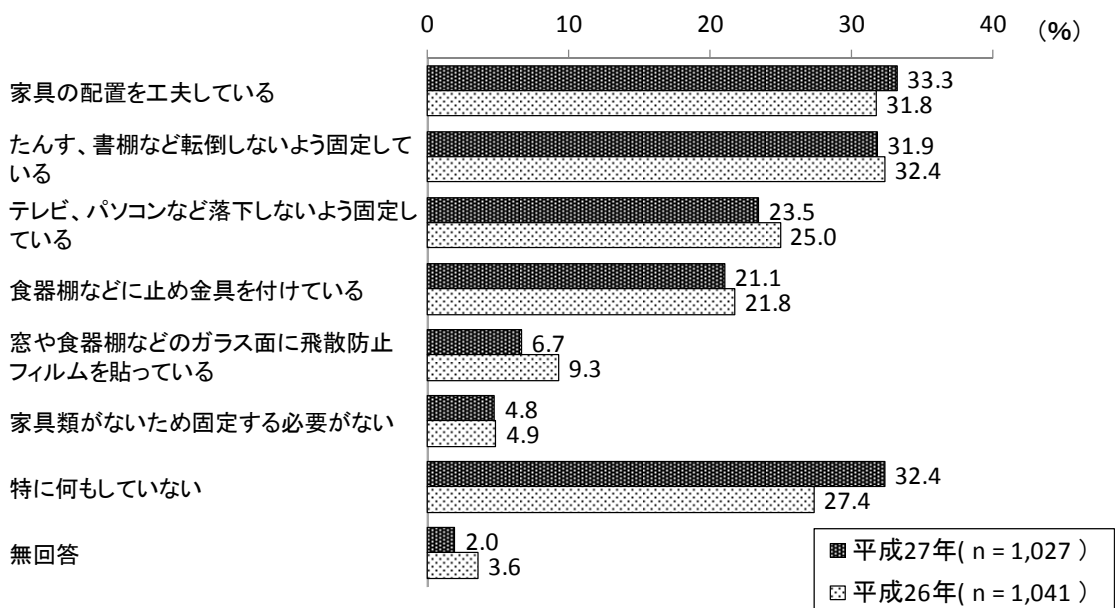
n = 1,027

1 たんす、書棚など転倒しないよう固定している	31.9%
2 テレビ、パソコンなど落下しないよう固定している	23.5
3 窓や食器棚などのガラス面に飛散防止フィルムを貼っている	6.7
4 食器棚などに止め金具を付けている	21.1
5 家具の配置を工夫している	33.3
6 家具類がないため固定する必要がない	4.8
7 特に何もしていない	32.4
(無回答)	2.0

家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備えは、「家具の配置を工夫している」(33.3%)、が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」(31.9%)、「テレビ、パソコンなど落下しないよう固定している」(23.5%) などとなっている。一方、「特に何もしていない」(32.4%) は3割を超えている。

昨年の調査結果と比較すると上位4項目はいずれもほぼ同様の割合となっている。「窓や食器棚などのガラス面に飛散防止フィルムを貼っている」は2.6ポイント減少している。一方、「特に何もしていない」は5.0ポイント増加している。(図表2-2-1)

図表2-2-1 家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備え(複数回答)

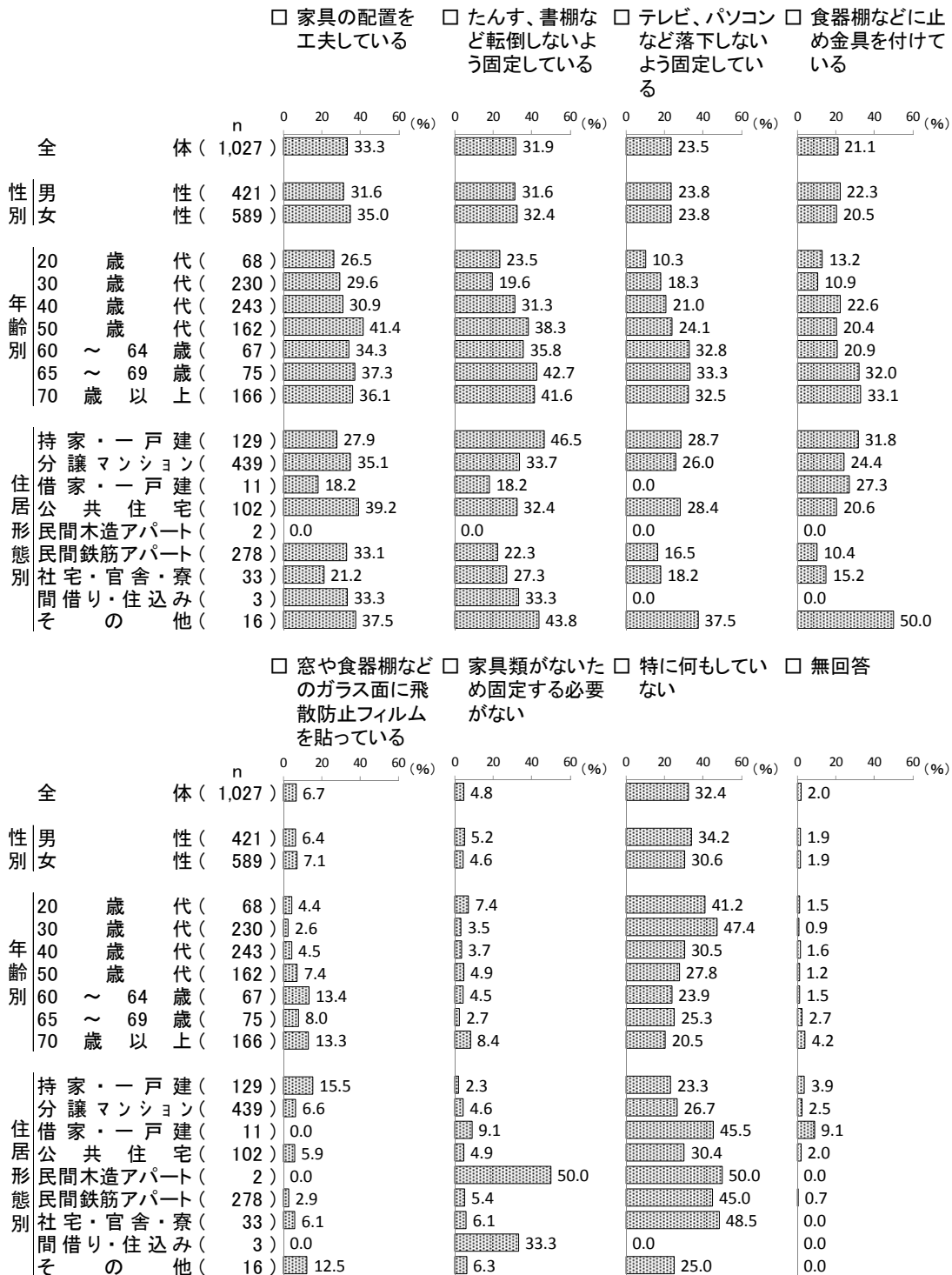


性別でみると、女性の方が男性よりも「家具の配置を工夫している」で3.4ポイント高くなっている。一方、「特に何もしていない」は男性の方が女性よりも3.6ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「家具の配置を工夫している」は50歳代で4割を超えて高くなっている。「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」は65～69歳で4割を超えて高くなっている。「特に何もしていない」は30歳代で5割近くと高くなっている。

住居形態別でみると、「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」は持家・一戸建てで5割近くと高くなっている。(図表2-2-2)

図表2-2-2 家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備え－性別・年齢別・住居形態別



### (3) 防災拠点の認知度

◇「知っている」が6割

問6 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所や救護所などの機能を持っています。

あなたは、ご自分の地域の「防災拠点」を知っていますか。(〇は1つ)

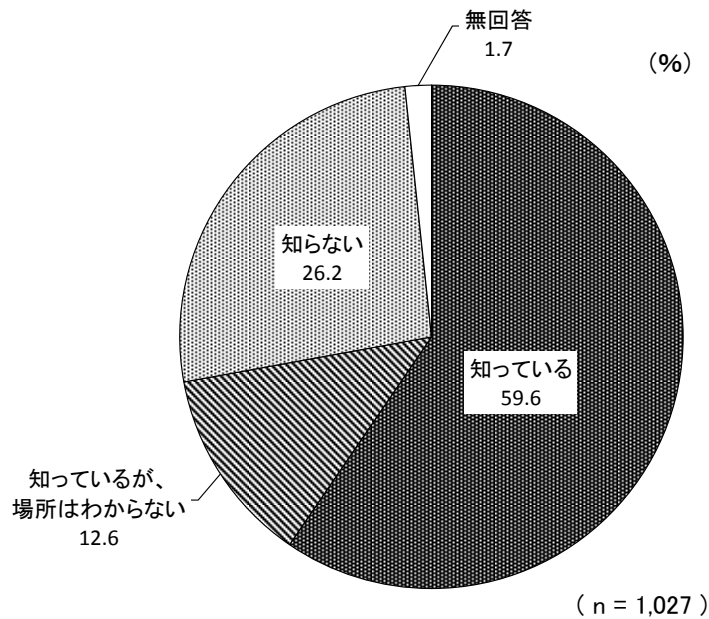
n = 1,027

1	知っている	59.6%	3	知らない	26.2
2	知っているが、場所はわからない	12.6		(無回答)	1.7

防災拠点の認知度は、「知っている」(59.6%)が6割、「知っているが、場所はわからない」(12.6%)が1割を超えている。一方、「知らない」(26.2%)が2割台半ばとなっている。

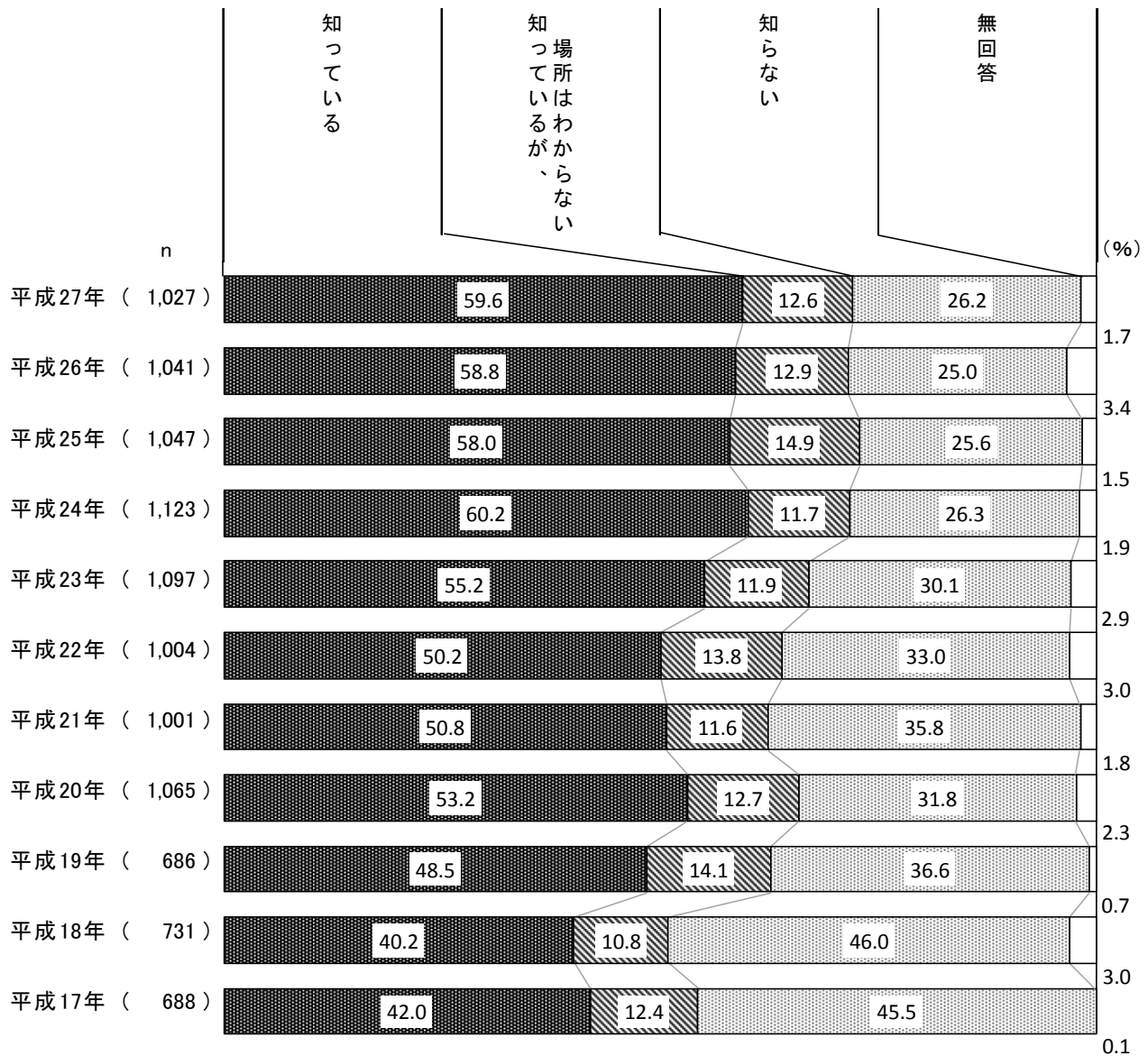
(図表2-3-1)

図表2-3-1 防災拠点の認知度



過去の調査結果と比較すると、「知っている」は昨年の調査結果とほぼ同じ割合となっている。また、「知らない」は平成21年以降減少傾向がみられたが、今年度は1.2ポイント増加となっている。(図表2-3-2)

図表2-3-2 防災拠点の認知度—過年度比較

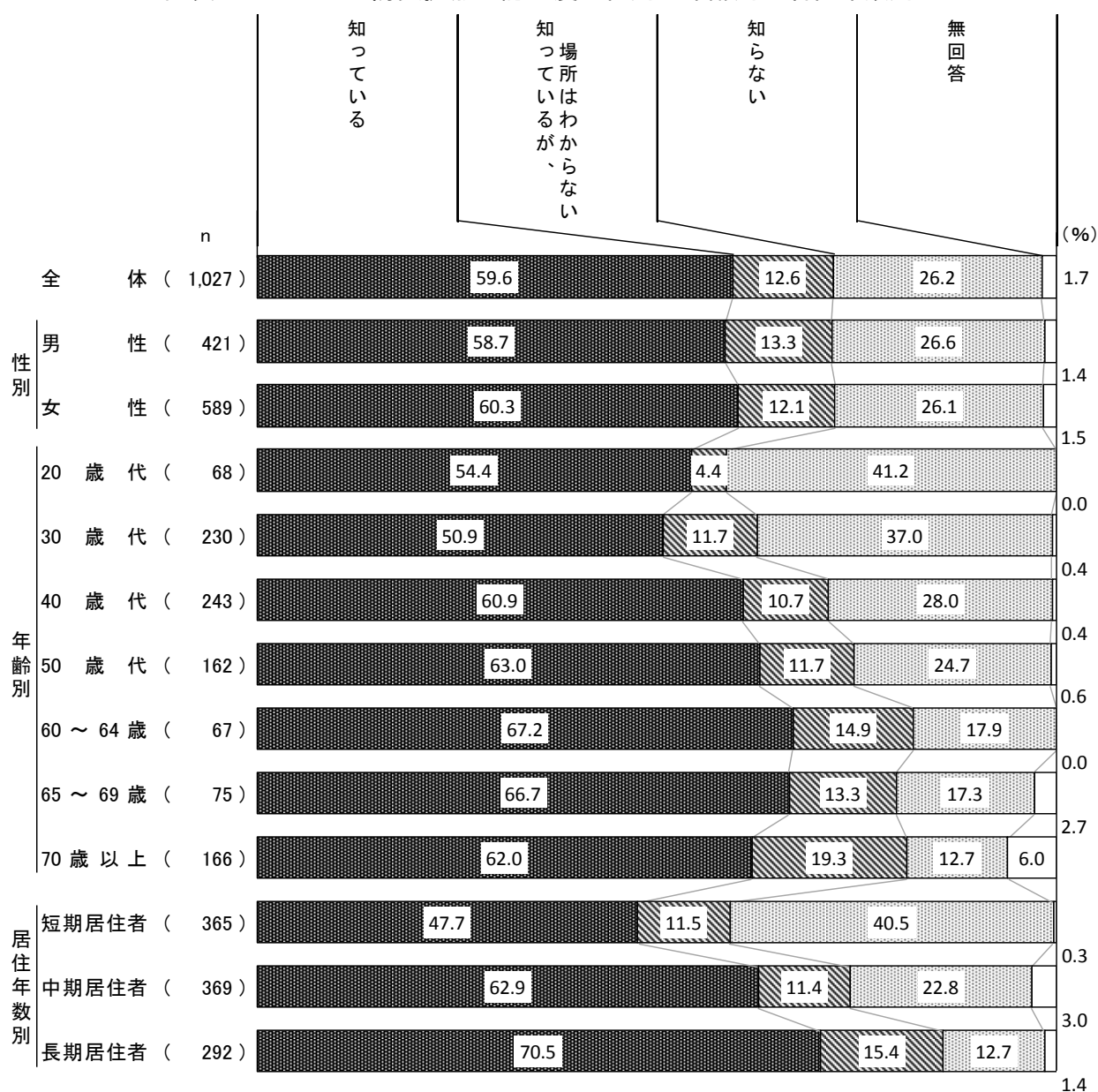


性別でみると、女性の方が男性よりも「知っている」で1.6ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「知っているが、場所はわからない」で1.2ポイント、「知らない」で0.5ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「知らない」は年齢が低くなるほど割合が高くなっており、20歳代で4割を超えて高くなっている。

居住年数別でみると、「知っている」は居住年数が長くなるほど割合が高くなっており、長期居住者では約7割と高くなっている。(図表2-3-3)

図表2-3-3 防災拠点の認知度—性別・年齢別・居住年数別



#### (4) 災害に備えた地域の協力体制

◇「知っているが、活動内容はよくわからない」が4割を超える

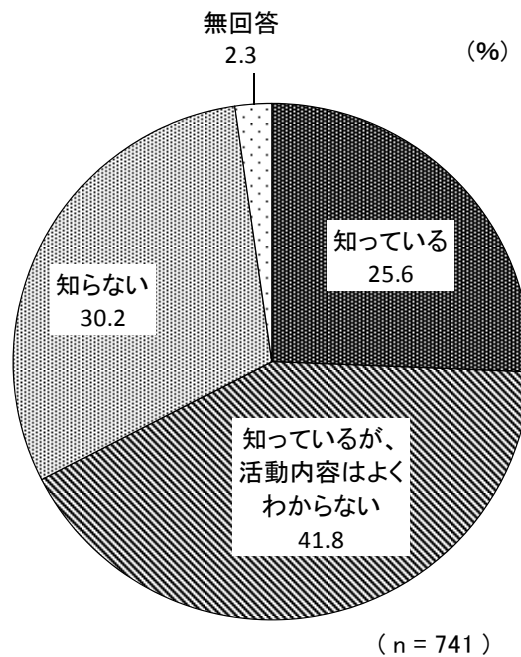
(問6で、「1 知っている」または「2 知っているが、場所はわからない」とお答えの方に)  
 問6-1 この防災拠点の災害時の運営を円滑に進めるため、町会・自治会や防災区民組織が  
 防災拠点運営委員会をつくり、防災訓練の実施や日頃から防災について話し合うな  
 ど、災害に備えた協力体制をとっていることをあなたは知っていますか。(〇は1つ)

n = 741

1 知っている	25.6%	3 知らない	30.2
2 知っているが、活動内容はよくわからない	41.8	(無回答)	2.3

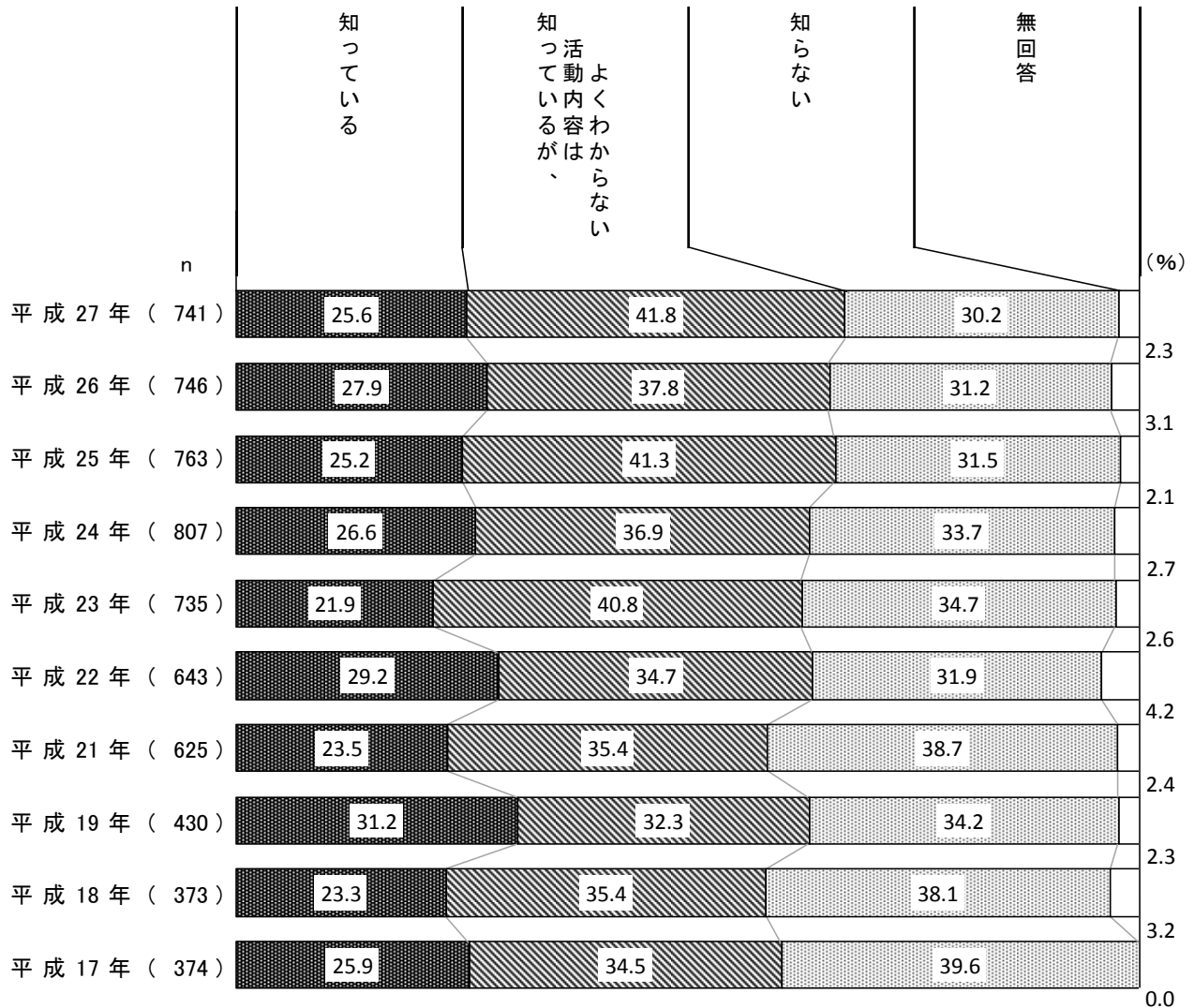
問6で、「知っている」または「知っているが、場所はわからない」と回答した方の、災害に備えた地域の協力体制は、「知っているが、活動内容はよくわからない」(41.8%)が4割を超えて最も高く、「知っている」(25.6%)が2割台半ばとなっている。一方、「知らない」(30.2%)が3割となっている。(図表2-4-1)

図表2-4-1 災害に備えた地域の協力体制



過去の調査結果と比較すると、「知っているが、活動内容はよくわからない」は昨年より4.0ポイント増加している。また、「知らない」は平成23年以降減少傾向がみられる。(図表2-4-2)

図表2-4-2 災害に備えた地域の協力体制一過年度比較



## (5) 避難の際に心配なこと

◇「トイレ」が7割台半ば、「水・食料」が7割近く

問7 大地震などの災害が起こり、自宅が火災や倒壊などにより居住できず防災拠点へ避難することになった場合、あなたが特に気がかりなことは何ですか。(〇はいくつでも)

n = 1,027

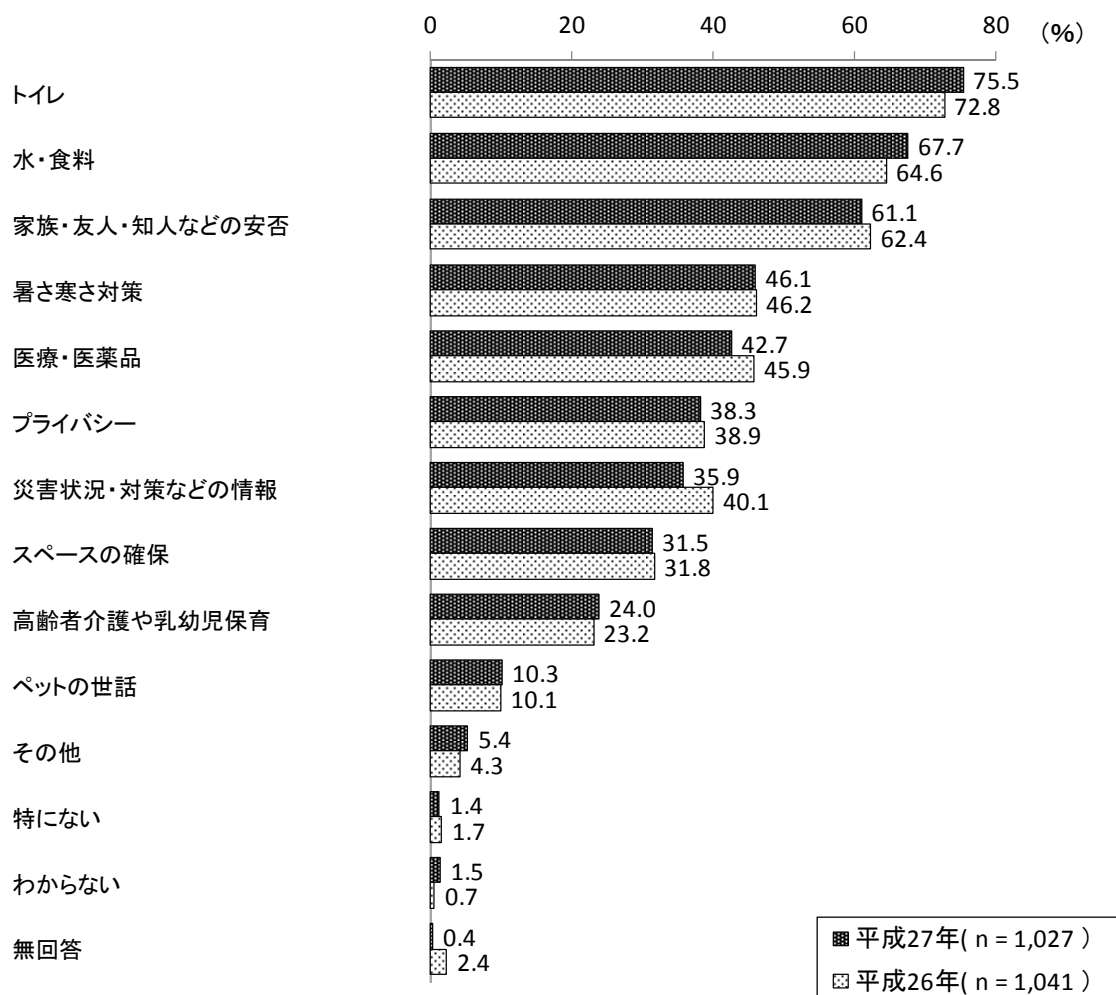
1	水・食料	67.7%	8	スペースの確保	31.5
2	トイレ	75.5	9	暑さ寒さ対策	46.1
3	プライバシー	38.3	10	ペットの世話	10.3
4	家族・友人・知人などの安否	61.1	11	その他	5.4
5	災害状況・対策などの情報	35.9	12	特にない	1.4
6	医療・医薬品	42.7	13	わからない	1.5
7	高齢者介護や乳幼児保育	24.0		(無回答)	0.4

避難の際に心配なことは、「トイレ」(75.5%)が7割台半ばと最も高くなっている。次いで、「水・食料」(67.7%)、「家族・友人・知人などの安否」(61.1%)、「暑さ寒さ対策」(46.1%)、「医療・医薬品」(42.7%)などとなっている。



昨年の調査結果と比較すると、上位5項目については昨年と同じ項目となっている。「災害状況・対策などの情報」は4.2ポイント、「医療・医薬品」は3.2ポイント、それぞれ減少している。一方、「水・食料」は3.1ポイント、「トイレ」は2.7ポイント、それぞれ増加している。(図表2-5-1)

図表2-5-1 避難の際に心配なこと（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「トイレ」、  
「水・食料」、「家族・友人・知人などの安否」が引き続き上位3項目となっている。

(図表2-5-2)

図表2-5-2 避難の際に心配なこと一過年度比較

単位：%

調査年	n	トイレ	水・食料	家族・友人・知人などの安否	暑さ寒さ対策	医療・医薬品	プライバシー	災害情報 状況・対策などの	スペースの確保	高齢者介護や乳幼児保育	ペットの世話	その他	特にない	わからない	無回答	避難暑さ寒さ対策 スペースの確保や
平成27年	1,027	75.5	67.7	61.1	46.1	42.7	38.3	35.9	31.5	24.0	10.3	5.4	1.4	1.5	0.4	※
平成26年	1,041	72.8	64.6	62.4	46.2	45.9	38.9	40.1	31.8	23.2	10.1	4.3	1.7	0.7	2.4	※
平成25年	1,047	76.6	66.5	62.6	47.7	43.9	40.4	37.5	30.3	20.7	12.0	4.5	1.3	0.6	0.8	※
平成24年	1,123	74.1	65.4	64.8	44.5	38.7	37.1	38.3	29.0	19.9	13.7	4.1	0.7	0.6	1.4	※
平成23年	1,097	77.8	72.3	55.1	53.2	43.4	45.7	37.9	33.2	21.2	13.3	4.9	0.8	0.3	1.2	※
平成22年	1,004	74.9	67.5	56.8	36.7	43.1	27.0	33.2	37.6	24.3	11.1	3.1	0.6	1.0	0.9	※
平成21年	1,001	79.6	69.5	50.2	39.8	41.1	34.6	33.0	40.1	24.0	11.3	2.5	0.7	1.1	0.6	※
平成20年	1,065	78.4	72.1	60.4	40.3	46.9	29.8	34.2	41.4	26.2	10.6	2.7	0.0	0.0	0.9	※
平成19年	686	74.9	74.2	62.0	※	48.4	25.9	40.7	※	24.1	10.8	1.7	0.9	2.0	0.3	45.5

\* 太枠内が今回の調査の選択肢。

\* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

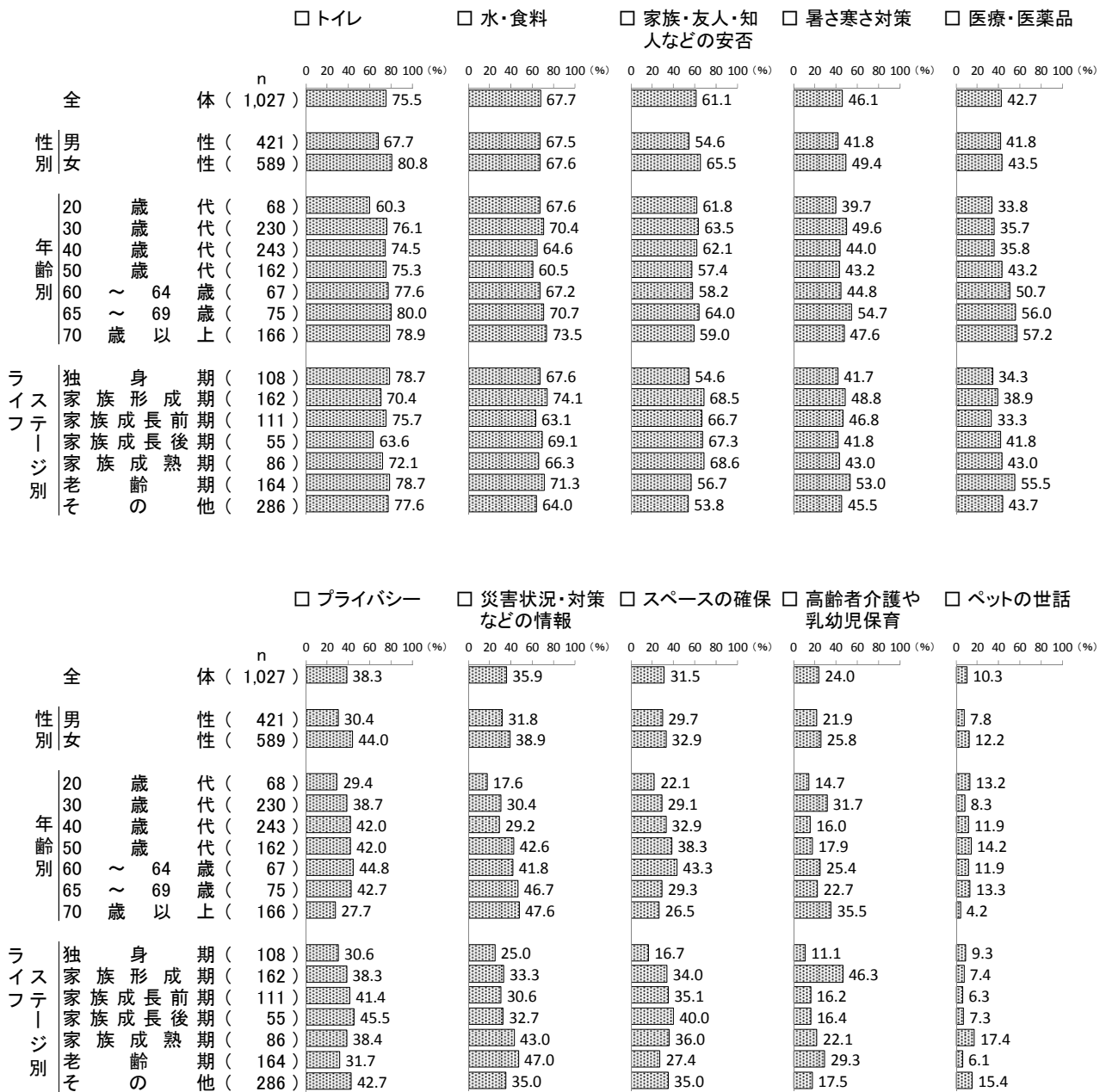
\* 「スペースの確保」の選択肢は、平成22年まで「避難スペースの確保」としていた。

性別でみると、女性の方が男性よりも「プライバシー」で13.6ポイント、「トイレ」で13.1ポイント、「家族・友人・知人などの安否」で10.9ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「トイレ」は65～69歳で8割と高くなっている。「水・食料」は70歳以上で7割を超え、「家族・友人・知人などの安否」は65～69歳で6割台半ばと高くなっている。

ライフステージ別でみると、「トイレ」は独身期、老齢期およびその他で8割近く、「水・食料」は家族形成期で7割台半ばと高くなっている。(図表2-5-3)

図表2-5-3 避難の際に心配なことー性別・年齢別・ライフステージ別(上位10項目)



## (6) 災害時に協力できる活動

◇「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」が5割台半ば

問8 大震災などの災害が起こったら、お住まいの近くで、あなたが協力できると思う活動には何がありますか。(〇はいくつでも)

n = 1,027

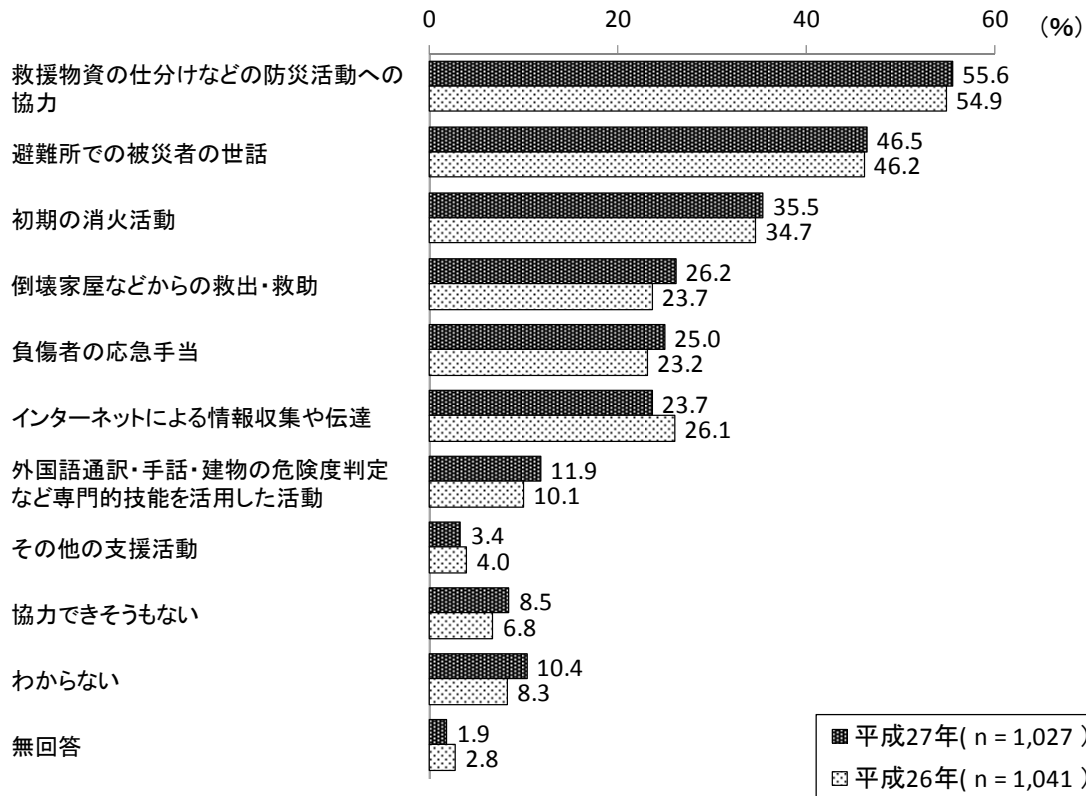
1 負傷者の応急手当	25.0%
2 倒壊家屋などからの救出・救助	26.2
3 初期の消火活動	35.5
4 避難所での被災者の世話	46.5
5 救援物資の仕分けなどの防災活動への協力	55.6
6 外国語通訳・手話・建物の危険度判定など専門的スキルを活用した活動	11.9
7 インターネットによる情報収集や伝達	23.7
8 その他の支援活動	3.4
9 協力できそうもない	8.5
10 わからない	10.4
(無回答)	1.9

災害時に協力できる活動は、「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」(55.6%)が5割台半ばと最も高くなっている。次いで、「避難所での被災者の世話」(46.5%)、「初期の消火活動」(35.5%)、「倒壊家屋などからの救出・救助」(26.2%)、「負傷者の応急手当」(25.0%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「倒壊家屋などからの救出・救助」が2.5ポイント増加している。一方、「インターネットによる情報収集や伝達」が2.4ポイント減少している。

(図表2-6-1)

図表 2-6-1 災害時に協力できる活動（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」、「避難所での被災者の世話」、「初期の消火活動」が引き続き上位3項目となっている。（図表 2-6-2）

図表 2-6-2 災害時に協力できる活動—過年度比較

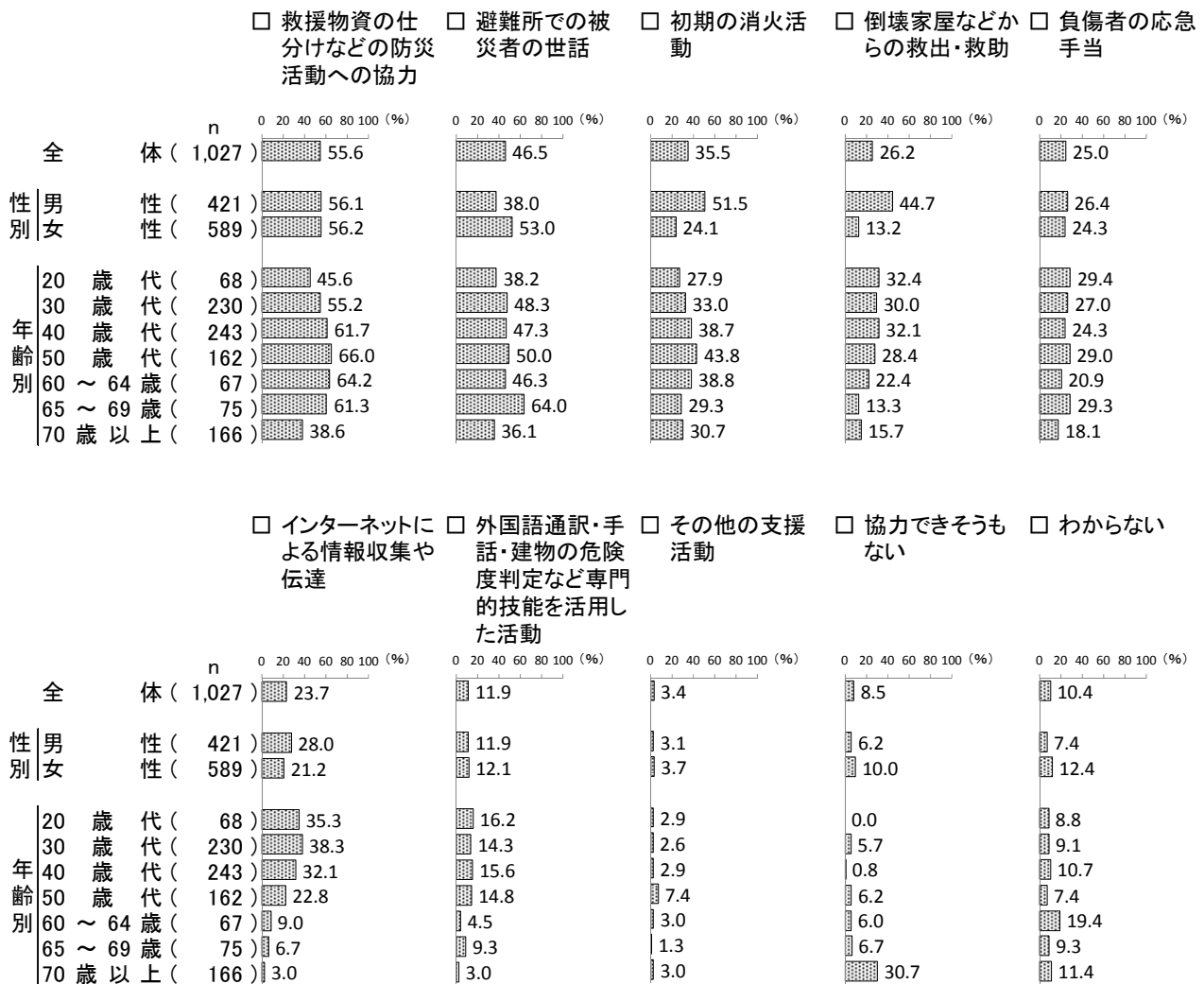
単位：%

調査年	n	救援物資の仕分けなどの防災活動への協力	避難所での被災者の世話	初期の消火活動	倒壊家屋などからの救出・救助	負傷者の応急手当	インターネットによる情報収集や伝達	外国語通訳・手話・建物の危険度判定など専門的スキルを活用した活動	その他の支援活動	協力できそうもない	わからない	無回答
平成27年	1,027	55.6	46.5	35.5	26.2	25.0	23.7	11.9	3.4	8.5	10.4	1.9
平成26年	1,041	54.9	46.2	34.7	23.7	23.2	26.1	10.1	4.0	6.8	8.3	2.8
平成25年	1,047	59.9	48.2	34.6	26.4	26.2	25.0	10.5	3.2	7.1	7.2	1.5
平成24年	1,123	55.2	45.2	34.6	25.7	25.4	23.1	9.9	3.8	6.7	7.1	2.0
平成23年	1,097	61.7	50.9	33.2	23.8	23.3	28.1	10.9	3.4	7.5	6.2	2.0
平成22年	1,004	49.0	41.9	35.7	23.6	27.0	19.1	8.6	1.9	11.1	8.3	1.9
平成21年	1,001	52.2	41.2	35.0	25.1	27.4	17.8	9.0	1.3	10.8	10.1	1.6
平成20年	1,065	52.2	39.3	33.4	24.5	22.4	15.9	7.8	1.5	8.5	11.2	2.5
平成19年	686	43.6	41.5	37.5	29.5	31.3	15.6	5.6	1.9	8.5	10.1	1.6

性別でみると、男性の方が女性よりも「倒壊家屋などからの救出・救助」で31.5ポイント、「初期の消火活動」で27.4ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「避難所での被災者の世話」で15.0ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」は50歳代および60～64歳で6割台半ば、「避難所での被災者の世話」は65～69歳で6割台半ば、「初期の消火活動」は50歳代で4割を超えて高くなっている。(図表2-6-3)

図表2-6-3 災害時に協力できる活動—性別・年齢別  
(上位7項目+「その他の支援活動」、「協力できそうもない」、「わからない」)



## (7) 災害情報を得る手段として有効だと思うもの

◇「インターネット」が5割、「緊急告知ラジオ」が4割を超える

問9 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(○はいくつでも)

n = 1,027

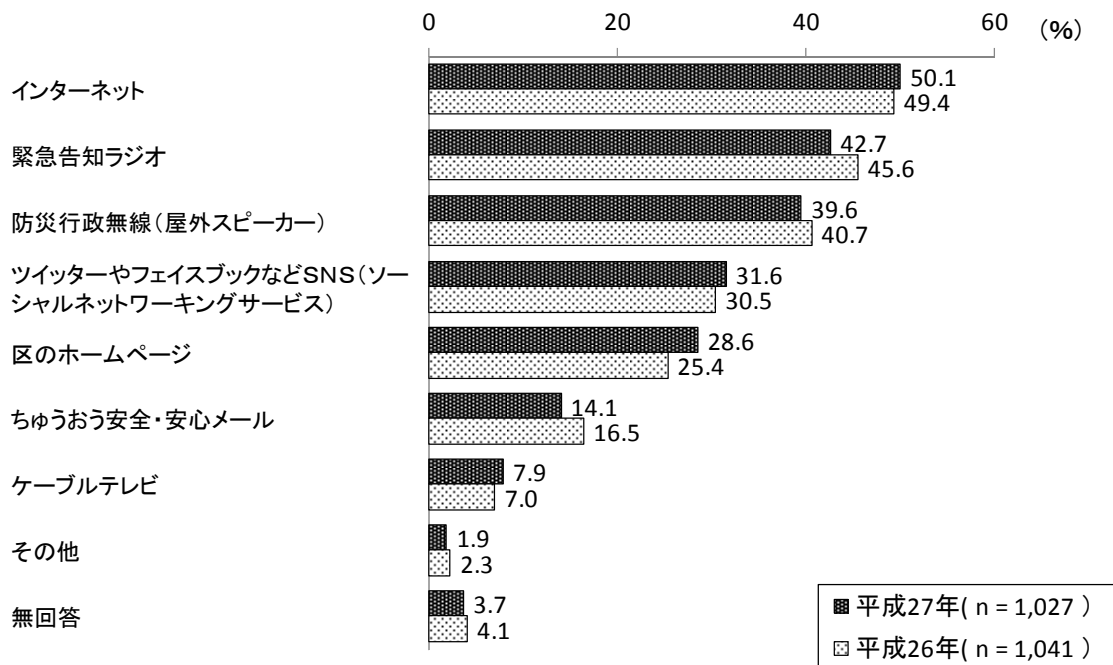
1	区のホームページ	28.6%
2	ちゅうおう安全・安心メール	14.1
3	インターネット	50.1
4	ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)	31.6
5	防災行政無線(屋外スピーカー)	39.6
6	緊急告知ラジオ	42.7
7	ケーブルテレビ	7.9
8	その他	1.9
	(無回答)	3.7

(※) 緊急告知ラジオ 大きな地震や水害など緊急を要する災害の発生時に自動的に電源が入り、地域コミュニティFM放送局(中央エフエム)を活用して災害情報や避難情報などの緊急放送を受信できるラジオです。区では、平成23年度より区民の皆さまへ有償頒布を実施しています。

災害情報を得る手段として有効だと思うものは、「インターネット」(50.1%)が5割と最も高くなっている。次いで、「緊急告知ラジオ」(42.7%)、「防災行政無線(屋外スピーカー)」(39.6%)、「ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)」(31.6%)、「区のホームページ」(28.6%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「区のホームページ」が3.2ポイント増加している。一方、「緊急告知ラジオ」が2.9ポイント、「ちゅうおう安全・安心メール」が2.4ポイント、それぞれ減少している。(図表2-7-1)

図表2-7-1 災害情報を得る手段として有効だと思うもの(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、「ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)」は年々増加している。

(図表2-7-2)

図表2-7-2 災害情報を得る手段として有効だと思うもの—過年度比較

単位：%

調査年	n	インターネット	緊急告知ラジオ	防災行政無線(屋外スピーカー)	ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)	区のホームページ	ちゅうおう安全・安心メール	ケーブルテレビ	その他	無回答
平成27年	1,027	50.1	42.7	39.6	31.6	28.6	14.1	7.9	1.9	3.7
平成26年	1,041	49.4	45.6	40.7	30.5	25.4	16.5	7.0	2.3	4.1
平成25年	1,047	46.7	47.3	47.3	29.5	26.7	16.1	9.9	2.8	2.9
平成24年	1,123	45.5	48.8	44.5	27.6	22.1	15.0	7.2	3.0	3.9

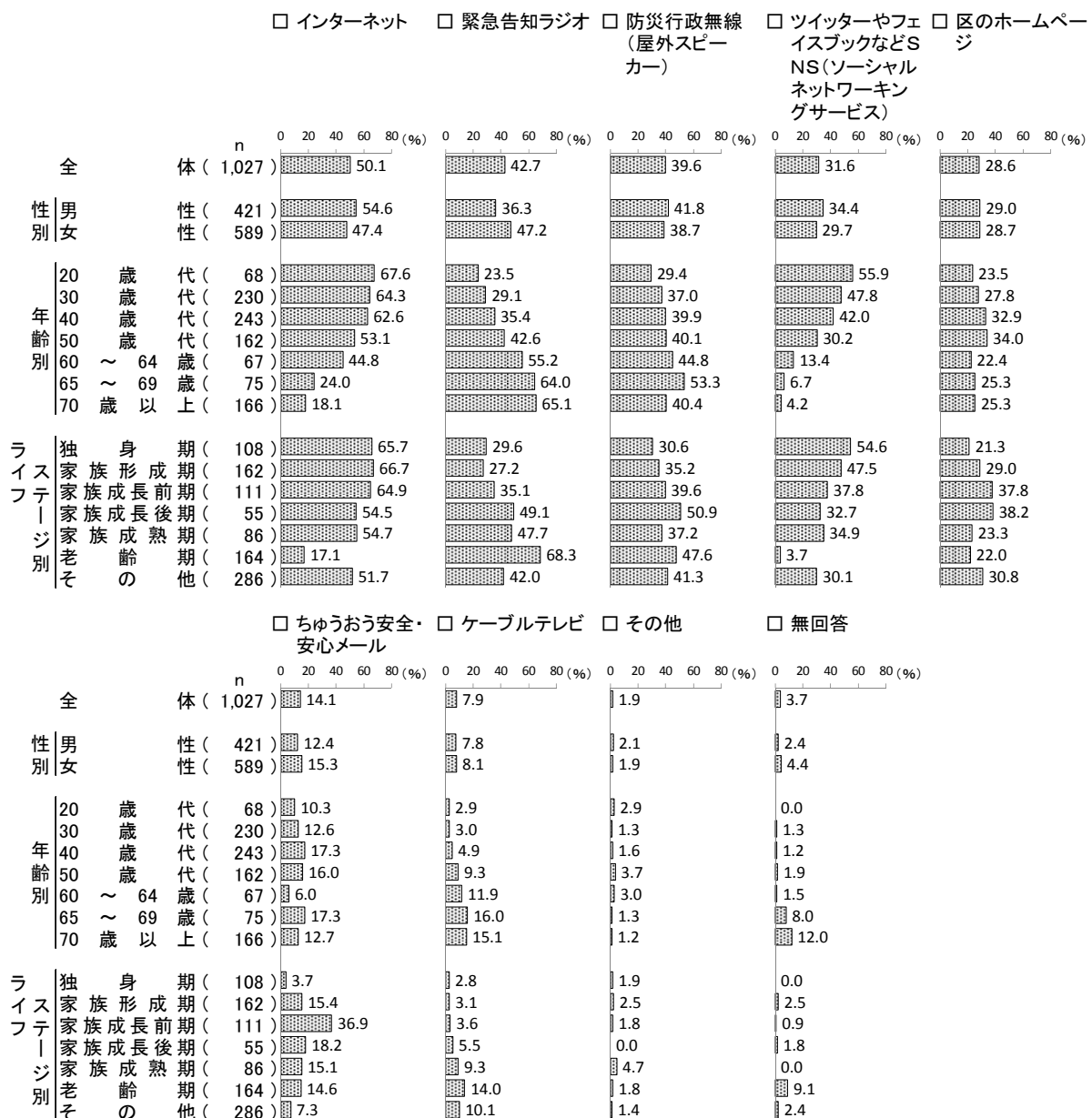


性別でみると、男性の方が女性よりも「インターネット」で7.2ポイント、「ツイッターやフェイスブックなどSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）」で4.7ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「緊急告知ラジオ」で10.9ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「緊急告知ラジオ」は年齢が高くなるほど割合が高くなっており、65～69歳および70歳以上で6割台半ばと高くなっている。一方、「インターネット」と「ツイッターやフェイスブックなどSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）」はともに年齢が低くなるほど割合が高くなっている。

ライフステージ別でみると、「インターネット」は家族形成期で7割近く、「緊急告知ラジオ」は老齢期で7割近く、「ツイッターやフェイスブックなどSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）」は独身期で5割台半ばと高くなっている。（図表2-7-3）

図表2-7-3 災害情報を得る手段として有効だと思うもの—性別・年齢別・ライフステージ別



### 【3 健康診査】

(※) 健康診査 勤務先で実施する定期健康診断、区や加入している健康保険で実施している健康診査、人間ドックなどです。がん検診は含みません。

#### (1) 加入している健康保険

◇「健康保険組合」が4割台半ば

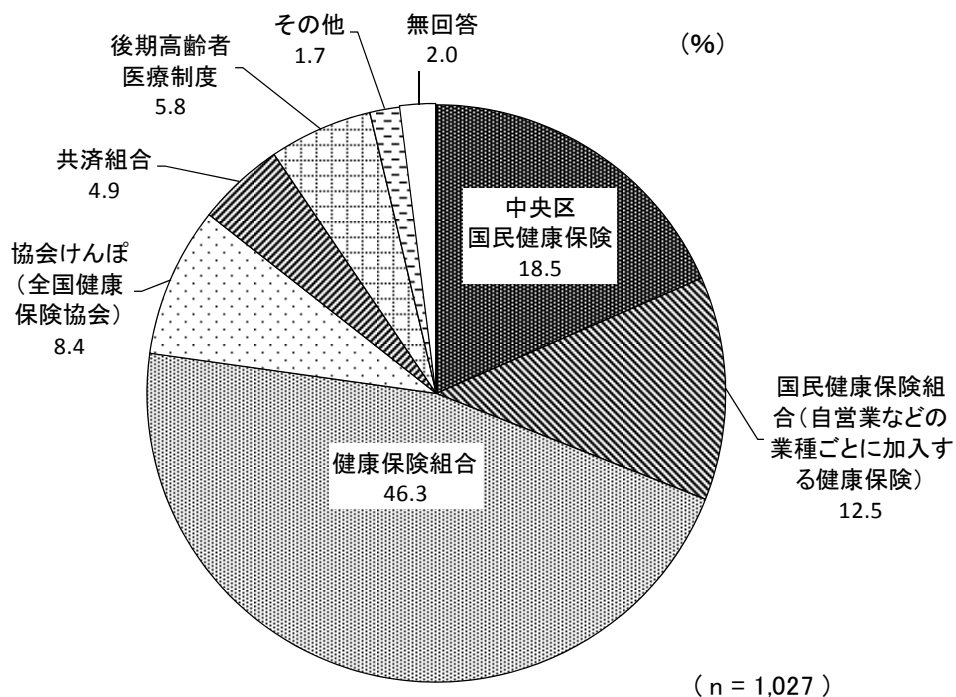
問10 あなたが加入している健康保険は次のどれですか。(○は1つ)

n = 1,027

1	中央区国民健康保険	18.5%
2	国民健康保険組合（自営業などの業種ごとに加入する健康保険）	12.5
3	健康保険組合	46.3
4	協会けんぽ（全国健康保険協会）	8.4
5	共済組合	4.9
6	後期高齢者医療制度	5.8
7	その他	1.7
	（無回答）	2.0

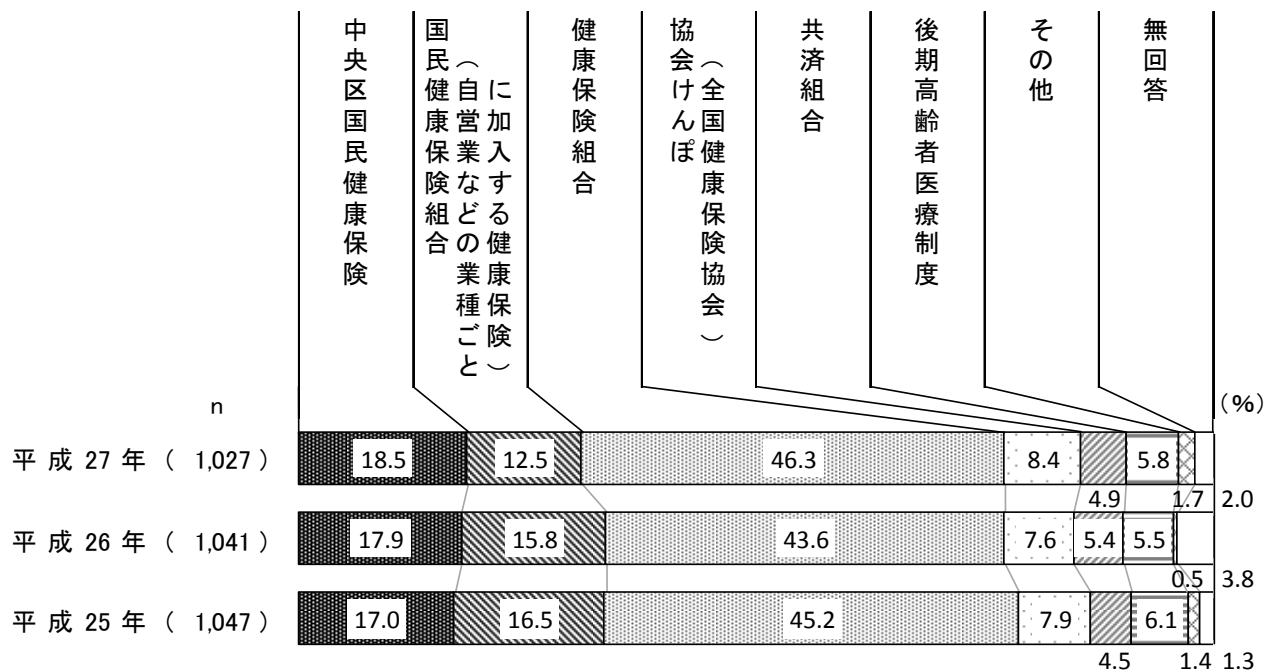
加入している健康保険は、「健康保険組合」（46.3%）が4割台半ばと最も高くなっている。次いで、「中央区国民健康保険」（18.5%）、「国民健康保険組合（自営業などの業種ごとに加入する健康保険）」（12.5%）、「協会けんぽ（全国健康保険協会）」（8.4%）、「後期高齢者医療制度」（5.8%）などとなっている。（図表3-1-1）

図表3-1-1 加入している健康保険



過去の調査結果と比較すると、「国民健康保険組合（自営業などの業種ごとに加入する健康保険）」が平成25年以降減少傾向となっている。一方、「中央区国民健康保険」は平成25年以降増加傾向となっている。昨年度の調査結果との比較では、「国民健康保険組合（自営業などの業種ごとに加入する健康保険）」が3.3ポイント減少している。（図表3-1-2）

図表3-1-2 加入している健康保険一過年度比較

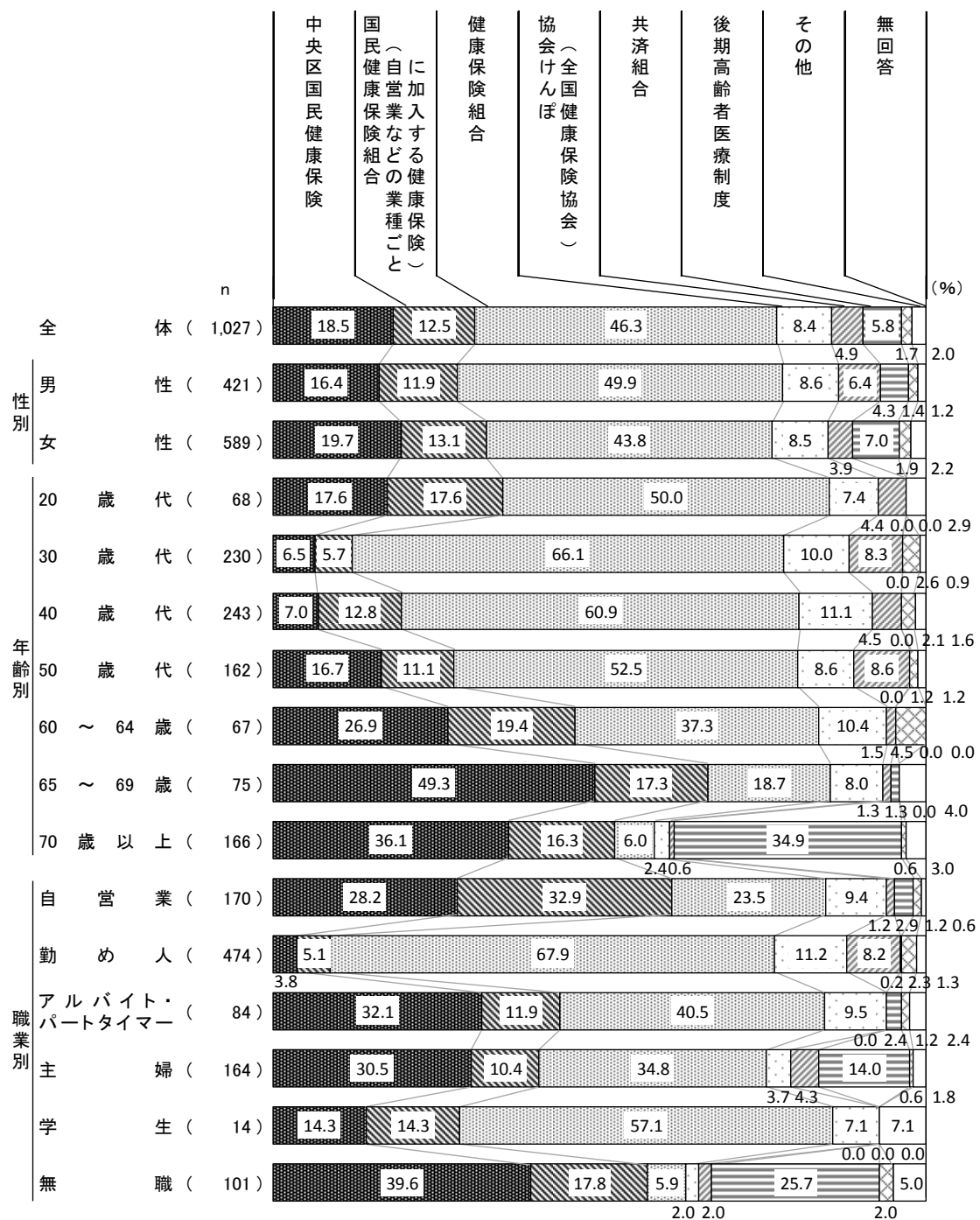


性別でみると、男性の方が女性よりも「健康保険組合」で6.1ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「中央区国民健康保険」で3.3ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「健康保険組合」は30歳代から年代が上がるにつれて低くなっている。「中央区国民健康保険」は65～69歳で約5割と高くなっている。

職業別でみると、「健康保険組合」は勤め人で7割近くと高くなっている。「中央区国民健康保険」は無職で4割と高くなっている。(図表3-1-3)

図表3-1-3 加入している健康保険—性別・年齢別・職業別



## (2) 健康診査の受診状況

◇「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」が約4割

問11 あなたは、この1年間に健康診査（健康診断）を受けましたか。（〇はいくつでも）

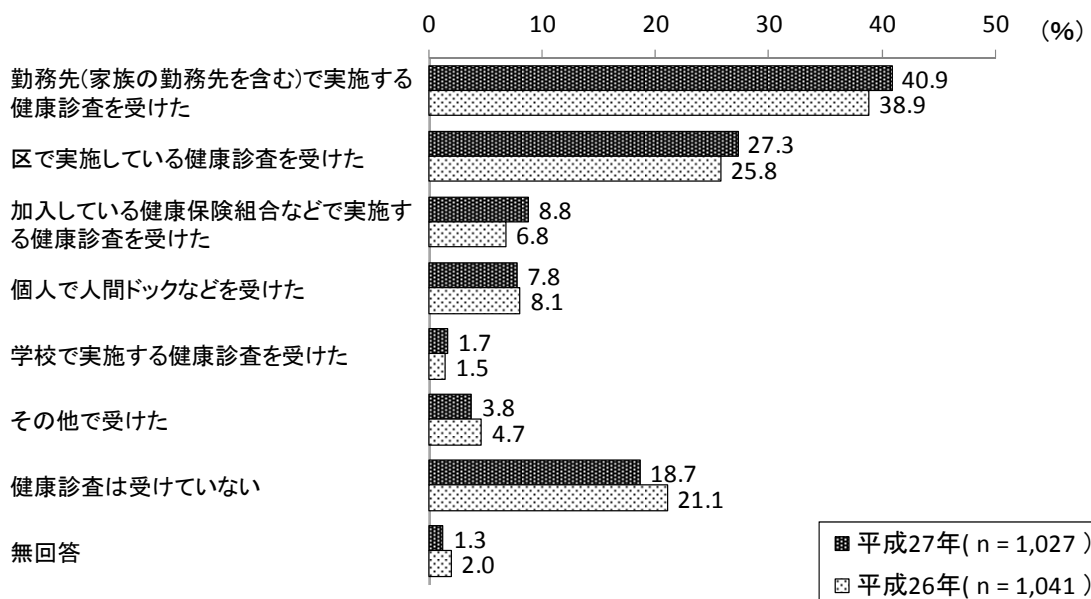
n = 1,027

1	区で実施している健康診査を受けた	27.3%
2	勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた	40.9
3	加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた	8.8
4	個人で人間ドックなどを受けた	7.8
5	学校で実施する健康診査を受けた	1.7
6	その他で受けた	3.8
7	健康診査は受けていない	18.7
	（無回答）	1.3

健康診査の受診状況は、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」（40.9%）が約4割と最も高くなっている。次いで、「区で実施している健康診査を受けた」（27.3%）、「加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた」（8.8%）、「個人で人間ドックなどを受けた」（7.8%）などとなっている。一方、「健康診査は受けていない」（18.7%）は2割近くとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」と「加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた」は2.0ポイント増加している。一方、「健康診査は受けていない」は2.4ポイント減少している。（図表3-2-1）

図表3-2-1 健康診査の受診状況（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、経年による大きな変化はなく、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」、「区で実施している健康診査を受けた」が引き続き上位2項目となっている。（図表3-2-2）

図表3-2-2 健康診査の受診状況一過年度比較

単位：%

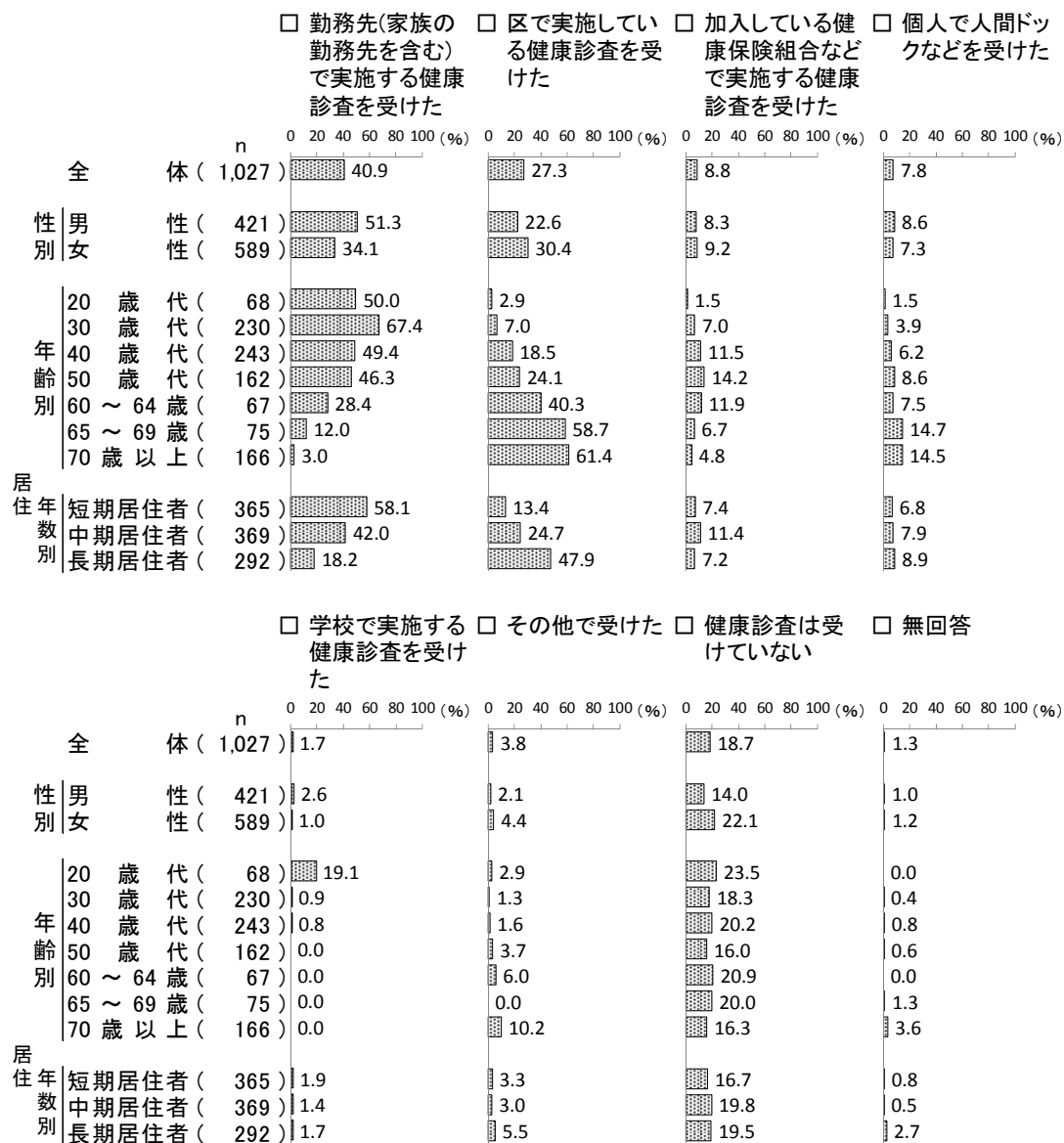
調査年	n	勤務先（家族の勤務先を含む）で実施した健康診査を受けた	区で実施している健康診査を受けた	加入などを実施した健康保険組合など	個人で受けた人間ドックなど	学校で実施する健康診査を受けた	その他で受けた	健康診査は受けていない	無回答
平成27年	1,027	40.9	27.3	8.8	7.8	1.7	3.8	18.7	1.3
平成26年	1,041	38.9	25.8	6.8	8.1	1.5	4.7	21.1	2.0
平成25年	1,047	39.5	27.8	8.9	9.6	1.0	4.0	19.0	1.9

性別でみると、男性の方が女性よりも「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」で17.2ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「健康診査は受けていない」で8.1ポイント、「区で実施している健康診査を受けた」で7.8ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」は30歳代で7割近くと高くなっている。「区で実施している健康診査を受けた」は年齢が高くなるほど割合が高くなっており、70歳以上で6割を超えて高くなっている。

居住年数別でみると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」は短期居住者で6割近くと高くなっている。「区で実施している健康診査を受けた」は長期居住者で5割近くと高くなっている。（図表3-2-3）

図表3-2-3 健康診査の受診状況－性別・年齢別・居住年数別



### (3) 健康診査を受けなかった理由

◇「時間がない」が3割を超える

(問11で、「7 健康診査は受けていない」とお答えの方に)

問11-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。(○はいくつでも)

n = 192

1 勤務先(家族の勤務先を含む)などで実施していない	9.9%
2 受診方法がわからない	6.3
3 必要がない	7.3
4 時間がない	32.3
5 面倒である	23.4
6 健康に自信がある	9.4
7 病気で医者にかかっている	15.6
8 検査がいや	14.1
9 病気と診断されるのが怖い	9.9
10 費用がかかる	14.6
11 その他	12.0
(無回答)	3.1

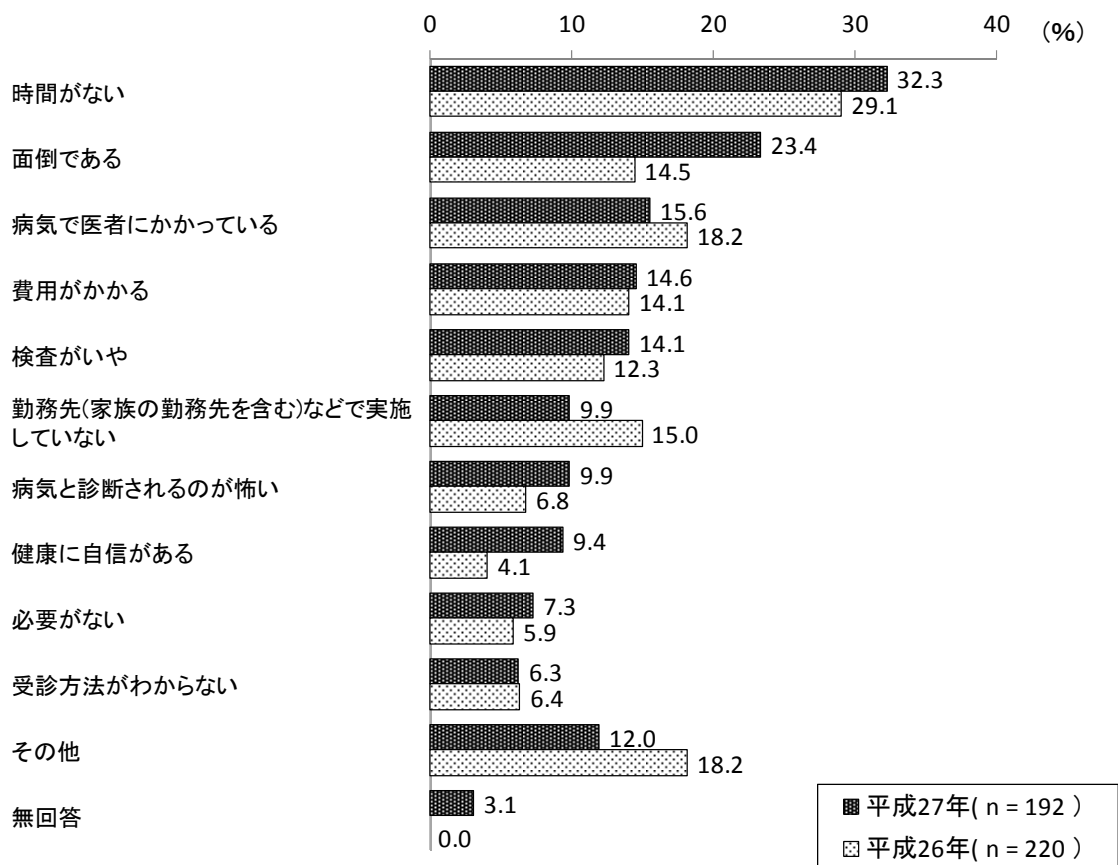
問11で、「健康診査は受けていない」と回答した方の、健康診査を受けなかった理由は、「時間がない」(32.3%)が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「面倒である」(23.4%)、「病気で医者にかかっている」(15.6%)、「費用がかかる」(14.6%)、「検査がいや」(14.1%)などとなっている。



昨年の調査結果と比較すると、「面倒である」は8.9ポイント、「健康に自信がある」は5.3ポイント増加している。一方、「その他」は6.2ポイント、「勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない」は5.1ポイント、「病気で医者にかかっている」は2.6ポイントそれぞれ減少している。

(図表3-3-1)

図表3-3-1 健康診査を受けなかった理由（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「時間がない」が継続して1位であるが、他の項目は順位がいかかわっている。「費用がかかる」、「検査がいや」は年々増加しており、平成25年と比較してそれぞれ5.1ポイント、6.6ポイント増加している。(図表3-3-2)

図表3-3-2 健康診査を受けなかった理由一過年度比較

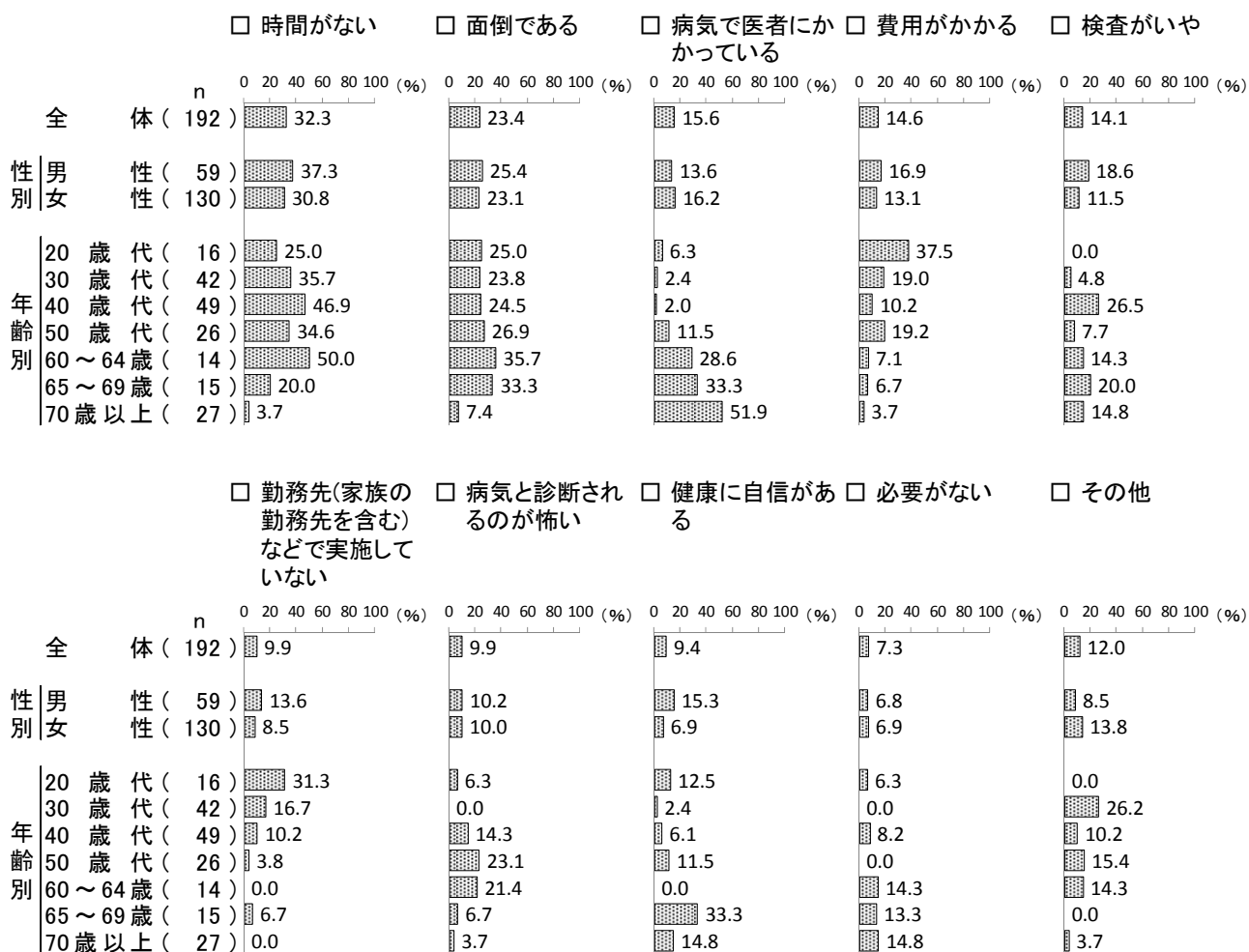
単位：%

調査年	n	時間がない	面倒である	病気になる 医者に かかって	費用がかかる	検査がいや	勤務先(含む) 家族の 勤務先を 実施して	病気が怖い と診断される のが	健康に自信がある	必要がない	受診方法がわからない	その他	無回答
平成27年	192	32.3	23.4	15.6	14.6	14.1	9.9	9.9	9.4	7.3	6.3	12.0	3.1
平成26年	220	29.1	14.5	18.2	14.1	12.3	15.0	6.8	4.1	5.9	6.4	18.2	0.0
平成25年	199	34.7	17.1	16.6	9.5	7.5	12.6	6.0	7.0	7.5	6.5	19.1	0.5

性別でみると、男性の方が女性よりも「健康に自信がある」で8.4ポイント、「検査がいや」で7.1ポイント、「時間がない」で6.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「病気で医者にかかっている」で2.6ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「病気で医者にかかっている」は70歳以上で5割を超えて高くなっている。「費用がかかる」は20歳代で4割近くと高くなっている。(図表3-3-3)

図表3-3-3 健康診査を受けなかった理由－性別・年齢別（上位9項目＋「その他」）



## 【4 高齢者施策】

### (1) 要介護時における暮らし方

◇「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」が3割を超える

問12 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。

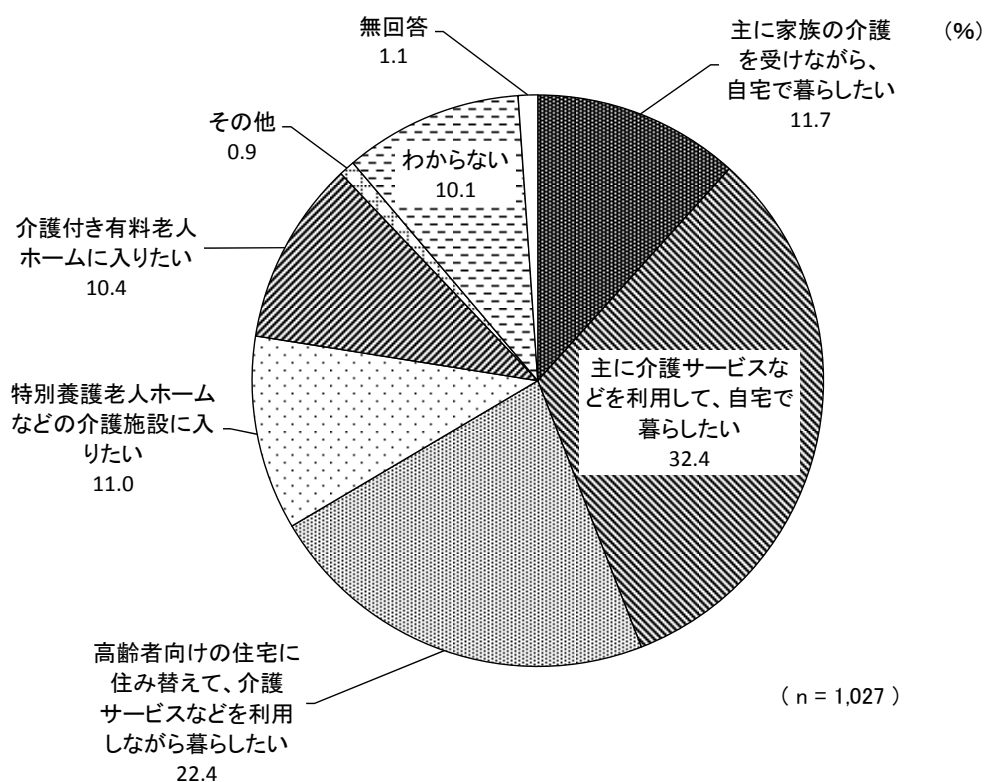
(もっとも近い考え1つに○)

n = 1,027

1	主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい	11.7%
2	主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい	32.4
3	高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい	22.4
4	特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	11.0
5	介護付き有料老人ホームに入りたい	10.4
6	その他	0.9
7	わからない	10.1
	(無回答)	1.1

要介護時における暮らし方は、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」(32.4%)が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」(22.4%)、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」(11.7%) などとなっている。(図表4-1-1)

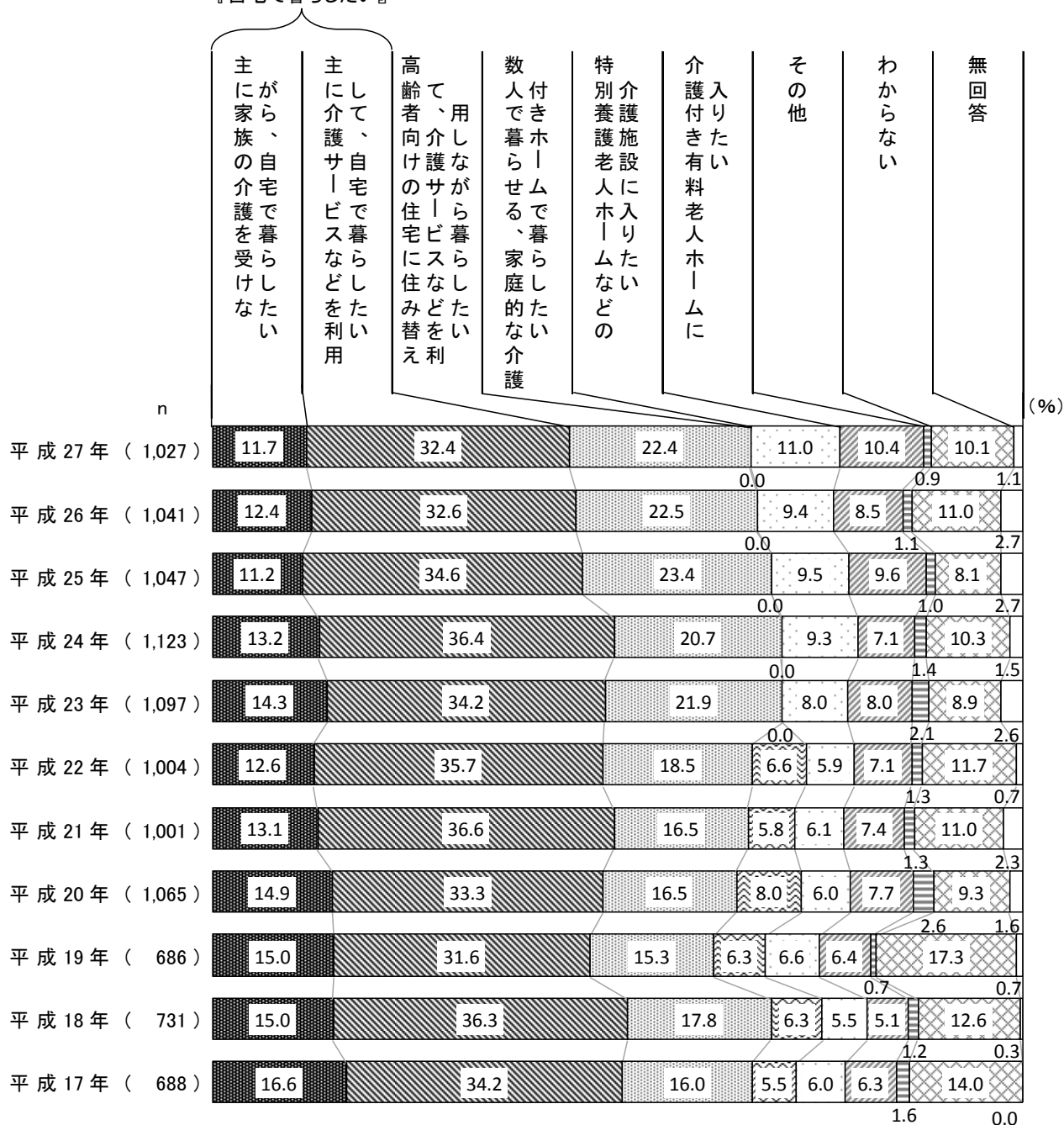
図表4-1-1 要介護時における暮らし方



過去の調査結果と比較すると、「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」は平成23年以降2割台で推移している。また、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」と「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」の2つを合わせた『自宅で暮らしたい』の割合は、今回調査が最も低い割合となっている。昨年度との比較では「介護付き有料老人ホームに入りたい」は1.9ポイント、「特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい」は1.6ポイント、それぞれ増加している。(図表4-1-2)

図表4-1-2 要介護時における暮らし方—過年度比較

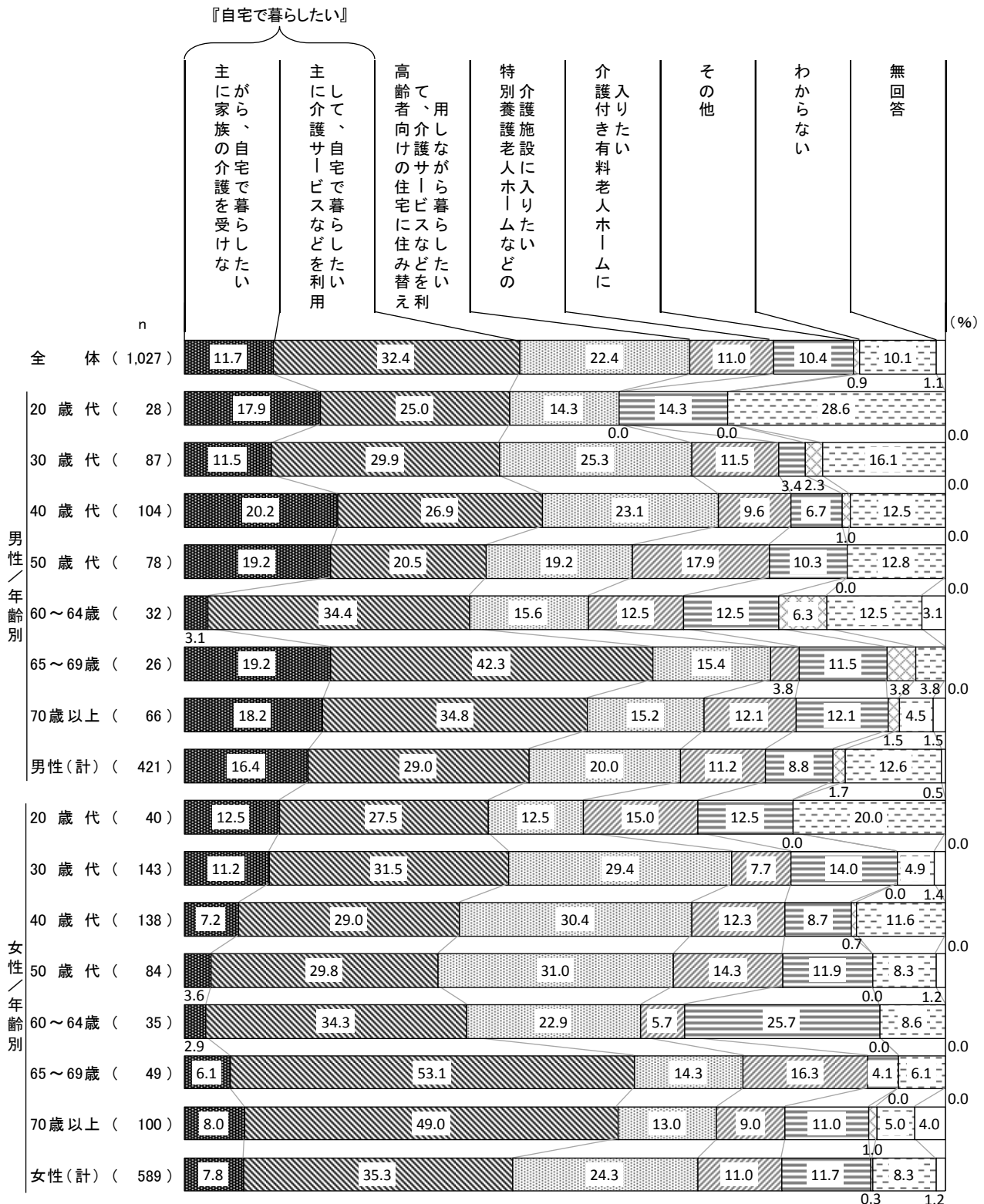
『自宅で暮らしたい』



\* 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホームで暮らしたい」の選択肢は、平成23年以降選択肢に含まれていない。

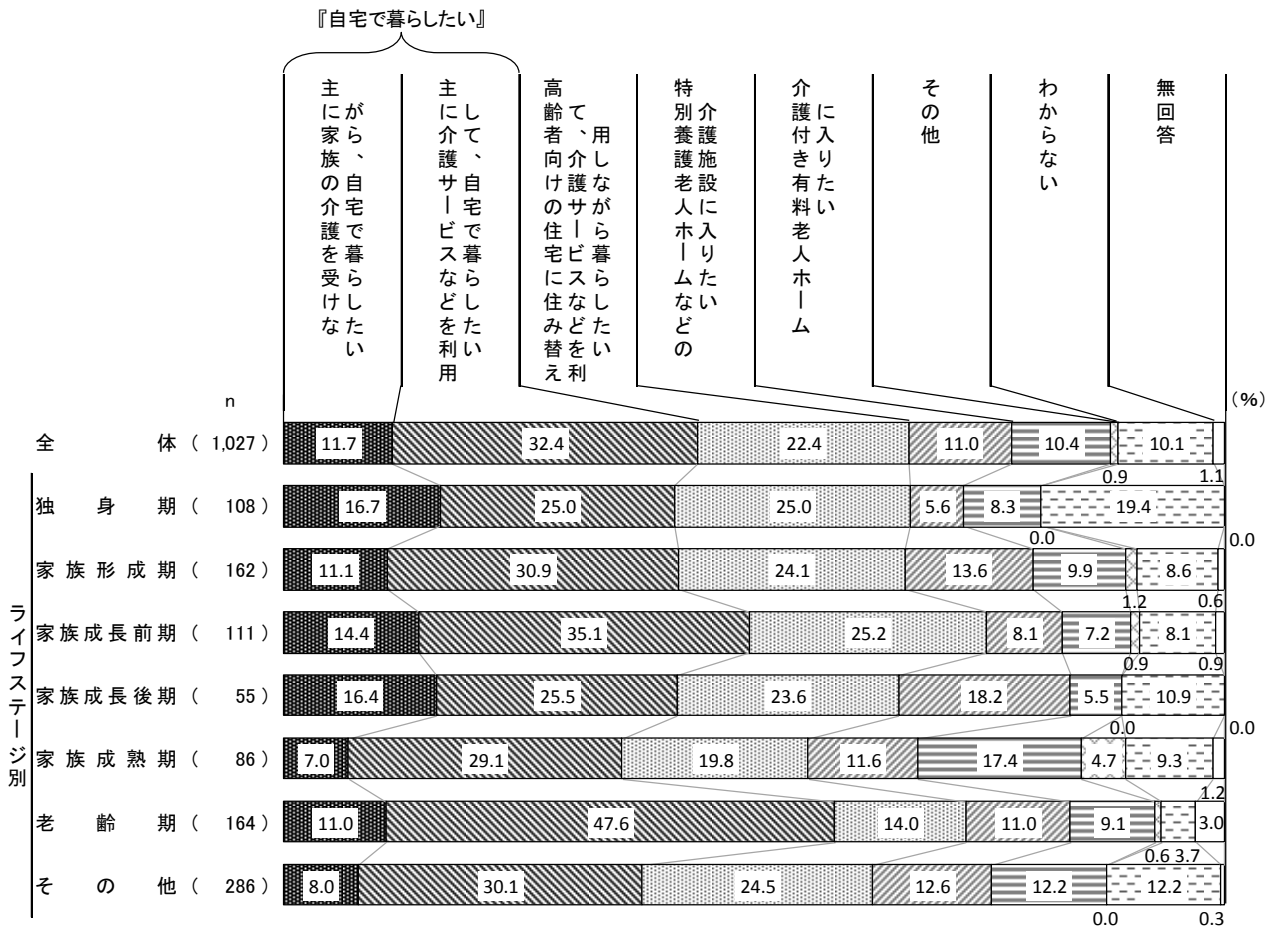
性／年齢別で見ると、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」は男性の40歳代で2割と高くなっている。「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」は女性の65～69歳で5割を超えて高くなっている。「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」は女性の50歳代で3割を超えて高くなっている。(図表4-1-3)

図表4-1-3 要介護時における暮らし方—性／年齢別



ライフステージ別でみると、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」は独身期で2割近く、家族成長後期で1割台半ばと高くなっている。「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」は老齢期で5割近くと高くなっている。「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」と「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」の2つを合わせた『自宅で暮らしたい』の割合は、老齢期で6割近くと高くなっている。(図表4-1-4)

図表4-1-4 要介護時における暮らし方—ライフステージ別



## (2) 区に望む高齢者保健福祉サービス

◇「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」が5割近く

問13 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これから高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思いますか。（〇はいくつでも）

n = 1,027

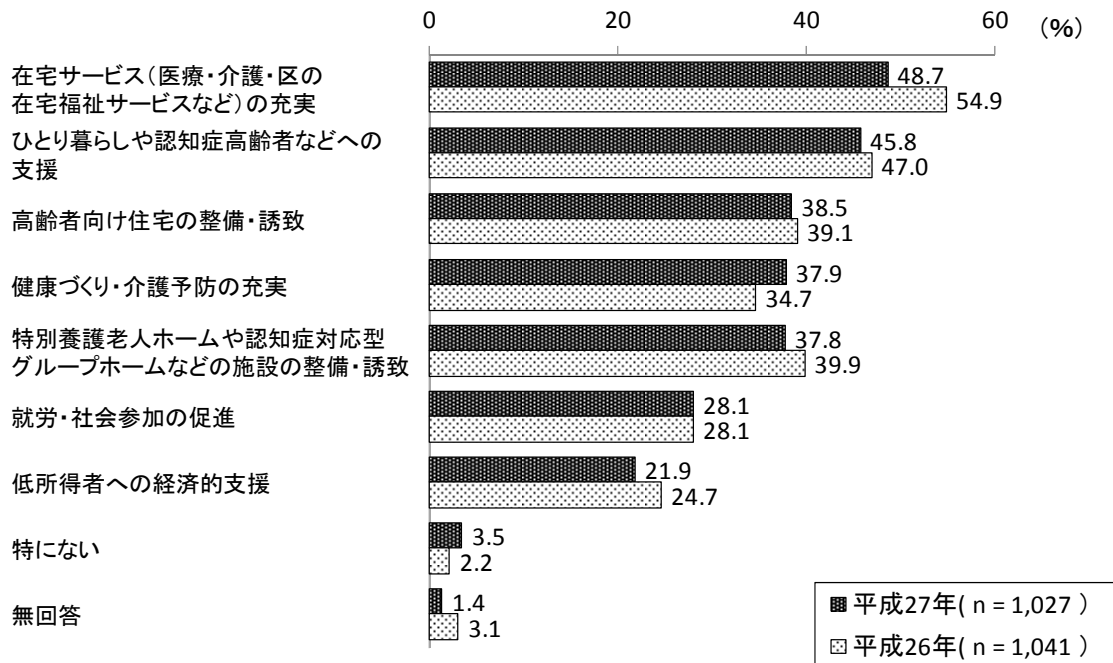
1	健康づくり・介護予防の充実	37.9%
2	就労・社会参加の促進	28.1
3	在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実	48.7
4	特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致	37.8
5	高齢者向け住宅の整備・誘致	38.5
6	ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援	45.8
7	低所得者への経済的支援	21.9
8	特にない	3.5
	（無回答）	1.4

区に望む高齢者保健福祉サービスは、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」（48.7%）が5割近くと最も高くなっている。次いで、「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」（45.8%）、「高齢者向け住宅の整備・誘致」（38.5%）、「健康づくり・介護予防の充実」（37.9%）、「特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致」（37.8%）などとなっている。



昨年の調査結果と比較すると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」は6.2ポイント減少している。一方、「健康づくり・介護予防の充実」は3.2ポイント増加している。（図表4-2-1）

図表4-2-1 区に望む高齢者保健福祉サービス（複数回答）

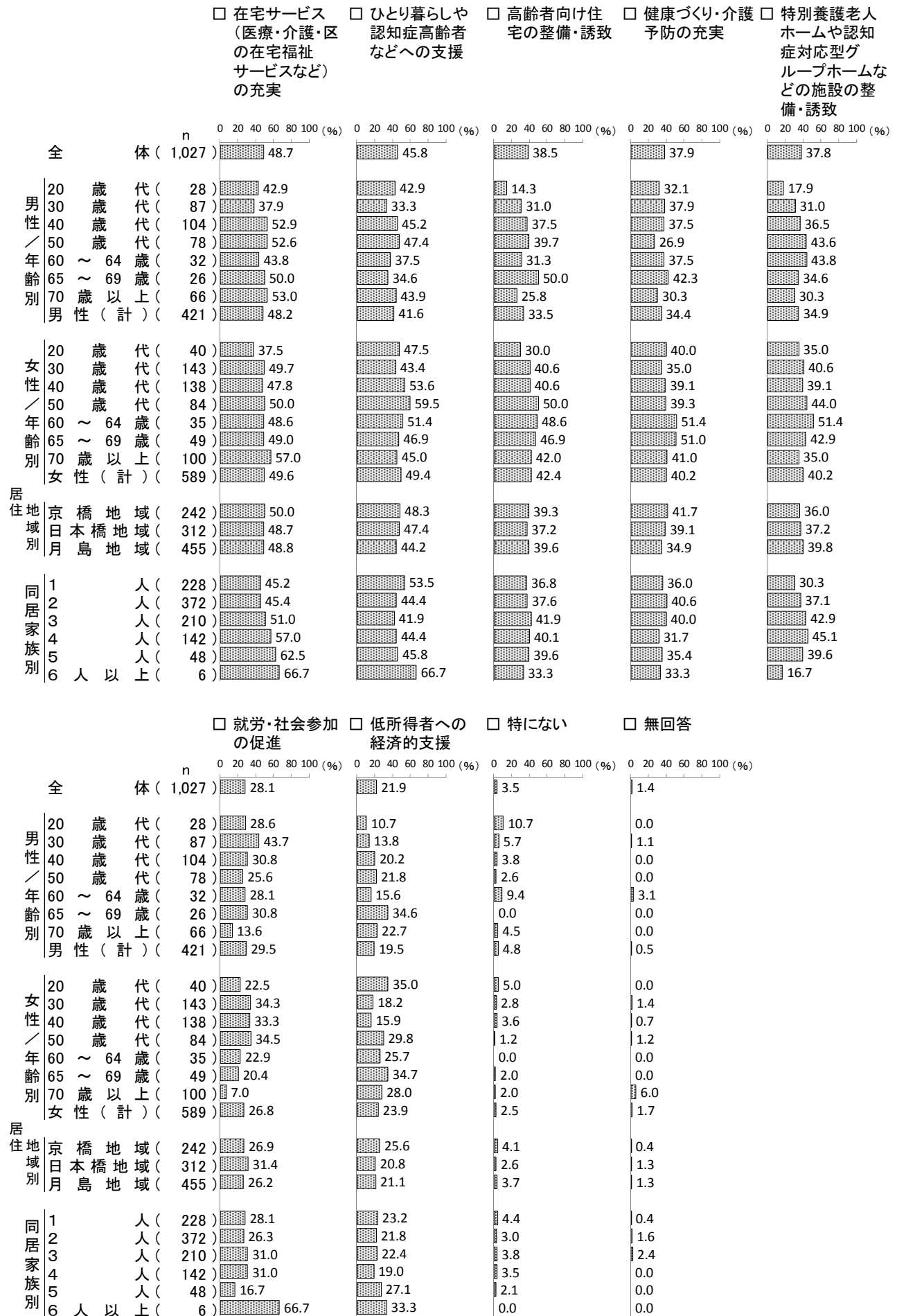


性／年齢別で見ると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」は女性の70歳以上で6割近くと高くなっている。「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」は女性の50歳代で6割、「特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致」は女性の60～64歳で5割を超えて高くなっている。

居住地域別で見ると、「就労・社会参加の促進」は日本橋地域で3割を超えて高くなっている。

同居家族別で見ると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」は家族人数が多くなるほど高くなっている。（図表4-2-2）

図表 4-2-2 区に望む高齢者保健福祉サービス一性／年齢別・居住地域別・同居家族別



### (3) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス

問13-1 問13で、あなたが○をした選択肢を含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスを自由に記述していただいたところ、328人から延べ378件の回答が寄せられた。問13の区に望む高齢者保健福祉サービスにおおむね沿った形で整理した。

(ご意見の一部)

#### ■健康づくり・介護予防の充実 (35件)

- ・ 要支援状態にならないように、高齢者の健康づくり、介護予防の充実を計っていただきたいと思います。また、退職者の社会活動への参加機会を増やし、健康寿命の延伸のための取り組みに力を入れていただきたいと思います。
- ・ 心も体も健康でいられるよう、予防に力を入れることがまず大切。カルチャースクールやスポーツ、社会活動、ボランティアなど、気軽に参加できるような区のサービスがあるといい。

#### ■就労・社会参加の促進 (33件)

- ・ 高齢者の就労、社会参加の拡充、高齢者の就労により若手世代の負担軽減。
- ・ 税金を増やし過剰な福祉サービスを増やすよりも区民ひとりひとりが自助努力できるようなフォロー体制を整えることが重要だと思う。元気でまだまだ働きたい高齢者はたくさんいる。そういった高齢者の社会進出の場を設ける努力をしてほしい。

#### ■在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実 (22件)

- ・ 住み慣れた住居、地域で暮らすには在宅サービスの充実が望ましい。
- ・ 介護鬱など家族の人が大変な思いをすることが多い為、施設や在宅サービスの充実ができればと思います。

#### ■特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致 (69件)

- ・ 高齢者を支える人々(家族等)が集まれる施設。ただ介護を行うだけでなく介護の経験者、体験者からも食事や会話をしながらアドバイスもらえるような施設が大事かと思います。
- ・ 家族で面倒を見るのも限界があるので、高齢者向けの住宅の整備を（グループホーム等）して欲しいです。

#### ■高齢者向け住宅の整備・誘致（36件）

- ・ 古くなった家をリフォームして住むには大変なので高齢者向けの住宅の整備、誘致に力を入れて欲しいです。そんな住居があれば両親に近くに住んでもらって子育てしながら仕事もできるし子供を産み育てやすくなると思います。
- ・ 都市部で高齢者が暮らすのは、設備交通が整っているので便利だと思う。それを有効に活用できるように、高齢者向け住宅の整備、増築をしてほしい。

#### ■ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援（38件）

- ・ 将来一人暮らしになった場合、突然倒れることがあり得る。安否確認のネットワークを作っていたらありがたい。（（例）健康時は居住者から連絡、連絡が途絶えた時は、区から電話または訪問など）
- ・ 現在、勝どきや桜川敬老館で運動等やっています。これからも、認知症予防対策など、取り込んで欲しいです。

#### ■低所得者への経済的支援（25件）

- ・ 住宅の件で年金生活の為、現在の住居の家賃では年金が残り少ない為生活が年々苦しくなっています。都営住宅は一寸も当たらずせめて区営の住宅がもう少し募集があればと思います。

#### ■情報提供の充実（13件）

- ・ 高齢者や介護が必要な状態になった場合に、どのようなサービスが存在し、どのようなサービスが受けられるのか、本人だけでなく周りや家族も広く認知できるようなシステムを構築してもらいたい。（介護状態になってからでは、窓口を訪ねることは難しいし、高齢者ではインターネットを使って情報を収集することも難しい）

#### ■高齢者の交流場所の整備（11件）

- ・ 高齢者が孤独にならない為のネットワークづくり。児童館にシニア館を併設する等、交流の場を提供する。
- ・ コミュニケーションがとれる場所を増やす。（話ができる仲間がいれば楽しい生活になるのでは）

#### ■バリアフリー化の促進（9件）

- ・ 地域の安全やバリアフリー施設の拡充など高齢者に優しい、住みやすい環境づくり。
- ・ 区内の施設や病院への交通手段や、普段の買い物等、移動の際に不便のないよう歩道の整備や手すり・スロープ・エレベーター等の普及。

#### ■その他（87件）

- ・ 中央区は大きい病院が少ない為、高齢化社会がますます増える中、医療施設の充実を図ってほしいです。
- ・ 在宅ホスピスの充実。家で家族を看取れるような支援。

## 【5 子育て支援】

### (1) 子育てに関する悩みの相談

◇「配偶者・パートナー」が3割台半ば

問14 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。(〇は2つまで)

n = 1,027

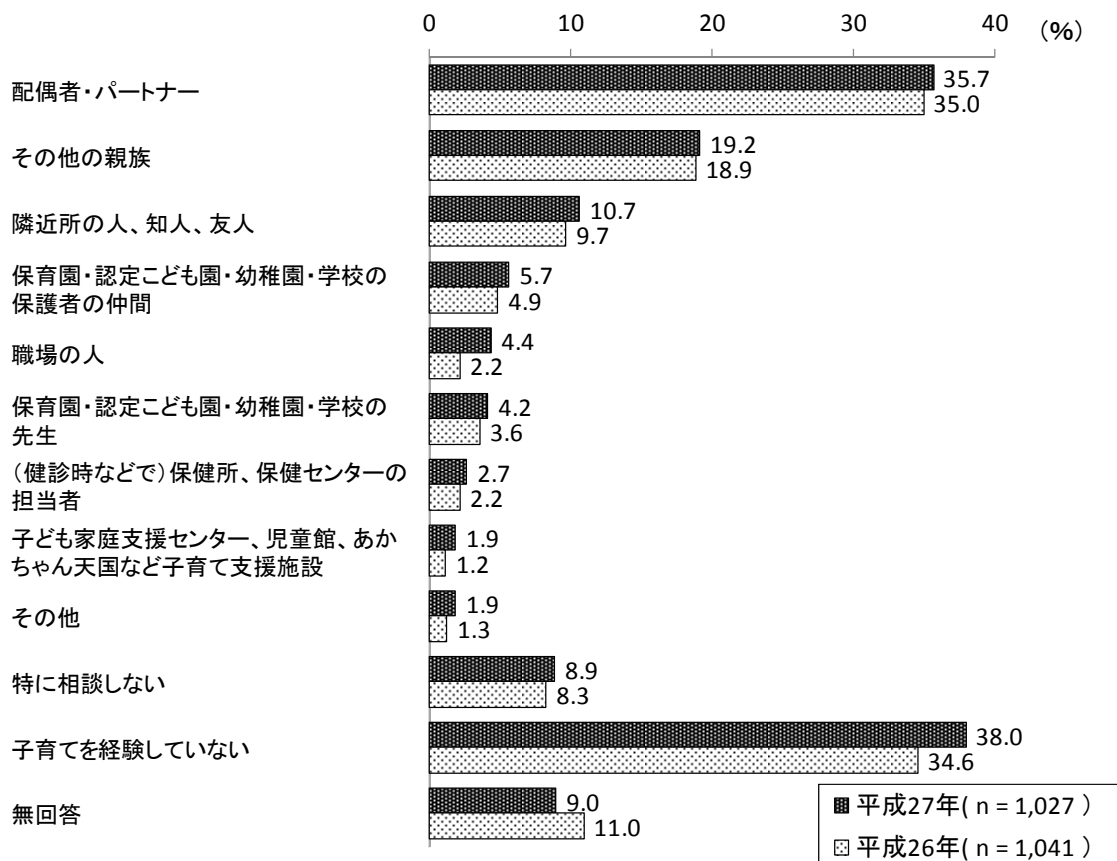
1	配偶者・パートナー	35.7%
2	その他の親族	19.2
3	職場の人	4.4
4	隣近所の人、知人、友人	10.7
5	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間	5.7
6	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生	4.2
7	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など子育て支援施設	1.9
8	(健診時などで) 保健所、保健センターの担当者	2.7
9	その他	1.9
10	特に相談しない	8.9
11	子育てを経験していない (無回答)	38.0 9.0

(※) 認定こども園 小学校に就学する前の子どもの教育・保育・子育て支援を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の役割を果たします。

子育てに関する悩みの相談は、「配偶者・パートナー」(35.7%)が3割台半ばと最も高くなっている。次いで、「その他の親族」(19.2%)、「隣近所の人、知人、友人」(10.7%)、「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間」(5.7%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。「配偶者・パートナー」、「その他の親族」、「隣近所の人、知人、友人」が引き続き上位3項目となっている。(図表5-1-1)

図表5-1-1 子育てに関する悩みの相談（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「配偶者・パートナー」、「その他の親族」、「隣近所の人、知人、友人」が引き続き上位3項目となっている。(図表5-1-2)

図表5-1-2 子育てに関する悩みの相談一過年度比較

単位：％

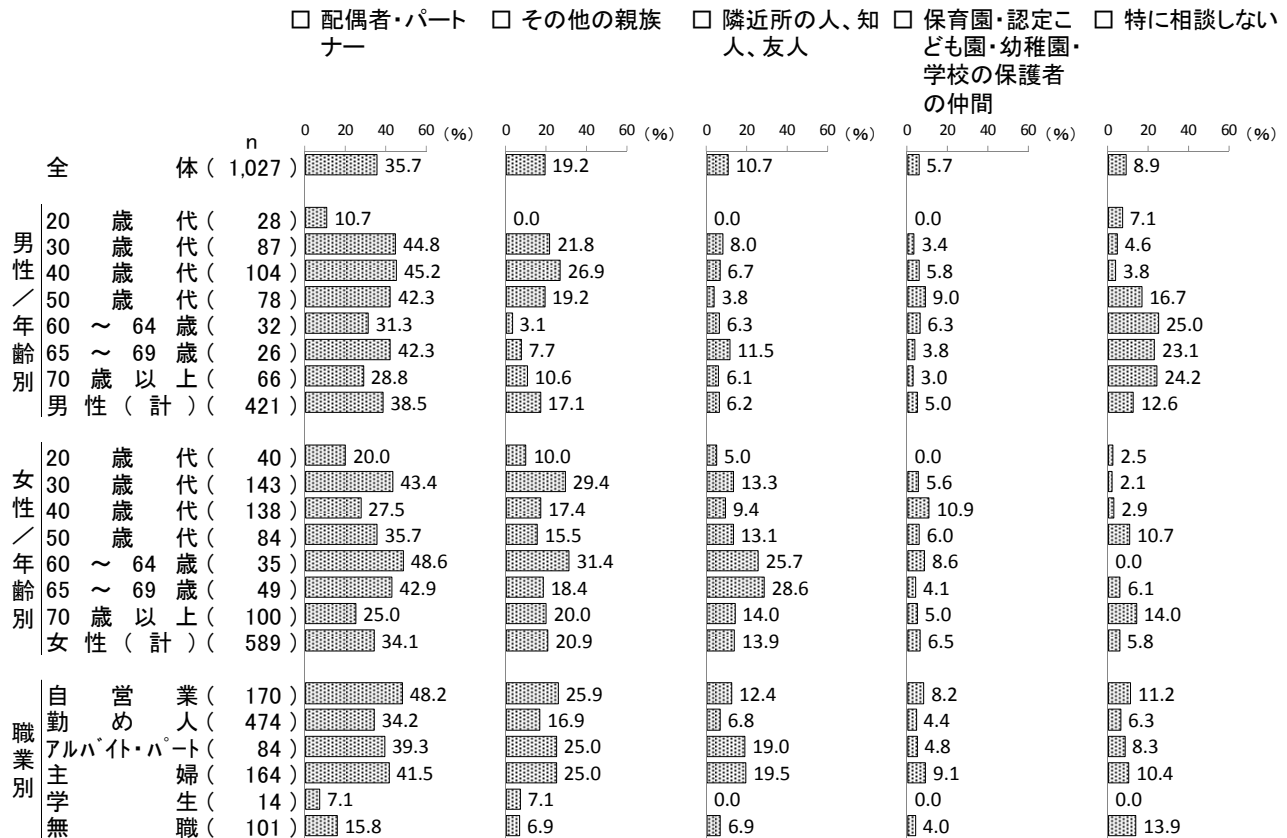
調査年	n	配偶者・パートナー	その他の親族	隣近所の人、知人、友人	保育園・認定こども園・幼稚園の仲間・学校の保護者	職場の人	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生	(健診時などで)保健センターの担当者	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国	その他	特に相談しない	子育てを経験していない	無回答	区役所など行政機関
平成27年	1,027	35.7	19.2	10.7	5.7	4.4	4.2	2.7	1.9	1.9	8.9	38.0	9.0	※
平成26年	1,041	35.0	18.9	9.7	4.9	2.2	3.6	2.2	1.2	1.3	8.3	34.6	11.0	※
平成25年	1,047	34.8	19.2	10.8	4.6	2.7	3.2	2.1	2.5	1.4	8.1	33.8	11.7	※
平成24年	1,123	32.8	17.5	10.2	5.1	2.2	2.4	1.3	1.5	1.7	6.8	38.1	11.5	※
平成23年	1,097	31.4	17.1	11.8	5.7	3.0	2.6	1.5	0.9	0.9	7.6	36.6	12.9	※
平成22年	1,004	35.2	17.9	12.4	4.9	3.1	3.1	1.8	1.2	0.9	9.2	35.6	7.9	※
平成21年	1,001	31.4	15.0	9.9	3.8	2.5	3.0	2.5	※	4.1	8.9	34.0	12.5	1.0
平成20年	1,065	30.8	15.4	12.7	4.2	1.3	2.9	2.7	※	1.8	8.5	34.8	12.4	2.1
平成19年	686	28.4	13.8	11.1	8.0	2.2	5.0	※	※	1.0	13.0	38.2	6.3	1.7

- \* 太枠内が今回の調査の選択肢。
- \* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。
- \* 「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間」の選択肢は、平成22年以前は「保育園、幼稚園、学校の保護者の仲間」としていた。
- \* 「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生」の選択肢は、平成22年以前は「保育士、幼稚園・学校の先生」としていた。

性／年齢別でみると、「配偶者・パートナー」は女性の60～64歳で5割近くと高くなっている。「その他の親族」は女性の60～64歳で3割を超えて高くなっている。一方、「特に相談しない」は男性の60～64歳および70歳以上で2割台半ばと高くなっている。

職業別でみると、「配偶者・パートナー」は自営業で5割近くと高く、「その他の親族」でも自営業、アルバイト・パートタイマーおよび主婦が2割台半ばと高くなっている。(図表5-1-3)

図表5-1-3 子育てに関する悩みの相談—性／年齢別・職業別（上位4項目＋「特に相談しない」）





## (2) 区に望む子育て支援策

◇「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」が4割を超える

問15 あなたは、これからの区の子育て支援で何が重要と考えますか。(〇は2つまで)

n = 1,027

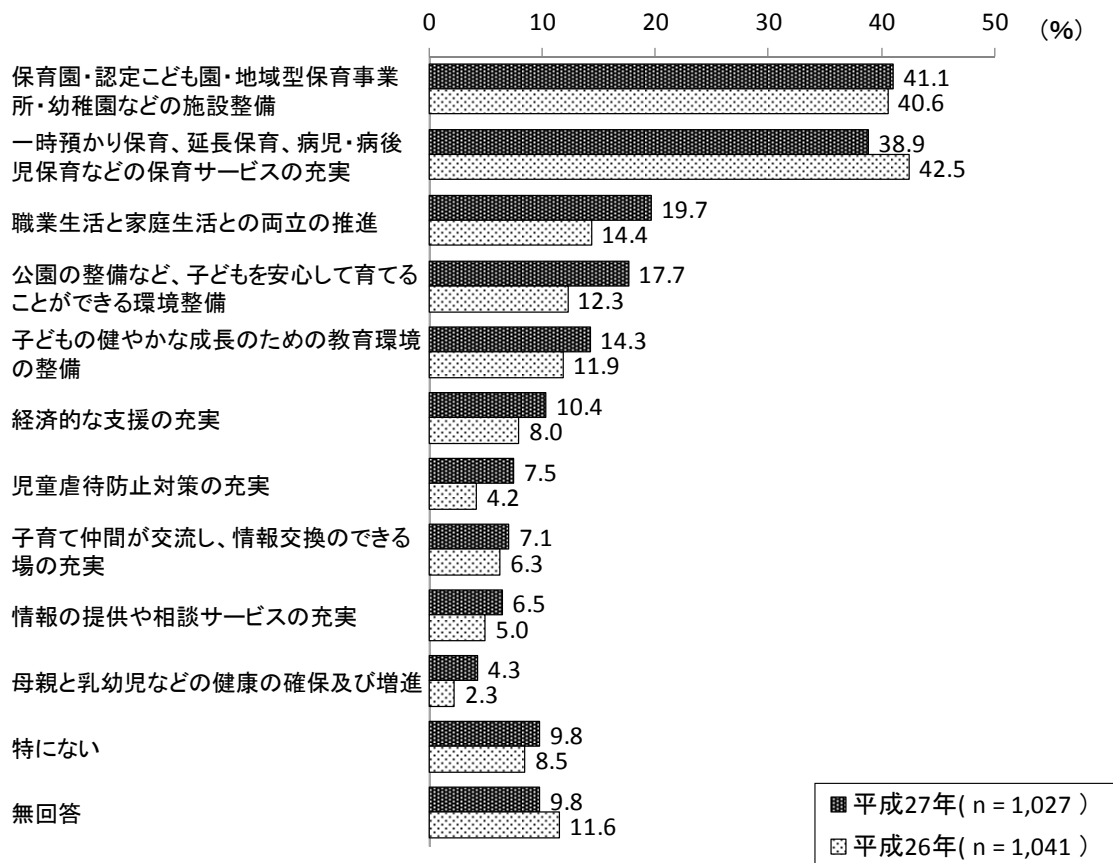
1	保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	41.1%
2	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの保育サービスの充実	38.9
3	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場の充実	7.1
4	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	14.3
5	情報の提供や相談サービスの充実	6.5
6	公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	17.7
7	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	4.3
8	職業生活と家庭生活との両立の推進	19.7
9	児童虐待防止対策の充実	7.5
10	経済的な支援の充実	10.4
11	特になし	9.8
	(無回答)	9.8

(※) 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

区に望む子育て支援策は、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」(41.1%)が4割を超えて最も高くなっている。次いで、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの保育サービスの充実」(38.9%)、「職業生活と家庭生活との両立の推進」(19.7%)、「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」(17.7%)、「子どもの健やかな成長のための教育環境の整備」(14.3%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」は5.4ポイント、「職業生活と家庭生活との両立の推進」は5.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの保育サービスの充実」は3.6ポイント減少している。(図表5-2-1)

図表5-2-1 区に望む子育て支援策（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、平成26年では「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの保育サービスの充実」の割合が最も高くなっていたが、今回調査では、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」の割合が最も高くなった。(図表5-2-2)

図表5-2-2 区に望む子育て支援策一過年度比較

単位：％

調査年	n	保育園・認定こども園・地域型保育事業所の施設整備	一時預かり保育、病児・病後児保育、延長保育、病児の保育サービスの充実	職業生活と家庭生活との両立の推進	公園の整備など、子どもを安心して育てることができきる環境整備	子どもための教育環境の整備	経済的な支援の充実	児童虐待防止対策の充実	子育て交換の場が交流し、情報	情報の提供や相談サービス	母親と乳児及び増進などの健康の	特にな	無回答	その他
平成27年	1,027	41.1	38.9	19.7	17.7	14.3	10.4	7.5	7.1	6.5	4.3	9.8	9.8	※
平成26年	1,041	40.6	42.5	14.4	12.3	11.9	8.0	4.2	6.3	5.0	2.3	8.5	11.6	※
平成25年	1,047	46.2	43.7	12.4	12.4	10.7	9.0	5.2	6.2	4.9	2.9	6.5	11.6	※
平成24年	1,123	53.7	※	28.6	15.3	17.2	15.9	4.9	13.4	7.5	3.7	4.7	7.5	2.8
平成23年	1,097	52.4	※	30.5	14.7	19.7	15.5	5.4	10.8	7.5	4.3	4.3	8.4	2.3
平成22年	1,004	59.4	※	31.9	15.7	19.9	15.4	7.4	9.2	6.0	3.6	3.9	4.1	3.1
平成21年	1,001	42.9	※	30.0	13.2	15.4	26.1	3.1	8.0	5.2	3.2	4.5	8.1	9.9
平成20年	1,065	39.6	※	31.4	18.6	20.2	22.3	3.7	12.5	7.8	3.2	3.3	7.1	6.1
平成19年	686	34.1	※	30.3	20.6	20.6	24.6	4.7	9.3	5.4	3.6	12.5	4.2	1.3

\* 太枠内が今回の調査の選択肢。

\* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

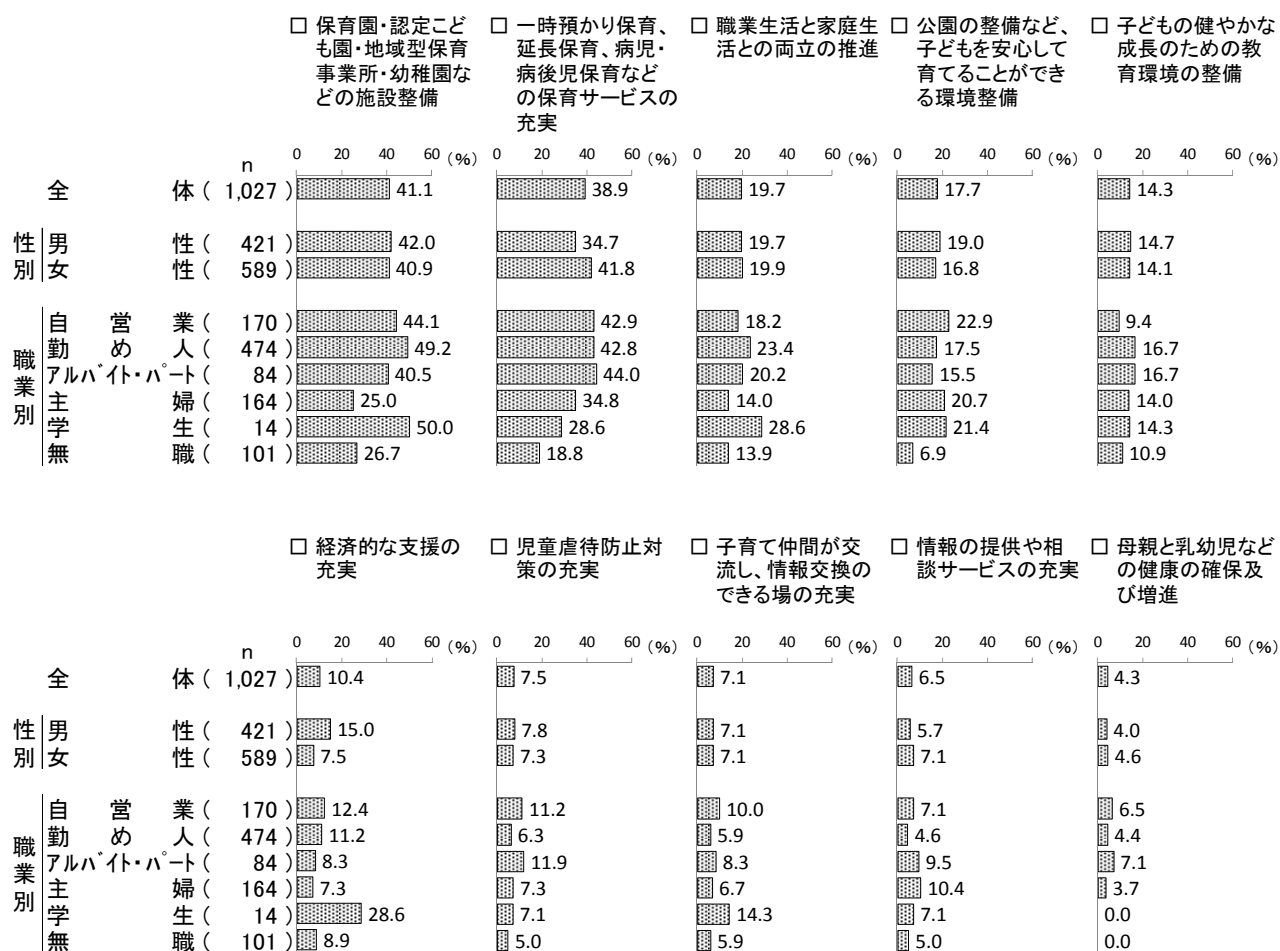
\* 「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの保育サービスの充実」の選択肢は、平成25年調査より選択肢に追加されている。

\* 「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」の選択肢は、平成26年以前は「保育園・認定こども園・幼稚園などの施設整備」とし、平成22年以前は「保育所・幼稚園などの施設整備」としていた。

性別でみると、女性の方が男性よりも「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの保育サービスの充実」で7.1ポイント高くなっている。一方、「経済的な支援の充実」は男性の方が女性よりも7.5ポイント高くなっている。

職業別でみると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの保育サービスの充実」はアルバイト・パートタイマーで4割台半ばと高くなっている。(図表5-2-3)

図表5-2-3 区に望む子育て支援策—性別・職業別(上位10項目)



### (3) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス

問15-1 問15で、あなたが○をした選択肢を含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスを自由に記述していただいたところ、312人から延べ332件の回答が寄せられた。問15の区に望む子育て支援策におおむね沿った形で整理した。

#### (ご意見の一部)

##### ■保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備 (80件)

- ・ 保育園の数を増やし、待機児童をなくして欲しい。
- ・ 保育施設をたくさん作ってください。老人の施設を併設（隣接）するようにして、老人にもお手伝い（できる範囲で）させてほしい。若い夫婦が3人4人と望むだけの子供が持てるように社会が支援していく体制づくりを急がなければ、せっかく流入者が増えても子育てが完了するまで住み続けられない。

##### ■一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの保育サービスの充実 (74件)

- ・ 能力のある女性、やる気のある女性が子供を預ける施設に入れず、やむなく仕事を中断しているケースを多く知っています。仕事の種類によっては延長保育も必要です。是非、中央区はこれに力を入れてほしいものです。さすが中央区と云われたいものです。
- ・ 保育園は少しずつでも増やせば若年層も増えてさらに区の活性化が上がると思います。また、区営住宅に保育所や託児ルームなどを併設して一時預かりなどもすれば助かる母も多いと考えます。

##### ■子育て仲間が交流し、情報交換のできる場の充実 (16件)

- ・ 産前だけでなく、産後、職場復帰後にも交流できる場が欲しいです。
- ・ 普段交流のない区内全域の子ども集まって交流できるような催し物を考えてほしい。

##### ■子どもの健やかな成長のための教育環境の整備 (16件)

- ・ 学校教育を含め時代を担う子供たちの健全育成、子供の健やかな成長に向け、学校、保護者、地域が連携できるようなネットワーク連絡体制、相談し合える機会、場の設置、子どもの問題、状態をすばやく把握できるような学校など現場力の向上。

#### ■情報の提供や相談サービスの充実（9件）

- ・ 子どものいる家庭に対しても、介護関連のような手厚い連携が必要で、電話等で困ったことに対して対応を素早く取れるシステムを。

#### ■公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備（46件）

- ・ 車の排気ガス臭い公園ではなく、緑の多い公園で犬、ネコの糞尿に気を遣わず思う存分に遊ばせる事のできる環境を願います。
- ・ 公園はあるのだが遊具が充実していない。体力づくりのため、もっと公園でアスレチックのような遊具があるといい。タワーマンションばかり建てるよりも、大きな公園や体育館、などを作っていただきたい。

#### ■母親と乳幼児などの健康の確保及び増進（1件）

- ・ 健康の確保と増進。

#### ■職業生活と家庭生活との両立の推進（12件）

- ・ 共働きの家庭支援として、子どもの預け先に困らないような整備が必要。保育園の他、小中学生が放課後通えるサービスがあることで、女性が働くことをあきらめずに済む。待機児童解消は早急な課題。
- ・ 子供の体調が急変した時、（緊急の場合）職場から家庭に戻っても、さしつかえなく、お仕事が回転できるようなシステム作り。

#### ■児童虐待防止対策の充実（3件）

- ・ 助産師さんや保健師さんからのアドバイスが聞けるセミナーなども、もっと充実するべき。保育園、幼稚園、小学校などに定期的に職員が訪問し、保健の先生、教師などから状況を聞き、虐待が疑わしければカウンセリングなどを行う。

#### ■経済的な支援の充実（17件）

- ・ 経済的な支援につきます。幼稚園の保育料の多子世帯で年齢での区切り方に納得がいきません。小学3年以上でなぜ対象外なのか。少数派ではありますが、子供の年齢が離れているといつまでも仕事ができず大変な家庭はあると思います。

#### ■その他（58件）

- ・ 人口増に伴い、公園やじゃぶじゃぶ池が混雑し、思い切り遊べません。日曜に数ある園や学校（グラウンド、プール）を開放するようなことはできないか。
- ・ 子育て支援の前に未婚者のワークショップを定期的に開催してほしい。（結婚・子育て・教育・教鞭等を自発的に考えていく余裕がない）

## 【6 障害者福祉】

### (1) 共生社会の実現

◇「学校における障害者への理解を深める授業や活動の実施」が5割近く

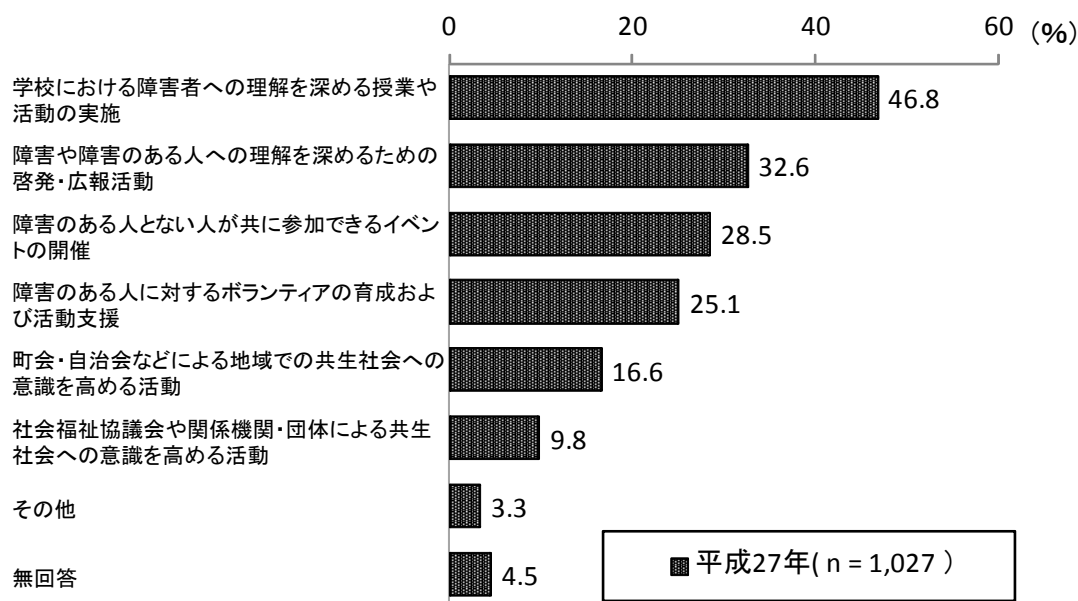
問16 障害のあるなしによって分け隔てすることなく、人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現が求められていますが、あなたは、この考え方を広く区民に定着させるために、何が必要だと思いますか。(〇は2つまで)

n = 1,027

1	障害や障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動	32.6%
2	障害のある人とない人が共に参加できるイベントの開催	28.5
3	学校における障害者への理解を深める授業や活動の実施	46.8
4	町会・自治会などによる地域での共生社会への意識を高める活動	16.6
5	社会福祉協議会や関係機関・団体による共生社会への意識を高める活動	9.8
6	障害のある人に対するボランティアの育成および活動支援	25.1
7	その他	3.3
	(無回答)	4.5

共生社会の実現を区民に定着させるためには、「学校における障害者への理解を深める授業や活動の実施」(46.8%)が5割近くと最も高くなっている。次いで、「障害や障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動」(32.6%)、「障害のある人とない人が共に参加できるイベントの開催」(28.5%)、「障害のある人に対するボランティアの育成および活動支援」(25.1%)などとなっている。(図表6-1-1)

図表6-1-1 共生社会の実現(複数回答)



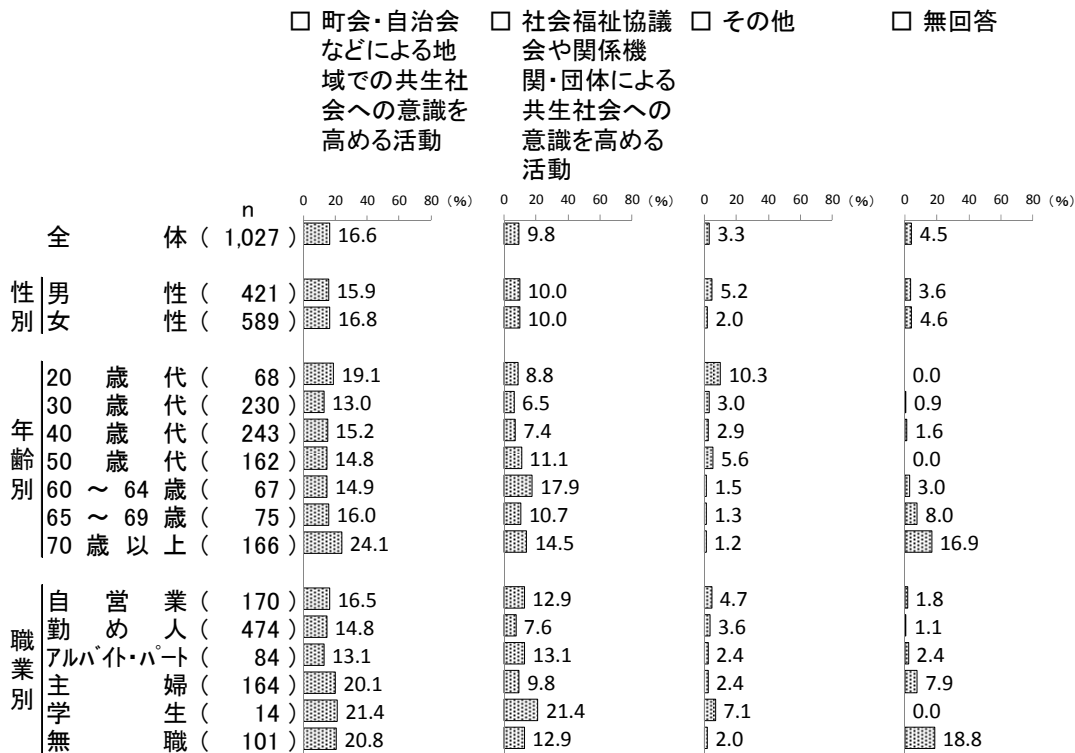
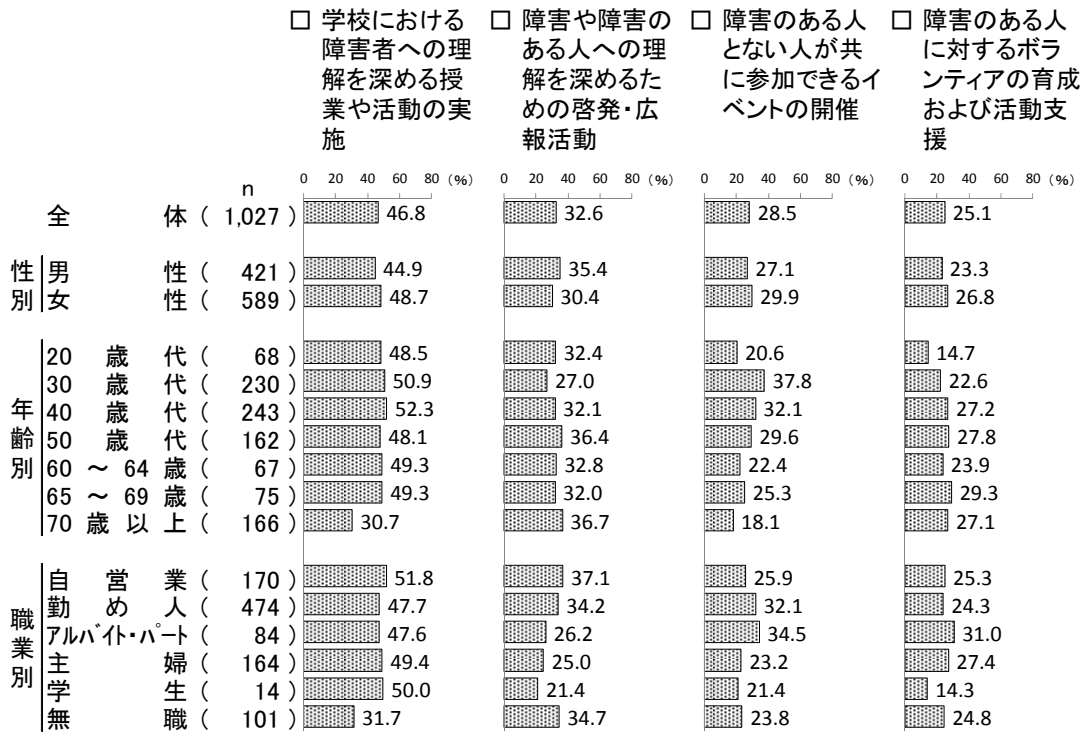
性別でみると、女性の方が男性より「学校における障害者への理解を深める授業や活動の実施」で3.8ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性より「障害や障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動」で5.0ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「学校における障害者への理解を深める授業や活動の実施」は40歳代で5割を超えて、「障害や障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動」は70歳以上が4割近く、「障害のある人とない人が共に参加できるイベントの開催」は30歳代で4割近くと高くなっている。

職業別でみると、「学校における障害者への理解を深める授業や活動の実施」は自営業で5割を超えて、「障害や障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動」も自営業で4割近くと高くなっている。(図表6-1-2)



図表6-1-2 共生社会の実現—性別・年齢別・職業別



## (2) 区に望む障害者支援施策

◇「障害者雇用の拡大に向けた取り組み」が4割台半ば

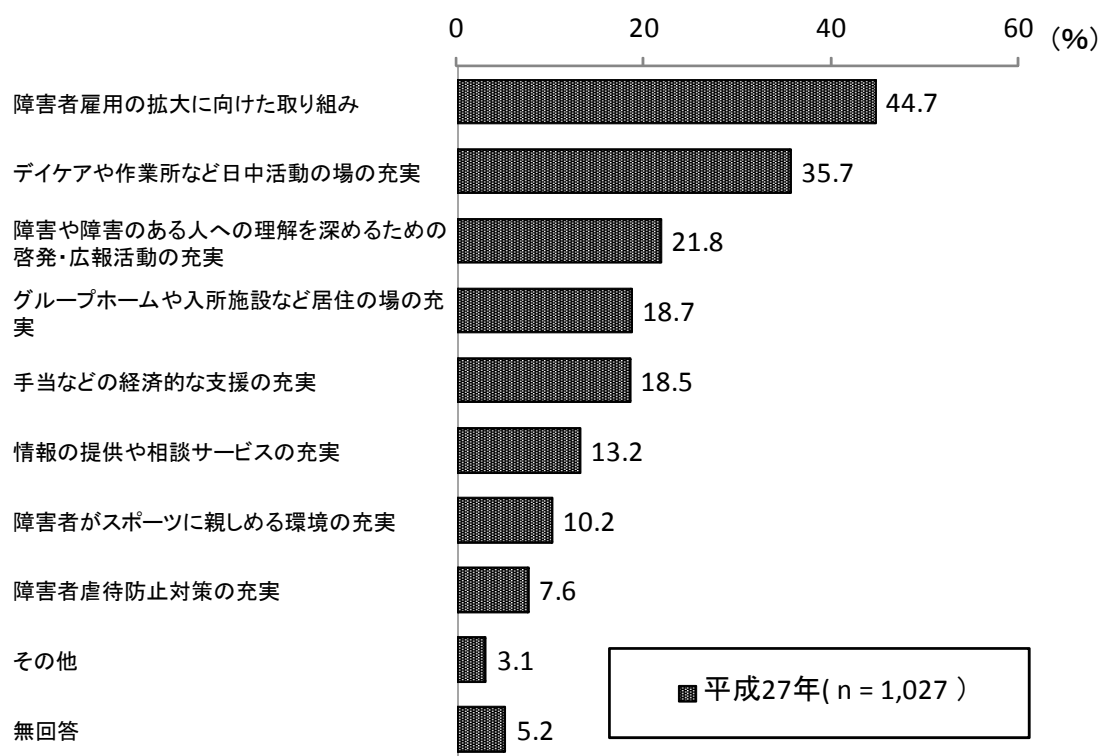
問17 あなたは、これからの区の障害者支援施策で何が重要だと思いますか。(○は2つまで)

n = 1,027

1	障害者雇用の拡大に向けた取り組み	44.7%
2	手当などの経済的な支援の充実	18.5
3	デイケアや作業所など日中活動の場の充実	35.7
4	グループホームや入所施設など居住の場の充実	18.7
5	障害や障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動の充実	21.8
6	情報の提供や相談サービスの充実	13.2
7	障害者虐待防止対策の充実	7.6
8	障害者がスポーツに親しめる環境の充実	10.2
9	その他	3.1
	(無回答)	5.2

これからの障害者支援施策で重要なことは、「障害者雇用の拡大に向けた取り組み」(44.7%)が4割台半ばと最も高くなっている。次いで、「デイケアや作業所など日中活動の場の充実」(35.7%)、「障害や障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動の充実」(21.8%)などとなっている。(図表6-2-1)

図表6-2-1 区に望む障害者支援施策（複数回答）

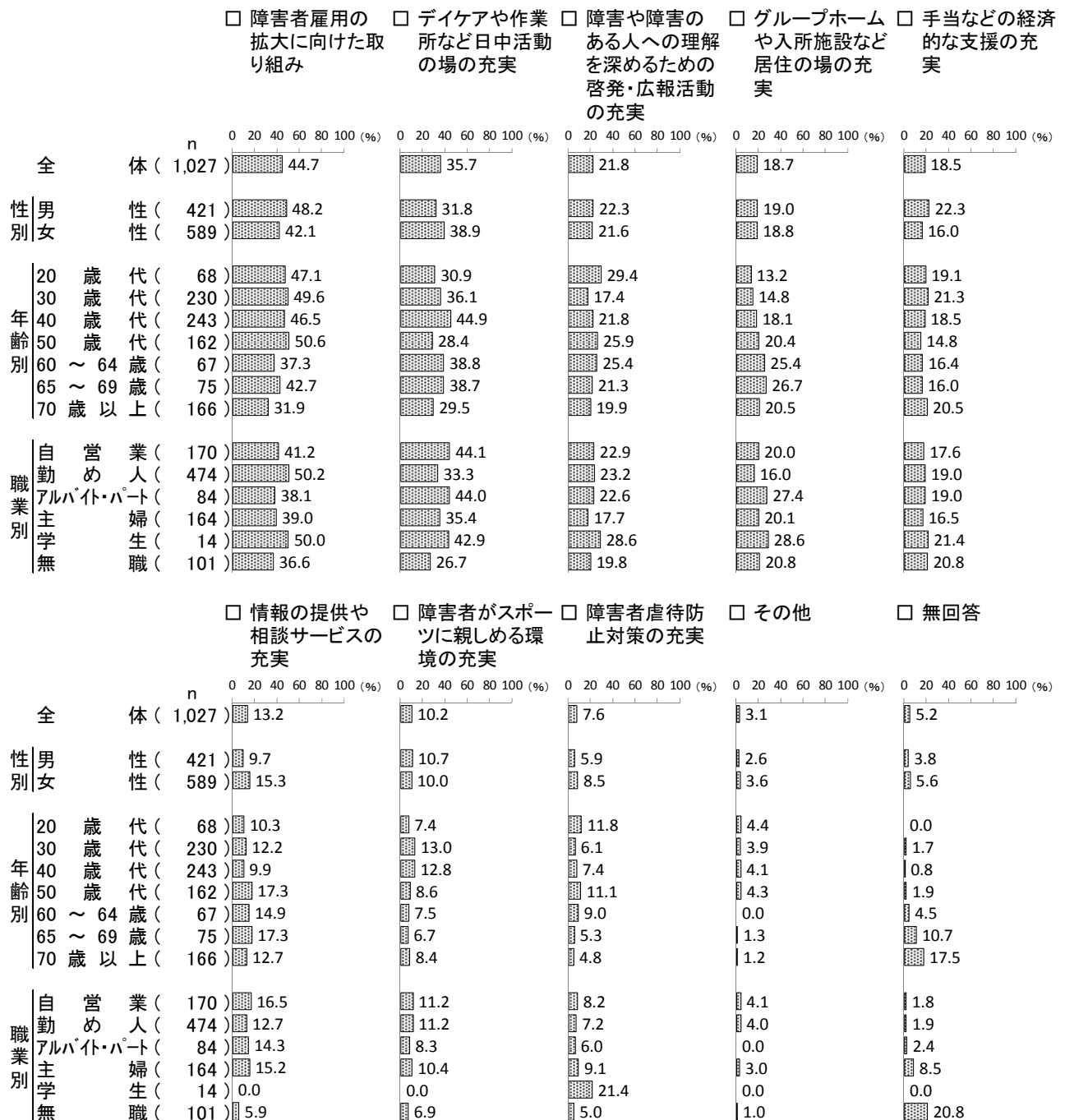


性別でみると、男性の方が女性よりも「手当などの経済的な支援の充実」で6.3ポイント、「障害者雇用の拡大に向けた取り組み」で6.1ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「デイケアや作業所など日中活動の場の充実」で7.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「障害者雇用の拡大に向けた取り組み」は50歳代で約5割と高くなっている。「デイケアや作業所など日中活動の場の充実」は40歳代で4割台半ばと高くなっている。

職業別でみると、「障害者雇用の拡大に向けた取り組み」は勤め人および学生で5割と高くなっている。「デイケアや作業所など日中活動の場の充実」は自営業およびアルバイト・パートタイマーで4割台半ばと高くなっている。(図表6-2-2)

図表6-2-2 区に望む障害者支援施策—性別・年齢別・職業別



## 【7 男女共同参画社会】

(※) 男女共同参画社会

男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的および文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担う社会のことです。

### (1) 男女の地位の平等感

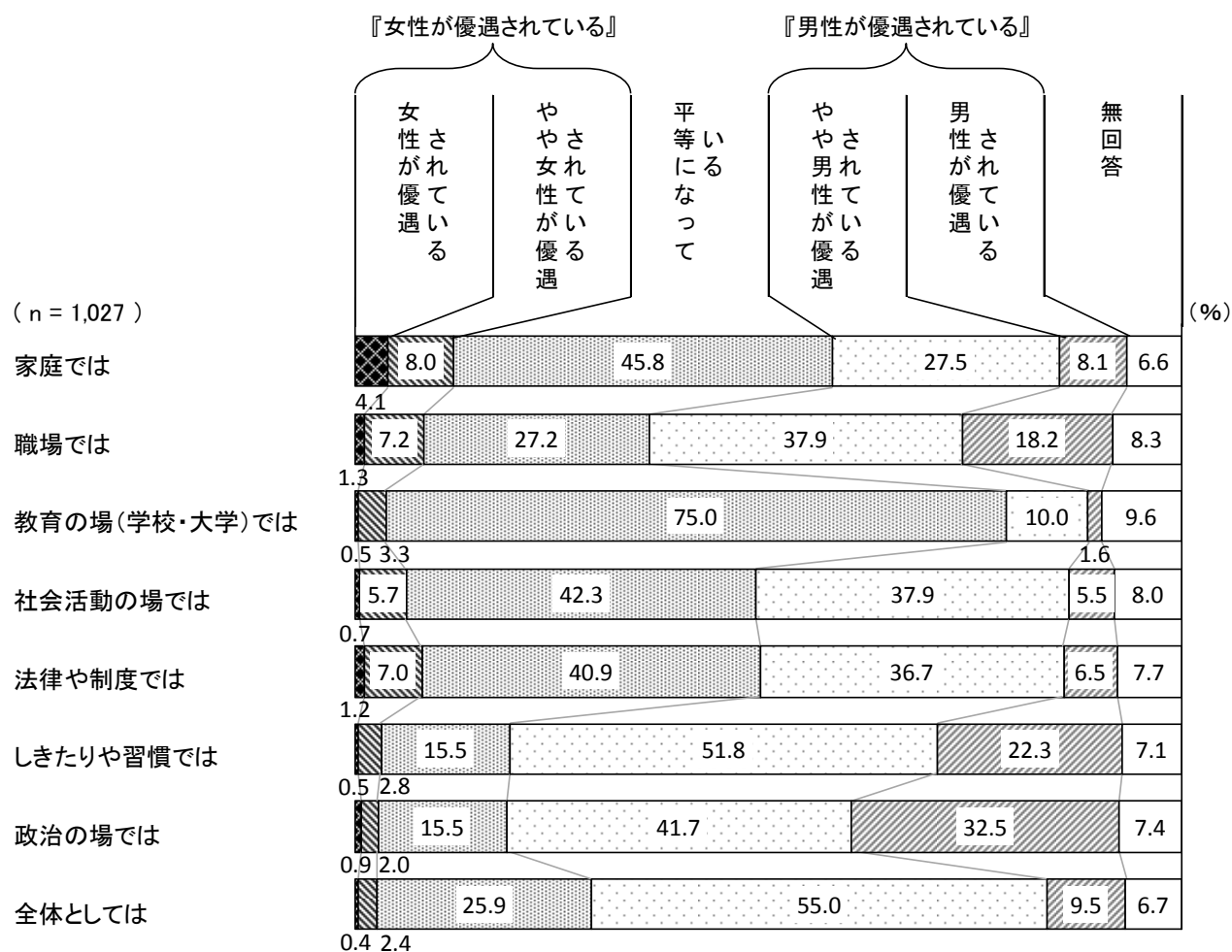
◇「平等になっている」と感じるのは、“教育の場（学校・大学）では”で7割台半ば  
 「男性が優遇されている」と「やや男性が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている』と感じるのは、“政治の場では”と“しきたりや習慣では”で7割台半ば

問18 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。		(○はそれぞれ1つずつ)					(%)
n = 1,027	1	2	3	4	5	無回答	
	女性が優遇 されている	やや女性が 優遇されている	平等に なっている	やや男性が 優遇されている	男性が優遇 されている		
(1) 家庭では	4.1	8.0	45.8	27.5	8.1	6.6	
(2) 職場では	1.3	7.2	27.2	37.9	18.2	8.3	
(3) 教育の場（学校・大学）では	0.5	3.3	75.0	10.0	1.6	9.6	
(4) 社会活動の場では	0.7	5.7	42.3	37.9	5.5	8.0	
(5) 法律や制度では	1.2	7.0	40.9	36.7	6.5	7.7	
(6) しきたりや習慣では	0.5	2.8	15.5	51.8	22.3	7.1	
(7) 政治の場では	0.9	2.0	15.5	41.7	32.5	7.4	
(8) 全体としては	0.4	2.4	25.9	55.0	9.5	6.7	

男女の地位の平等感について、「平等になっている」と感じるのは、“教育の場（学校・大学）では”（75.0%）で7割台半ばと最も高く、次いで、“家庭では”（45.8%）で4割台半ば、“社会活動の場では”（42.3%）で4割を超え、“法律や制度では”（40.9%）で約4割となっている。

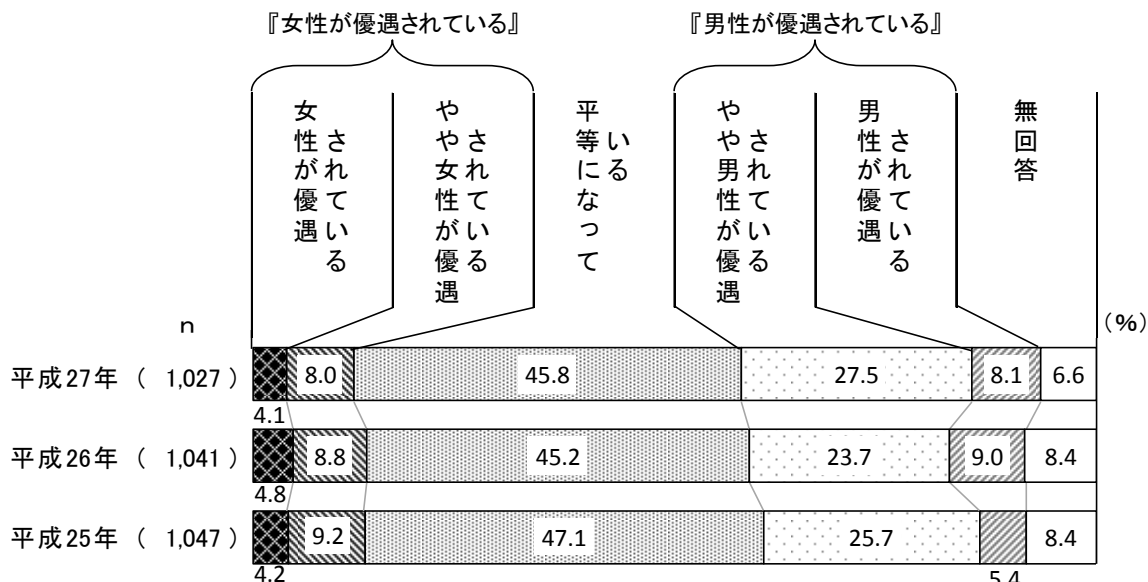
「やや男性が優遇されている」と「男性が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている』と感じるのは、“政治の場では”（74.2%）と“しきたりや習慣では”（74.1%）でそれぞれ7割台半ばと高くなっている。（図表7-1-1）

図表7-1-1 男女の地位の平等感

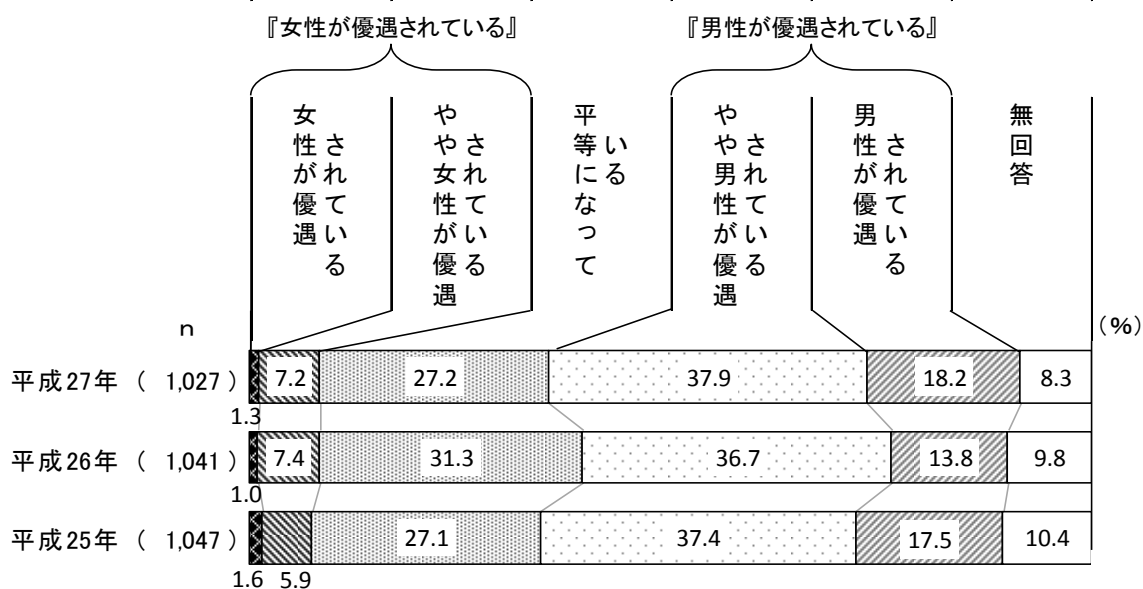


過去の調査結果と比較すると、“家庭では”は『男性が優遇されている』と感じる割合が年々増加し、平成25年と比較して4.5ポイント増加している。“職場では”は『男性が優遇されている』と感じる割合が平成26年に減少したが、平成27年は増加し、平成25年と比較して1.2ポイント増加している。(図表7-1-2、図表7-1-3)

図表7-1-2 男女の地位の平等感一過年度比較 「(1) 家庭では」

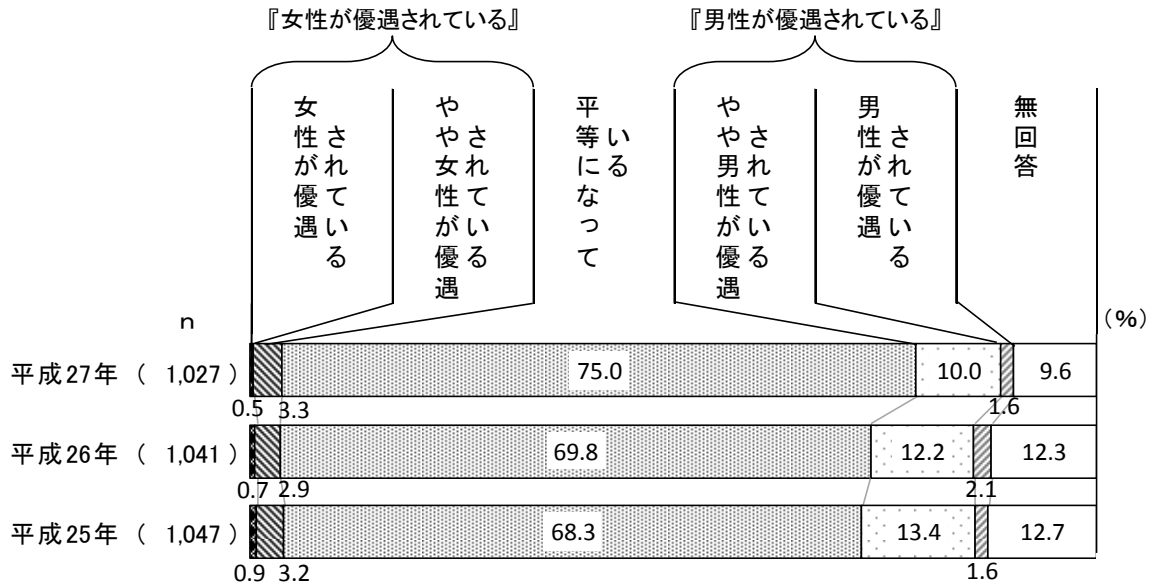


図表7-1-3 男女の地位の平等感一過年度比較 「(2) 職場では」

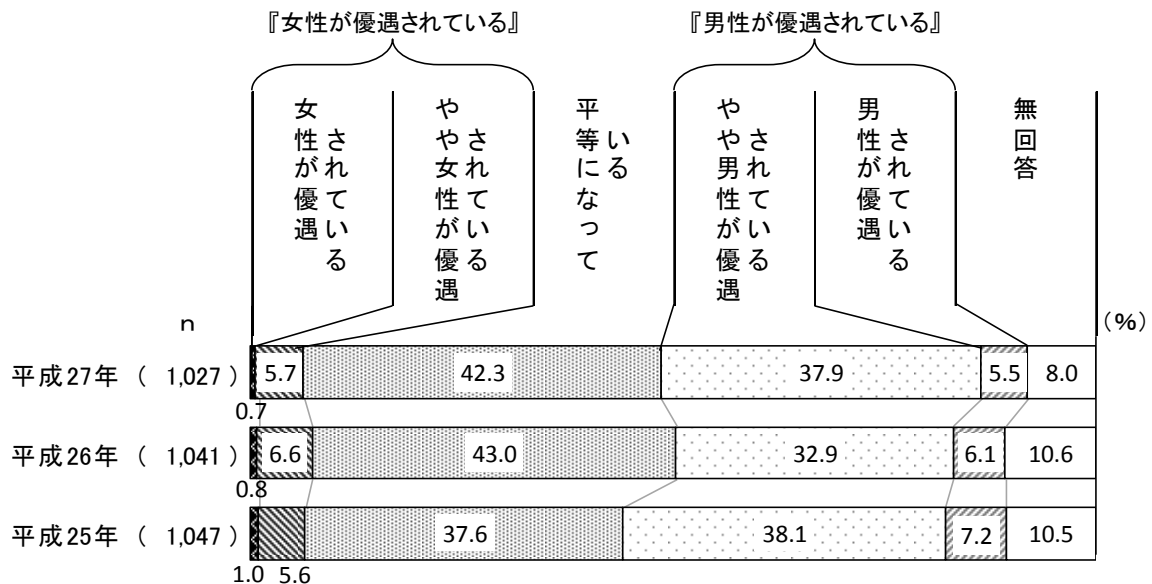


過去の調査と比較すると、“教育の場（学校・大学）では”は「平等になっている」と感じる割合が年々増加し、平成25年と比較して6.7ポイント増加している。“社会活動の場では”は「男性が優遇されている」と感じる割合が年々減少し、平成25年と比較して1.7ポイント減少している。  
 (図表7-1-4、図表7-1-5)

図表7-1-4 男女の地位の平等感—過年度比較 「(3) 教育の場（学校・大学）では」

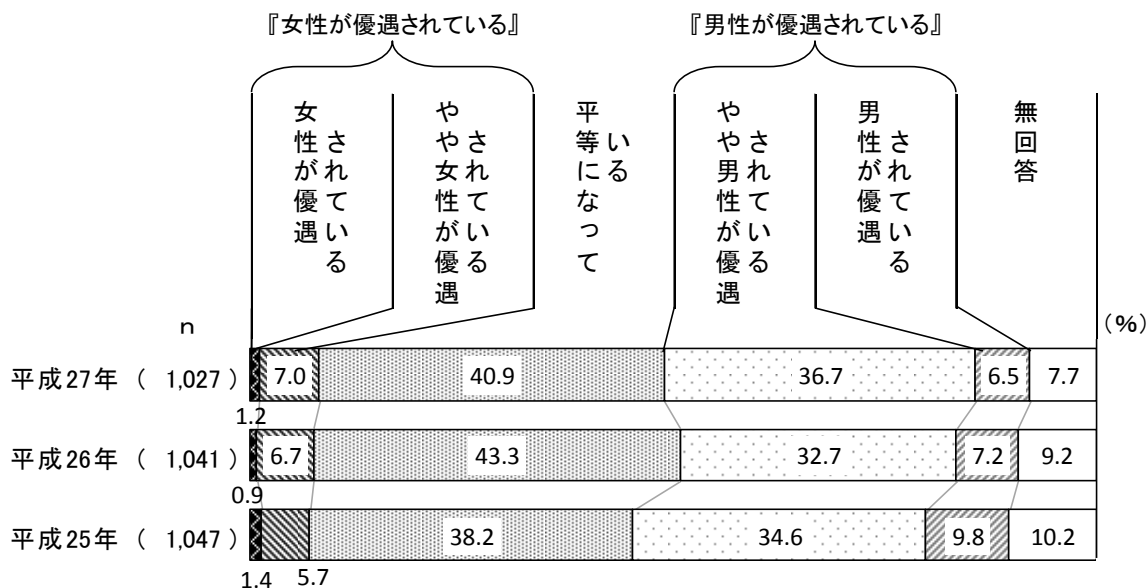


図表7-1-5 男女の地位の平等感—過年度比較 「(4) 社会活動の場では」

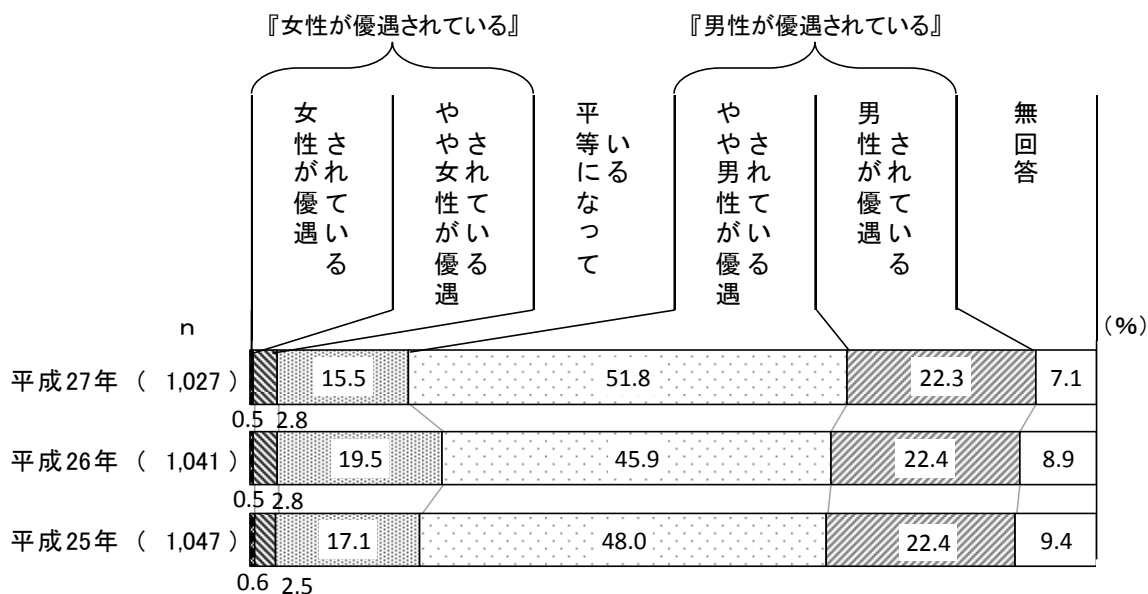


過去の調査と比較すると、“法律や制度では”は『女性が優遇されている』と感じる割合が年々増加し、平成25年と比較して1.1ポイント増加している。“しきたりや習慣では”は『男性が優遇されている』と感じる割合が平成26年には減少したが平成27年は増加し、平成25年と比較して3.7ポイント増加している。(図表7-1-6、図表7-1-7)

図表7-1-6 男女の地位の平等感—過年度比較 「(5) 法律や制度では」



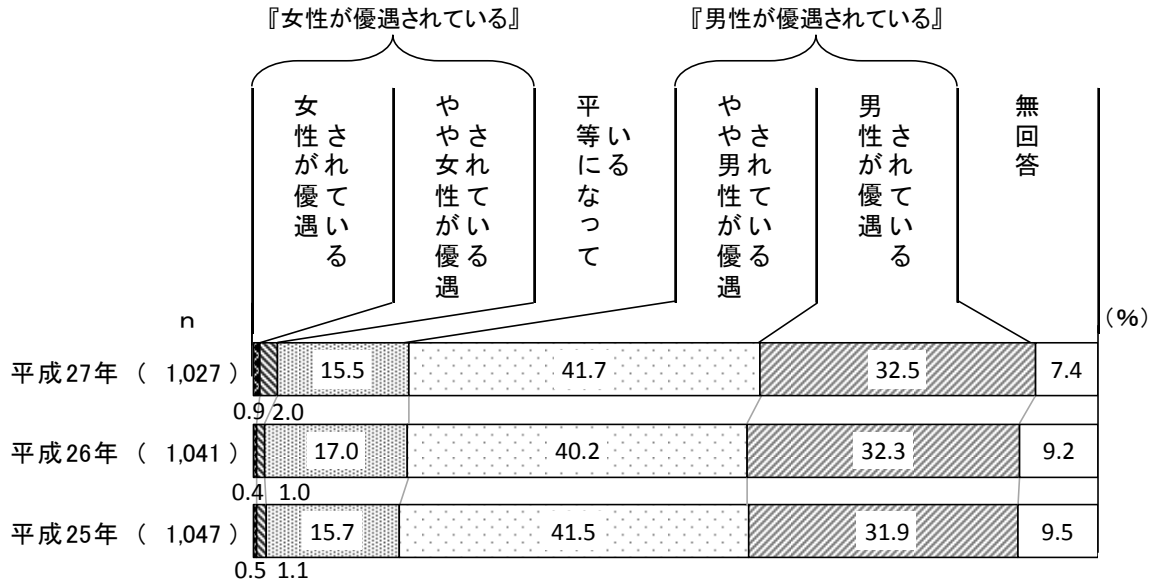
図表7-1-7 男女の地位の平等感—過年度比較 「(6) しきたりや習慣では」



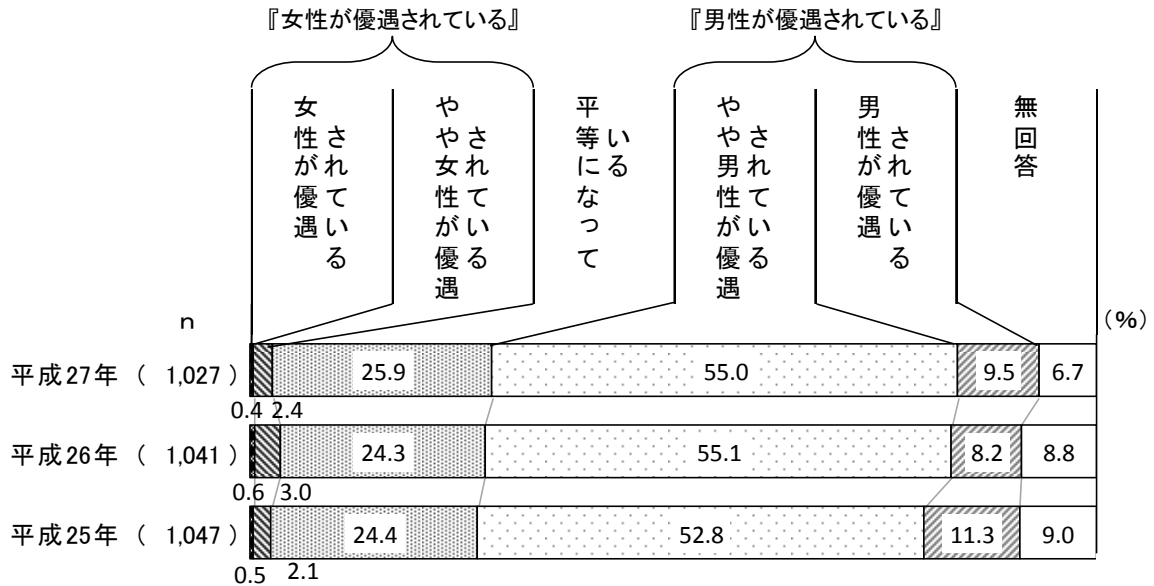


過去の調査結果と比較すると、“政治の場では”は、経年による大きな変化はない。“全体としては”は、「男性が優遇されている」と感じる割合が平成25年度と比較して1.8ポイント減少している。（図表7-1-8、図表7-1-9）

図表7-1-8 男女の地位の平等感一過年度比較 「(7) 政治の場では」



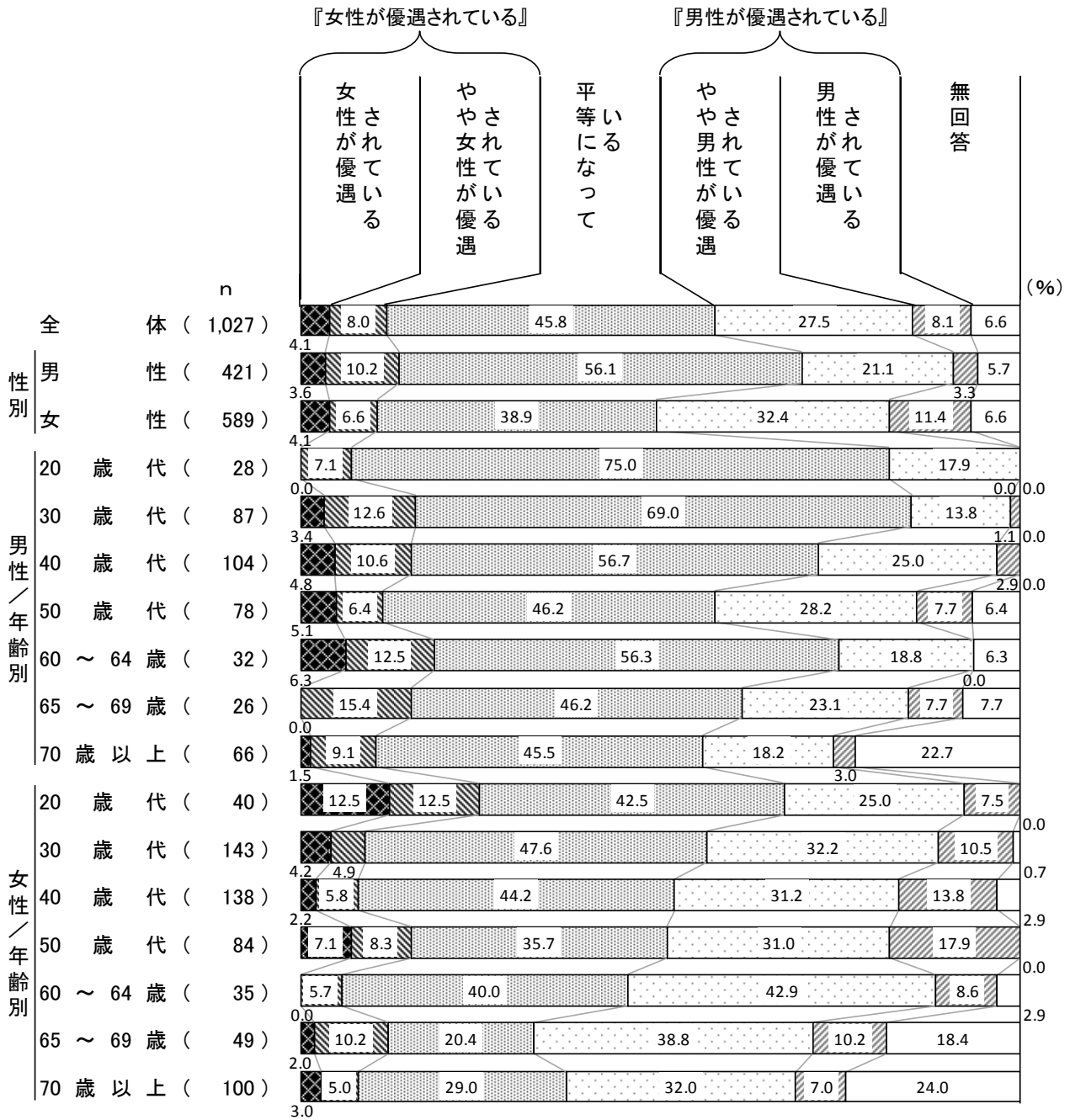
図表7-1-9 男女の地位の平等感一過年度比較 「(8) 全体としては」



“家庭では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合は19.4ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合は17.2ポイント高くなっている。

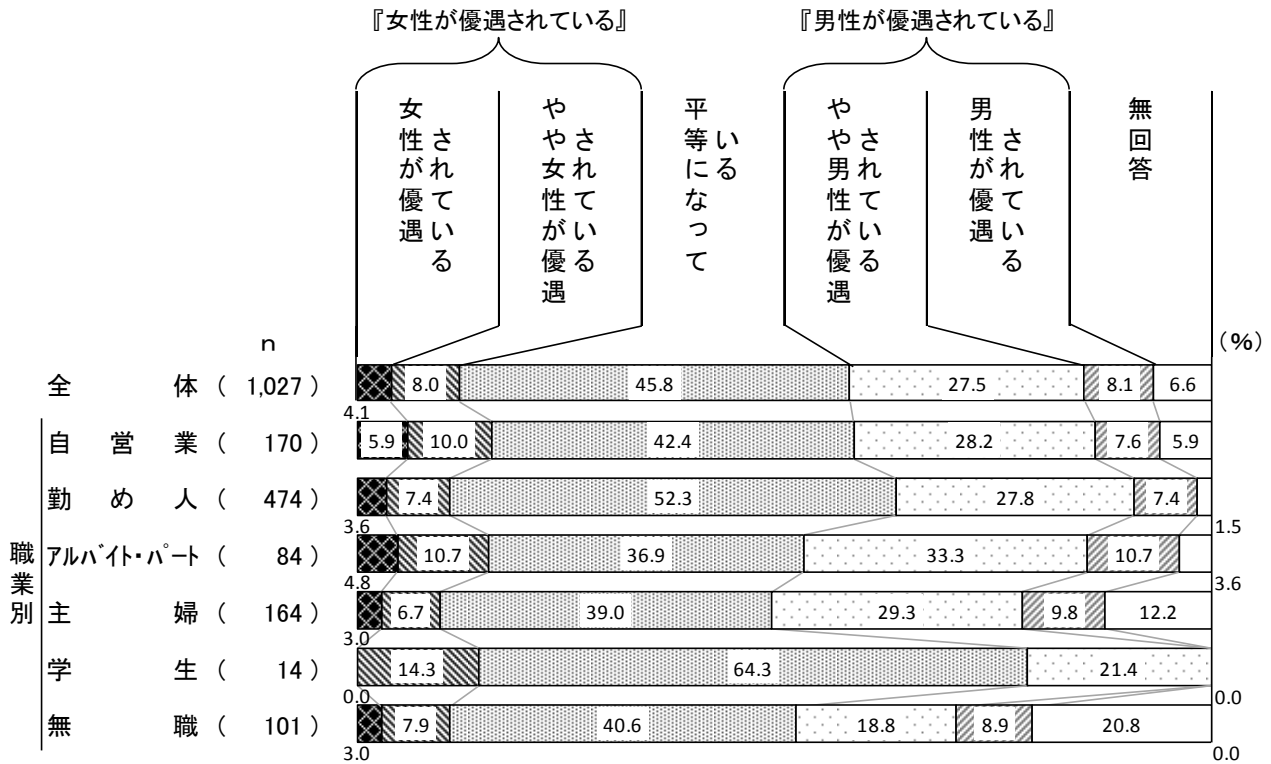
“家庭では”について性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の60～64歳で5割を超えて高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の20歳代で7割台半ばと高くなっている。(図表7-1-10)

図表7-1-10 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別 「(1) 家庭では」



“家庭では”について職業別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合はアルバイト・パートタイマーで4割台半ばと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は学生で6割台半ばと高くなっている。(図表7-1-11)

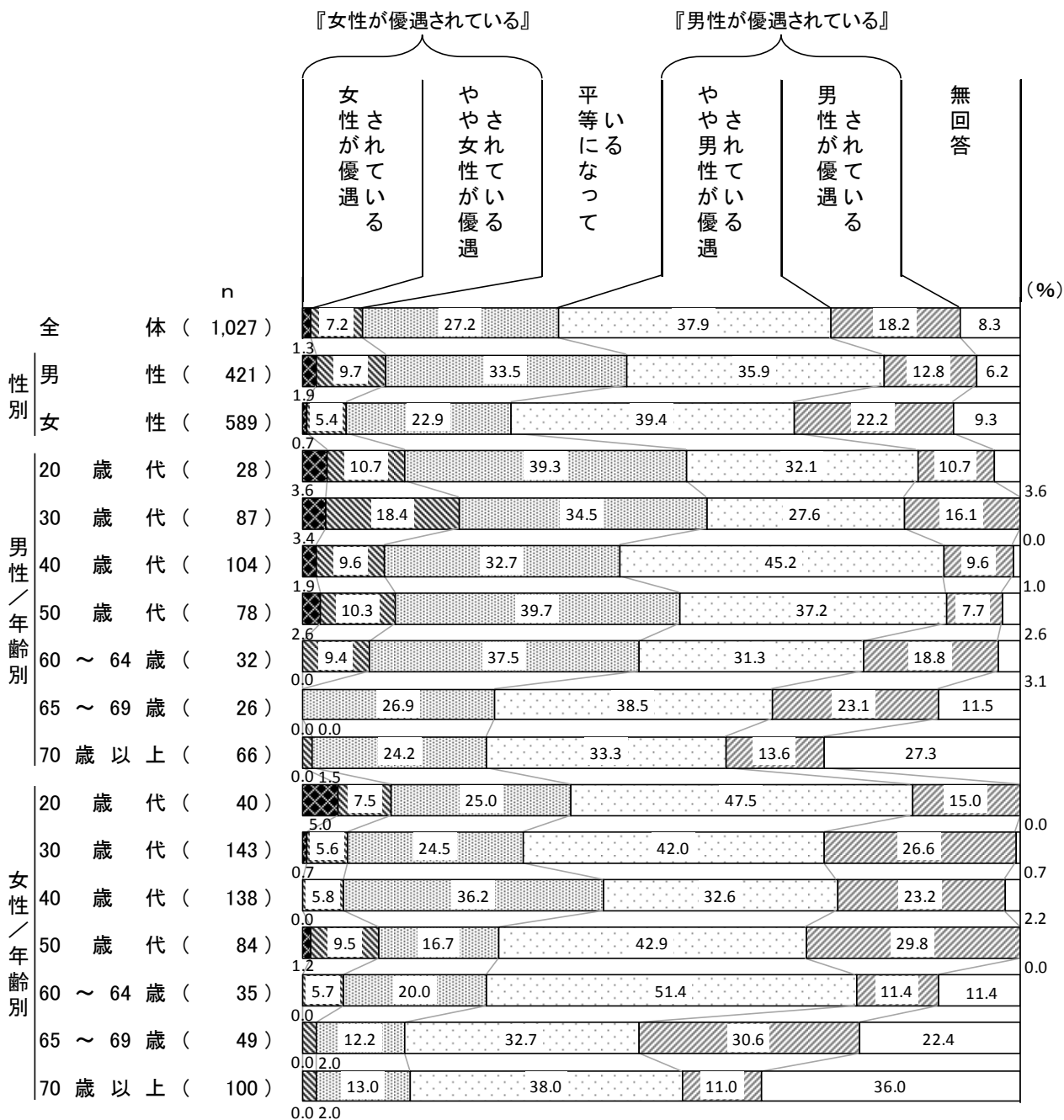
図表7-1-11 男女の地位の平等感—職業別 「(1) 家庭では」



“職場では”について性別で見ると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合は12.9ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合は10.6ポイント高くなっている。

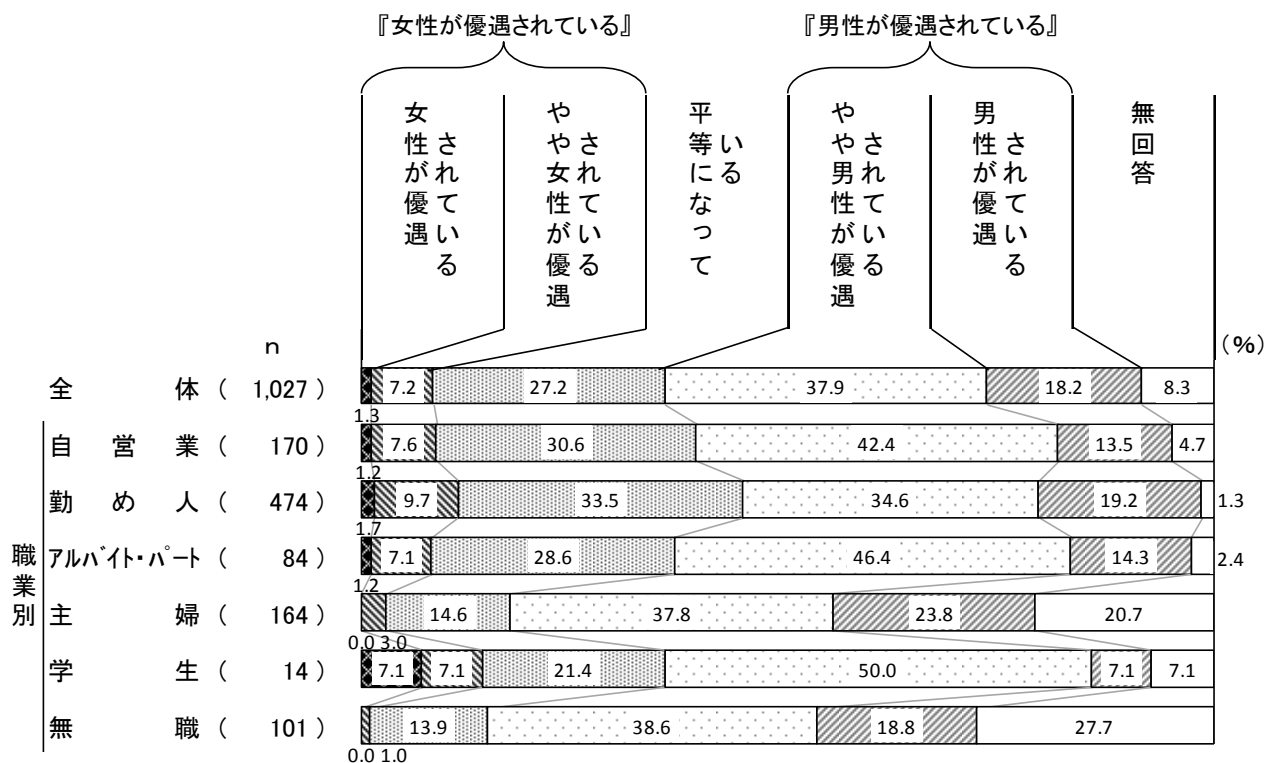
“職場では”について性／年齢別で見ると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の50歳代で7割を超えて、女性の30歳代で7割近くと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の50歳代で4割と高くなっている。(図表7-1-12)

図表7-1-12 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別 「(2) 職場では」



“職場では”について職業別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は主婦で6割を超え、アルバイト・パートタイマーで約6割と高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は勤め人で3割を超えて、自営業で約3割と高くなっている。(図表7-1-13)

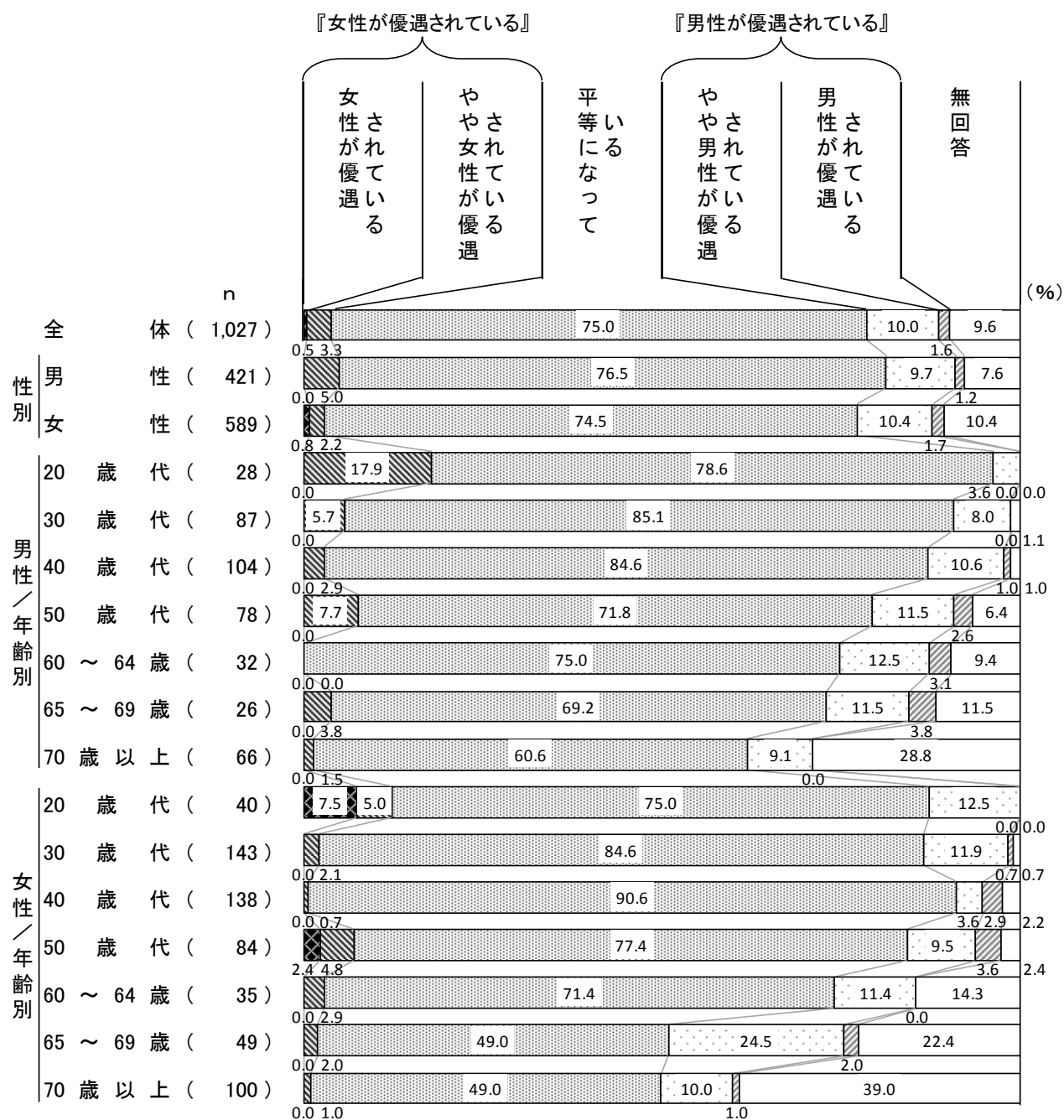
図表7-1-13 男女の地位の平等感—職業別 「(2) 職場では」



“教育の場（学校・大学）では”について性別で見ると、男性の方が女性よりも『女性が優遇されている』と感じる割合は2.0ポイント高くなっている。

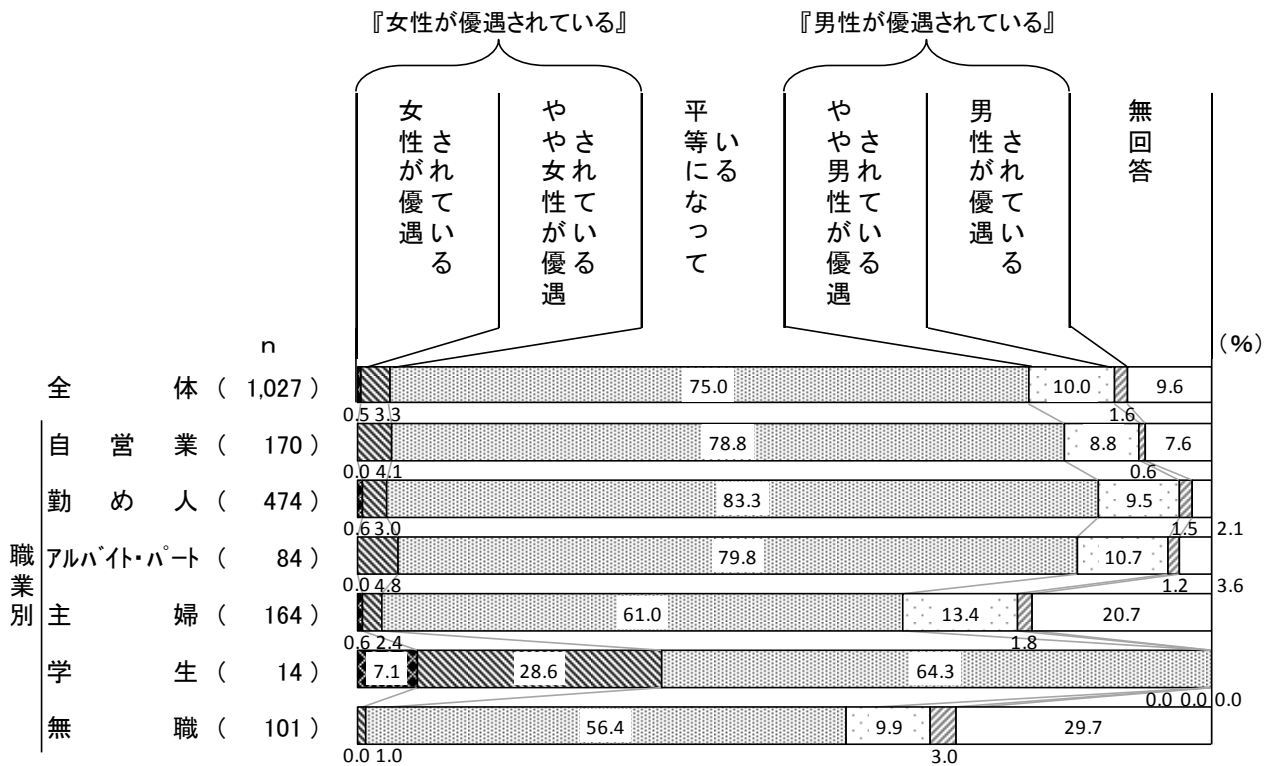
“教育の場（学校・大学）では”について性／年齢別で見ると、「平等になっている」と感じる割合は女性の40歳代で約9割、男性の30歳代および40歳代、女性の30歳代で8割台半ばと高くなっている。『男性が優遇されている』と感じる割合は、女性の65～69歳代で3割近くと高くなっている。（図表7-1-14）

図表7-1-14 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別 「(3) 教育の場（学校・大学）では」



“教育の場（学校・大学）では”について職業別で見ると、「平等になっている」と感じる割合は勤め人で8割を超えて高くなっている。（図表7-1-15）

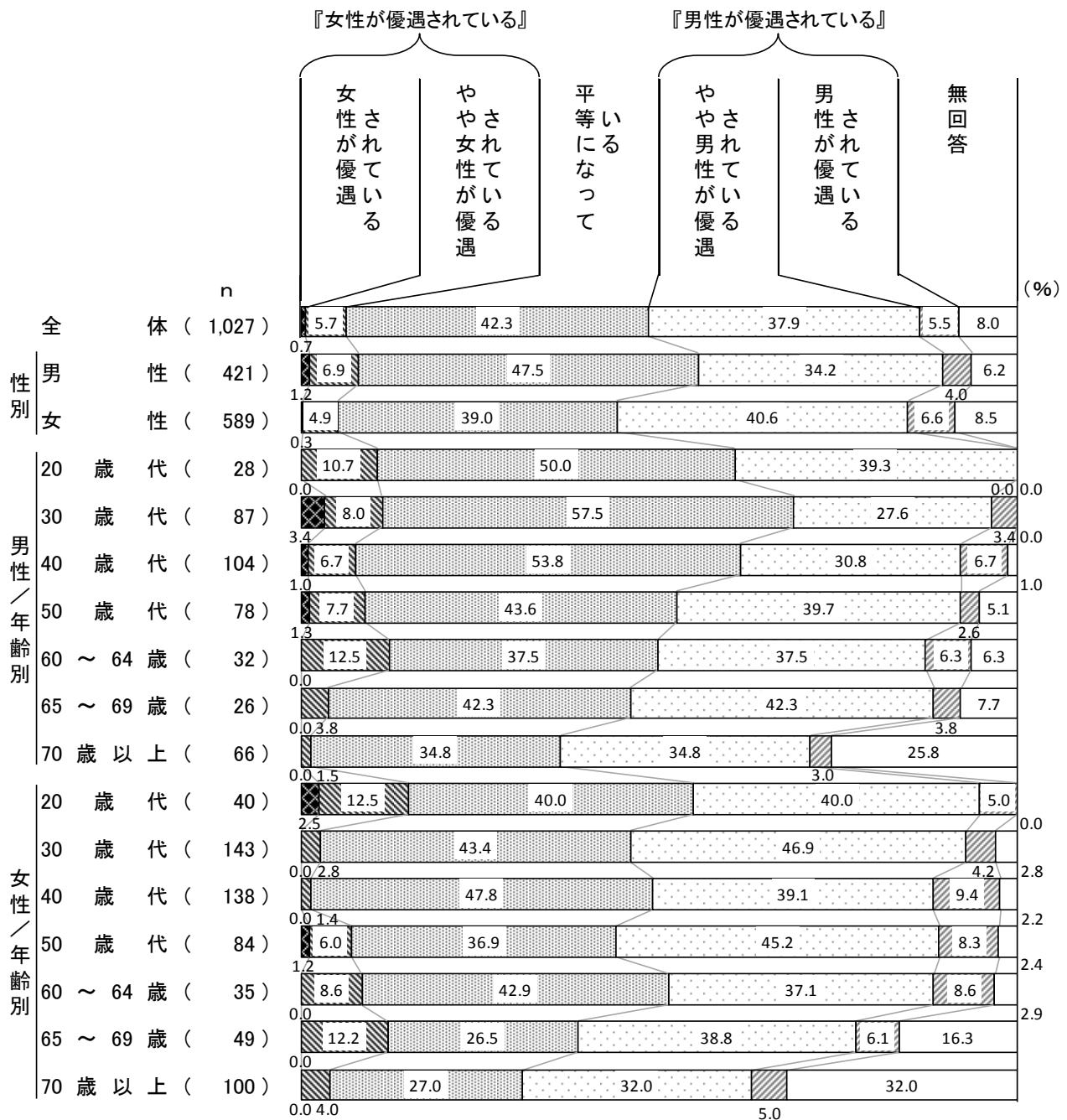
図表7-1-15 男女の地位の平等感—職業別 「(3) 教育の場（学校・大学）では」



“社会活動の場では”について性別で見ると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合は9.0ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合は8.5ポイント高くなっている。

“社会活動の場では”について性/年齢別で見ると、「平等になっている」と感じる割合は男性の30歳代で6割近くと高くなっている。『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の30歳代および50歳代で5割を超えて高くなっている。(図表7-1-16)

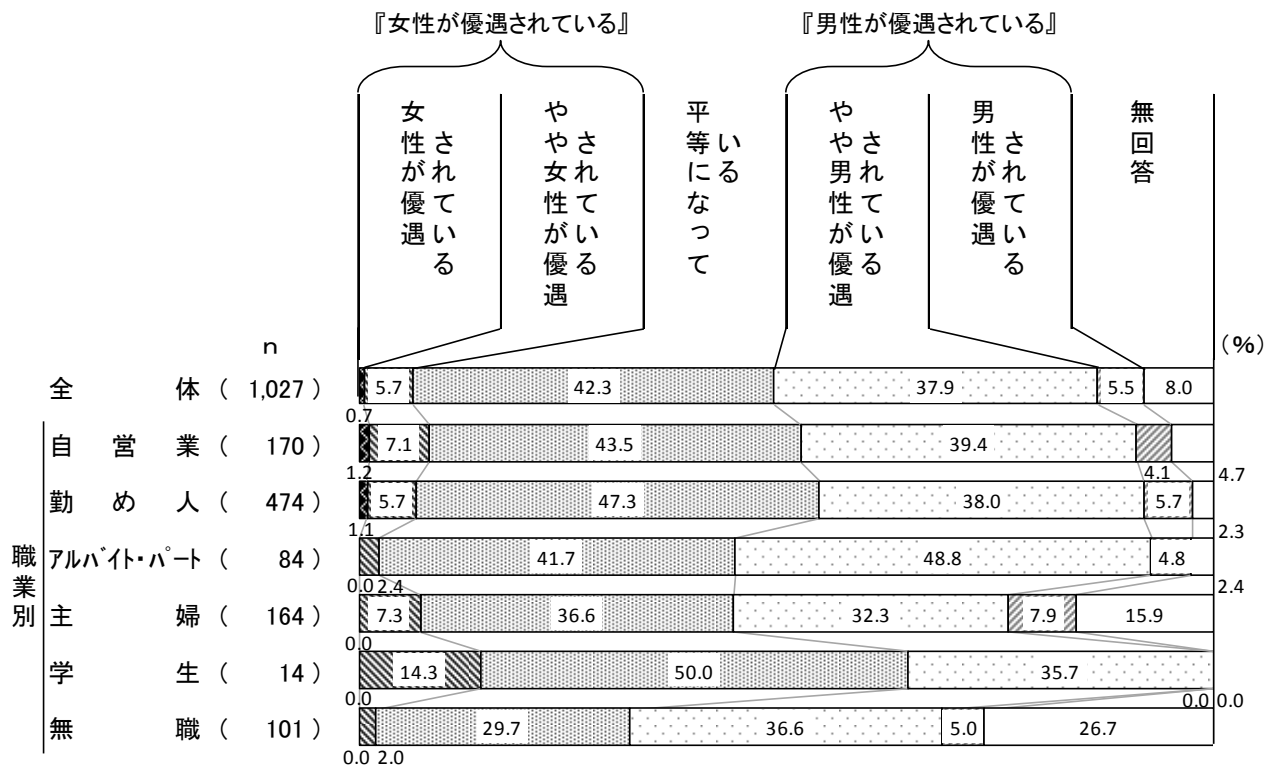
図表7-1-16 男女の地位の平等感—性別・性/年齢別 「(4) 社会活動の場では」





“社会活動の場では”について職業別で見ると、『男性が優遇されている』と感じる割合はアルバイト・パートタイマーで5割を超えて高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は学生で5割と高くなっている。(図表7-1-17)

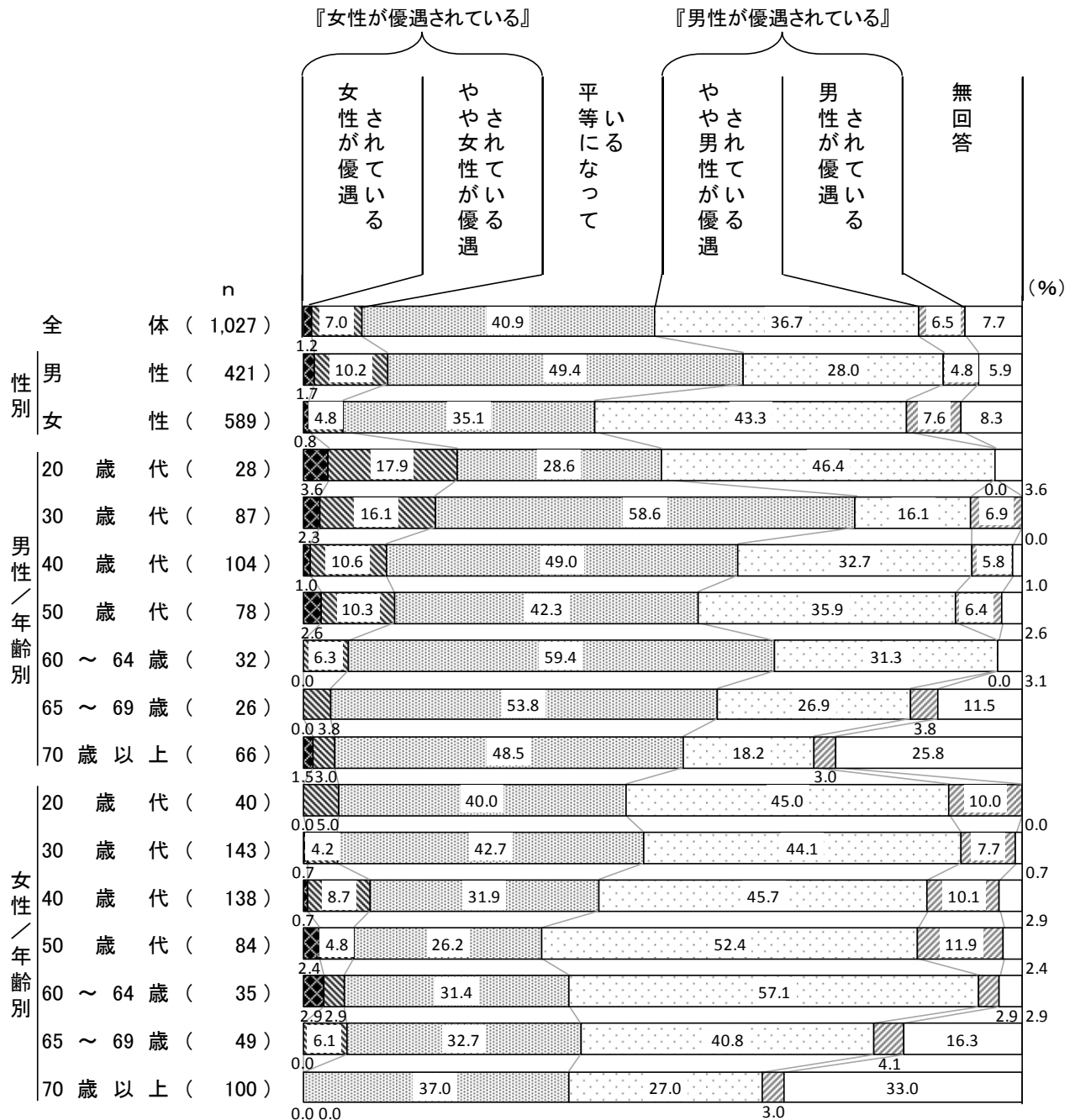
図表7-1-17 男女の地位の平等感—職業別 「(4) 社会活動の場では」



“法律や制度では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合は18.1ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合は14.3ポイント高くなっている。

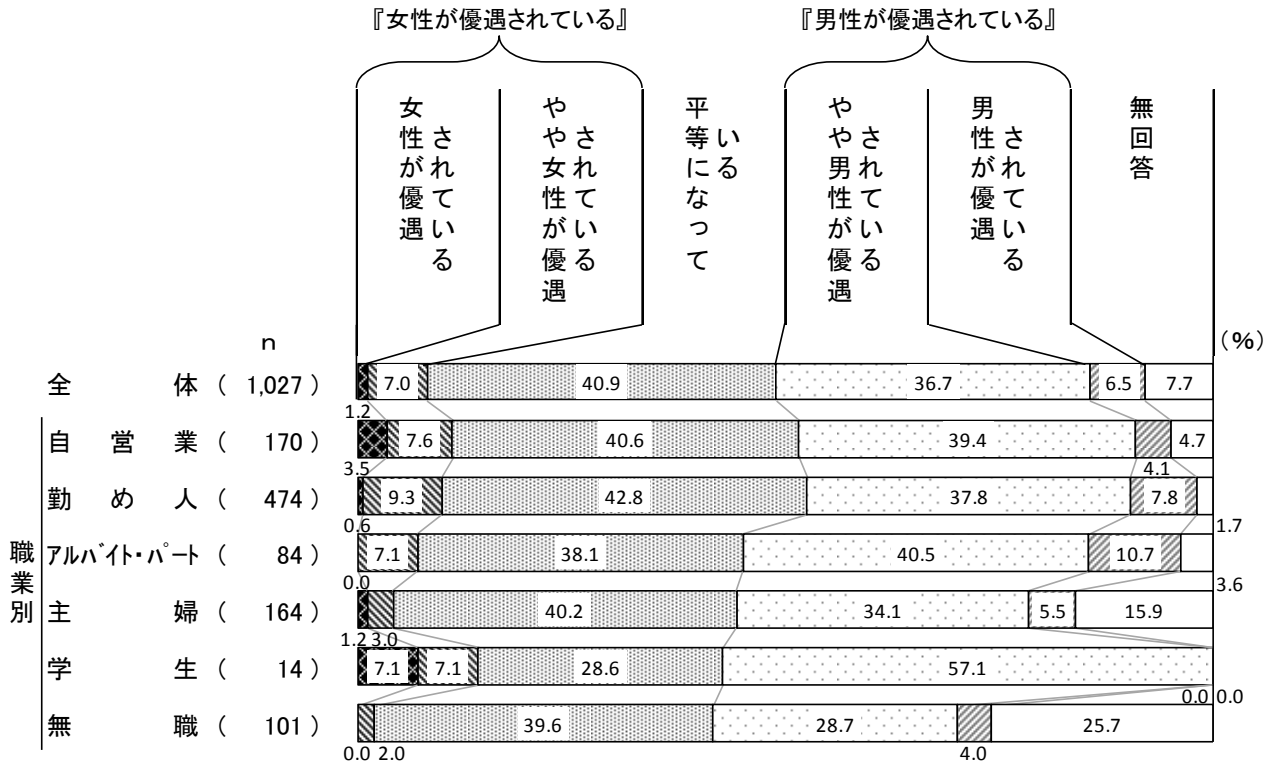
“法律や制度では”について性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の50歳代で6割台半ば、女性の60～64歳で6割と高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の60～64歳で約6割、男性の30歳代で6割近くと高くなっている。(図表7-1-18)

図表7-1-18 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別 「(5) 法律や制度では」



“法律や制度では”について職業別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は学生で6割近くと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は勤め人で4割を超えて高くなっている。(図表7-1-19)

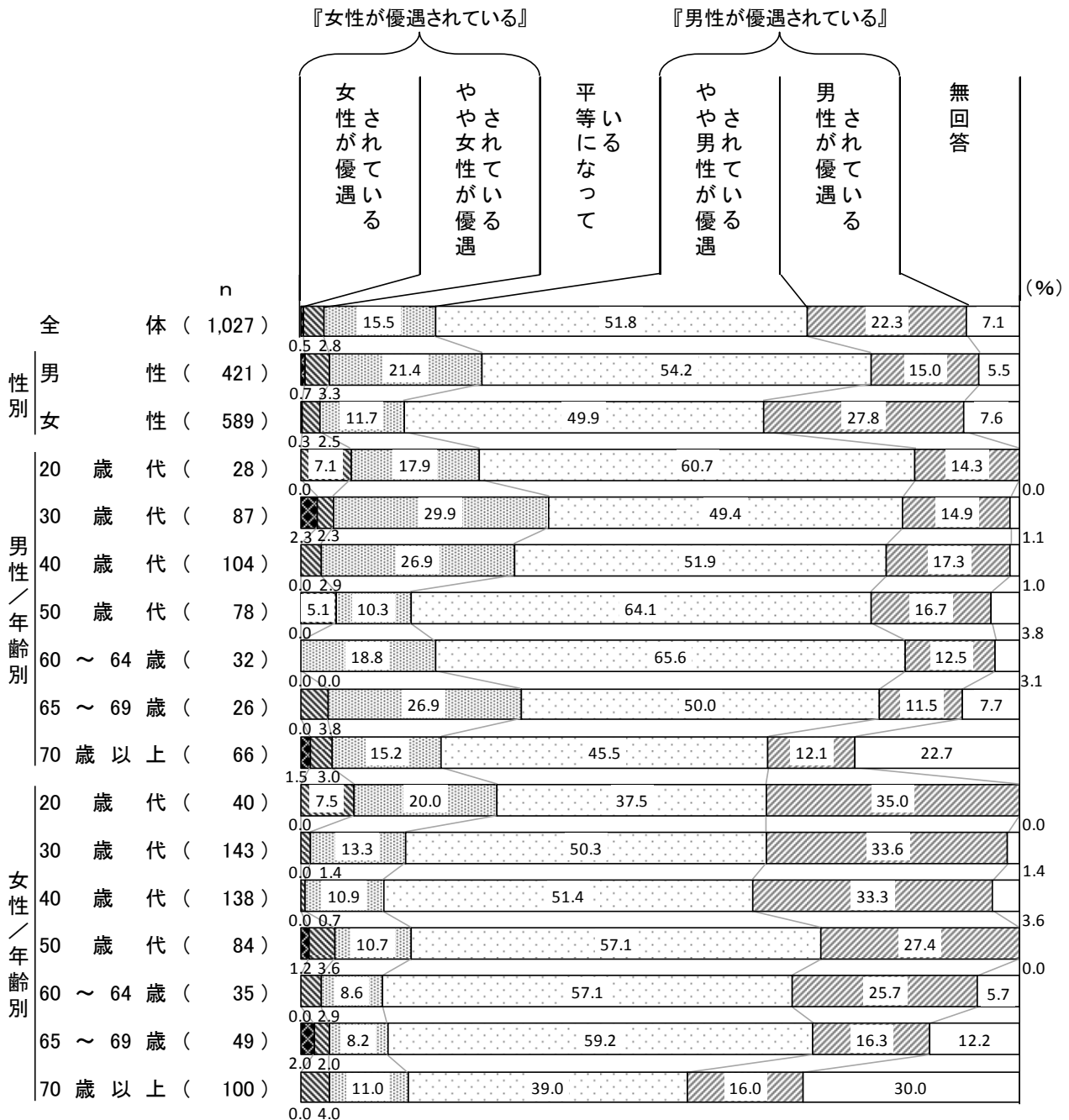
図表7-1-19 男女の地位の平等感—職業別 「(5) 法律や制度では」



“しきたりや習慣では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合は8.5ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合は9.7ポイント高くなっている。

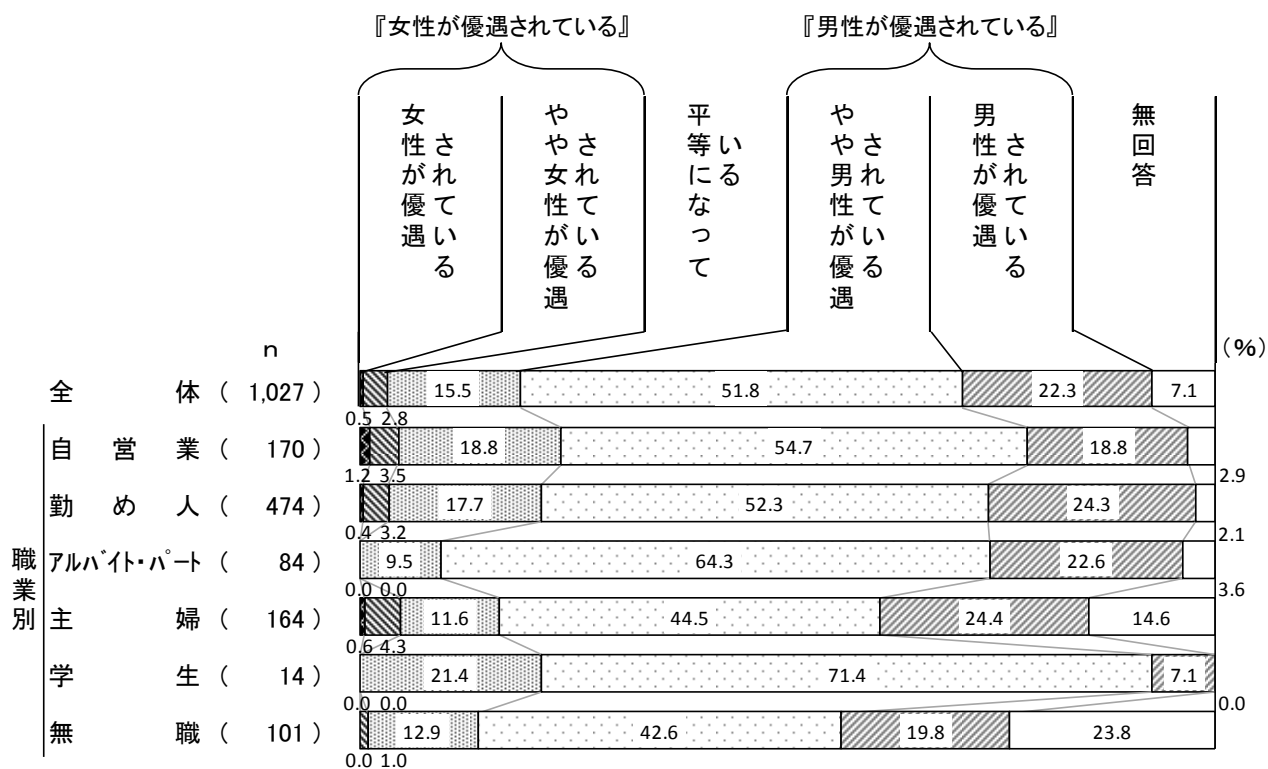
“しきたりや習慣では”について性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の40歳代および50歳代で8割台半ばと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の30歳代で3割と高くなっている。(図表7-1-20)

図表7-1-20 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別 「(6) しきたりや習慣では」



“しきたりや習慣では”について職業別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合はアルバイト・パートタイマーで9割近くと高くなっている。(図表7-1-21)

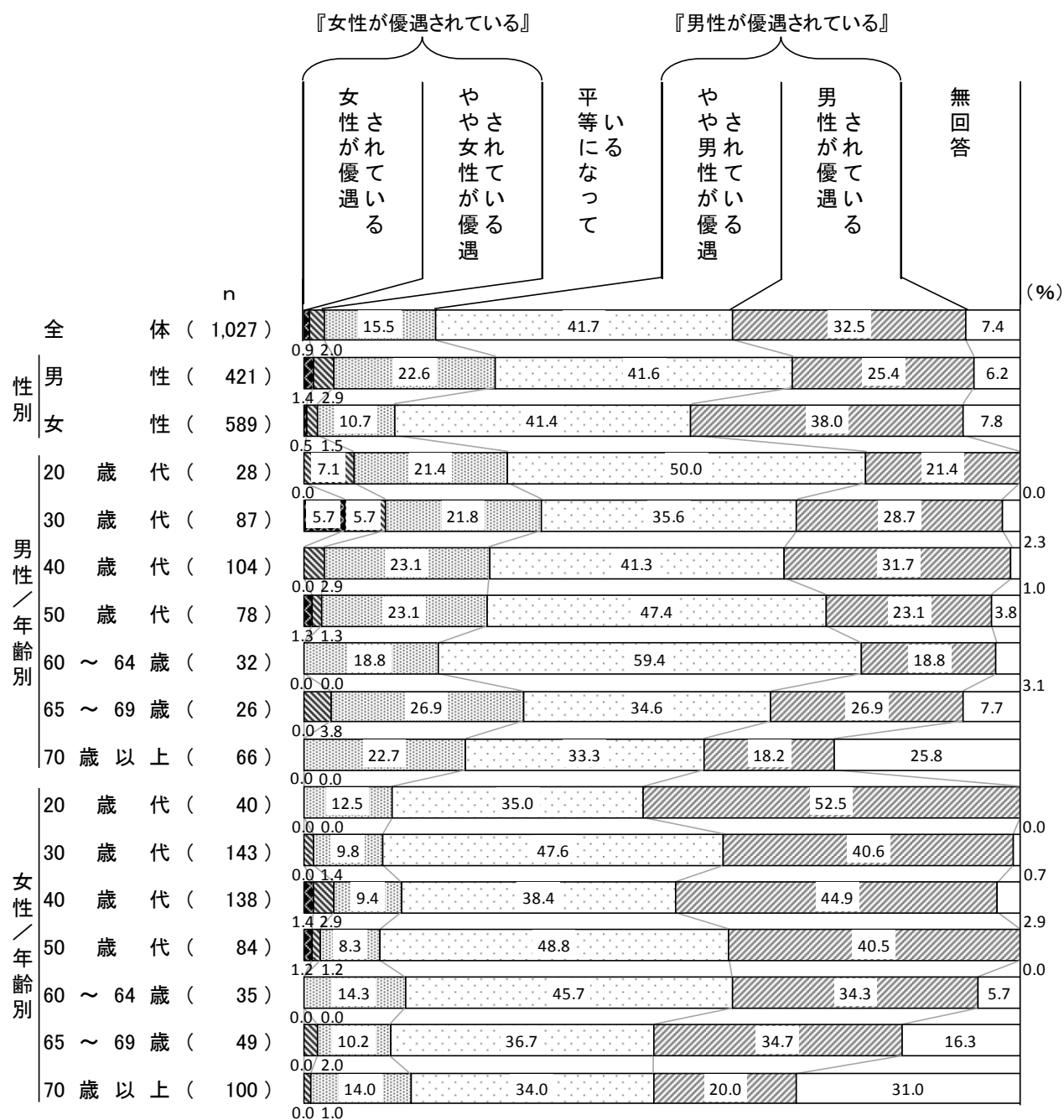
図表7-1-21 男女の地位の平等感—職業別 「(6) しきたりや習慣では」



“政治の場では”について性別で見ると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合は12.4ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合は11.9ポイント高くなっている。

“政治の場では”について性／年齢別で見ると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の50歳代で約9割、女性の20歳代および30歳代で9割近くと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の65～69歳で3割近くと高くなっている。(図表7-1-22)

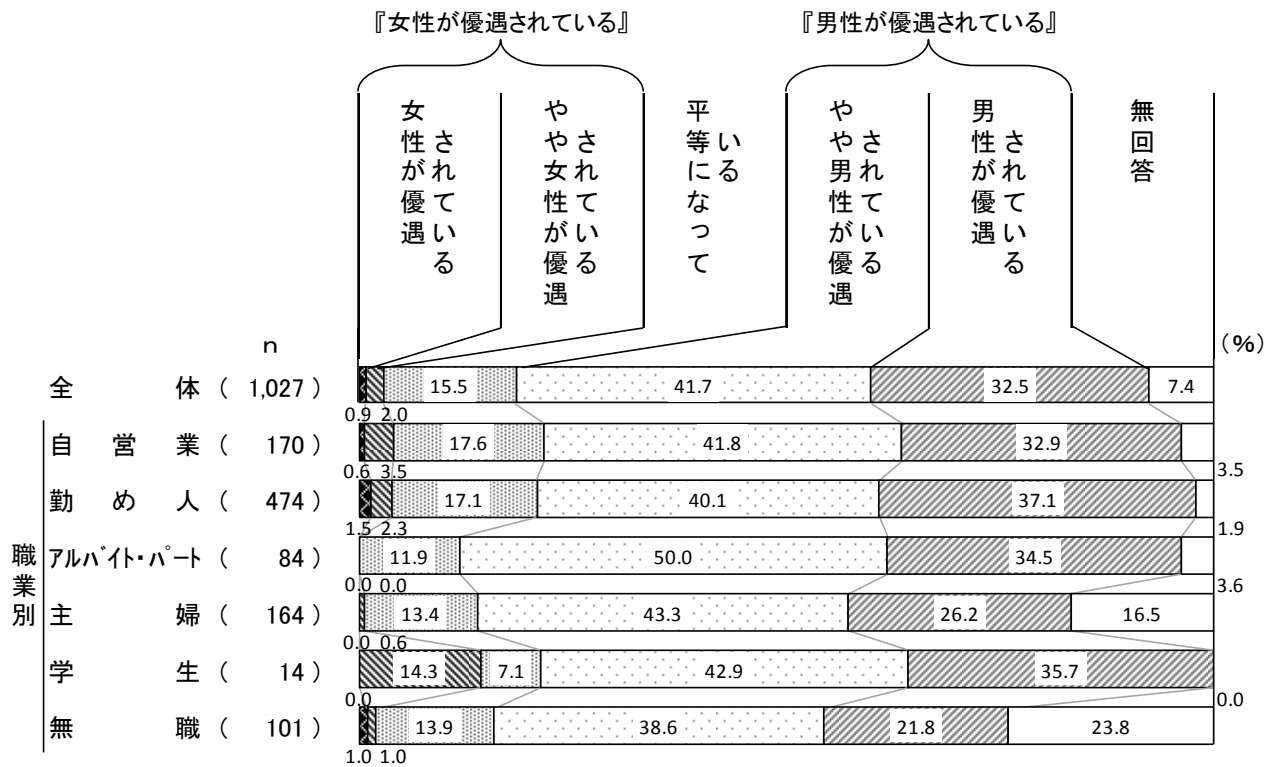
図表7-1-22 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別 「(7) 政治の場では」



“政治の場では”について職業別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合はアルバイト・パートタイマーで8割台半ば、勤め人および学生で8割近くと高くなっている。

(図表7-1-23)

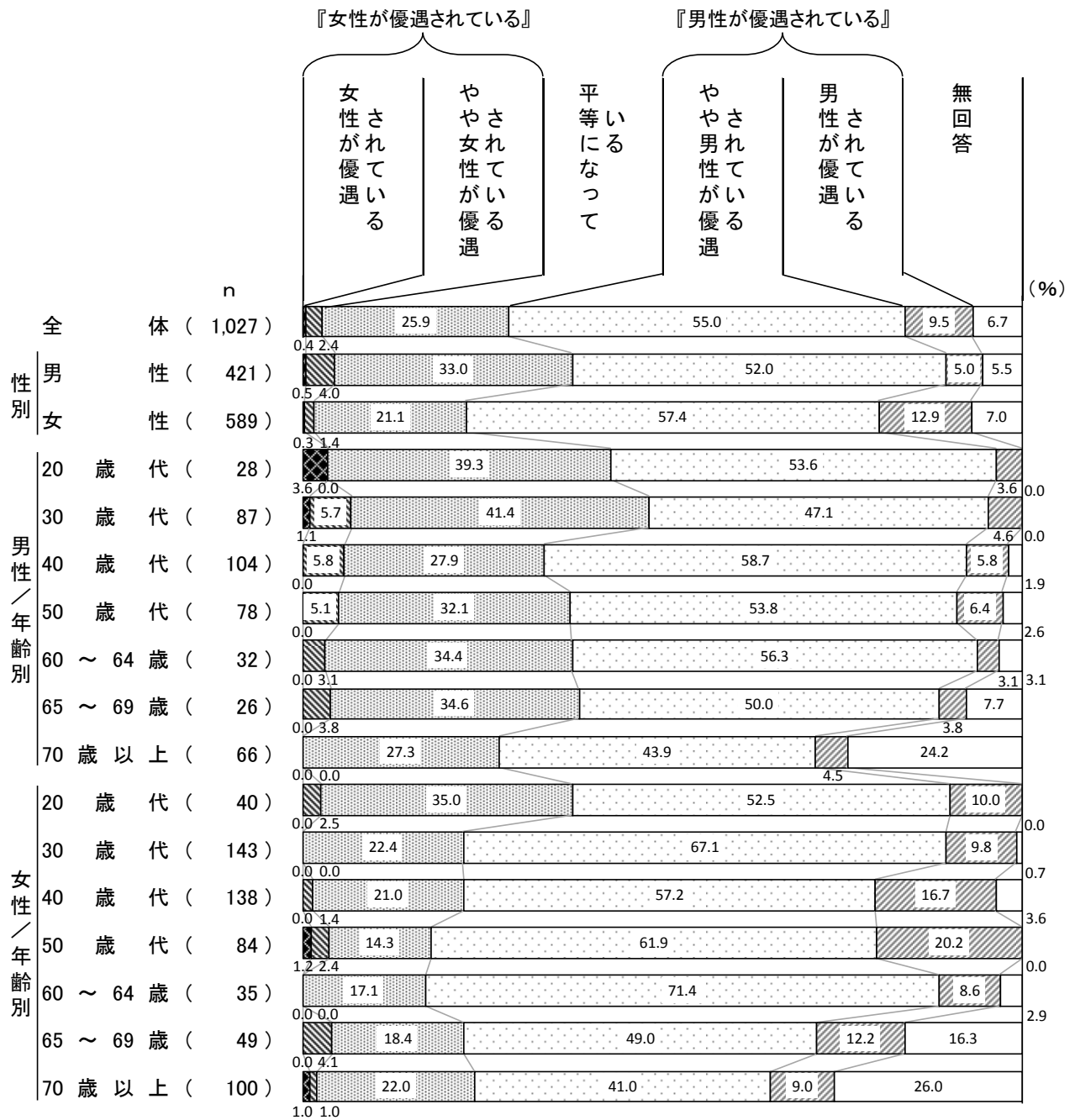
図表7-1-23 男女の地位の平等感—職業別 「(7) 政治の場では」



“全体としては”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合は13.3ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合は11.9ポイント高くなっている。

“全体としては”について性/年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の50歳代で8割を超えて高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の30歳代で4割を超えて高くなっている。(図表7-1-24)

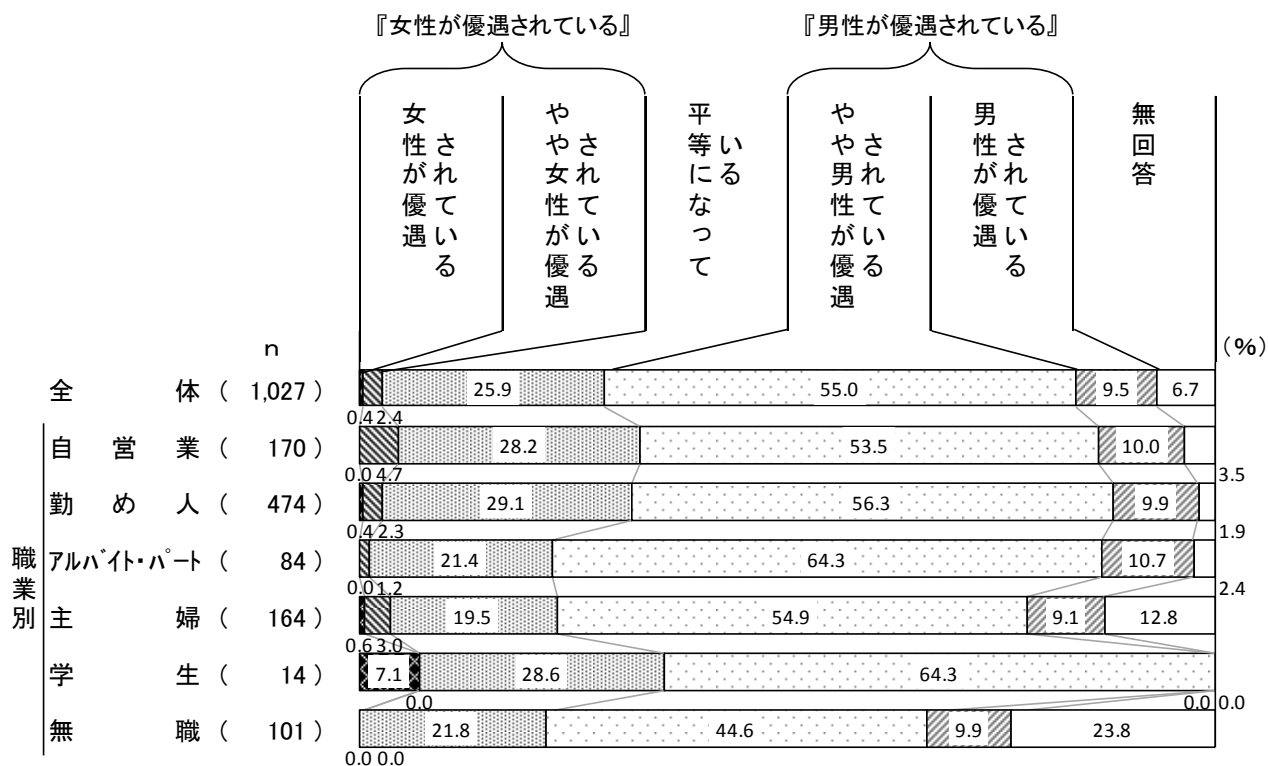
図表7-1-24 男女の地位の平等感—性別・性/年齢別 「(8) 全体としては」





“全体としては”について職業別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合はアルバイト・パートタイマーで7割台半ば、勤め人で6割台半ばと高くなっている。(図表7-1-25)

図表7-1-25 男女の地位の平等感—職業別 「(8) 全体としては」



## (2) ワーク・ライフ・バランスについての考え方

◇「仕事と生活とを同じように両立させることが望ましい」が5割台半ば

問19 あなた自身の仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について、望ましいと思うものはどれですか。（○は1つ）

n = 1,027

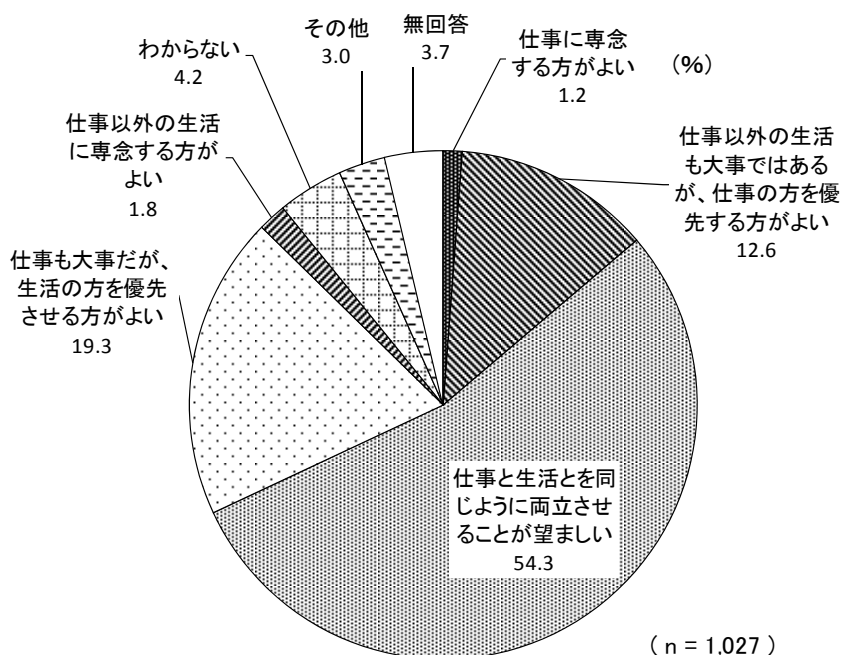
1	仕事に専念する方がよい	1.2%
2	仕事以外の生活も大事ではあるが、仕事の方を優先する方がよい	12.6
3	仕事と生活とを同じように両立させることが望ましい	54.3
4	仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい	19.3
5	仕事以外の生活に専念する方がよい	1.8
6	わからない	4.2
7	その他	3.0
	(無回答)	3.7

(※) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

仕事と仕事以外の生活とのバランスを図ることにより、家庭や地域活動などに参加できる時間を確保しながら充実した生活を送ることが重要であるという考え方です。

ワーク・ライフ・バランスについての考え方は、「仕事と生活とを同じように両立させることが望ましい」（54.3%）が5割台半ばと最も高くなっている。次いで、「仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい」（19.3%）、「仕事以外の生活も大事ではあるが、仕事の方を優先する方がよい」（12.6%）などとなっている。（図表7-2-1）

図表7-2-1 ワーク・ライフ・バランスについての考え方



過去の調査と比較すると、経年による大きな変化はなく、昨年とほとんど同様の傾向となっている。

(図表7-2-2)

図表7-2-2 ワーク・ライフ・バランスについての考え方ー過年度比較

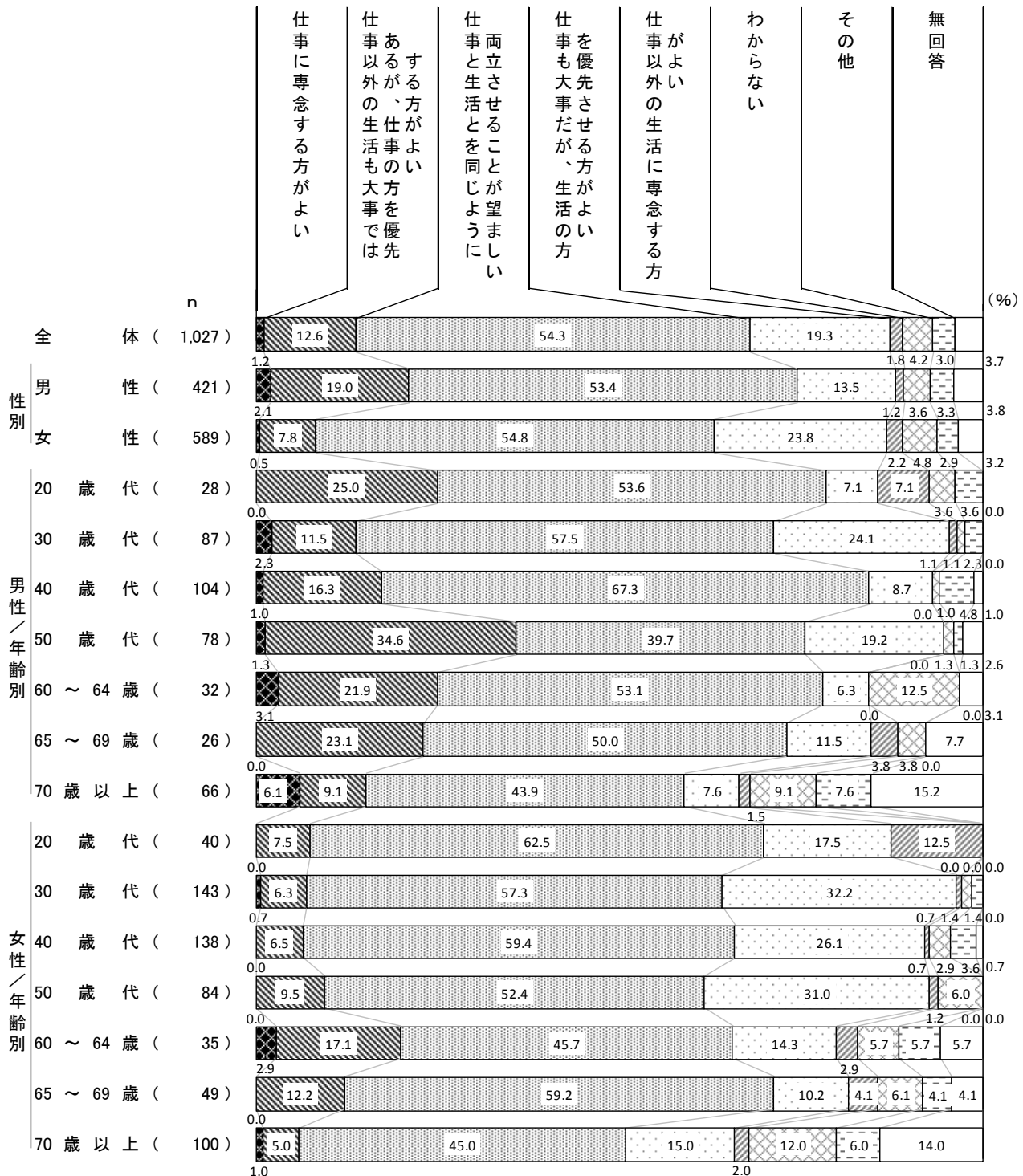
単位：%

調査年	n	仕事に専念する方がよい	仕事もあるが、生活の方も優先する方がよい	仕事と生活を同じよう望ましい	仕事も優先させる方がよい生活の方を	仕事以外の生活に専念する	わからない	その他	無回答
平成27年	1,027	1.2	12.6	54.3	19.3	1.8	4.2	3.0	3.7
平成26年	1,041	1.8	12.1	52.4	21.4	1.8	4.9	1.7	3.7
平成25年	1,047	2.0	14.6	51.8	19.6	1.2	5.0	1.0	4.9

性別でみると、男性の方が女性よりも「仕事以外の生活も大事ではあるが、仕事の方を優先する方がよい」は11.2ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい」は10.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「仕事と生活とを同じように両立させることが望ましい」は男性の40歳代で7割近く、女性の20歳代で6割を超えて高くなっている。「仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい」は女性の30歳代および50歳代で3割を超えて高くなっている。(図表7-2-3)

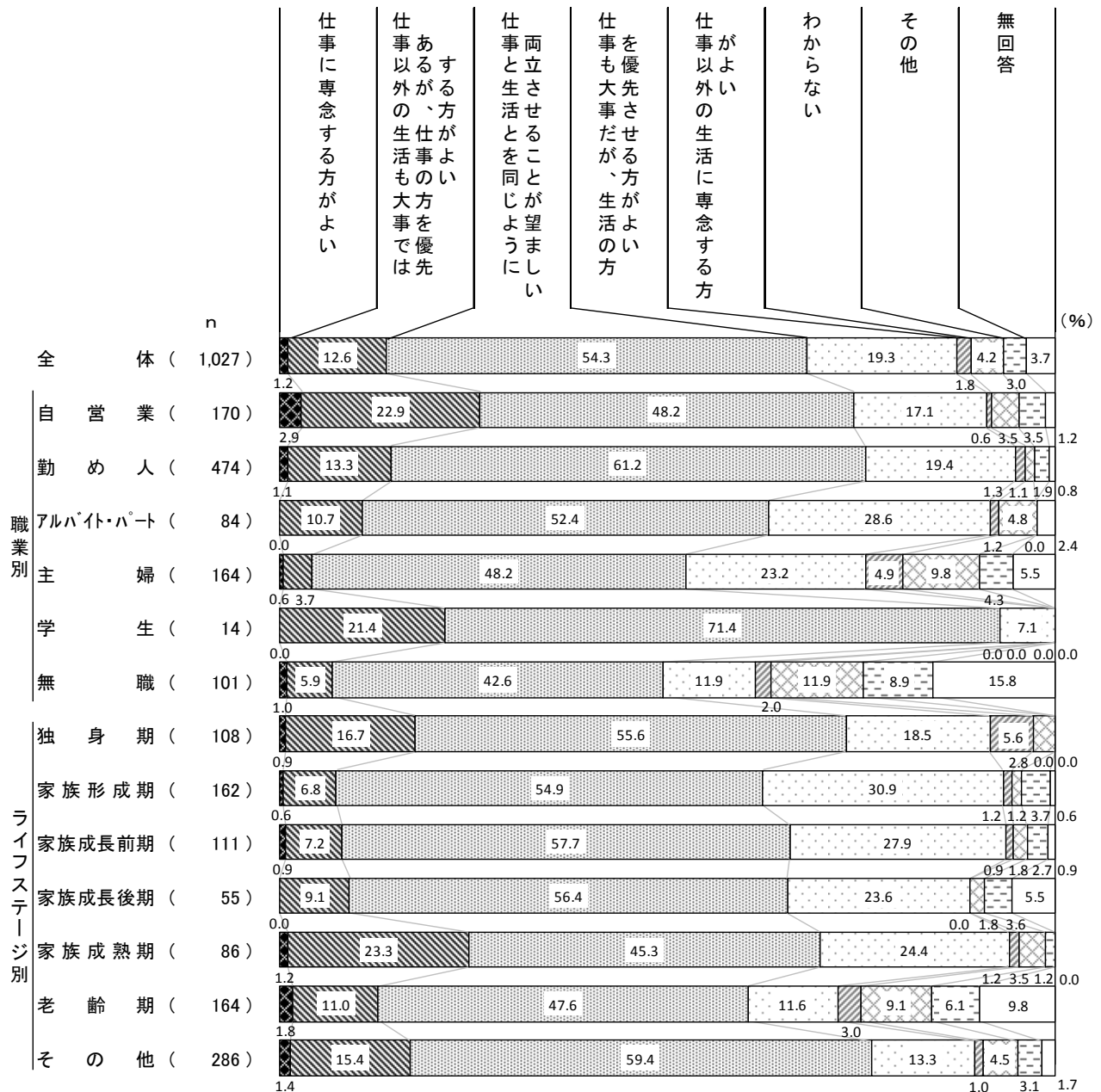
図表7-2-3 ワーク・ライフ・バランスについての考え方-性別・性／年齢別



職業別でみると、「仕事と生活とを同じように両立させることが望ましい」は学生で7割を超えて高くなっている。「仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい」はアルバイト・パートタイマーで3割近く、「仕事以外の生活も大事ではあるが、仕事の方を優先する方がよい」は自営業および学生で2割を超えて高くなっている。

ライフステージ別でみると、「仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい」は家族形成期で約3割と高くなっている。(図表7-2-4)

図表7-2-4 ワーク・ライフ・バランスについての考え方-職業別・ライフステージ別



### (3) 望ましい位置づけに対しての現在の状況

◇「どちらかといえば、仕事の方を優先している」が3割

問20 問19の望ましい位置づけに対して、あなたの現在の状況は次のどれにあてはまりますか。

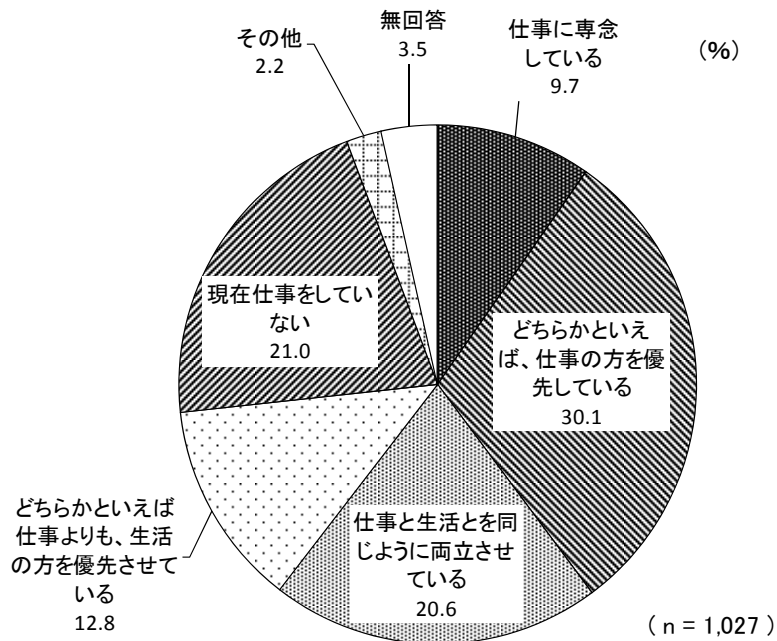
(○は1つ)

n = 1,027

1	仕事に専念している	9.7%
2	どちらかといえば、仕事の方を優先している	30.1
3	仕事と生活とを同じように両立させている	20.6
4	どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている	12.8
5	現在仕事をしていない	21.0
6	その他	2.2
	(無回答)	3.5

望ましい位置づけに対しての現在の状況は、「どちらかといえば、仕事の方を優先している」(30.1%)が3割と最も高くなっている。次いで、「現在仕事をしていない」(21.0%)、「仕事と生活とを同じように両立させている」(20.6%)、「どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている」(12.8%)、「仕事に専念している」(9.7%)などとなっている。(図表7-3-1)

図表7-3-1 望ましい位置づけに対しての現在の状況



過去の調査と比較すると、経年による大きな変化はない。昨年度と比較すると「現在仕事をしていない」は3.1ポイント減少している。一方、「仕事に専念している」は2.2ポイント、「その他」は1.7ポイント、それぞれ増加している。(図表7-3-2)

図表7-3-2 望ましい位置づけに対しての現在の状況－過年度比較

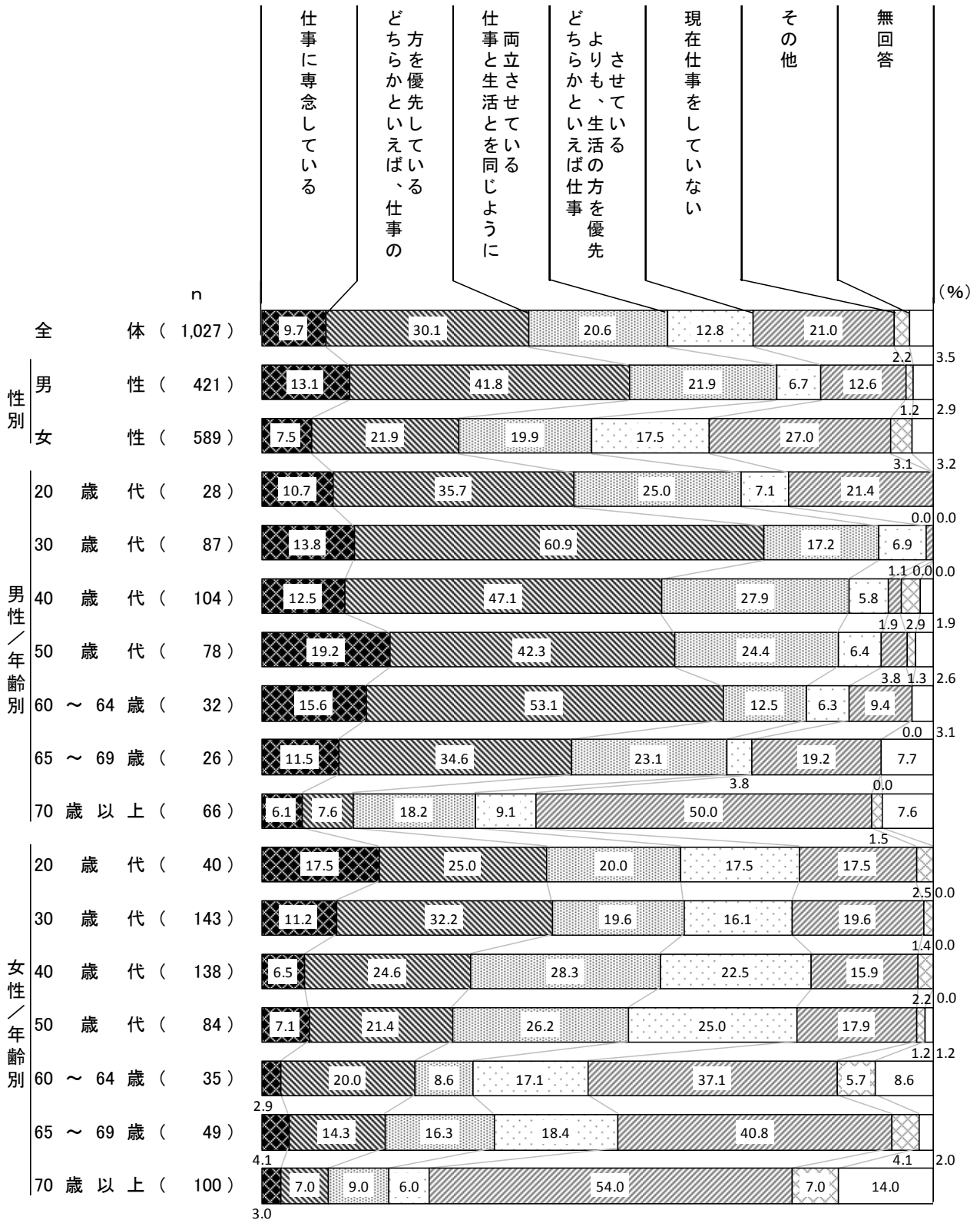
単位：%

調査年	n	仕事に専念している	どちらかを優先している （仕事を優先している）	仕事と生活とを同じように 両立させている	どちらよりも、生活の方を 優先させている	現在仕事をしていない	その他	無回答
平成27年	1,027	9.7	30.1	20.6	12.8	21.0	2.2	3.5
平成26年	1,041	7.5	31.6	20.2	12.2	24.1	0.5	3.9
平成25年	1,047	9.1	31.6	20.2	11.3	21.0	1.6	5.2

性別で見ると、男性の方が女性よりも「どちらかといえば、仕事の方を優先している」で19.9ポイント、「仕事に専念している」で5.6ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「現在仕事をしていない」で14.4ポイント、「どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている」で10.8ポイント、それぞれ高くなっている。

性／年齢別で見ると、「どちらかといえば、仕事の方を優先している」は男性の30歳代で約6割と高くなっている。「仕事と生活とを同じように両立させている」は女性の40歳代と男性の40歳代で3割近く、「どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている」は女性の50歳代で2割台半ばと高くなっている。(図表7-3-3)

図表 7-3-3 望ましい位置づけに対しての現在の状況－性別・性／年齢別



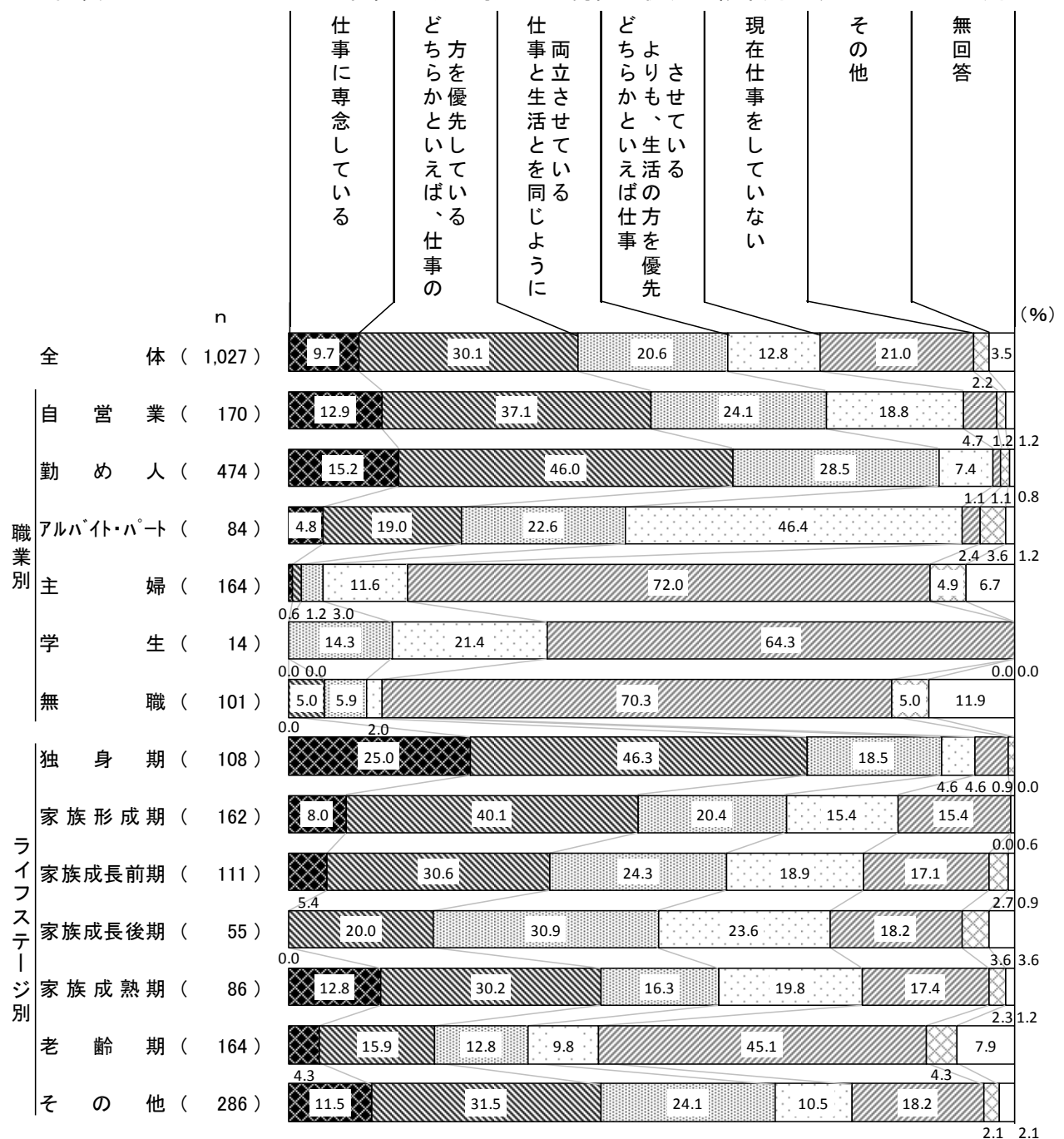


職業別でみると、「どちらかといえば、仕事の方を優先している」は勤め人で4割台半ばと高くなっている。「どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている」はアルバイト・パートタイマーで4割台半ば、「仕事と生活とを同じように両立させている」は勤め人で3割近くと高くなっている。

ライフステージ別でみると、「どちらかといえば、仕事の方を優先している」は独身期で4割台半ばと高く、「現在仕事をしていない」は高齢期で4割台半ばと高くなっている。「どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている」は家族成長後期で2割を超えて高くなっている。

(図表7-3-4)

図表7-3-4 望ましい位置づけに対しての現在の状況—職業別・ライフステージ別



#### (4) 女性センター「ブーケ21」の認知度

◇『知っている』は4割を超える

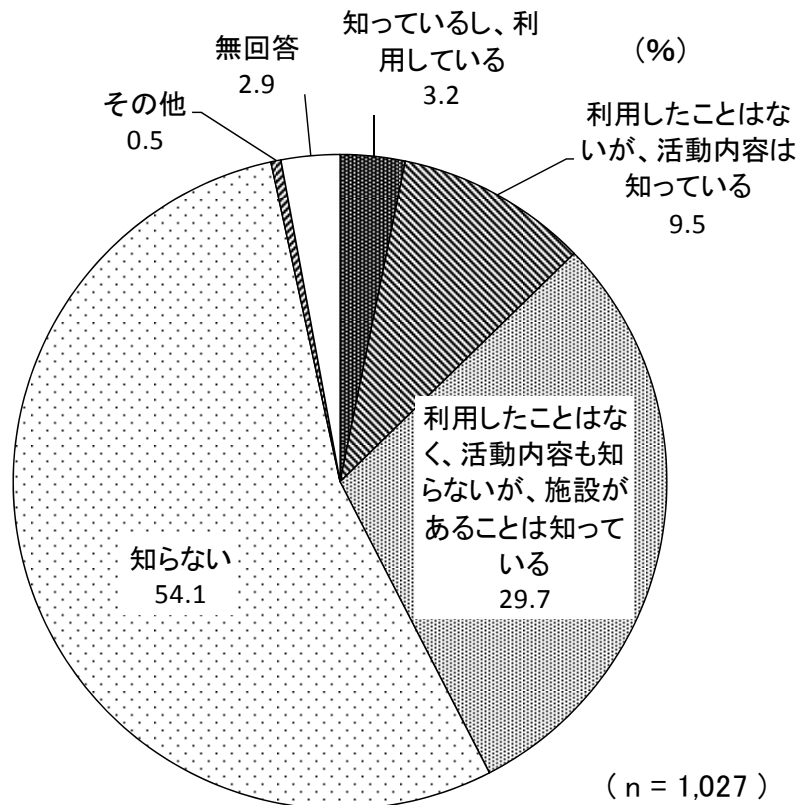
問21 あなたは、区が男女共同参画推進のための拠点として設置した女性センター「ブーケ21」を知っていますか。(○は1つ)

n = 1,027

1	知っているし、利用している	3.2%
2	利用したことはないが、活動内容は知っている	9.5
3	利用したことはなく、活動内容も知らないが、施設があることは知っている	29.7
4	知らない	54.1
5	その他	0.5
	(無回答)	2.9

女性センター「ブーケ21」の認知度は、「利用したことはなく、活動内容も知らないが、施設があることは知っている」(29.7%)が3割、これに「利用したことはないが、活動内容は知っている」(9.5%)と「知っているし、利用している」(3.2%)を合わせた『知っている』(42.4%)は4割を超えている。一方、「知らない」(54.1%)は5割台半ばとなっている。(図表7-4-1)

図表7-4-1 女性センター「ブーケ21」の認知度



過去の調査と比較すると、経年による大きな変化はなく、昨年度とほぼ同様の傾向となっている。(図表7-4-2)

図表7-4-2 女性センター「ブーケ21」の認知度一過年度比較

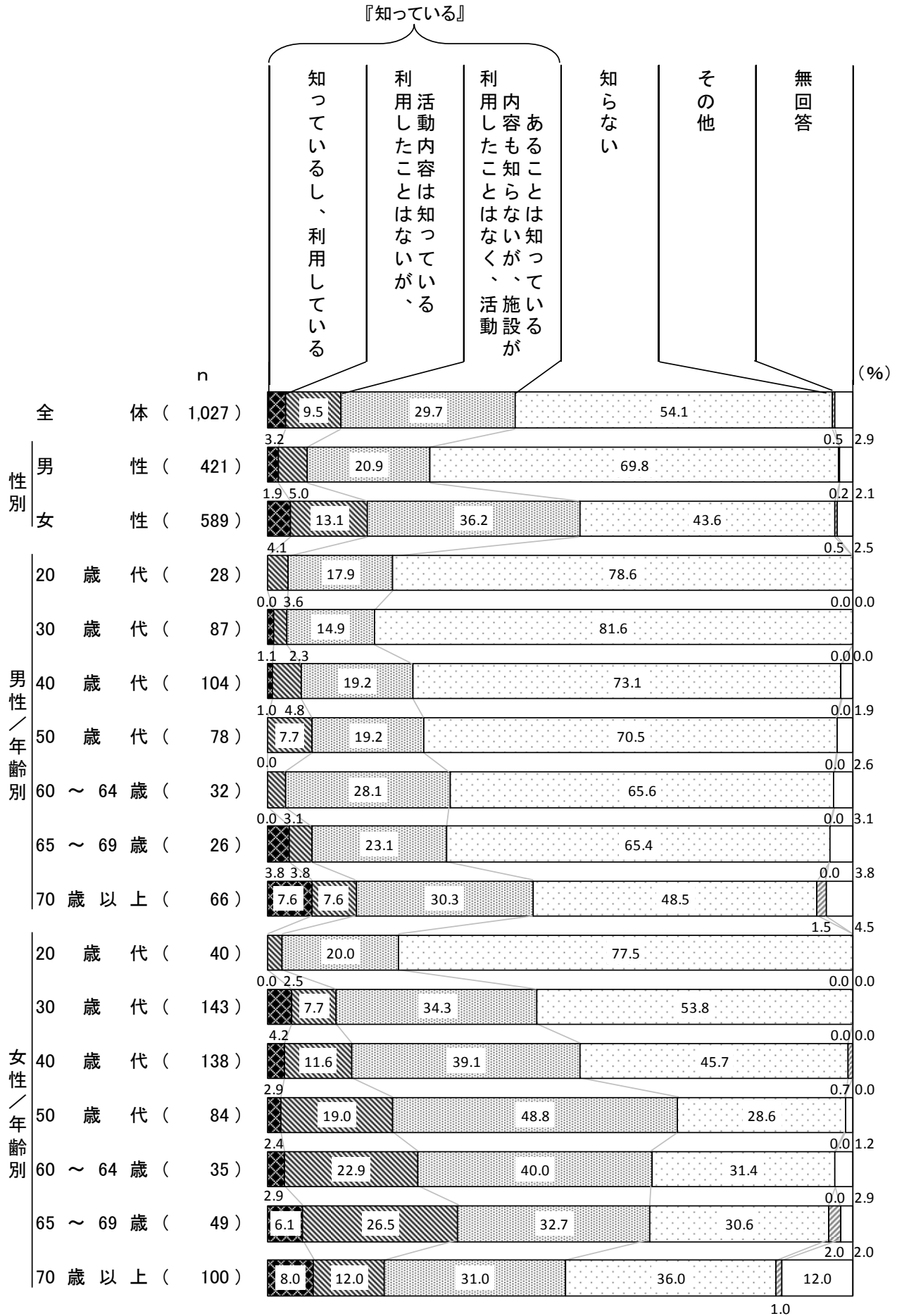
単位：%

調査年	n	知っているし、利用している	利用したことは知っているが、活動内容は知らない	利用したことは知らないが、施設があることは知っている	知らない	その他	無回答
平成27年	1,027	3.2	9.5	29.7	54.1	0.5	2.9
平成26年	1,041	4.1	8.2	28.5	55.0	0.5	3.7
平成25年	1,047	2.9	9.4	29.7	52.7	1.0	4.4

性別で見ると、男性の方が女性よりも「知らない」で26.2ポイント高くなっている。

性/年齢別で見ると、『知っている』は女性の50歳で7割、女性の60～64歳と65～69歳とともに6割台半ばと高くなっている。一方、「知らない」は男性の30歳代で8割を超え、女性の20歳代で8割近くと高くなっている。(図表7-4-3)

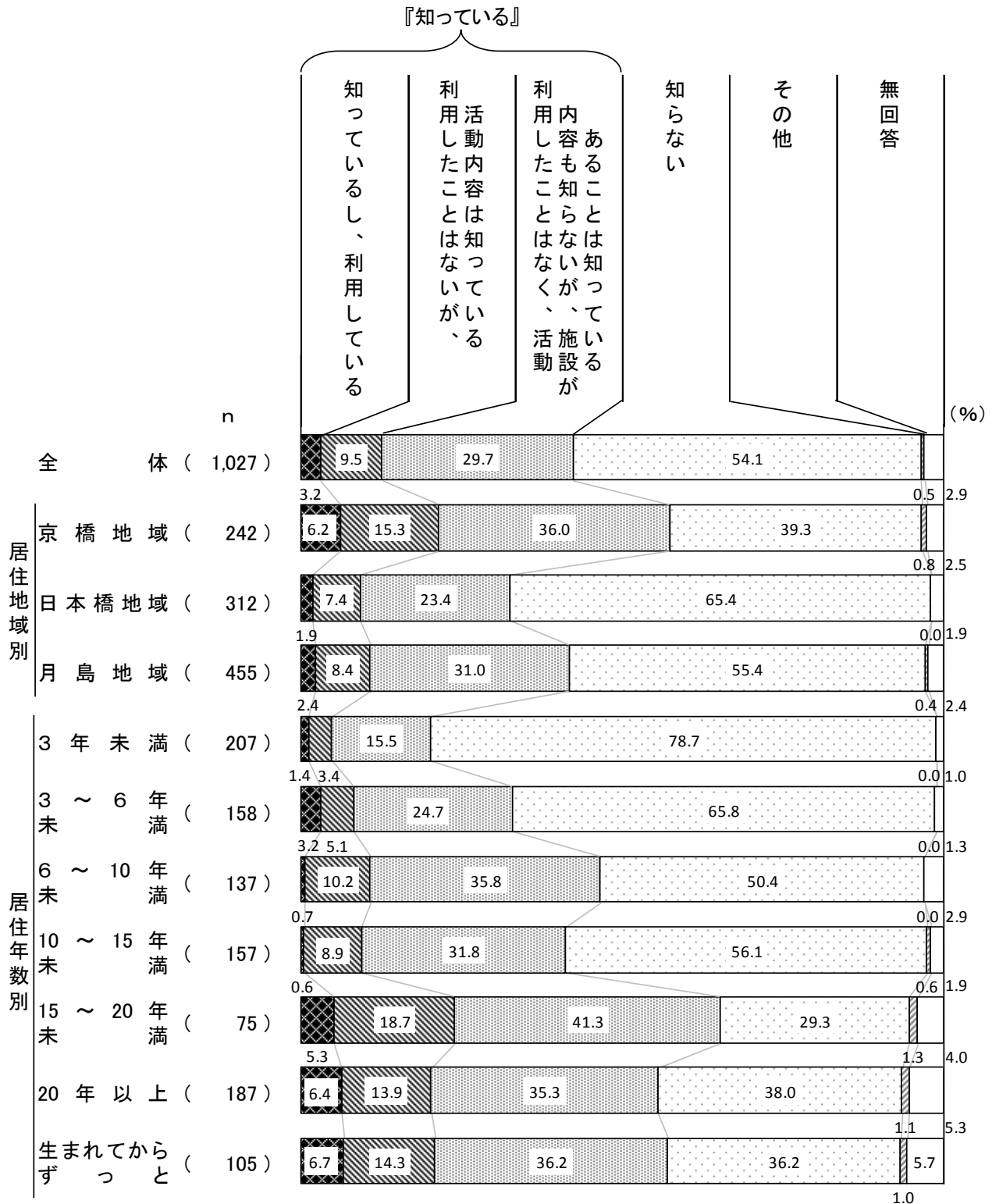
図表 7-4-3 女性センター「ブーケ21」の認知度—性別・性／年齢別



居住地域別でみると、『知っている』は京橋地域で6割近くと高くなっている。一方、「知らない」は日本橋地域で6割台半ばと高くなっている。

居住年数別でみると、『知っている』は15～20年未満で6割台半ばと高くなっている。一方、「知らない」は3年未満で8割近くと高くなっている。(図表7-4-4)

図表7-4-4 女性センター「ブーケ21」の認知度－居住地域別・居住年数別



## 【8 防犯対策】

### (1) 不安を感じる犯罪

◇「空き巣」が2割台半ば

問22 あなたの住む地域で不安を感じる具体的犯罪は何ですか。(○は2つまで)

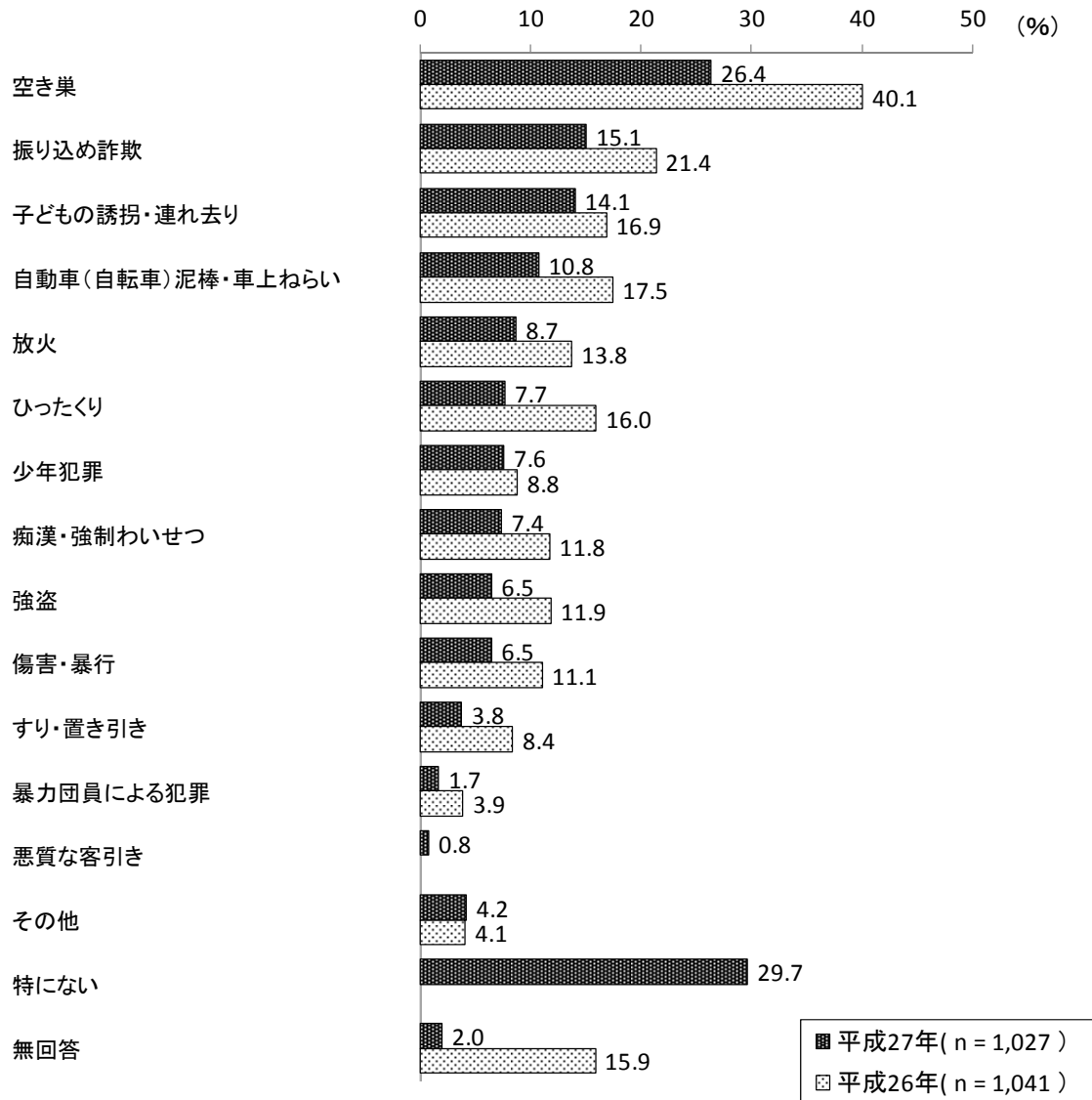
n = 1,027

1	ひったくり	7.7%	9	痴漢・強制わいせつ	7.4
2	空き巣	26.4	10	少年犯罪	7.6
3	強盗	6.5	11	子どもの誘拐・連れ去り	14.1
4	すり・置き引き	3.8	12	暴力団員による犯罪	1.7
5	自動車(自転車)泥棒・車上ねらい	10.8	13	悪質な客引き	0.8
6	振り込め詐欺	15.1	14	その他	4.2
7	傷害・暴行	6.5	15	特にない	29.7
8	放火	8.7		(無回答)	2.0

不安を感じる犯罪は、「空き巣」(26.4%)が2割台半ばと最も高くなっている。次いで、「振り込め詐欺」(15.1%)、「子どもの誘拐・連れ去り」(14.1%)、「自動車(自転車)泥棒・車上ねらい」(10.8%)、「放火」(8.7%)などとなっている。一方、「特にない」(29.7%)は3割となっている。

今年の調査から選択数を減らしたことおよび選択肢を一部追加したことから、単純に比較はできないが、「空き巣」は13.7ポイント、「ひったくり」は8.3ポイント、それぞれ減少している。なお、今年は「特にない」が最も高くなっている。(図表8-1-1)

図表8-1-1 不安に感じる犯罪(複数回答)



\* 「悪質な客引き」と「特にない」は今年からの選択肢。  
 \* 今年の調査から選択数は「3つまで」から「2つまで」に変更した。

過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「空き巣」、  
「振り込め詐欺」が上位を占めている。(図表8-1-2)

図表8-1-2 不安に感じる犯罪一過年度比較

単位：%

調査年	n	空き巣	振り込め詐欺	子どもの誘拐・連れ去り	自動車(自転車)泥棒・車上ねらい	放火	ひったくり	少年犯罪	痴漢・強制わいせつ	強盗	傷害・暴行	すり・置き引き	暴力団員による犯罪	悪質な客引き	その他	特にない	無回答
平成27年	1,027	26.4	15.1	14.1	10.8	8.7	7.7	7.6	7.4	6.5	6.5	3.8	1.7	0.8	4.2	29.7	2.0
平成26年	1,041	40.1	21.4	16.9	17.5	13.8	16.0	8.8	11.8	11.9	11.1	8.4	3.9	※	4.1	※	15.9
平成25年	1,047	37.8	21.5	11.4	22.1	16.4	22.6	7.6	11.4	12.0	11.9	8.2	4.7	※	4.9	※	11.7
平成24年	1,123	41.7	13.1	11.9	21.1	17.8	21.5	10.2	10.5	16.9	16.8	7.5	8.2	※	5.9	※	9.3
平成23年	1,097	43.6	14.2	12.8	23.2	15.6	23.4	7.8	9.9	15.4	11.9	7.5	5.7	※	6.3	※	10.4
平成22年	1,004	41.8	17.1	13.9	20.9	16.7	20.3	11.3	10.3	12.8	12.2	6.5	7.0	※	4.5	※	11.5
平成21年	1,001	44.8	12.2	14.2	21.1	21.9	27.7	9.5	10.2	17.7	9.7	6.3	4.8	※	6.6	※	7.4
平成20年	1,065	42.6	18.0	16.9	13.9	18.9	19.8	15.0	18.6	18.1	17.7	4.5	10.4	※	5.9	※	7.6
平成19年	686	43.7	18.4	16.5	16.0	22.6	20.6	16.3	15.9	20.6	14.0	5.0	8.7	※	1.9	※	5.4

\*※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

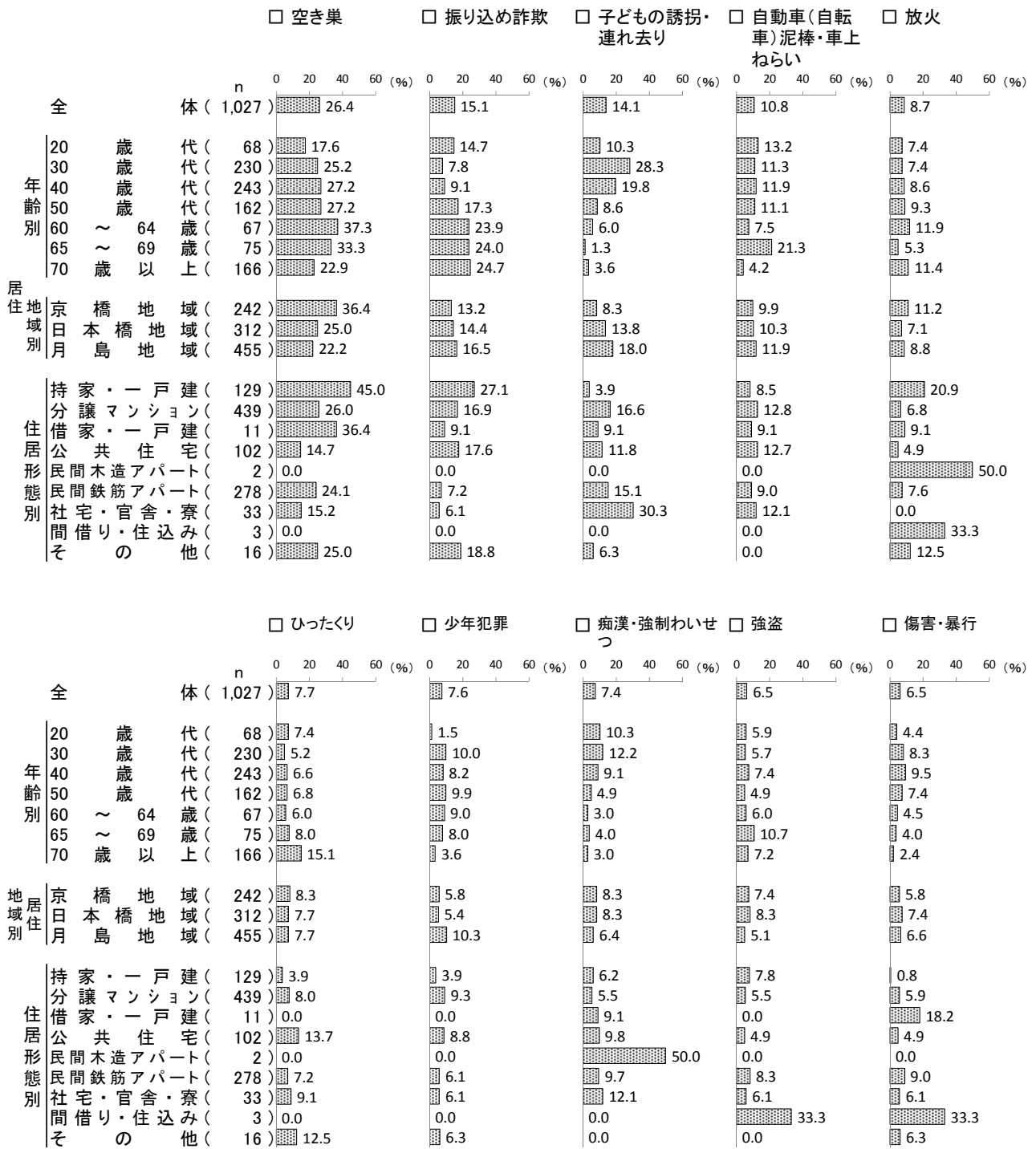
年齢別でみると、「空き巣」は60～64歳で4割近くと高くなっている。「振り込め詐欺」は65～69歳と70歳以上で2割台半ば、60～64歳で2割を超えて高く、「子どもの誘拐・連れ去り」は30歳代で3割近く、「自動車(自転車)泥棒・車上ねらい」は65～69歳で2割を超えて高くなっている。

居住地域別でみると、「空き巣」は京橋地域で3割台半ばと高く、「子供の誘拐・連れ去り」および「振り込め詐欺」は月島地域で2割近くと高くなっている。

住居形態別でみると、「空き巣」は持家・一戸建てで4割台半ばと高く、「子どもの誘拐・連れ去り」は社宅・官舎・寮で3割と高くなっている。(図表8-1-3)



図表8-1-3 不安に感じる犯罪一年齢別・居住地域別・住居形態別（上位10項目）



## (2) 防犯のために行っていること

◇「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」が2割

問23 あなたが防犯のために実行していること、心がけていることは何ですか。

(○はいくつでも)

n = 1,027

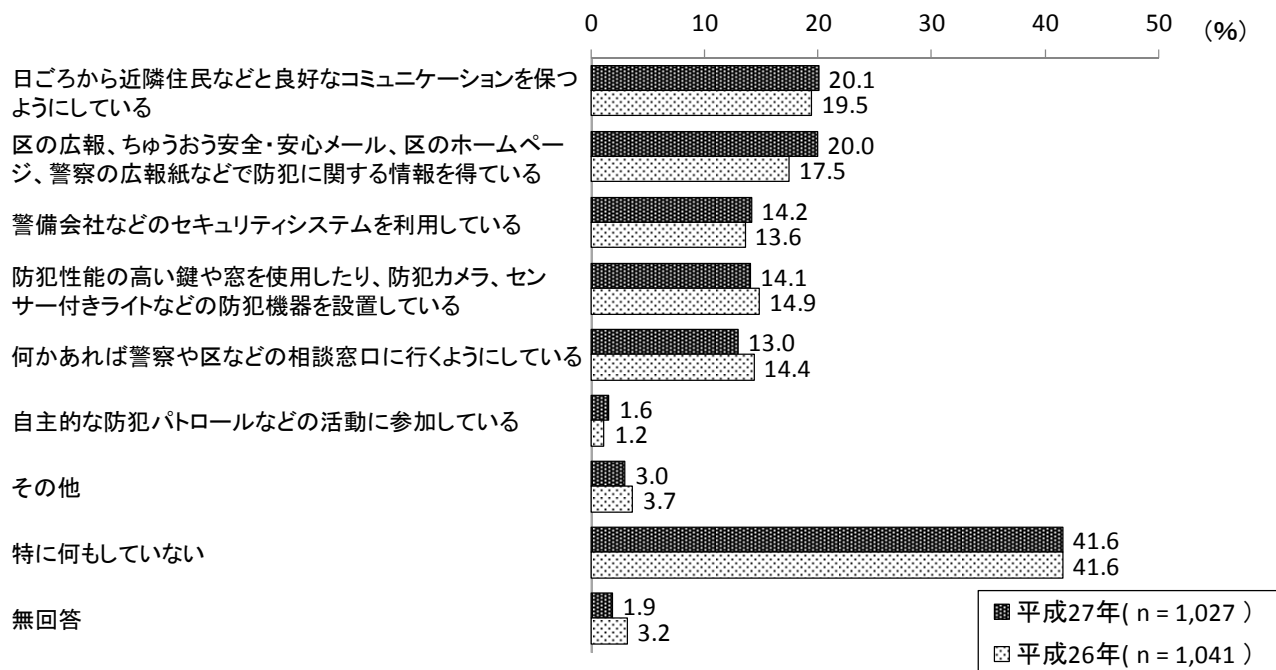
1	自主的な防犯パトロールなどの活動に参加している	1.6%
2	区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている	20.0
3	何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている	13.0
4	日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている	20.1
5	防犯性能の高い鍵や窓を使用したり、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している	14.1
6	警備会社などのセキュリティシステムを利用している	14.2
7	その他	3.0
8	特に何もしていない	41.6
	(無回答)	1.9

防犯のために行っていることは、「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」(20.1%)、「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」(20.0%)が2割と高くなっている。次いで、「警備会社などのセキュリティシステムを利用している」(14.2%)、「防犯性能の高い鍵や窓を使用したり、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している」(14.1%)、「何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている」(13.0%)などとなっている。一方、「特に何もしていない」(41.6%)が4割を超えている。

昨年の調査結果と比較すると、「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」が2.5ポイント増加している。一方、「何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている」が1.4ポイント減少している。

(図表8-2-1)

図表8-2-1 防犯のために行っていること（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」と「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」の2項目は、過去の調査結果と同じく高い割合となっている。一方、「特に何もしていない」は昨年と同様に最も高くなっている。(図表8-2-2)

図表8-2-2 防犯のために行っていること一過年度比較

単位：%

調査年	n	日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている	区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている	警備会社などのセキュリティシステムを利用している	防犯性能の高い鍵や窓使用したり、防犯カメラの高センサー付いたり、防犯機能の鍵や窓使用したり、防犯カメラの高センサー付いたり	何かあれば警察や区などの相談窓口	自主的に参加している	その他	特に何もしていない	無回答
平成27年	1,027	20.1	20.0	14.2	14.1	13.0	1.6	3.0	41.6	1.9
平成26年	1,041	19.5	17.5	13.6	14.9	14.4	1.2	3.7	41.6	3.2
平成25年	1,047	22.3	18.4	11.9	16.1	15.2	2.1	3.9	36.8	4.7
平成24年	1,123	20.1	19.6	12.0	15.2	16.3	1.6	2.8	40.5	2.4
平成23年	1,097	22.0	17.7	11.9	14.8	15.3	1.8	3.2	39.7	3.4
平成22年	1,004	27.5	20.3	14.0	19.2	19.2	2.6	2.8	33.0	2.1
平成21年	1,001	26.8	13.7	15.4	19.4	16.2	2.6	3.5	35.2	2.2
平成20年	1,065	29.8	12.7	14.1	19.7	17.2	3.4	3.3	36.2	2.3
平成19年	686	27.7	9.0	10.5	19.2	13.0	2.9	2.5	41.5	2.0

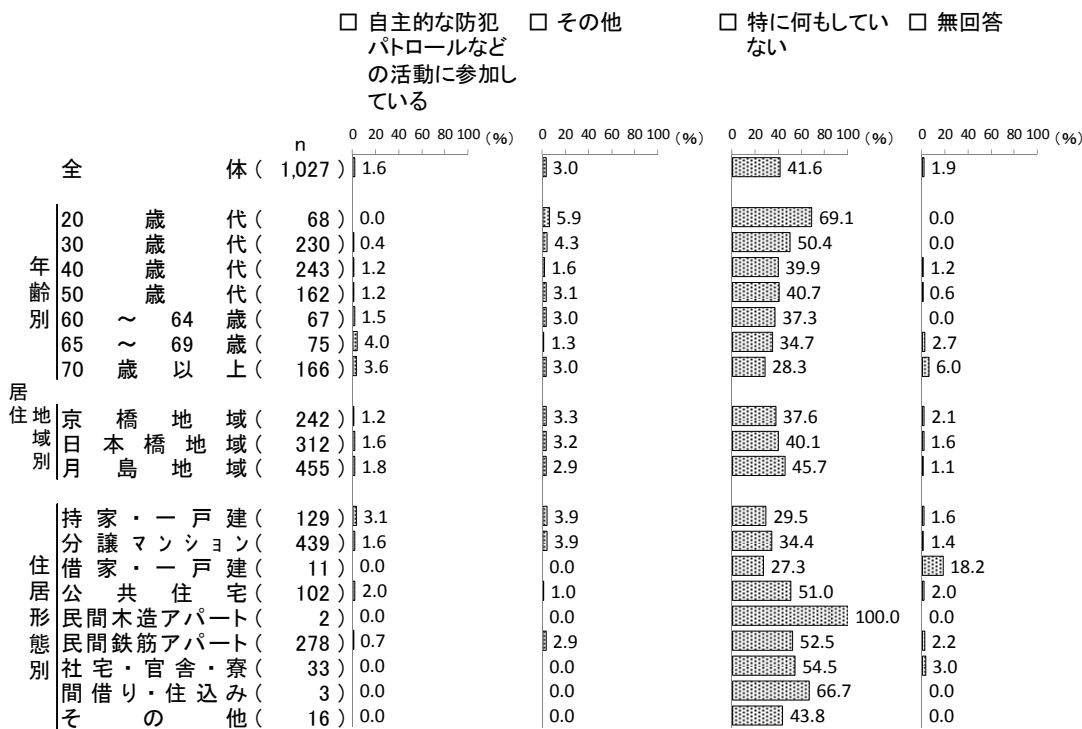
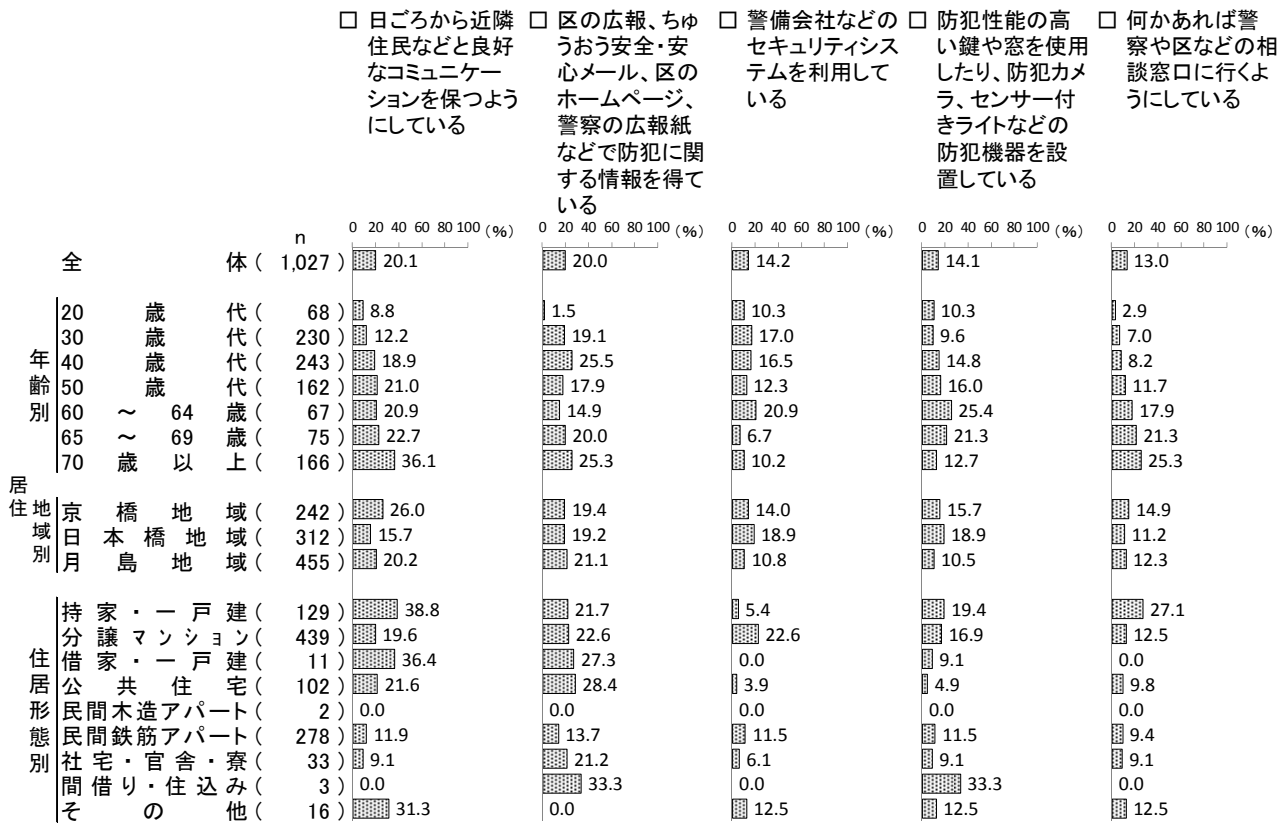
\*「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」の選択肢は、平成21年以前は「子ども安全安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」としていた。

年齢別でみると、「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」は年齢が高くなるほど割合が高くなっており、70歳以上で3割台半ばと高くなっている。「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」は40歳代と70歳以上で2割台半ばと高くなっている。一方、「特に何もしていない」は20歳代で約7割と高くなっている。

居住地域別でみると、「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」は京橋地域で2割台半ばと高くなっている。

住居形態別でみると、「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」は持家・一戸建てで4割近く、「警備会社などのセキュリティシステムを利用している」は分譲マンションで2割を超えて高くなっている。(図表8-2-3)

図表8-2-3 防犯のために行っていること一年齢別・居住地域別・住居形態別



### (3) 区に特に力を入れてほしい施策

◇「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」が約5割

問24 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。(〇は2つまで)

n = 1,027

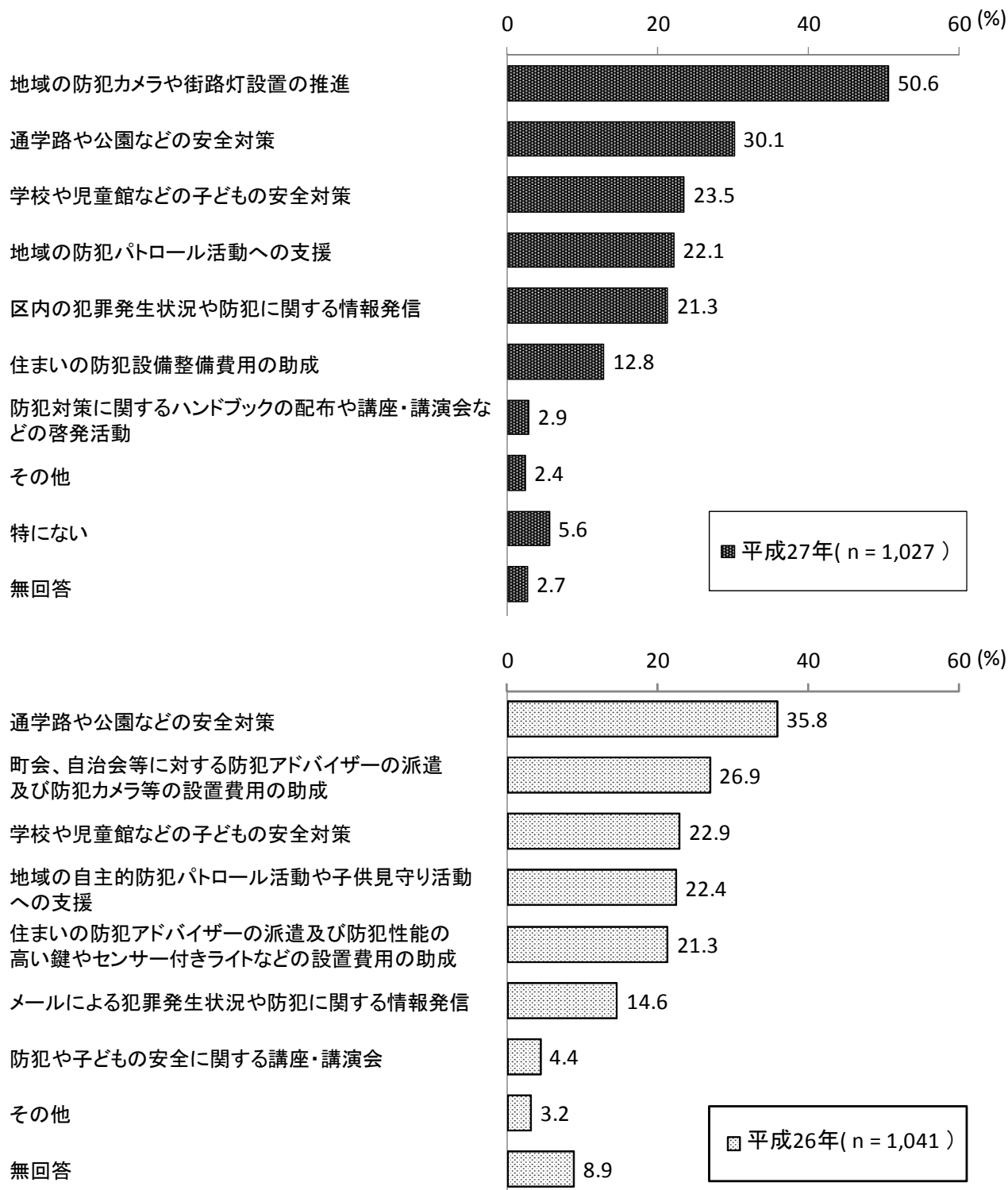
1	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信	21.3%
2	住まいの防犯設備整備費用の助成	12.8
3	地域の防犯カメラや街路灯設置の推進	50.6
4	防犯対策に関するハンドブックの配布や講座・講演会などの啓発活動	2.9
5	学校や児童館などの子どもの安全対策	23.5
6	通学路や公園などの安全対策	30.1
7	地域の防犯パトロール活動への支援	22.1
8	その他	2.4
9	特にない	5.6
	(無回答)	2.7

区に特に力を入れてほしい施策は、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」(50.6%)が約5割と最も高くなっている。次いで、「通学路や公園などの安全対策」(30.1%)、「学校や児童館などの子どもの安全対策」(23.5%)、「地域の防犯パトロール活動への支援」(22.1%)、「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」(21.3%)などとなっている。

昨年の調査内容と選択肢が同一ではないため、単純に比較はできないが参考のため、昨年調査結果をみると、「通学路や公園などの安全対策」(35.8%)が3割台半ばと最も高くなっている。次いで「町会、自治会等に対する防犯アドバイザーの派遣及び防犯カメラ等の設置費用の助成」(26.9%)、「学校や児童館などの子どもの安全対策」(22.9%)などとなっている。

(図表8-3-1)

図表8-3-1 区に特に力を入れてほしい施策(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「地域の防犯パトロール活動への支援」は平成22年以降減少傾向がみられる。(図表8-3-2)

図表8-3-2 区に特に力を入れてほしい施策一前年度比較

単位：%

調査年	n	地域の防犯カメラや街路灯設置の推進	通学路や公園などの安全対策	学校や児童館などの子どもの安全対策	地域への防犯支援パトロール活動	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信	住まいの防犯設備整備費用の助成	防犯ブックスの配布や講座・講演会に関する啓発活動	その他	特にない	無回答
平成27年	1,027	50.6	30.1	23.5	22.1	21.3	12.8	2.9	2.4	5.6	2.7
平成26年	1,041	26.9	35.8	22.9	22.4	14.6	21.3	4.4	3.2	※	8.9
平成25年	1,047	30.7	34.4	19.5	21.0	14.9	23.3	4.6	3.5	※	8.3
平成24年	1,123	14.2	38.1	24.0	28.9	20.7	11.0	5.9	3.9	※	9.3
平成23年	1,097	13.7	38.6	24.2	30.8	15.6	12.4	5.7	4.6	※	10.6
平成22年	1,004	14.4	42.4	29.3	31.1	14.9	10.8	5.0	3.7	※	7.3
平成21年	1,001	16.3	39.3	23.6	28.6	14.5	11.4	5.0	7.1	※	9.0

- \* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。
- \* 「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」の選択肢は、平成26年以前は「町会、自治会などに対する防犯アドバイザーの派遣および防犯カメラなどの設置費用の助成」、平成24年以前は「町会、自治会等に対する街の防犯対策に関するアドバイザーの派遣相談及び費用の助成」としていた。
- \* 「地域の防犯パトロール活動への支援」の選択肢は、平成26年以前は「地域の自主的防犯パトロール活動や子ども見守り活動への支援」としていた。
- \* 「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」の選択肢は、平成26年以前は「メールによる犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」としていた。
- \* 「住まいの防犯設備整備費用の助成」の選択肢は、平成26年以前は「住まいの防犯アドバイザーの派遣および防犯性能の高い鍵やセンサー付きライトなどの設置費用の助成」、平成24年以前は「住まいの防犯対策に関するアドバイザーの派遣相談及び費用の助成」としていた。
- \* 「防犯対策に関するハンドブックの配付や講座・講演会などの啓発活動」の選択肢は、平成26年以前は「防犯や子どもの安全に関する講座・講演会」としていた。

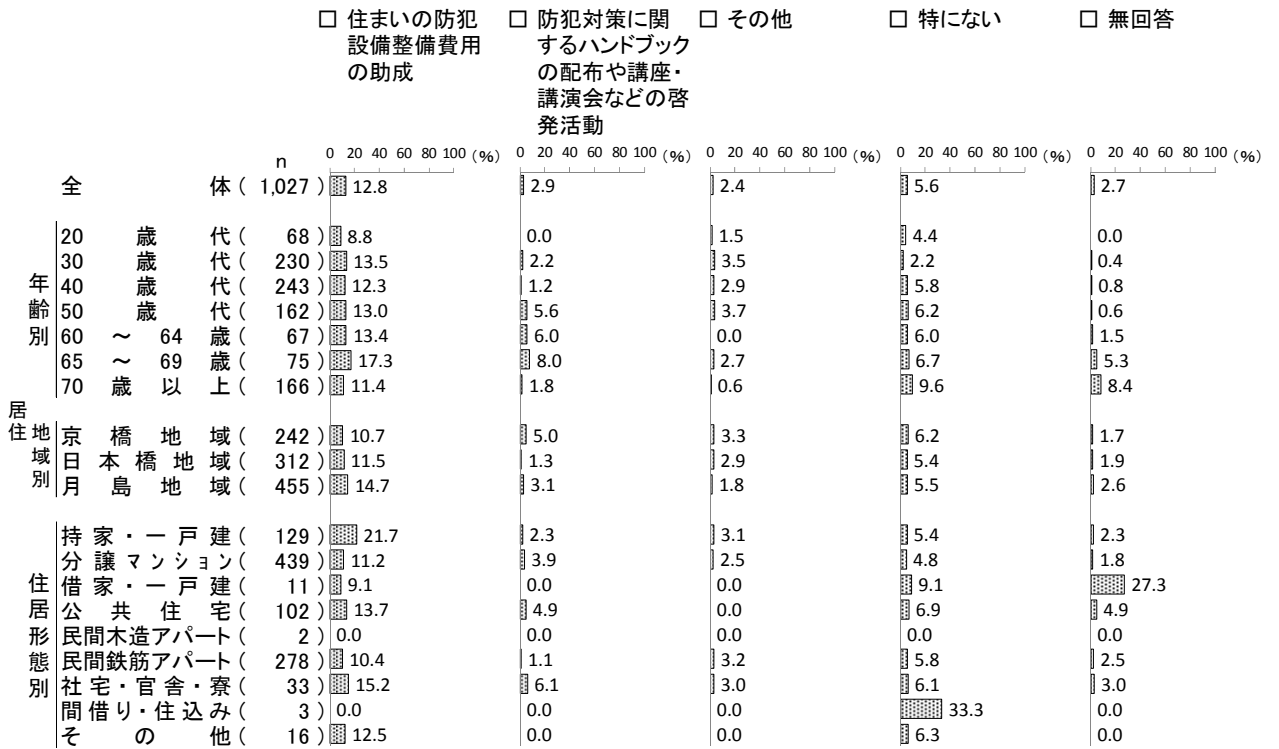
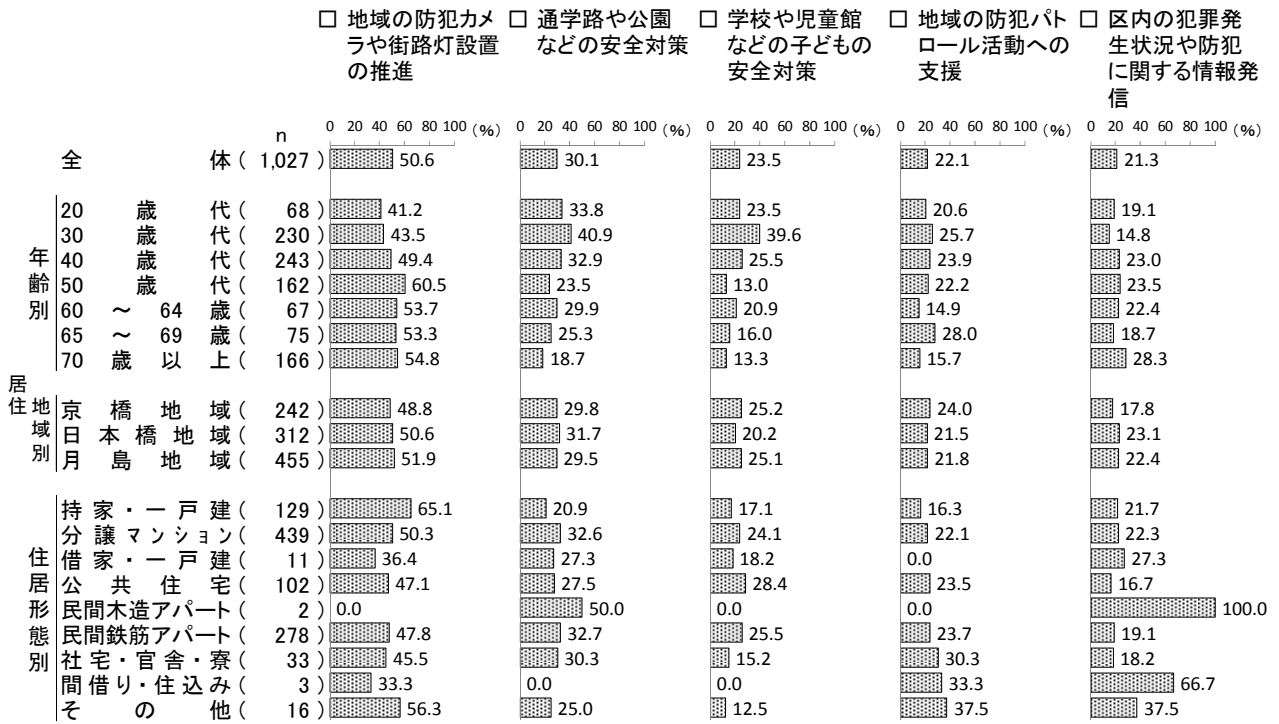
年齢別でみると、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は50歳代で約6割、70歳以上で5割台半ばと高くなっている。「通学路や公園などの安全対策」は30歳代で約4割と高くなっている。「学校や児童館などの子どもの安全対策」は30歳代で4割と高くなっている。

居住地域別でみると、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は月島地域で5割を超えて高く、日本橋地域で約5割、京橋地域で5割近くと高くなっている。「通学路や公園などの安全対策」は日本橋地域で3割を超えて高くなっている。

住居形態別でみると、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は、持家・一戸建てで6割台半ばと高くなっている。(図表8-3-3)



図表 8-3-3 区に特に力を入れてほしい施策一年齢別・居住地域別・住居形態別



## 【9 生涯学習】

### (1) 過去1年間に行った趣味や自己啓発の種類

◇「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」が3割を超える

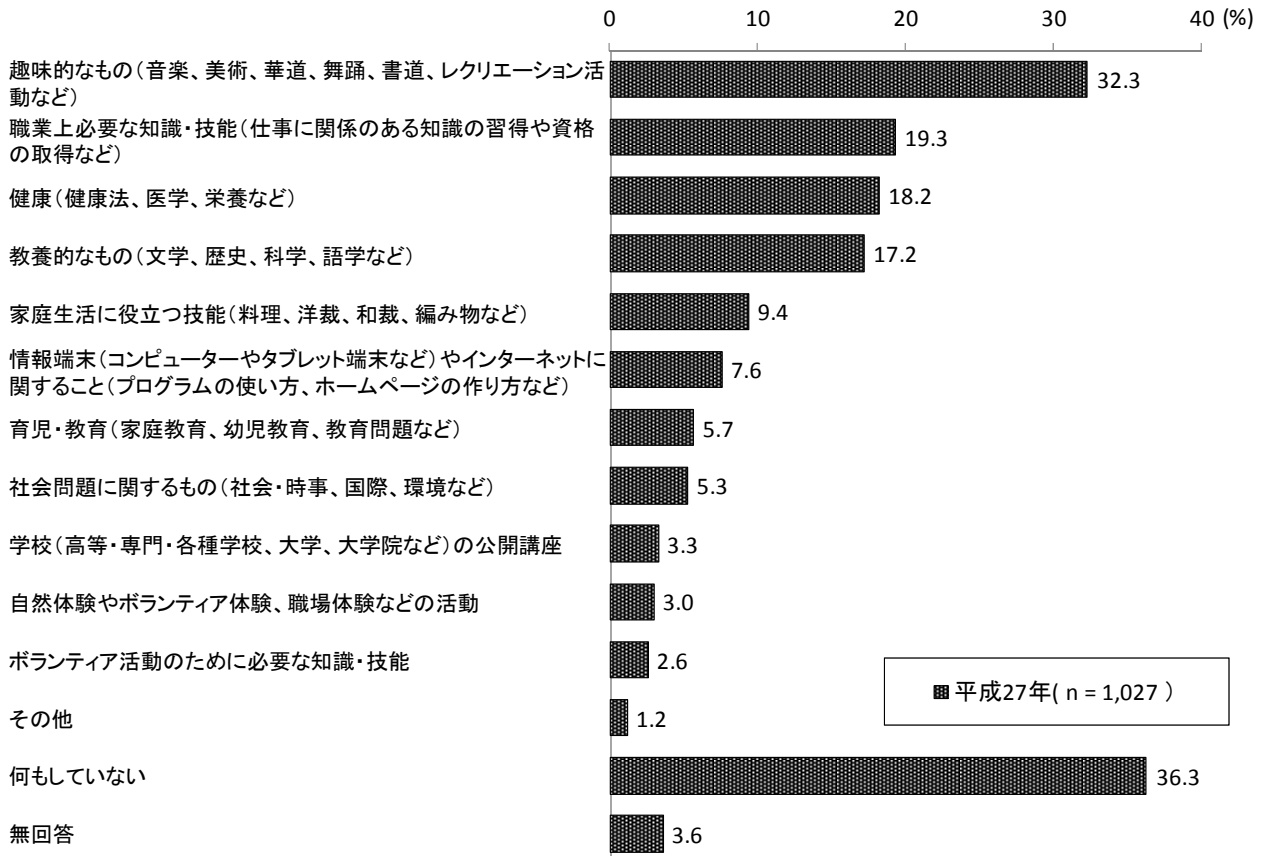
問25 あなたはこの1年間に、余暇を活用してどのような趣味や自己啓発（講座・教室・学習会・講演会など）をしましたか。（スポーツを除く）（○はいくつでも）

n = 1,027

1	健康（健康法、医学、栄養など）	18.2%
2	趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）	32.3
3	職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）	19.3
4	家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）	9.4
5	教養的なもの（文学、歴史、科学、語学など）	17.2
6	情報端末（コンピューターやタブレット端末など）やインターネットに関すること（プログラムの使い方、ホームページの作り方など）	7.6
7	社会問題に関するもの（社会・時事、国際、環境など）	5.3
8	育児・教育（家庭教育、幼児教育、教育問題など）	5.7
9	ボランティア活動のために必要な知識・技能	2.6
10	自然体験やボランティア体験、職場体験などの活動	3.0
11	学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の公開講座	3.3
12	その他	1.2
13	何もしていない (無回答)	36.3 3.6

過去1年間に行った趣味や自己啓発の種類は、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」(32.3%)が3割を超えて高くなっている。次いで、「職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」(19.3%)、「健康（健康法、医学、栄養など）」(18.2%)、「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学など）」(17.2%)などとなっている。一方「何もしていない」(36.3%)は3割台半ばと高くなっている。(図表9-1-1)

図表 9-1-1 過去 1 年間に行った趣味や自己啓発の種類（複数回答）



性別でみると、女性の方が男性よりも「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」で11.8ポイント、「家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）」で9.6ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「情報端末（コンピューターやタブレット端末など）やインターネットに関すること（プログラムの使い方、ホームページの作り方など）」で5.6ポイント、「職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」で3.8ポイント、それぞれ高くなっている。

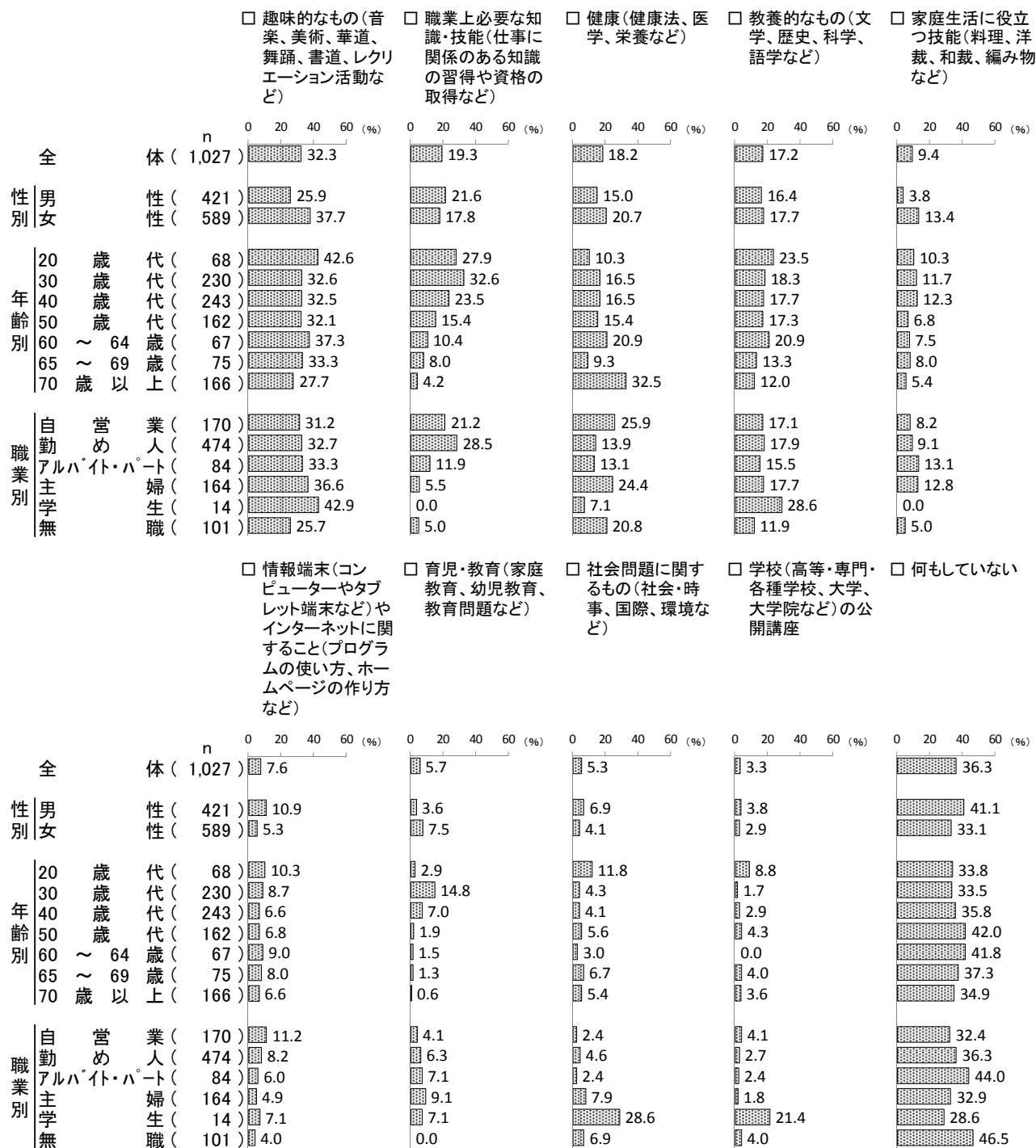
また、「何もしていない」は男性の方が女性よりも8.0ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」は20歳代で4割を超えて高くなっている。「職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」は20歳代で3割近く、30歳代で3割を超えているが年齢が高くなるほど割合が低くなっている。「健康（健康法、医学、栄養など）」は70歳以上で3割を超えて高くなっている。

職業別でみると、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」は学生で4割を超えて高くなっている。「職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」は勤め人で3割近くと高くなっている。「健康（健康法、医学、栄養など）」は自営業および主婦で2割台半ばと高くなっている。一方、「何もしていない」は無職で5割近く、アルバイト・パートタイマーで4割台半ばと高くなっている。（図表 9-1-2）

図表9-1-2 趣味や自己啓発の状況—性別・年齢別・職業別

(上位9項目+「何もしていない」)



## (2) 趣味や自己啓発の活動場所や活動状況

◇「本やテレビ、ラジオ、ビデオ教材などの利用」が4割近く

(問25で、「1 健康」から「12 その他」のいずれかにお答えの方に)

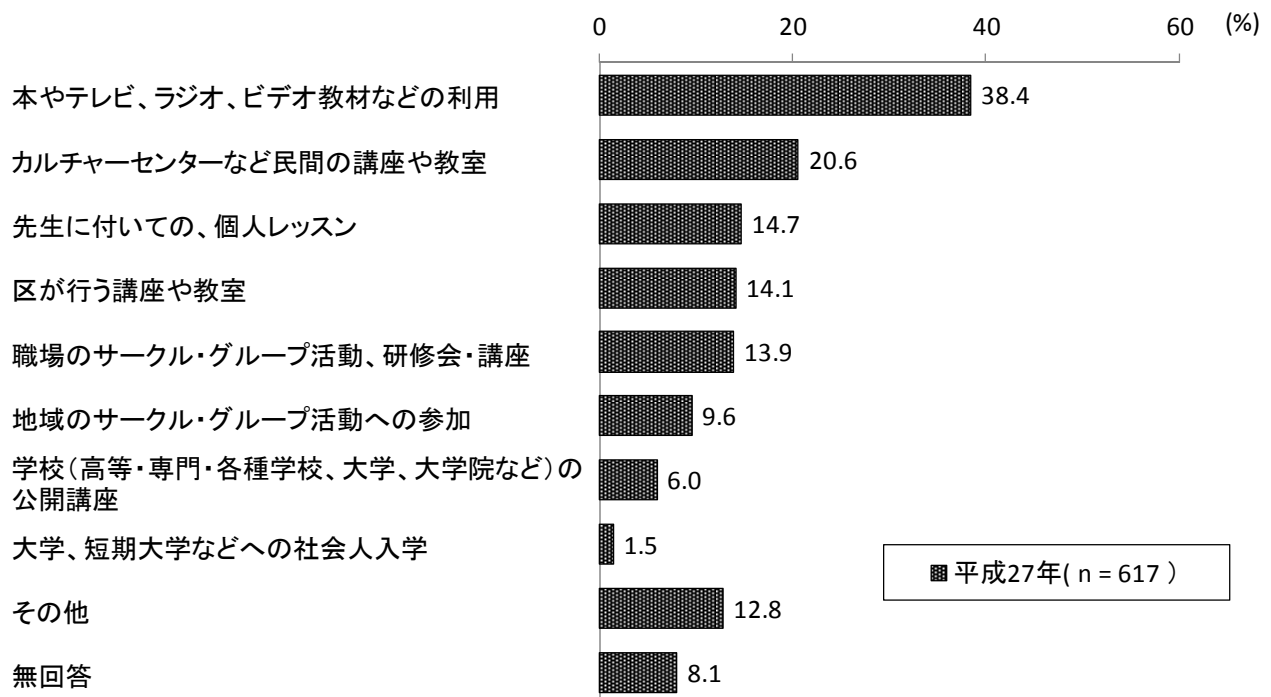
問25-1 「どこで」または「どのように」活動しましたか。(〇はいくつでも)

n = 617

1 区が行う講座や教室	14.1%
2 カルチャーセンターなど民間の講座や教室	20.6
3 地域のサークル・グループ活動への参加	9.6
4 本やテレビ、ラジオ、ビデオ教材などの利用	38.4
5 職場のサークル・グループ活動、研修会・講座	13.9
6 先生に付いての、個人レッスン	14.7
7 学校(高等・専門・各種学校、大学、大学院など)の公開講座	6.0
8 大学、短期大学などへの社会人入学	1.5
9 その他	12.8
(無回答)	8.1

問25で、いずれかの趣味や自己啓発を行っているとは回答した方の、活動場所や活動状況は、「本やテレビ、ラジオ、ビデオ教材などの利用」(38.4%)が4割近くと最も高くなっている。次いで、「カルチャーセンターなど民間の講座や教室」(20.6%)、「先生に付いての、個人レッスン」(14.7%)、「区が行う講座や教室」(14.1%)、「職場のサークル・グループ活動、研修会・講座」(13.9%)などとなっている。(図表9-2-1)

図表9-2-1 趣味や自己啓発の活動場所や活動状況

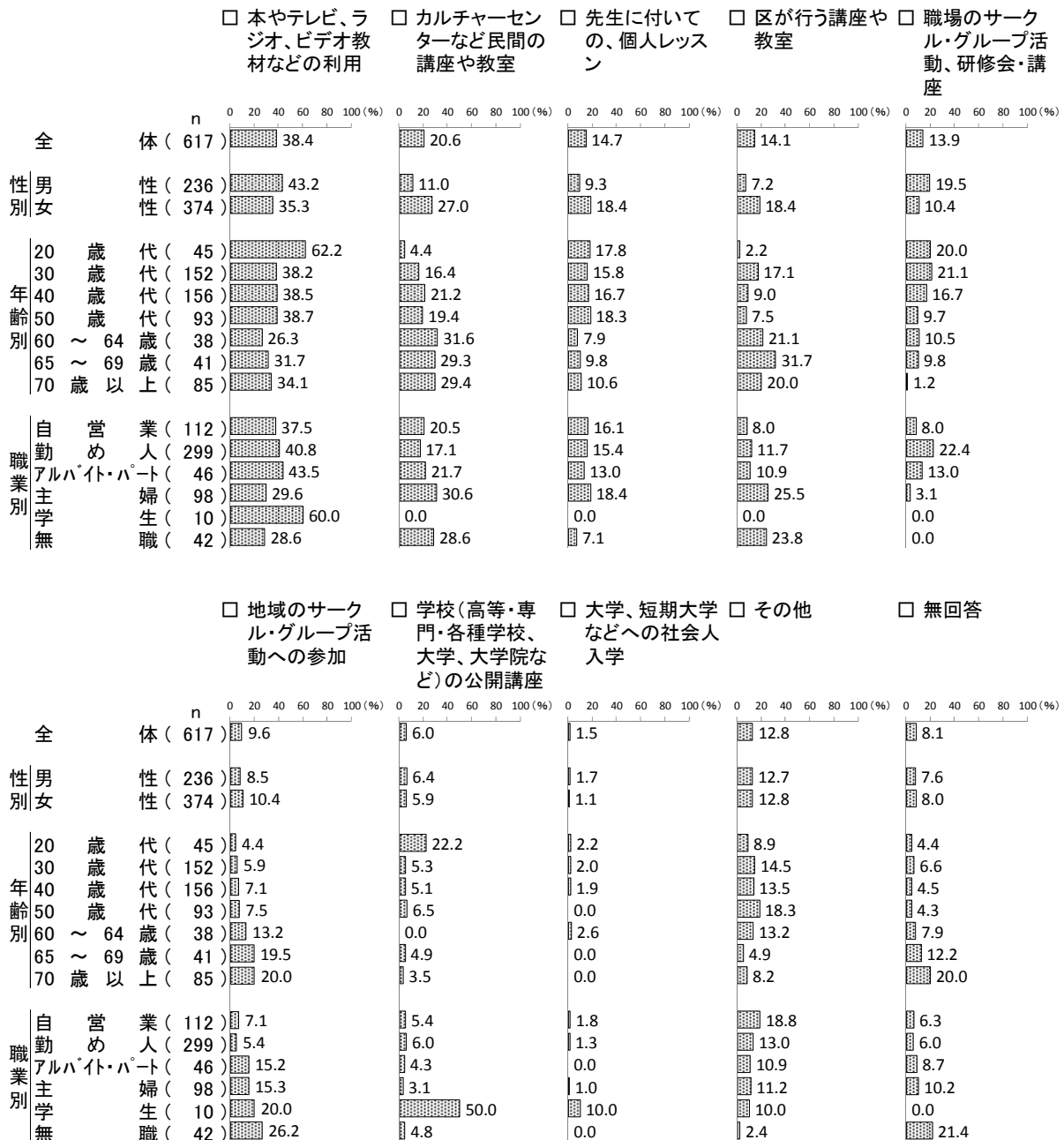


性別でみると、女性の方が男性よりも「カルチャーセンターなど民間の講座や教室」は16.0ポイント、「区が行う講義や教室」は11.2ポイント、「先生についての、個人レッスン」は9.1ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「職場のサークル・グループ活動、研修会・講座」は9.1ポイント、「本やテレビ、ラジオ、ビデオ教材など」は7.9ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「本やテレビ、ラジオ、ビデオ教材など」は20歳代で6割を超えて高くなっている。「区が行う講座や教室」は65～69歳で3割を超えて高くなっている。

職業別でみると、「カルチャーセンターなど民間の講座や教室」は主婦で約3割、「区が行う講座や教室」は主婦で2割台半ばと高くなっている。「職場のサークル・グループ活動、研修会・講座」は勤め人で2割を超えて高くなっている。(図表9-2-2)

図表9-2-2 趣味や自己啓発の活動場所や活動状況—性別・年齢別・職業別



### (3) 過去1年間に趣味や自己啓発をしなかった理由

◇「仕事が忙しい」が4割を超える

(問25で、「13 何もしていない」とお答えの方に)

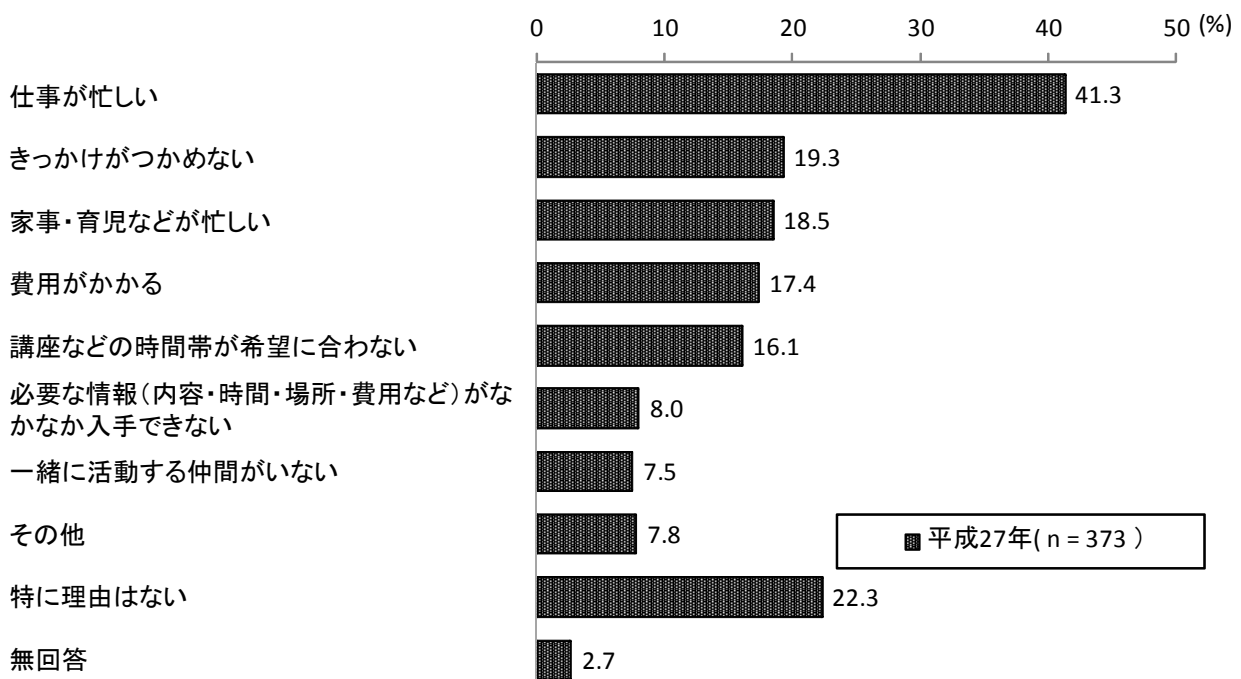
問25-2 何もしていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

n = 373

1	仕事が忙しい	41.3%
2	家事・育児などが忙しい	18.5
3	きっかけがつかめない	19.3
4	費用がかかる	17.4
5	講座などの時間帯が希望に合わない	16.1
6	必要な情報(内容・時間・場所・費用など)がなかなか入手できない	8.0
7	一緒に活動する仲間がいない	7.5
8	その他	7.8
9	特に理由はない	22.3
	(無回答)	2.7

問25で、過去1年間に趣味や自己啓発を何もしていないと回答した方の、何もしなかった理由は、「仕事が忙しい」(41.3%)が4割を超えて最も高くなっている。次いで、「きっかけがつかめない」(19.3%)、「家事・育児などが忙しい」(18.5%)、「費用がかかる」(17.4%)、「講座などの時間帯が希望に合わない」(16.1%)などとなっている。(図表9-3-1)

図表9-3-1 過去1年間に趣味や自己啓発をしなかった理由

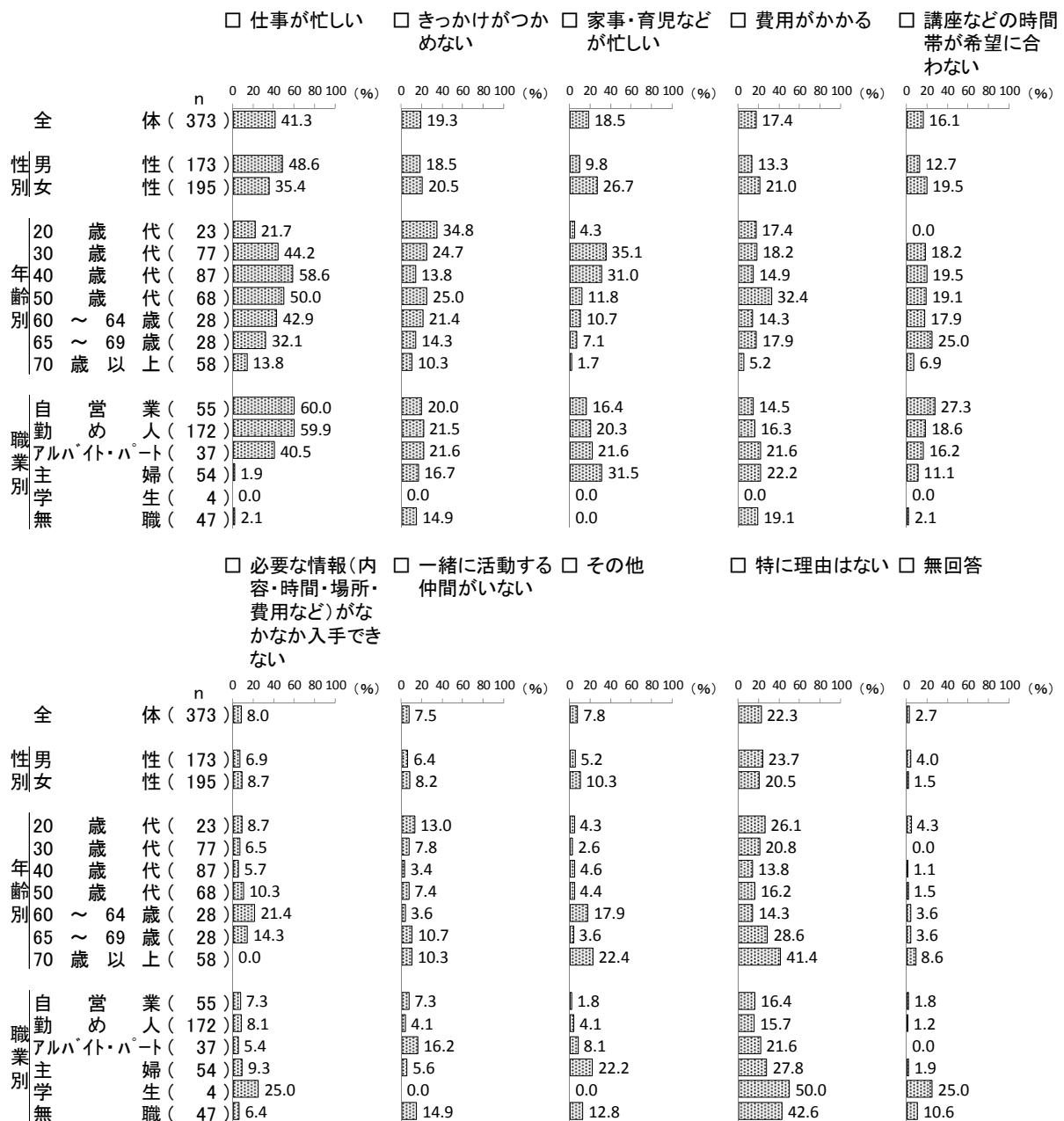


性別でみると、女性の方が男性よりも「家事・育児などが忙しい」は16.9ポイント、「費用がかかる」は7.7ポイント、「講座などの時間帯が希望に合わない」は6.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「仕事が忙しい」は13.2ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「仕事が忙しい」は40歳代で6割近くと高くなっている。「きっかけがつかめない」は20歳代で3割台半ばと高くなっている。「家事・育児などが忙しい」は30歳代で3割台半ばと高くなっている。「費用がかかる」は50歳代で3割を超えて高くなっている。

職業別でみると、「仕事が忙しい」は自営業と勤め人で6割と高くなっている。「家事・育児などが忙しい」は主婦で3割を超えて高くなっている。「講座などの時間帯が希望に合わない」は自営業で3割近くと高くなっている。(図表9-3-2)

図表9-3-2 過去1年間に趣味や自己啓発をしなかった理由—性別・年齢別・職業別





## 【10 スポーツ】

### (1) 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類

◇「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」が5割

問26 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。（○はいくつでも）  
（※）運動の量や時間の条件はありません。

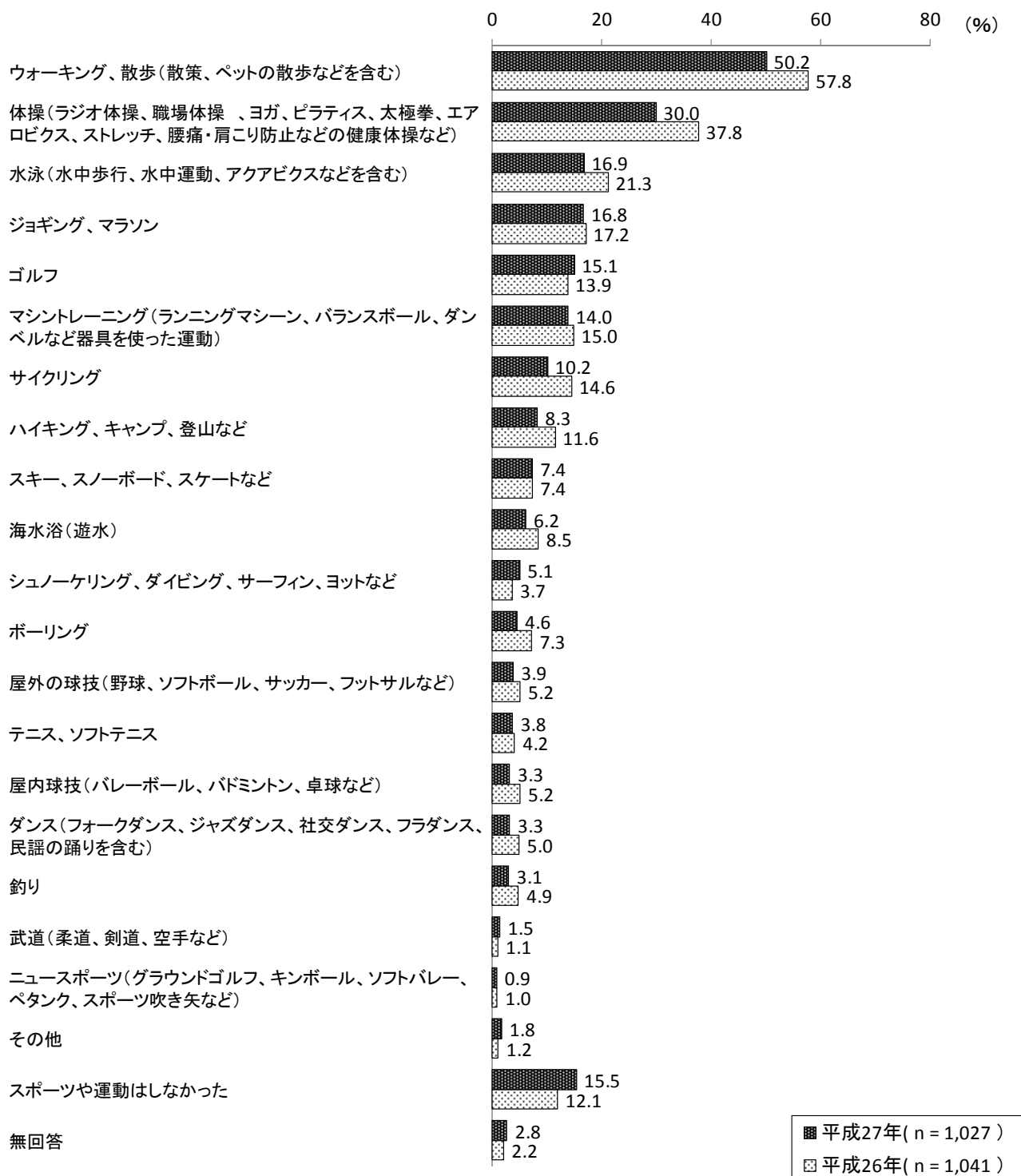
n = 1,027

1	水泳（水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む）	16.9%
2	体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）	30.0
3	ジョギング、マラソン	16.8
4	ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）	50.2
5	マシントレーニング（ランニングマシン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動）	14.0
6	武道（柔道、剣道、空手など）	1.5
7	テニス、ソフトテニス	3.8
8	屋内球技（バレーボール、バドミントン、卓球など）	3.3
9	屋外の球技（野球、ソフトボール、サッカー、フットサルなど）	3.9
10	ゴルフ	15.1
11	ハイキング、キャンプ、登山など	8.3
12	スキー、スノーボード、スケートなど	7.4
13	海水浴（遊水）	6.2
14	シュノーケリング、ダイビング、サーフィン、ヨットなど	5.1
15	釣り	3.1
16	ボーリング	4.6
17	サイクリング	10.2
18	ニュースポーツ（グラウンドゴルフ、キンボール、ソフトバレー、ペタンク、スポーツ吹き矢など）	0.9
19	ダンス（フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、民謡の踊りを含む）	3.3
20	その他	1.8
21	スポーツや運動はしなかった （無回答）	15.5 2.8

過去1年間に行ったスポーツや運動の種類は、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」(50.2%) が5割と最も高くなっている。次いで、「体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）」(30.0%)、「水泳（水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む）」(16.9%) などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）」は7.8ポイント、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」は7.6ポイントそれぞれ減少している。一方「スポーツや運動はしなかった」は3.4ポイント増加している。（図表10-1-1）

図表10-1-1 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、平成24年は選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」、「体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）」、「水泳（水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む）」、「ジョギング、マラソン」が引き続き上位4項目となっている。（図表10-1-2）

図表10-1-2 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類－過年度比較

単位：%

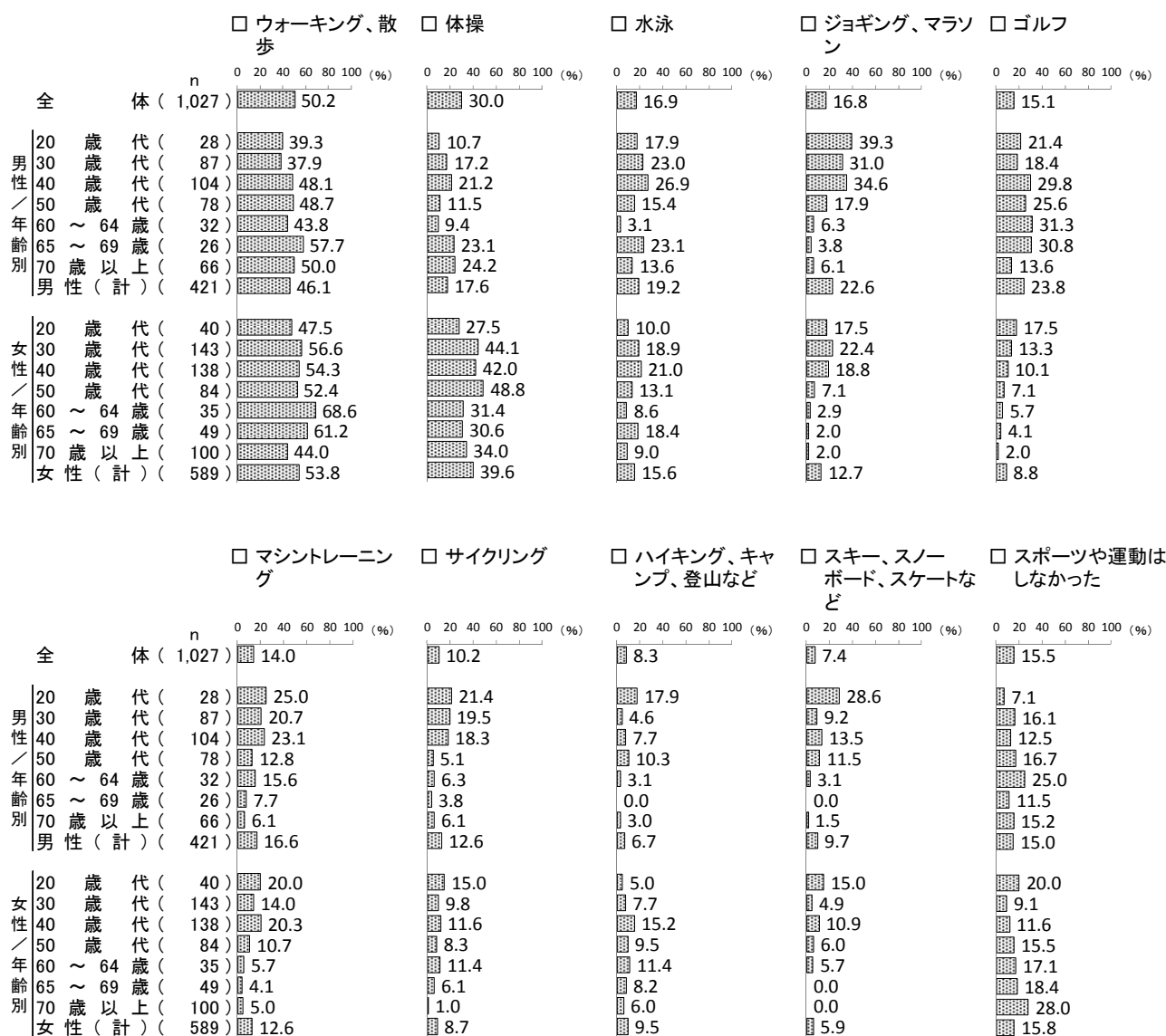
調査年	n	ウォーキング、散歩	体操	水泳	ジョギング、マラソン	ゴルフ	マシントレーニング	サイクリング	ハイキング、キャンプ、登山など	スキー、スノーボード、スケートなど	海水浴（遊水）	シュノーケリング、ダイビング、サーフィン、ヨットなど	ボウリング	屋外の球技	テニス、ソフトテニス	屋内球技	ダンス	釣り	武道	ニーススポーツ	その他	スポーツや運動はしなかった	無回答
平成27年	1,027	50.2	30.0	16.9	16.8	15.1	14.0	10.2	8.3	7.4	6.2	5.1	4.6	3.9	3.8	3.3	3.3	3.1	1.5	0.9	1.8	15.5	2.8
平成26年	1,041	57.8	37.8	21.3	17.2	13.9	15.0	14.6	11.6	7.4	8.5	3.7	7.3	5.2	4.2	5.2	5.0	4.9	1.1	1.0	1.2	12.1	2.2
平成25年	1,047	57.0	36.1	20.9	15.6	13.0	14.3	12.3	9.6	5.9	7.6	4.9	7.1	5.2	5.3	4.8	5.3	4.2	1.3	1.1	1.5	12.1	2.7
平成24年	1,123	43.6	27.2	20.1	17.7	13.2	9.8	※	11.2	※	※	※	※	4.0	4.1	5.3	※	※	※	1.0	7.1	19.4	2.2

\* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

性／年齢別で見ると、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」は女性の60～64歳で7割近くと高くなっている。「体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）」は女性の50歳代で5割近くと高くなっている。「ジョギング、マラソン」は男性の20歳代で約4割と高くなっているほか、男性、女性ともに20歳代～40歳代で他の年代よりも高くなっている。一方、「スポーツや運動はしなかった」は女性の70歳以上で3割近く、男性の60～64歳で2割台半ばと高くなっている。

(図表10-1-3)

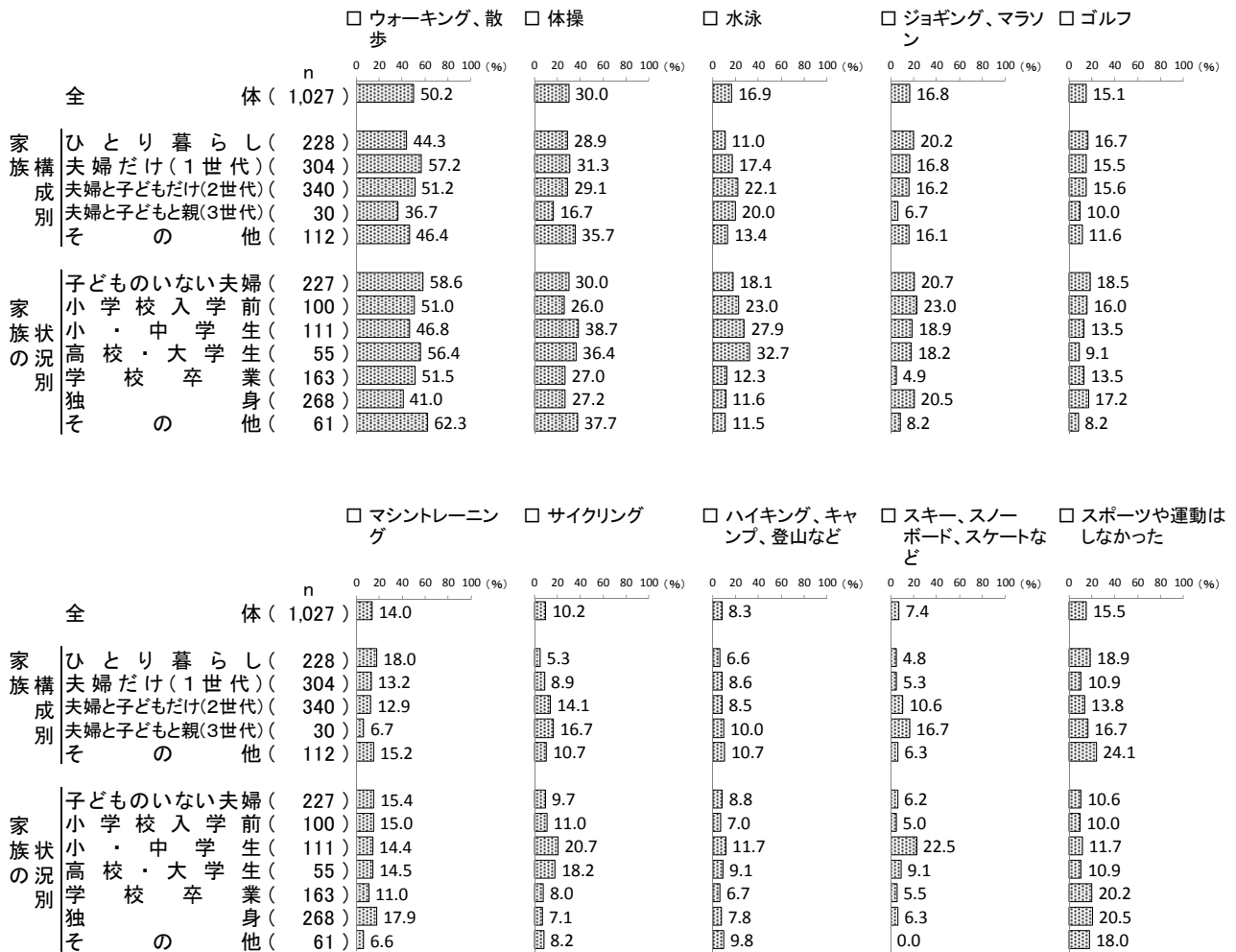
図表10-1-3 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類  
一性／年齢別（上位9項目＋「スポーツや運動はしなかった」）



家族構成別でみると、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」は夫婦だけ（1世代）で6割近くと高くなっている。

家族の状況別でみると、「体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）」が一番上の子どもが小・中学生の家族とその他で4割近くと高く、「スキー、スノーボード、スケートなど」が一番上の子どもが小・中学生の家族で2割を超えて高くなっている。一方、「スポーツや運動はしなかった」は独身で約2割、一番上の子どもが学校卒業で2割と高くなっている。（図表10-1-4）

図表10-1-4 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類  
—家族構成別・家族の状況別（上位9項目＋「スポーツや運動はしなかった」）



## (2) 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度

◇「週に1～2日程度」が4割近く

(問26で、「1 水泳」から「20 その他」のいずれかにお答えの方に)

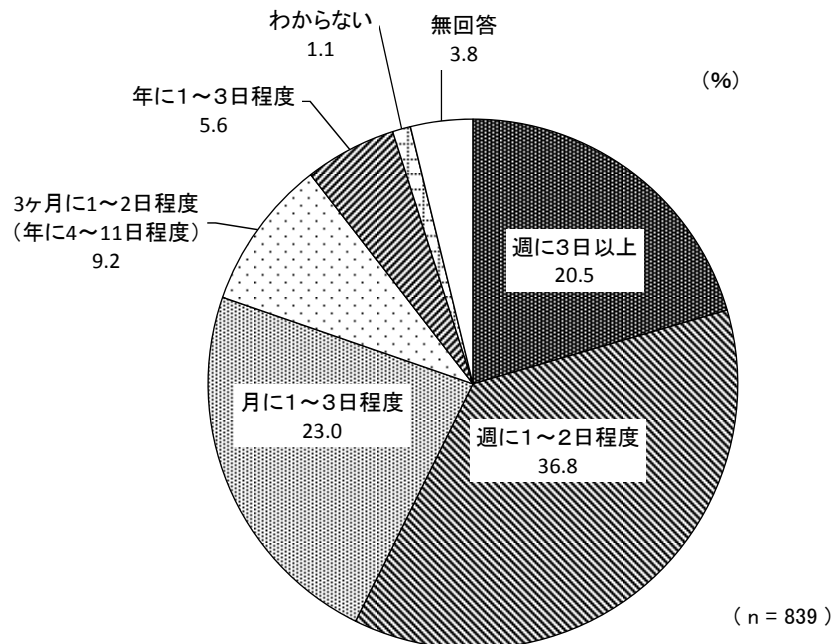
問26-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(○は1つ)

n = 839

1	週に3日以上	20.5%	5	年に1～3日程度	5.6
2	週に1～2日程度	36.8	6	わからない	1.1
3	月に1～3日程度	23.0		(無回答)	3.8
4	3ヶ月に1～2日程度 (年に4～11日程度)	9.2			

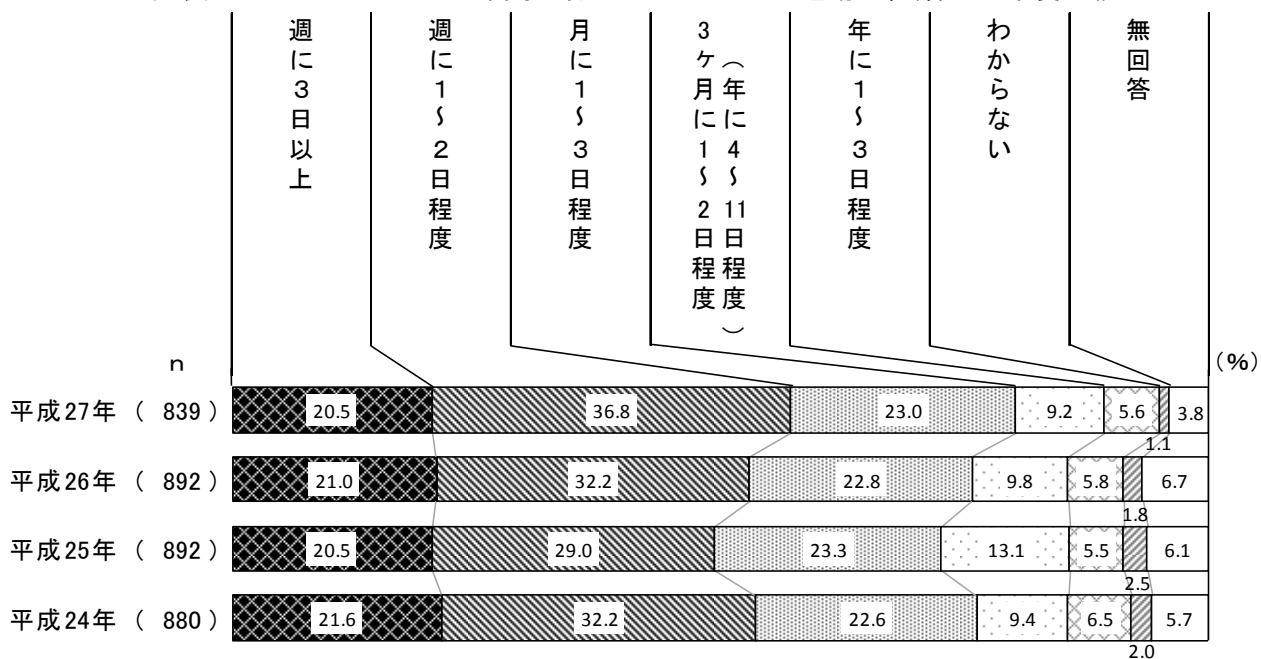
問26で、いずれかのスポーツや運動をしたことがあると回答した方の、過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度は、「週に1～2日程度」(36.8%)が4割近くと最も高くなっている。次いで、「月に1～3日程度」(23.0%)、「週に3日以上」(20.5%)、「3ヶ月に1～2日程度(年に4～11日程度)」(9.2%)などとなっている。(図表10-2-1)

図表10-2-1 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度



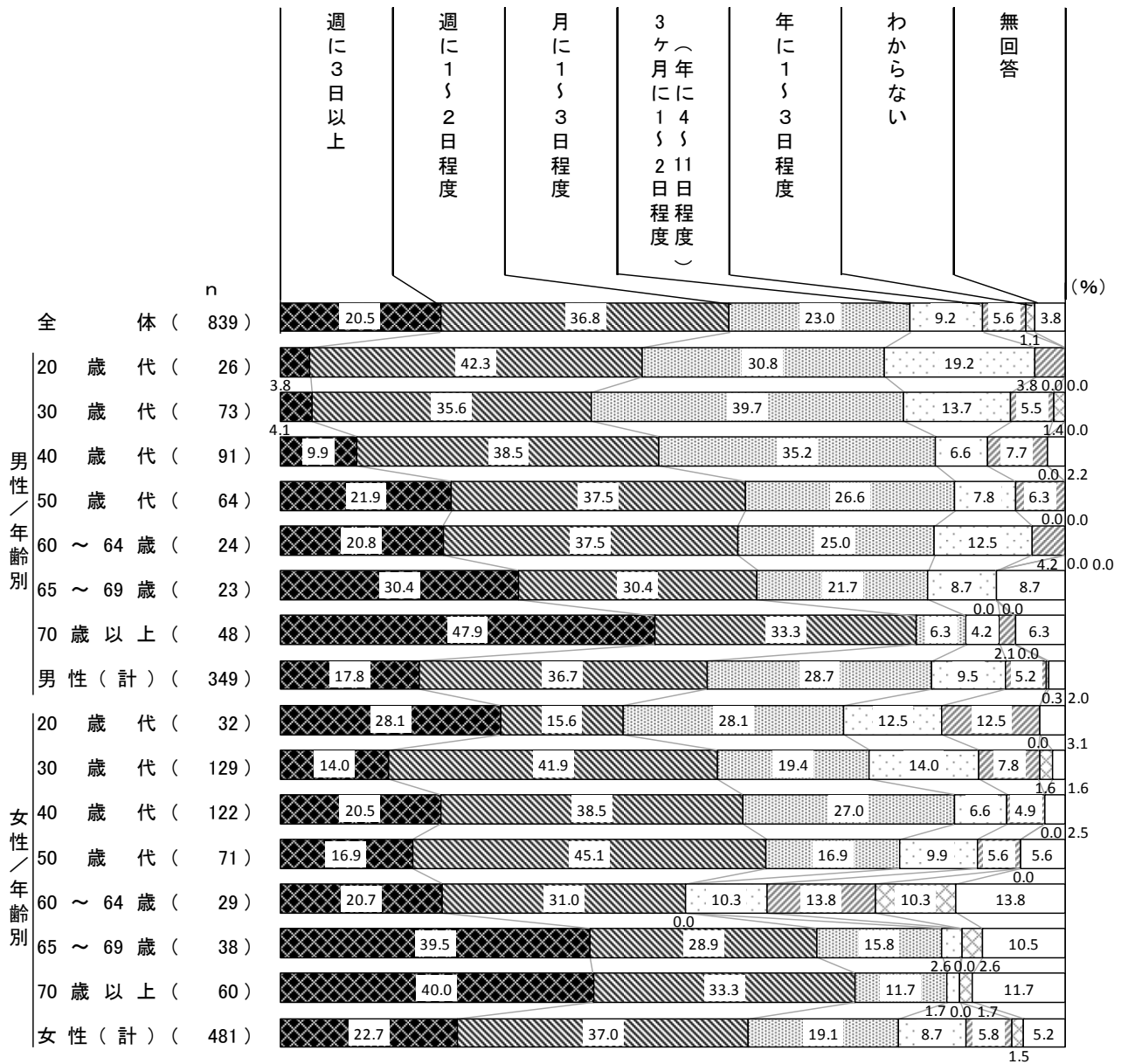
過去の調査結果と比較すると、「週に1～2日程度」は平成25年に減少したが、平成26年、平成27年と増加し、昨年と比較すると4.6ポイント増加している。一方、「3ヶ月に1～2日程度（年に4～11日程度）」は平成25年に増加したが、平成26年、平成27年と減少し、昨年と比較すると0.6ポイント減少している。（図表10-2-2）

図表10-2-2 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類一過年度比較



性／年齢別でみると、「週に3日以上」は男性の70歳以上で5割近く、女性の70歳以上と65～69歳でも4割と高くなっている。「週に1～2日程度」は女性の50歳代で4割台半ば、男性の20歳代と女性の30歳代で4割を超えて高くなっている。「月に1～3日程度」は男性の30歳代で4割と高くなっている。(図表10-2-3)

図表10-2-3 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度－性／年齢別



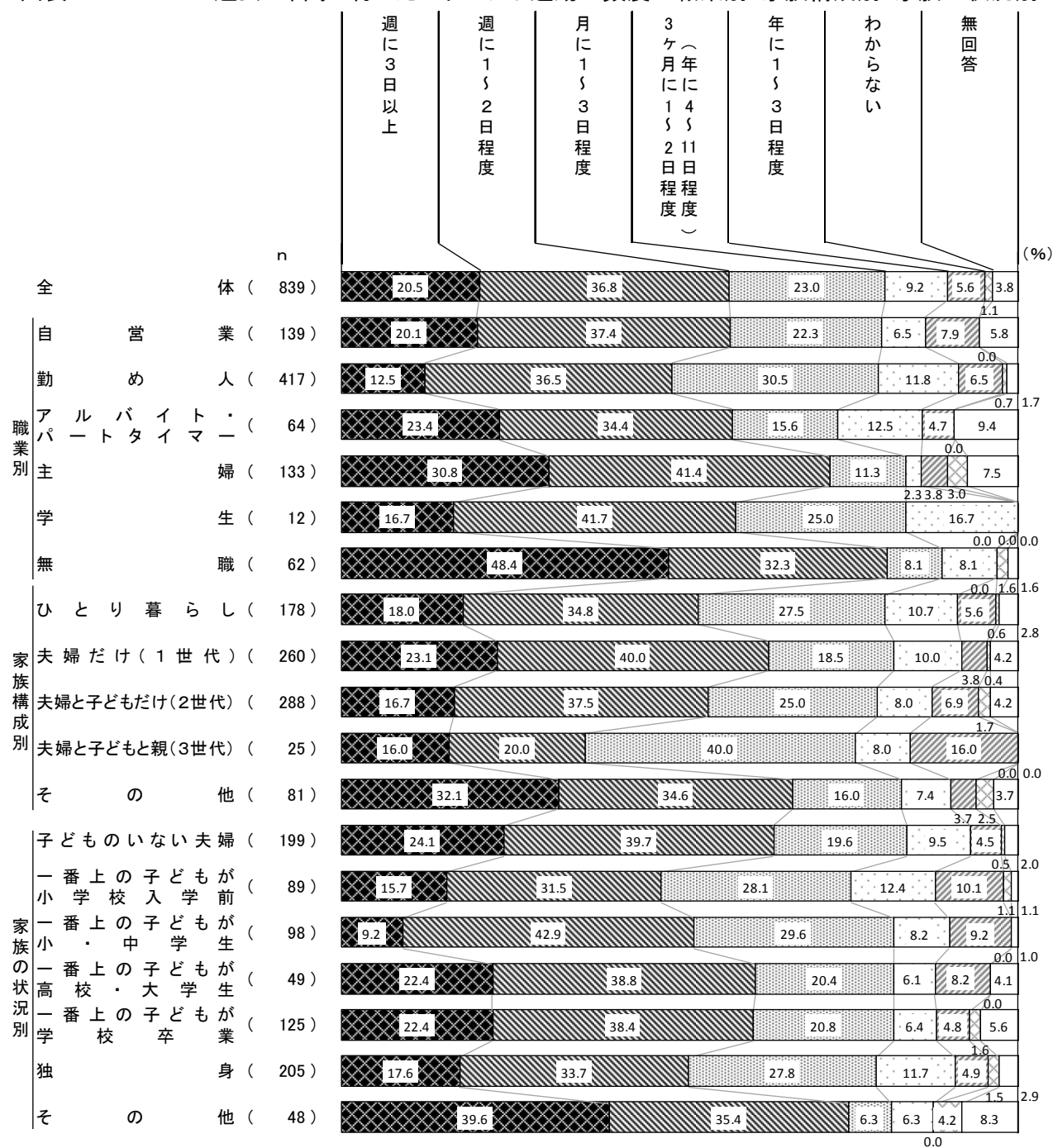


職業別でみると、「週に3日以上」は無職で5割近くと高くなっている。

家族構成別でみると、「週に1～2日程度」は夫婦だけ（1世代）で4割と高くなっている。「月に1～3日程度」は夫婦と子どもと親（3世代）で4割と高くなっている。

家族の状況別でみると、「週に1～2日程度」が一番上の子どもが小・中学生の家族で4割を超えて高くなっているほか、子供のいない夫婦で4割、一番上の子どもが高校・大学生、一番上の子どもが学校卒業の家族で4割近くと高くなっている。「月に1～3日程度」が一番上の子どもが小・中学生の家族で3割と高くなっている。（図表10-2-4）

図表10-2-4 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度－職業別・家族構成別・家族の状況別



### (3) スポーツへの参加機会を増やすために区に望むこと

◇「スポーツ施設の増設・充実」が4割台半ば

問27 あなたは、区民のスポーツへの参加の機会を増やすために、区は今後どのようなことに力を入れたら良いと思いますか。(〇は3つまで)

n = 1,027

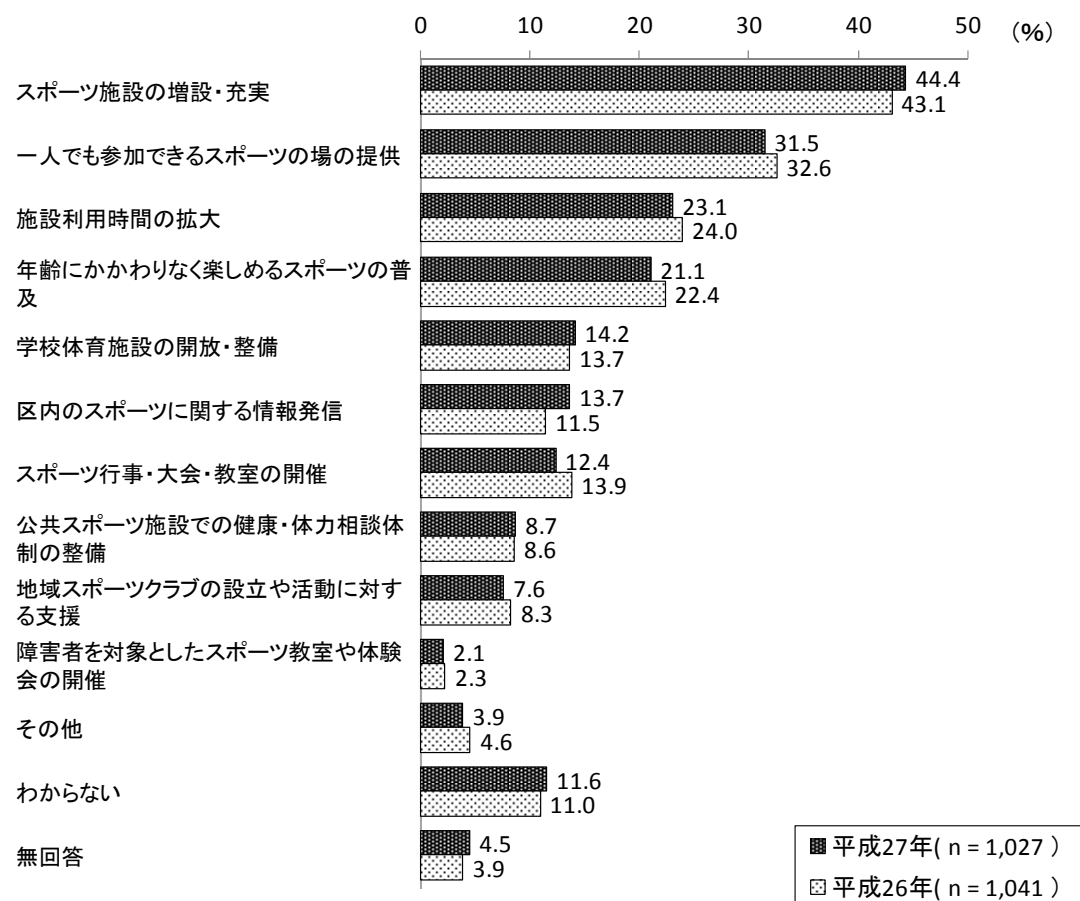
1	スポーツ施設の増設・充実	44.4%
2	学校体育施設の開放・整備	14.2
3	施設利用時間の拡大	23.1
4	スポーツ行事・大会・教室の開催	12.4
5	障害者を対象としたスポーツ教室や体験会の開催	2.1
6	地域スポーツクラブの設立や活動に対する支援	7.6
7	年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及	21.1
8	一人でも参加できるスポーツの場の提供	31.5
9	公共スポーツ施設での健康・体力相談体制の整備	8.7
10	区内のスポーツに関する情報発信	13.7
11	その他	3.9
12	わからない	11.6
	(無回答)	4.5

(※) 地域スポーツクラブ 地域が主体となって運営し、学校など身近な施設において子どもから大人まで誰もが気軽にスポーツ、レクリエーション、文化活動を楽しめるスポーツクラブです。地域の皆さんは、会員、運営スタッフ、指導者としてクラブに参加することができます。中央区では平成25年2月に月島地域を拠点とする「中央区地域スポーツクラブ大江戸月島」が設立されました。

スポーツへの参加機会を増やすために区に望むことは、「スポーツ施設の増設・充実」(44.4%)が4割台半ばと最も高くなっている。次いで、「一人でも参加できるスポーツの場の提供」(31.5%)、「施設利用時間の拡大」(23.1%)、「年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及」(21.1%)、「学校体育施設の開放・整備」(14.2%)、「区内のスポーツに関する情報発信」(13.7%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。「スポーツ施設の増設・充実」、「一人でも参加できるスポーツの場の提供」、「施設利用時間の拡大」、「年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及」が引き続き上位4項目となっている。(図表10-3-1)

図表10-3-1 スポーツへの参加機会を増やすために区に望むこと（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、平成24年は選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「スポーツ施設の増設・充実」、「一人でも参加できるスポーツの場の提供」、「施設利用時間の拡大」、「年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及」が引き続き上位4項目となっている。

(図表10-3-2)

図表10-3-2 スポーツへの参加機会を増やすために区に望むことー過年度比較

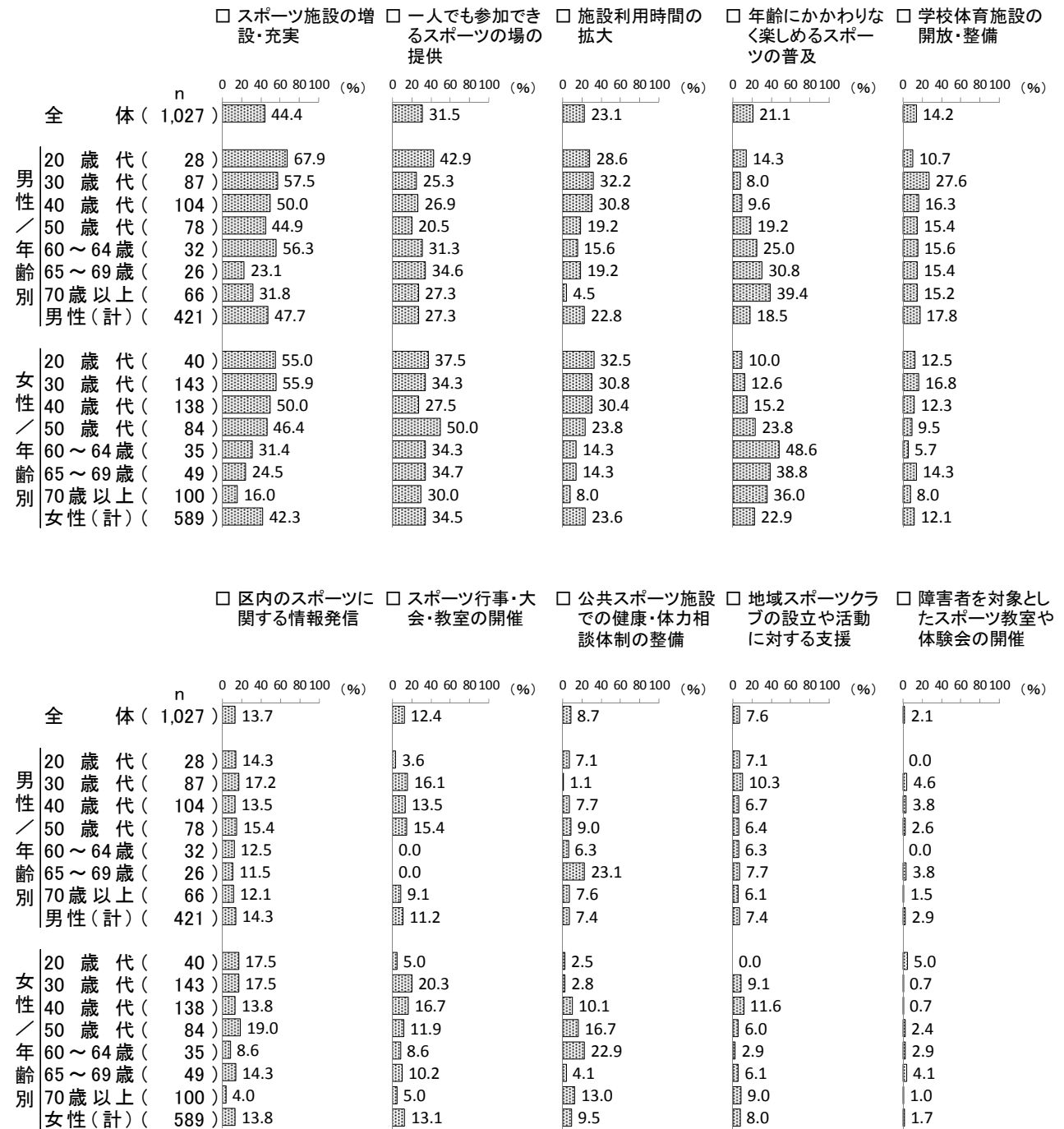
単位: %

調査年	n	スポーツ施設の増設・充実	一人でも参加できるスポーツの場の提供	施設利用時間の拡大	年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及	学校体育施設の開放・整備	区内のスポーツに関する情報発信	スポーツ行事・大会・教室の開催	公共スポーツ施設での健康・体力相談体制の整備	地域スポーツクラブの設立や活動に対する支援	障害者を対象としたスポーツ教室や体験会の開催	その他	わからない	無回答
平成27年	1,027	44.4	31.5	23.1	21.1	14.2	13.7	12.4	8.7	7.6	2.1	3.9	11.6	4.5
平成26年	1,041	43.1	32.6	24.0	22.4	13.7	11.5	13.9	8.6	8.3	2.3	4.6	11.0	3.9
平成25年	1,047	44.8	31.6	26.1	22.5	14.6	11.3	12.3	8.4	9.6	2.1	3.2	10.3	5.3
平成24年	1,123	44.3	30.9	20.7	20.7	12.4	11.2	11.4	9.8	※	※	3.3	11.4	5.3

※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢

性／年齢別で見ると、「スポーツ施設の増設・充実」は男性の20歳代で7割近くと高くなっている。「一人でも参加できるスポーツの場の提供」は女性の50歳代で5割と高く、「年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及」は女性の60～64歳で5割近く、男性の70歳以上で約4割と高くなっている。(図表10-3-3)

図表10-3-3 スポーツへの参加機会を増やすために区に望むこと一性／年齢別(上位10項目)



## 【11 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会】

### (1) 大会への思い

◇『大会への期待』が7割台半ば

問 28 2020年東京大会が開催されることについて、現段階でのお気持ちをお聞かせください。

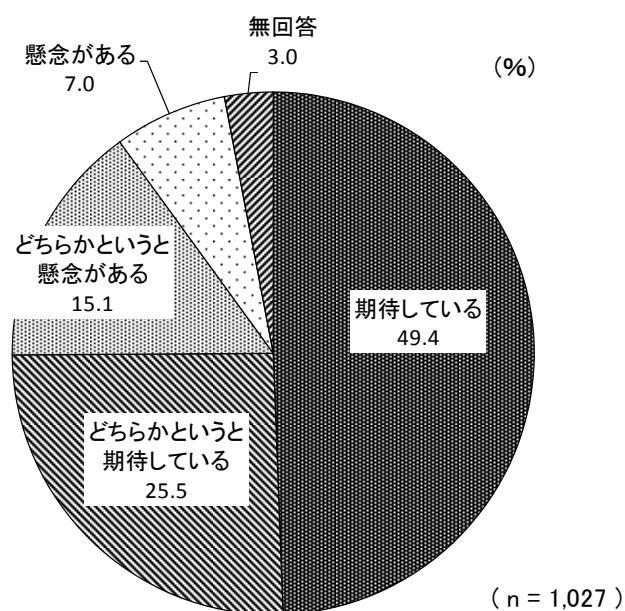
(○は1つ)

n = 1,027

1 期待している	49.4%
2 どちらかという期待している	25.5
3 どちらかという懸念がある	15.1
4 懸念がある	7.0
(無回答)	3.0

大会への期待度は、「期待している」(49.4%)が約5割と最も高くなっている。次いで、「どちらかという期待している」(25.5%)、「どちらかという懸念がある」(15.1%)、「懸念がある」(7.0%)などとなっている。『大会への期待』(「期待している」と「どちらかという期待している」の合計)(74.9%)が7割台半ばとなっている。(図表11-1-1)

図表11-1-1 大会への思い



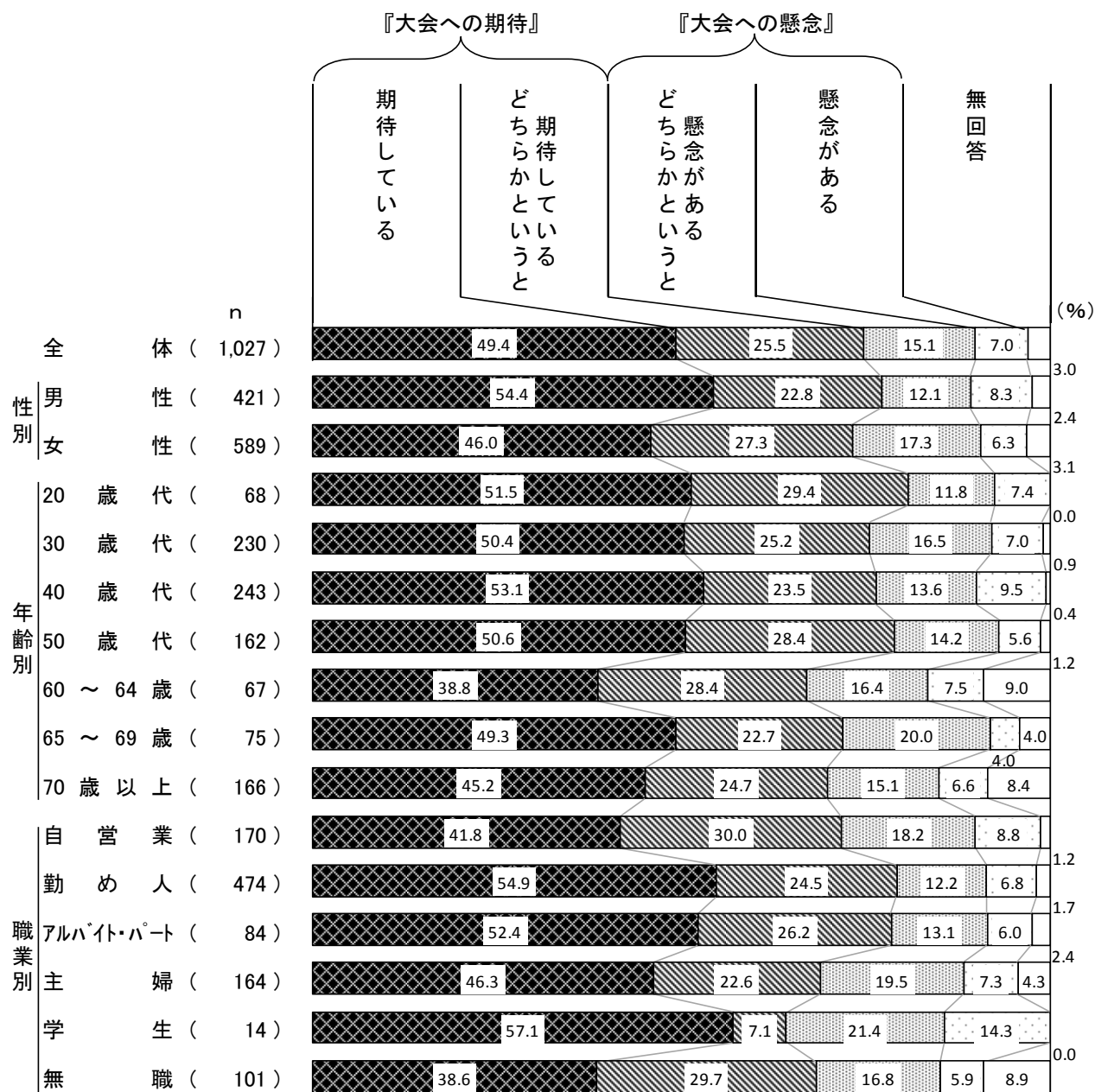
性別でみると、男性の方が女性よりも「期待している」で8.4ポイント、「懸念がある」で2.0ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「どちらかという懸念がある」で5.2ポイント、「どちらかという期待している」で4.5ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「期待している」と「どちらかという期待している」を合わせた『大会への期待』は20歳代と50歳代で約8割、40歳代で8割近くと高くなっている。

職業別でみると、「期待している」と「どちらかという期待している」を合わせた『大会への期待』は勤め人で約8割、アルバイト・パートタイマーで8割近くと高くなっている。

(図表11-1-2)

図表11-1-2 大会への思い—性別・年齢別・職業別



## (2) 大会の開催に伴い期待していること

◇「幹線道路や公共交通の整備促進（道路の整備・拡幅、基幹的交通システム導入など）」が3割を超える

問 29 2020 年東京大会の開催に伴い、あなたが期待していることは何ですか。  
(○は3つまで)

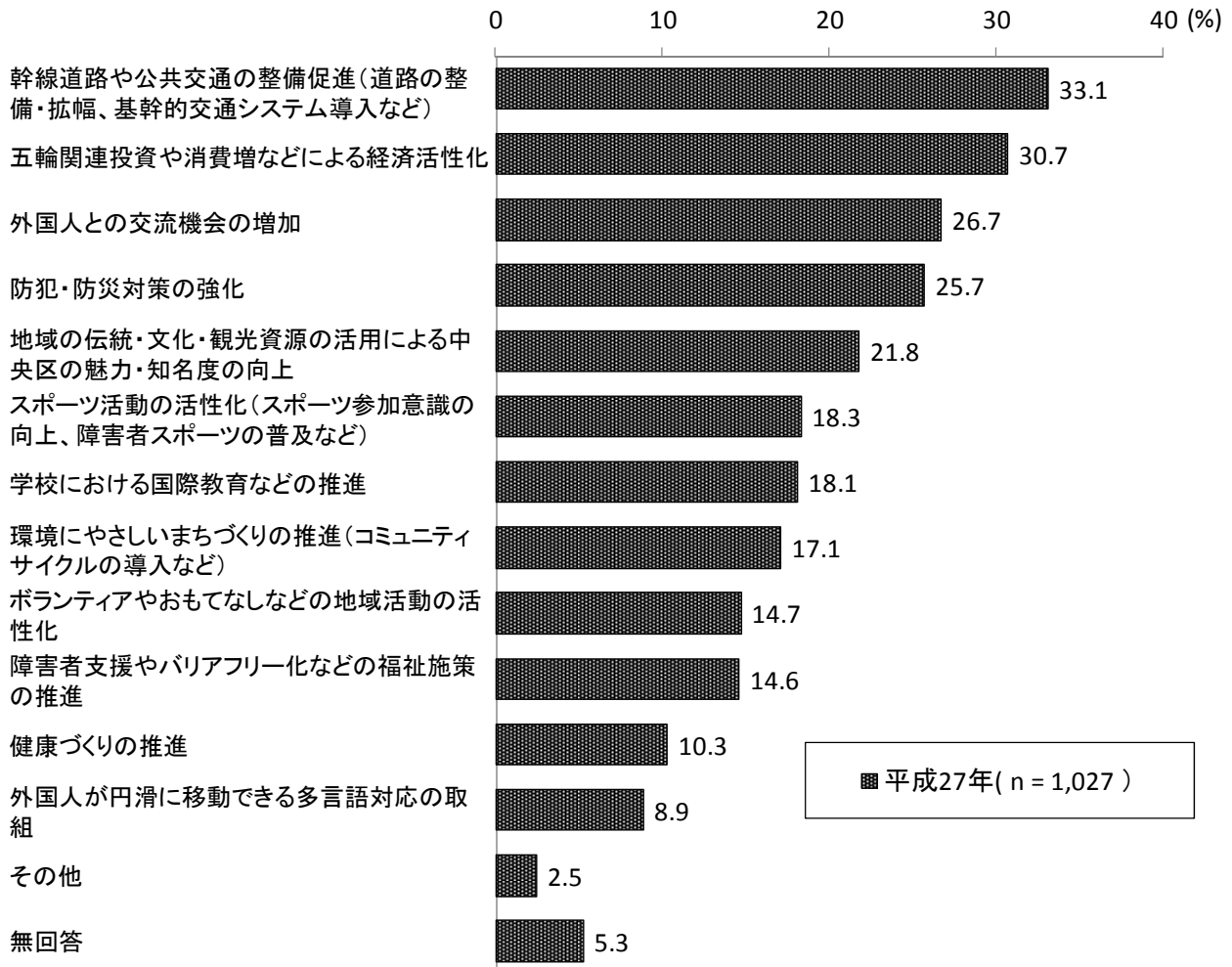
n = 1,027

1	スポーツ活動の活性化 (スポーツ参加意識の向上、障害者スポーツの普及など)	18.3%
2	健康づくりの推進	10.3
3	外国人との交流機会の増加	26.7
4	学校における国際教育などの推進	18.1
5	障害者支援やバリアフリー化などの福祉施策の推進	14.6
6	ボランティアやおもてなしなどの地域活動の活性化	14.7
7	地域の伝統・文化・観光資源の活用による中央区の魅力・知名度の向上	21.8
8	五輪関連投資や消費増などによる経済活性化	30.7
9	防犯・防災対策の強化	25.7
10	幹線道路や公共交通の整備促進 (道路の整備・拡幅、基幹的交通システム導入など)	33.1
11	外国人が円滑に移動できる多言語対応の取組	8.9
12	環境にやさしいまちづくりの推進 (コミュニティサイクルの導入など)	17.1
13	その他	2.5
	(無回答)	5.3

(※) コミュニティサイクル 貸出・返却のための拠点 (サイクルポート) を複数設置し、どのサイクルポートでも自転車を借りられ、返却できるネットワーク型のレンタサイクルです。

大会の開催に伴い期待していることは、「幹線道路や公共交通の整備促進（道路の整備・拡幅、基幹的交通システム導入など）」(33.1%) が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「五輪関連投資や消費増などによる経済活性化」(30.7%)、「外国人との交流機会の増加」(26.7%)、「防犯・防災対策の強化」(25.7%)、「地域の伝統・文化・観光資源の活用による中央区の魅力・知名度の向上」(21.8%) などとなっている。(図表 11-2-1)

図表11-2-1 大会の開催に伴い期待していること（複数回答）



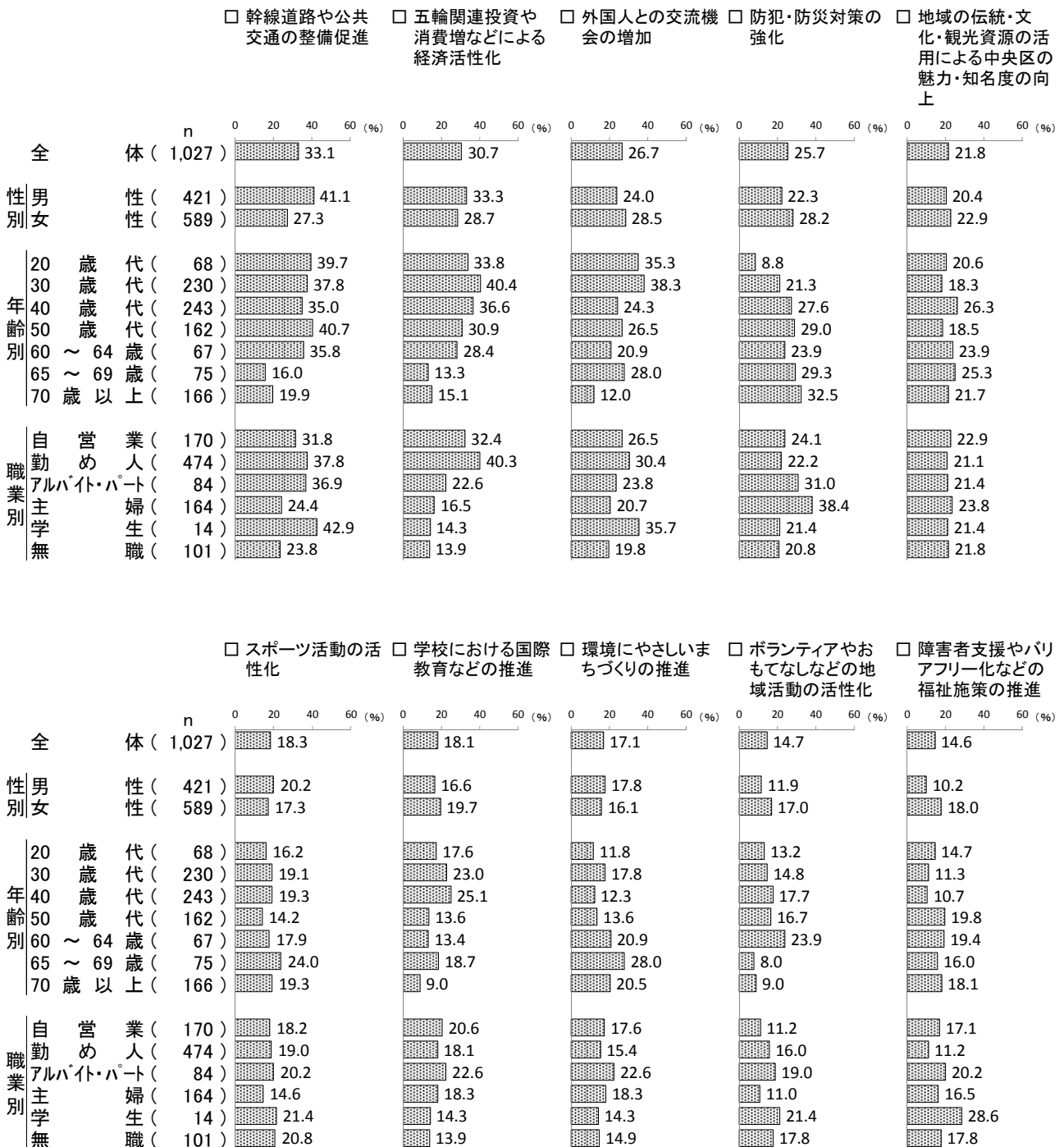


性別でみると、男性の方が女性よりも「幹線道路や公共交通の整備促進（道路の整備・拡幅、基幹的交通システム導入など）」で13.8ポイント、「五輪関連投資や消費増などによる経済活性化」で4.6ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「障害者支援やバリアフリー化などの福祉施策の推進」で7.8ポイント、「防犯・防災対策の強化」で5.9ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「幹線道路や公共交通の整備促進（道路の整備・拡幅、基幹的交通システム導入など）」は50歳代で約4割と高くなっている。「五輪関連投資や消費増などによる経済活性化」は30歳代で4割と高くなっている。

職業別でみると、「五輪関連投資や消費増などによる経済活性化」は勤め人で4割と高くなっている。「防犯・防災対策の強化」は主婦で4割近くと高くなっている。（図表11-2-2）

図表11-2-2 大会の開催に伴い期待していること－性別・年齢別・職業別（上位10項目）



### (3) 大会の開催に伴い懸念していること

◇「観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念」が7割近く

問30 2020年東京大会の開催に伴い、あなたが懸念していることは何ですか。(〇は3つまで)

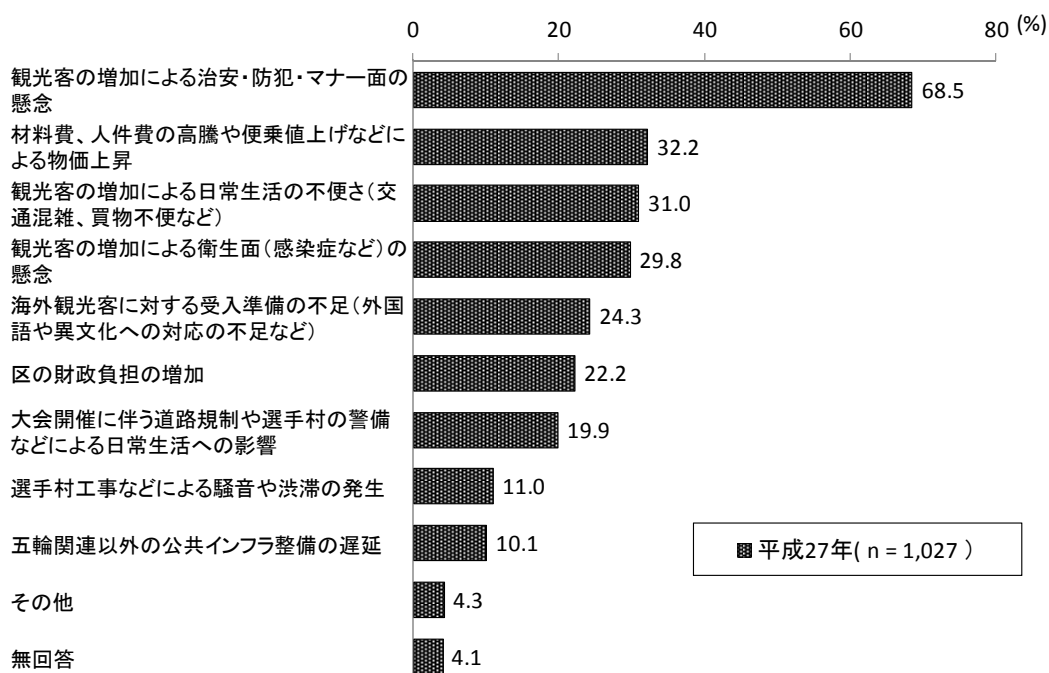
n = 1,027

1	海外観光客に対する受入準備の不足（外国語や異文化への対応の不足など）	24.3%
2	観光客の増加による日常生活の不便さ（交通混雑、買物不便など）	31.0
3	観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念	68.5
4	観光客の増加による衛生面（感染症など）の懸念	29.8
5	大会開催に伴う道路規制や選手村の警備などによる日常生活への影響	19.9
6	選手村工事などによる騒音や渋滞の発生	11.0
7	五輪関連以外の公共インフラ整備の遅延	10.1
8	材料費、人件費の高騰や便乗値上げなどによる物価上昇	32.2
9	区の財政負担の増加	22.2
10	その他	4.3
	（無回答）	4.1

大会の開催に伴い懸念していることは、「観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念」（68.5%）が7割近くと最も高くなっている。次いで、「材料費、人件費の高騰や便乗値上げなどによる物価上昇」（32.2%）、「観光客の増加による日常生活の不便さ（交通混雑、買物不便など）」（31.0%）、「観光客の増加による衛生面（感染症など）の懸念」（29.8%）などとなっている。

（図表11-3-1）

図表11-3-1 大会の開催に伴い懸念していること（複数回答）

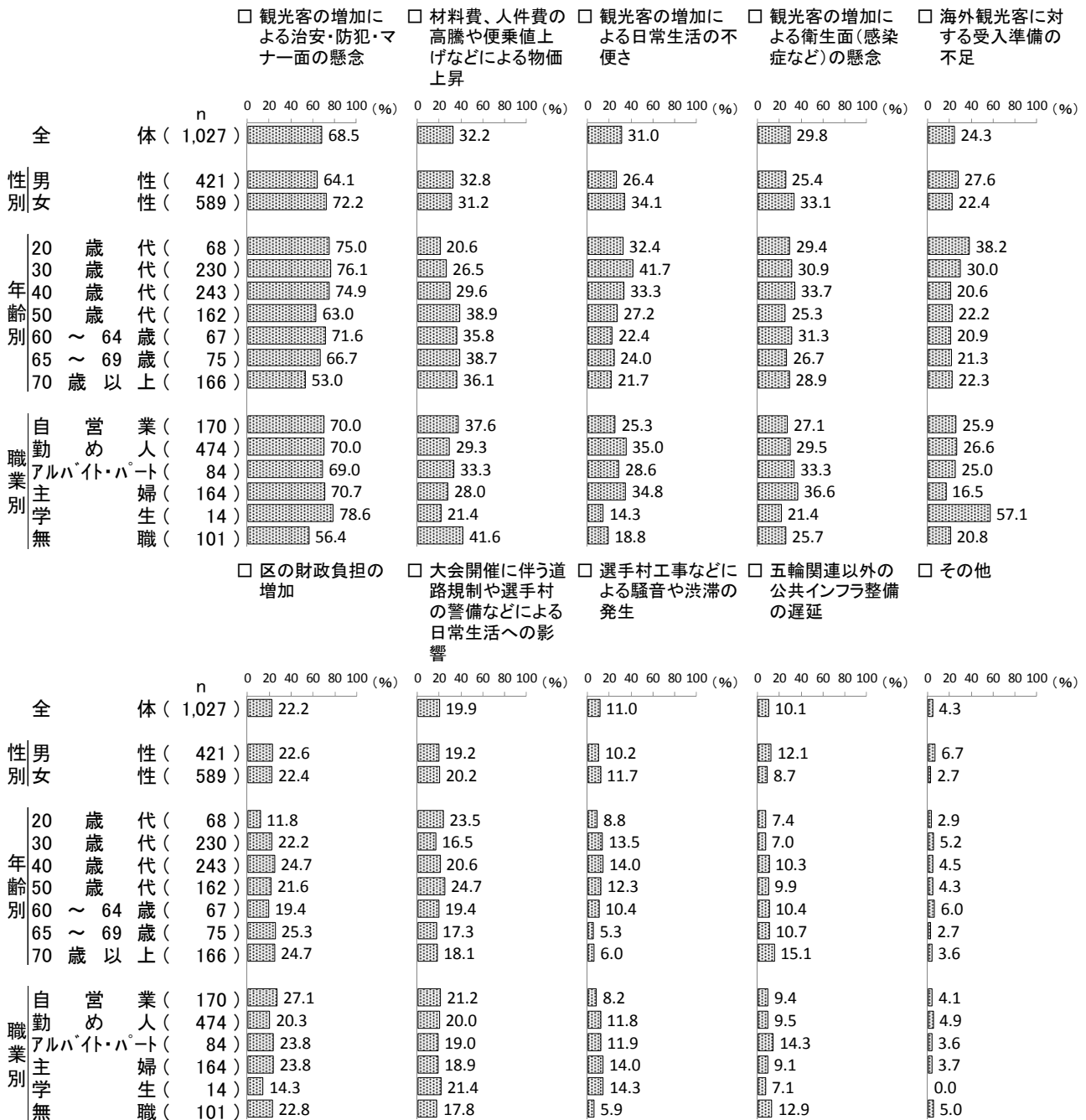


性別でみると、女性の方が男性よりも「観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念」で8.1ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「海外観光客に対する受入準備の不足（外国語や異文化への対応の不足など）」で5.2ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念」は20歳代～40歳代までで7割台半ばと高くなっている。「観光客の増加による日常生活の不便さ（交通混雑、買物不便など）」は30歳代で4割を超え、「海外観光客に対する受入準備の不足（外国語や異文化への対応の不足など）」は20歳代で4割近くと高くなっている。

職業別でみると、「観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念」は学生で8割近く、主婦で約7割と高くなっている。「材料費、人件費の高騰や便乗値上げなどによる物価上昇」は無職で4割を超えて高くなっている。（図表11-3-3）

図表11-3-3 大会の開催に伴い懸念していることー性別・年齢別・職業別



## 【12 施策の要望・評価】

### (1) 区の施策の満足度と重要度

◇満足度が高いのは「公園・緑地・水辺の整備」、低いのは「駐車場・駐輪場の整備」

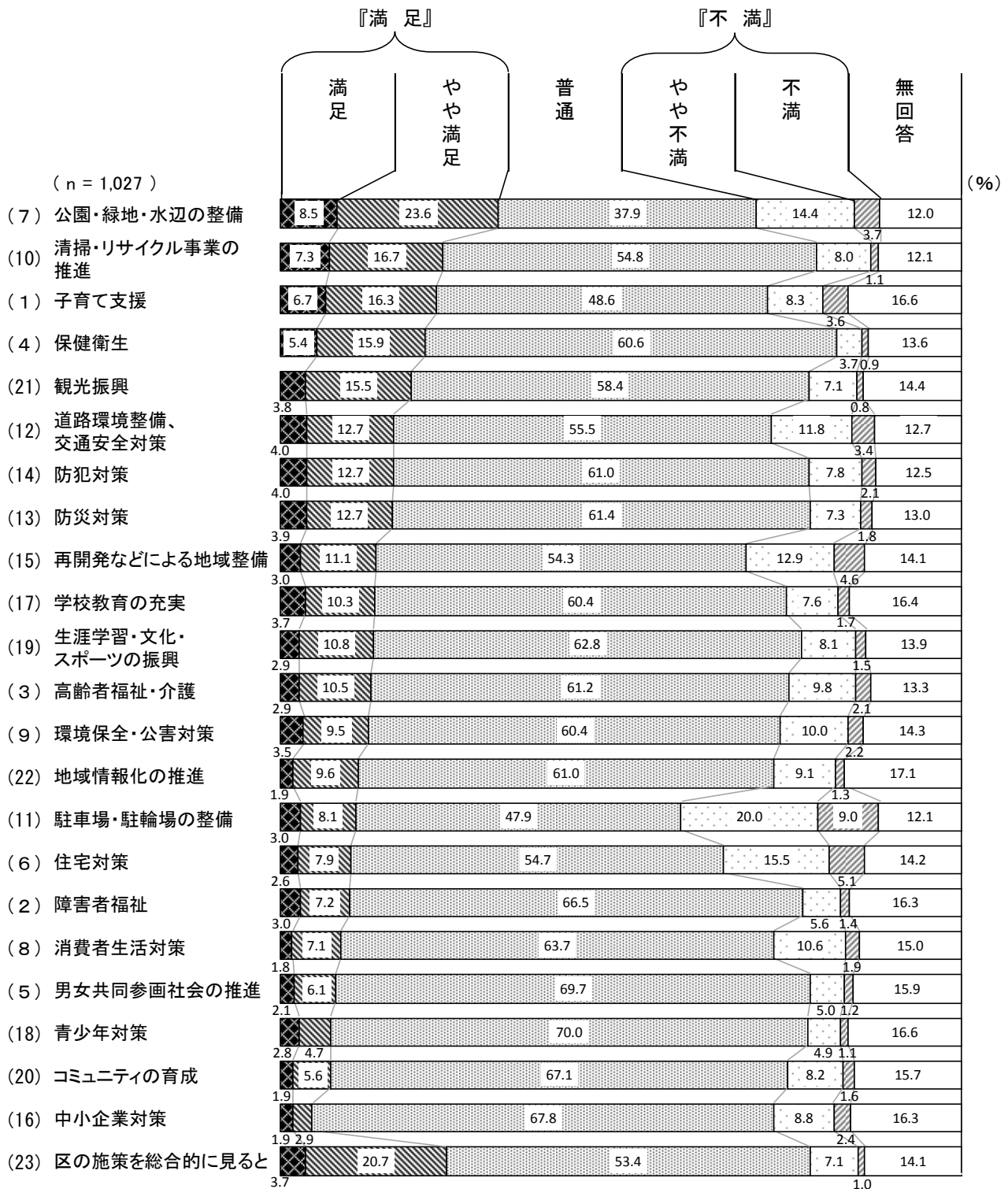
◇重要度が高いのは「防災対策」、低いのは「男女共同参画社会の推進」

問31 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。また、その施策をどの程度重視していますか。満足度と重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	満足度					無回答	重要度				(%)
	1 満足	2 やや満足	3 普通	4 やや不満	5 不満		1 たいへん重要	2 比較的 重要	3 普通	無回答	
n = 1, 027											
(1) 子育て支援	6.7	16.3	48.6	8.3	3.6	16.6	47.5	17.4	13.1	21.9	
(2) 障害者福祉	3.0	7.2	66.5	5.6	1.4	16.3	28.3	27.6	22.1	22.0	
(3) 高齢者福祉・介護	2.9	10.5	61.2	9.8	2.1	13.3	40.7	21.1	17.4	20.7	
(4) 保健衛生	5.4	15.9	60.6	3.7	0.9	13.6	27.3	31.2	20.5	21.0	
(5) 男女共同参画社会の推進	2.1	6.1	69.7	5.0	1.2	15.9	9.3	28.5	39.5	22.6	
(6) 住宅対策	2.6	7.9	54.7	15.5	5.1	14.2	23.4	29.1	26.3	21.2	
(7) 公園・緑地・水辺の整備	8.5	23.6	37.9	14.4	3.7	12.0	24.3	34.3	21.4	20.0	
(8) 消費者生活対策	1.8	7.1	63.7	10.6	1.9	15.0	15.7	32.2	30.2	21.9	
(9) 環境保全・公害対策	3.5	9.5	60.4	10.0	2.2	14.3	24.0	31.9	22.9	21.2	
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	7.3	16.7	54.8	8.0	1.1	12.1	20.2	33.8	25.7	20.4	
(11) 駐車場・駐輪場の整備	3.0	8.1	47.9	20.0	9.0	12.1	18.3	30.8	30.6	20.4	
(12) 道路環境整備、交通安全対策	4.0	12.7	55.5	11.8	3.4	12.7	23.7	31.9	23.5	20.9	
(13) 防災対策	3.9	12.7	61.4	7.3	1.8	13.0	40.0	25.1	14.0	20.8	
(14) 防犯対策	4.0	12.7	61.0	7.8	2.1	12.5	37.8	26.8	15.0	20.4	
(15) 再開発などによる地域整備	3.0	11.1	54.3	12.9	4.6	14.1	17.2	29.4	31.8	21.5	
(16) 中小企業対策	1.9	2.9	67.8	8.8	2.4	16.3	13.4	25.8	38.1	22.7	
(17) 学校教育の充実	3.7	10.3	60.4	7.6	1.7	16.4	30.7	23.2	23.7	22.5	
(18) 青少年対策	2.8	4.7	70.0	4.9	1.1	16.6	20.3	26.4	30.9	22.5	
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	2.9	10.8	62.8	8.1	1.5	13.9	11.5	31.2	36.0	21.3	
(20) コミュニティの育成	1.9	5.6	67.1	8.2	1.6	15.7	10.3	29.4	38.2	22.1	
(21) 観光振興	3.8	15.5	58.4	7.1	0.8	14.4	14.3	27.9	36.2	21.5	
(22) 地域情報化の推進 (福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	1.9	9.6	61.0	9.1	1.3	17.1	13.4	31.8	30.9	23.9	
(23) 区の施策を総合的に見ると	3.7	20.7	53.4	7.1	1.0	14.1					

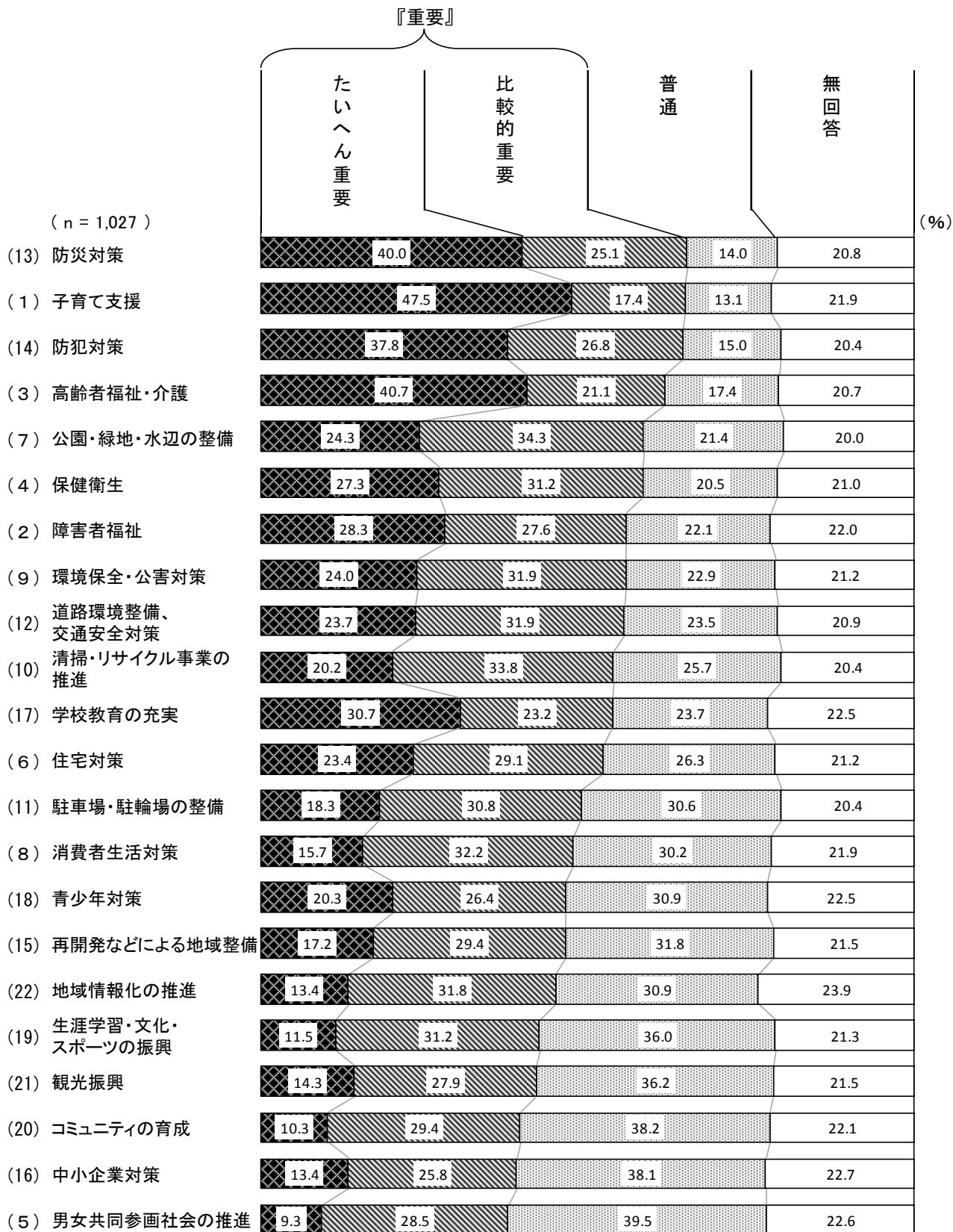
次のグラフは、「満足」と「やや満足」の合算で、高い順に並べたものである。「公園・緑地・水辺の整備」は、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』(32.1%)が3割を超えて高くなっている。一方、「駐車場・駐輪場の整備」は、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』(29.0%)が約3割と最も高くなっている。(図表12-1-1)

図表12-1-1 満足度全体



次のグラフは、「たいへん重要」と「比較的重要」の合算で高い順に並べたものである。「防災対策」は、「たいへん重要」と「比較的重要」を合わせた『重要』(65.1%)が6割台半ばと最も高くなっている。(図表12-1-2)

図表12-1-2 重要度全体



## ■満足度順位

「満足」と「やや満足」の合計を『満足』とし、「やや不満」と「不満」の合計を『不満』とした場合の、それぞれの上位5項目は次のようになっている。

『満 足』		『不 満』	
①公園・緑地・水辺の整備	(32.1%)	①駐車場・駐輪場の整備	(29.0%)
②清掃・リサイクル事業の推進	(24.0%)	②住宅対策	(20.6%)
③子育て支援	(23.0%)	③公園・緑地・水辺の整備	(18.1%)
④保健衛生	(21.3%)	④再開発などによる地域整備	(17.5%)
⑤観光振興	(19.3%)	⑤道路環境整備、交通安全対策	(15.2%)

## ■重要度順位

「たいへん重要」と「比較的重要」の合計を『重要』とした場合の、上位5項目と下位5項目は次のようになっている。

上 位		下 位	
①防災対策	(65.1%)	①男女共同参画社会の推進	(37.8%)
②子育て支援	(64.9%)	②中小企業対策	(39.2%)
③防犯対策	(64.6%)	③コミュニティの育成	(39.7%)
④高齢者福祉・介護	(61.8%)	④観光振興	(42.2%)
⑤公園・緑地・水辺の整備	(58.6%)	⑤生涯学習・文化・スポーツの振興	(42.7%)

満足度・重要度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

$$\text{満足度評価点} = \left( \text{「満足」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「やや満足」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 0 \text{点} + \text{「やや不満」の回答者数} \times -5 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times -10 \text{点} \right) \div \left( \text{回答者数} - \text{無回答者数} \right)$$

$$\text{重要度評価点} = \left( \text{「たいへん重要」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「比較的重要」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 0 \text{点} \right) \div \left( \text{回答者数} - \text{無回答者数} \right)$$

この計算方法では、満足度の場合の評価点は、+10.00点～-10.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、+10.00点に近くなるほど満足度は高くなり、逆に-10.00点に近くなるほど不満足度が高くなる。一方、重要度は、+10.00点～0.00点の間に分布することになる。

以上の算出方法による評価点の上位5項目、下位5項目は次のようになっている。

**【満足度】**

上 位		下 位	
①保健衛生	(1.22)	①駐車場・駐輪場の整備	(-1.35)
②清掃・リサイクル事業の推進	(1.21)	②住宅対策	(-0.73)
③公園・緑地・水辺の整備	(1.06)	③中小企業対策	(-0.42)
④子育て支援	(0.85)	④再開発などによる地域整備	(-0.28)
⑤観光振興	(0.84)	⑤消費者生活対策	(-0.22)

**【重要度】**

上 位		下 位	
①子育て支援	(7.20)	①男女共同参画社会の推進	(3.05)
②防災対策	(6.64)	②コミュニティの育成	(3.21)
③高齢者福祉・介護	(6.47)	③中小企業対策	(3.41)
④防犯対策	(6.43)	④生涯学習・文化・スポーツの振興	(3.44)
⑤学校教育の充実	(5.45)	⑤観光振興	(3.60)



居住地域別に満足度をみると、京橋地域では、「公園・緑地・水辺の整備」(1.13)、「清掃・リサイクル事業の推進」(1.01)、「保健衛生」(0.90)、が比較的高くなっている。一方、「駐車場・駐輪場の整備」(-1.89)、「住宅対策」(-1.25)、「中小企業対策」(-0.89)が比較的低くなっている。

日本橋地域では、「保健衛生」(1.27)、「清掃・リサイクル事業の推進」(1.19)、「観光振興」(1.10)が比較的高くなっている。一方、「駐車場・駐輪場の整備」(-1.34)、「住宅対策」(-0.43)が比較的低くなっている。

月島地域では、「保健衛生」(1.36)、「清掃・リサイクル事業の推進」(1.31)、「子育て支援」(1.21)が比較的高くなっている。一方、「駐車場・駐輪場の整備」(-1.07)、「住宅対策」(-0.66)が比較的低くなっている。

居住地域別に重要度をみると、京橋地域と日本橋地域では「子育て支援」、「防災対策」、「防犯対策」が上位3項目となっている。一方、月島地域では「子育て支援」、「防災対策」、「高齢者福祉・介護」となっている。(図表12-1-3)

図表12-1-3 区の施策の満足度と重要度－居住地域別

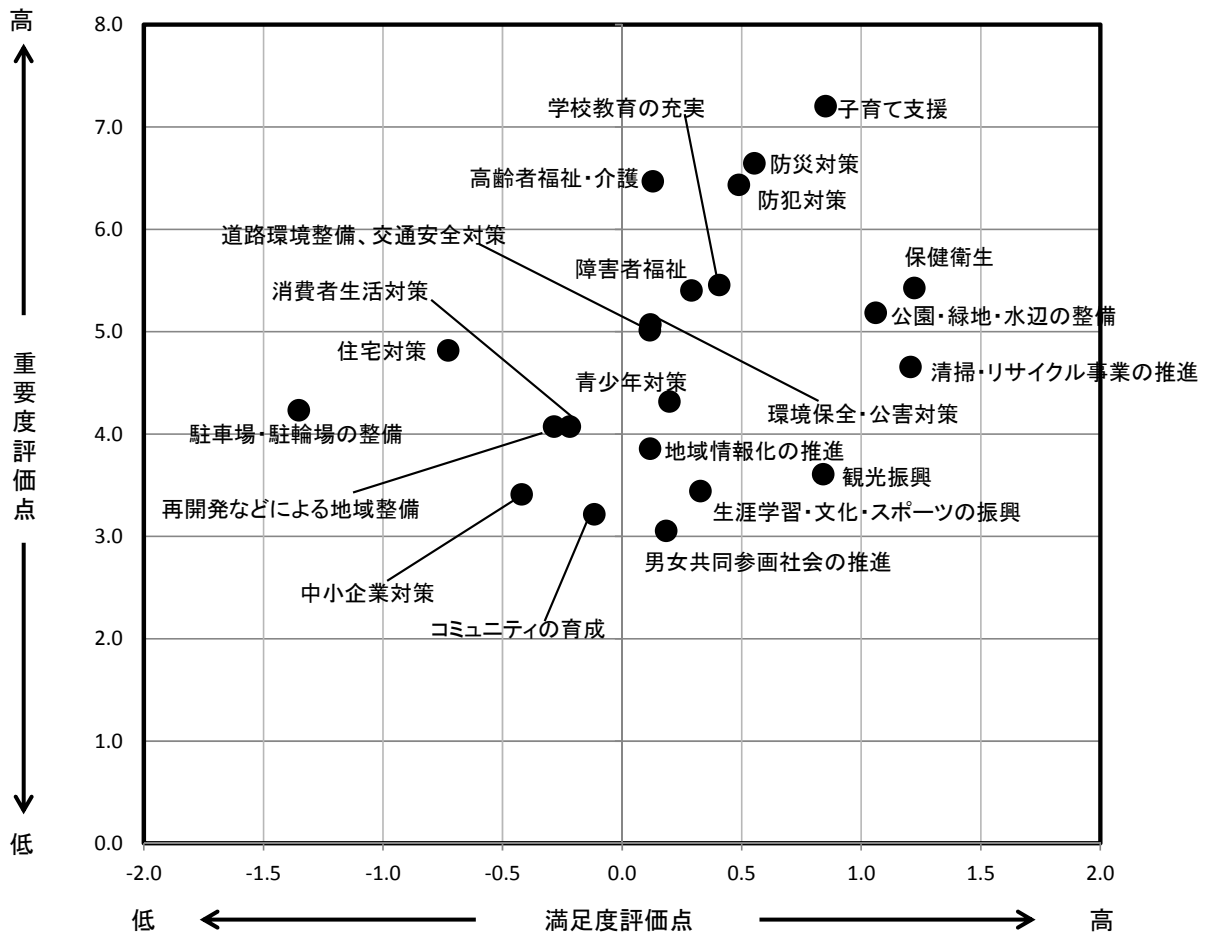
項目	満足度				重要度			
	全 体	京 橋 地 域	日 本 橋 地 域	月 島 地 域	全 体	京 橋 地 域	日 本 橋 地 域	月 島 地 域
(1) 子育て支援	0.85	0.56	0.56	1.21	7.20	7.21	7.21	7.21
(2) 障害者福祉	0.29	0.30	0.10	0.42	5.40	5.27	5.35	5.51
(3) 高齢者福祉・介護	0.13	0.21	0.00	0.17	6.47	6.29	6.49	6.54
(4) 保健衛生	1.22	0.90	1.27	1.36	5.43	5.21	5.79	5.26
(5) 男女共同参画社会の推進	0.19	0.05	0.21	0.24	3.05	3.18	2.95	3.06
(6) 住宅対策	-0.73	-1.25	-0.43	-0.66	4.81	5.00	4.51	4.92
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1.06	1.13	1.07	1.00	5.18	5.50	4.68	5.37
(8) 消費者生活対策	-0.22	-0.60	-0.06	-0.13	4.07	4.23	4.19	3.89
(9) 環境保全・公害対策	0.12	0.05	0.24	0.08	5.07	5.11	5.02	5.07
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1.21	1.01	1.19	1.31	4.65	4.84	4.60	4.58
(11) 駐車場・駐輪場の整備	-1.35	-1.89	-1.34	-1.07	4.23	4.65	3.94	4.24
(12) 道路環境整備、交通安全対策	0.12	-0.07	0.58	-0.10	5.01	4.58	4.67	5.48
(13) 防災対策	0.55	0.26	0.82	0.53	6.64	6.30	6.91	6.63
(14) 防犯対策	0.49	0.09	0.65	0.59	6.43	6.31	6.65	6.34
(15) 再開発などによる地域整備	-0.28	-0.60	0.37	-0.56	4.07	4.01	3.74	4.34
(16) 中小企業対策	-0.42	-0.89	-0.10	-0.39	3.41	3.83	3.45	3.17
(17) 学校教育の充実	0.41	0.40	0.72	0.20	5.45	5.46	5.45	5.46
(18) 青少年対策	0.20	0.10	0.40	0.11	4.32	4.51	4.19	4.32
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	0.33	0.22	0.48	0.29	3.44	3.70	3.30	3.42
(20) コミュニティの育成	-0.12	-0.02	-0.07	-0.19	3.21	3.41	3.29	3.07
(21) 観光振興	0.84	0.85	1.10	0.66	3.60	3.61	3.88	3.42
(22) 地域情報化の推進	0.12	0.05	0.11	0.15	3.86	3.83	3.93	3.83

次の図表は、加重平均値による満足度評価と重要度評価を相関させた散布図である。横軸が満足度評価点、縦軸が重要度評価点になっている。

右に位置するほど満足度が高く、上に位置するほど重要度が高いといえる。満足度評価点が低く、重要度評価点が高い領域（左上方）にある項目が、住民ニーズの高いものと考えられる。

(図表12-1-4)

図表12-1-4 区の施策の満足度評価点と重要度評価点の相関



## (2) 区の施策への要望

◇「子育て支援」が3割台半ばで1位、2位は「高齢者福祉・介護」、3位は「防災対策」

問32 問31の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。1位から3位までを選んで番号を記入してください。(1~22までの番号)

n = 1,027

	第1位	第2位	第3位	(%) 全体
(1) 子育て支援	22.7	6.5	6.6	35.8
(2) 障害者福祉	1.8	3.2	2.8	7.8
(3) 高齢者福祉・介護	16.3	10.4	8.0	34.7
(4) 保健衛生	2.0	2.2	3.3	7.6
(5) 男女共同参画社会の推進	0.8	1.1	0.9	2.7
(6) 住宅対策	4.8	4.7	4.0	13.4
(7) 公園・緑地・水辺の整備	5.1	8.1	4.8	17.9
(8) 消費者生活対策	2.2	3.8	3.9	9.9
(9) 環境保全・公害対策	1.6	3.1	4.1	8.8
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	0.9	1.9	2.0	4.8
(11) 駐車場・駐輪場の整備	2.9	4.5	3.1	10.5
(12) 道路環境整備、交通安全対策	2.2	3.3	3.5	9.1
(13) 防災対策	7.1	10.6	6.5	24.2
(14) 防犯対策	5.6	8.0	9.0	22.5
(15) 再開発などによる地域整備	2.8	3.0	4.5	10.3
(16) 中小企業対策	1.8	1.3	1.8	4.8
(17) 学校教育の充実	3.6	5.6	6.1	15.3
(18) 青少年対策	0.1	1.0	1.7	2.7
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1.2	2.6	3.4	7.2
(20) コミュニティの育成	1.3	0.6	1.3	3.1
(21) 観光振興	0.9	1.3	3.0	5.2
(22) 地域情報化の推進 (福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス 情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	0.9	0.4	1.9	3.1
(無回答)	11.7	13.0	13.9	11.7

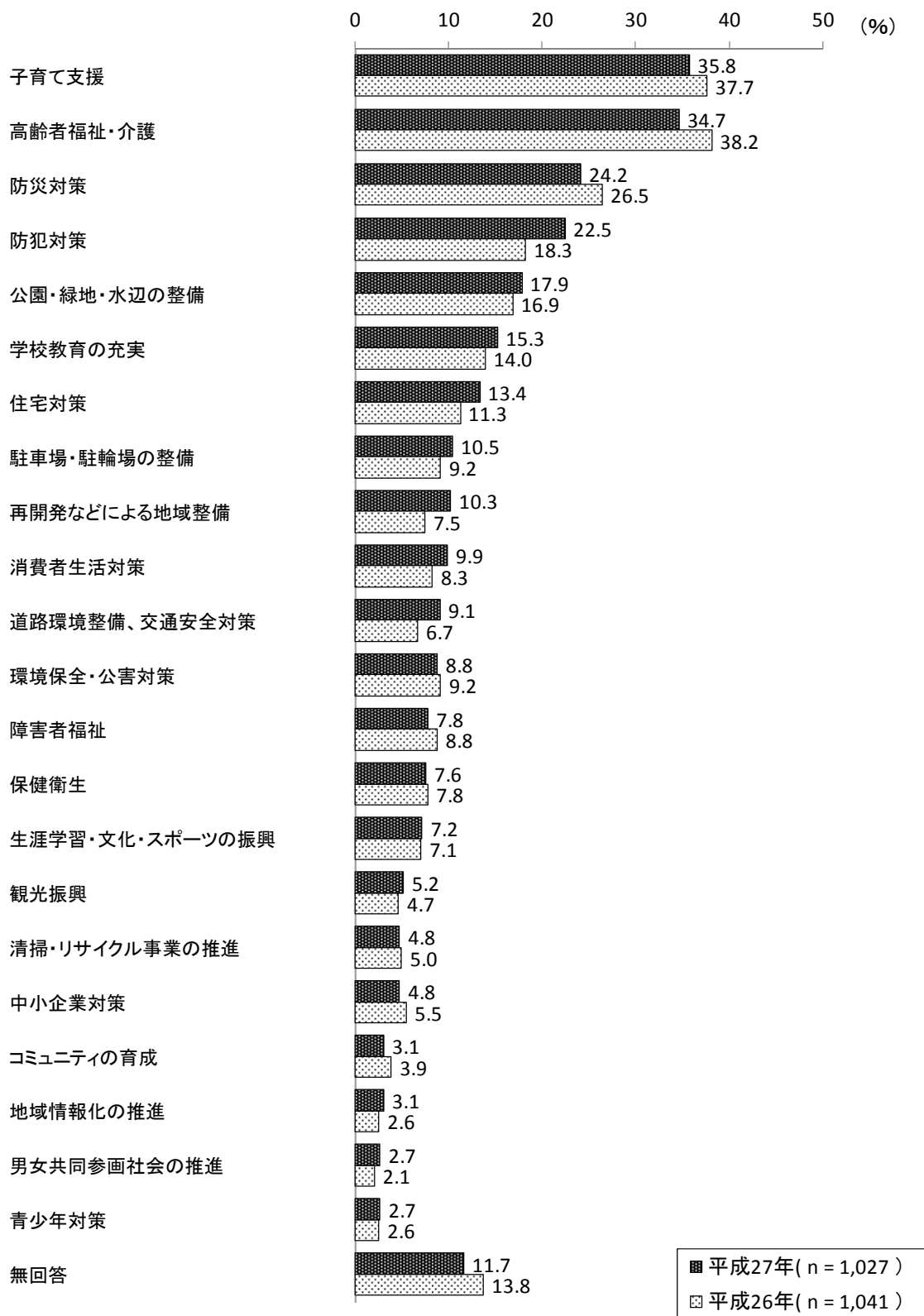
\*全体の無回答の割合は第1位の無回答の割合とした。

区の施策への要望としては、1位が「子育て支援」(35.8%)、2位が「高齢者福祉・介護」(34.7%)、3位が「防災対策」(24.2%)となっている。

昨年の調査結果と比較すると、「防犯対策」は4.2ポイント、「再開発などによる地域整備」は2.8ポイント、それぞれ増加している。一方、「高齢者福祉・介護」は3.5ポイント減少している。

(図表12-2-1)

図表12-2-1 区の施策への要望（複数回答）



性別でみると、女性の方が男性よりも「高齢者福祉・介護」で5.7ポイント、「消費者生活対策」で5.1ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「公園・緑地・水辺の整備」で4.4ポイント、「学校教育の充実」で4.3ポイント、それぞれ高くなっている。

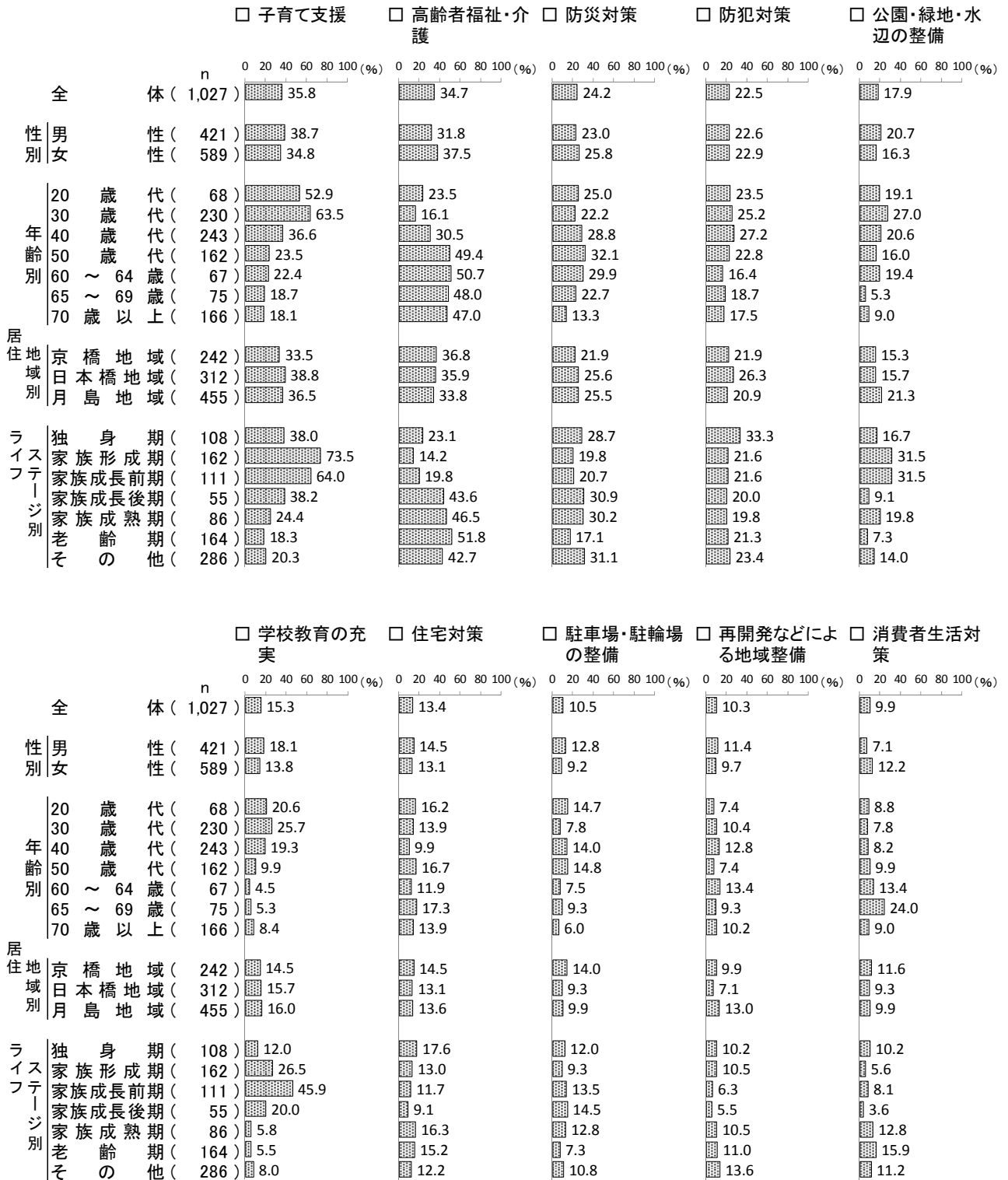
年齢別でみると、「子育て支援」は30歳代で6割を超え、20歳代で5割を超えて高くなっている。「高齢者福祉・介護」は50歳代および60～64歳で約5割と高くなっている。「公園・緑地・水辺の整備」は30歳代で3割近くと高くなっている。

居住地域別でみると、「防犯対策」は日本橋地域で2割台半ばと高く、「公園・緑地・水辺の整備」は月島地域で2割を超えて高くなっている。「駐車場・駐輪場の整備」は京橋地域で1割台半ばと高くなっている。

ライフステージ別でみると、「子育て支援」は家族形成期で7割を超えて、家族成長前期で6割台半ばと高くなっている。「高齢者福祉・介護」は高齢期で5割を超えて高くなっている。「学校教育の充実」は家族成長前期で4割台半ばと高く、「防犯対策」は独身期で3割を超えて高くなっている。「公園・緑地・水辺の整備」は家族形成期と家族成長前期で3割を超えて高くなっている。

(図表12-2-2)

図表12-2-2 区の施策への要望—性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別（上位10項目）



## V 結果の数表





## V 結果の数表

### 1 定住性

問1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。(○は1つ)

全 体	3 年 未 満	3 ～ 6 年 未 満	6 ～ 10 年 未 満	10 ～ 15 年 未 満	15 ～ 20 年 未 満	20 年 以 上	生 ま れ て か ら ず つ と	無 回 答	短 期 居 住 者	中 期 居 住 者	長 期 居 住 者	上段：実数
												下段：%
1,027	207	158	137	157	75	187	105	1	365	369	292	
100.0	20.2	15.4	13.3	15.3	7.3	18.2	10.2	0.1	35.6	35.9	28.4	

問2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。(○は1つ)

全 体	非 常 に 感 じ る	少 し は 感 じ る	あ ま り 感 じ な い	感 じ な い	わ か ら な い	無 回 答	上段：実数
							下段：%
1,027	453	420	84	28	41	1	
100.0	44.1	40.9	8.2	2.7	4.0	0.1	

問3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。(○は1つ)

全 体	住 み 続 け た い	で き れ ば 住 み 続 け た い	で き れ ば 転 出 し た い	転 出 し た い	わ か ら な い	無 回 答	上段：実数
							下段：%
1,027	574	316	17	4	114	2	
100.0	55.9	30.8	1.7	0.4	11.1	0.2	

## 2 防災対策

問4 あなたの家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。（〇はいくつでも）

上段：実数  
下段：%

全 体	食料の備蓄	飲料水の備蓄	簡易トイレの備蓄	家具類の転倒防止	消火器・救急セットなどの備え	パルやハンマーなどの救 助用具の備え	貴重品を持ち出す準備	風呂などへの水のため置き	救命救助の講習会への参加	町会・自治会などの地域の 防災訓練への参加	避難方法、避難場所の確認	家庭での話し合い 連絡方法など	建物の補強	その他	特 に な い	無 回 答
1,027 100.0	593 57.7	652 63.5	348 33.9	362 35.2	483 47.0	116 11.3	244 23.8	210 20.4	108 10.5	170 16.6	363 35.3	307 29.9	58 5.6	26 2.5	148 14.4	5 0.5

（問4で、「食料の備蓄」、「飲料水の備蓄」、「簡易トイレの備蓄」とお答えの方に）

問4-1 災害に対する備蓄量

	全 体	1 日 分 以 下	2 日 分	3 日 分	4 〜 6 日 分	1 週 間 分 以 上	無 回 答	平均 備 蓄 （ 日 数 ）	最小 備 蓄 （ 日 数 ）	最大 備 蓄 （ 日 数 ）
食料の備蓄	593 100.0	96 16.2	130 21.9	204 34.4	45 7.6	83 14.0	35 5.9	3.50	0.5	35
飲料水の備蓄	652 100.0	90 13.8	126 19.3	191 29.3	74 11.3	124 19.0	47 7.2	4.41	0.1	60
簡易トイレの備蓄	348 100.0	54 15.5	58 16.7	111 31.9	26 7.5	63 18.1	36 10.3	4.14	0.5	30

上段：実数  
下段：%

問5 大地震が発生した場合、家具の転倒やガラスの飛散により大けがをすることがあります。あなたのご自宅では、どのような備えを行っていますか。（〇はいくつでも）

全 体	た ん す 、 書 棚 な ど の 転 倒 し な い よ	テ レ ビ 、 パ ソ コ ン な ど の 落 下 し な	窓 や 食 器 棚 な ど の ガ ラ ス 面 に 飛	食 器 棚 な ど に 止 め 金 具 を 付 け て	家 具 の 配 置 を 工 夫 し て い る	家 具 類 が な い た め 固 定 す る 必 要	特 に 何 も し て い な い	無 回 答
1,027 100.0	328 31.9	241 23.5	69 6.7	217 21.1	342 33.3	49 4.8	333 32.4	21 2.0

上段：実数  
下段：%

問6 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所や救護所などの機能を持っています。  
あなたは、ご自分の地域の「防災拠点」を知っていますか。(○は1つ)

全 体	知 つ て い る	知 つ て い る が、 場 所 は	知 ら な い	無 回 答	上段：実数
					下段：%
1,027	612	129	269	17	
100.0	59.6	12.6	26.2	1.7	

(問6で、「知っている」または「知っているが、場所はわからない」とお答えの方に)  
問6-1 この防災拠点の災害時の運営を円滑に進めるため、町会・自治会や防災区民組織が  
防災拠点運営委員会をつくり、防災訓練の実施や日頃から防災について話し合うな  
ど、災害に備えた協力体制をとっていることをあなたは知っていますか。(○は1つ)

全 体	知 つ て い る	知 つ て い る が、 活 動 内 容	知 ら な い	無 回 答	上段：実数
					下段：%
741	190	310	224	17	
100.0	25.6	41.8	30.2	2.3	

問7 大地震などの災害が起こり、自宅が火災や倒壊などにより居住できず防災拠点へ避難  
することになった場合、あなたが特に気がかりなことは何ですか。  
(○はいくつでも)

全 体	水・食料	トイレ	プライバシー	家族・友人・知人などの安否	災害状況・対策などの情報	医療・医薬品	高齢者介護や乳幼児保育	スペースの確保	暑さ寒さ対策	ペットの世話	その他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答	上段：実数
															下段：%
1,027	695	775	393	627	369	439	246	323	473	106	55	14	15	4	
100.0	67.7	75.5	38.3	61.1	35.9	42.7	24.0	31.5	46.1	10.3	5.4	1.4	1.5	0.4	

問8 大震災などの災害が起こったら、お住まいの近くで、あなたが協力できると思う活動には何がありますか。(〇はいくつでも)

全体	負傷者の応急手当	倒壊家屋などからの救出・救助	初期の消火活動	避難所での被災者の世話	救災活動への協力 救災物資の仕分けなどの防	外国語通訳・手話・建物の技術 危険度判定など専門的技	インターネットによる情報 収集や伝達	その他の支援活動	協力できそうもない	わからない	無回答
1,027	257	269	365	478	571	122	243	35	87	107	20
100.0	25.0	26.2	35.5	46.5	55.6	11.9	23.7	3.4	8.5	10.4	1.9

上段：実数  
下段：%

問9 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

全体	区のホームページ	ちゅうおう安全・安心メール	インターネット	ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルサービス)	防災行政無線 (屋外スピーカーカー)	緊急告知ラジオ	ケーブルテレビ	その他	無回答
1,027	294	145	515	325	407	439	81	20	38
100.0	28.6	14.1	50.1	31.6	39.6	42.7	7.9	1.9	3.7

上段：実数  
下段：%

### 3 健康診査

問10 あなたが加入している健康保険は次のどれですか。(○は1つ)

全 体	中央区国民健康保険	国民健康保険(入する健康保険)の業種ごとに加入(自営)	健康保険組合	協会けんぽ(全国健康保険協会)	共済組合	後期高齢者医療制度	その他	無回答	上段：実数 下段：%	
									1,027 100.0	190 18.5

問11 あなたは、この1年間に健康診査(健康診断)を受けましたか。(○はいくつでも)

全 体	区で実施している健康診査を受けた	勤務先(含む)で実施した健康診査(家族の勤務先を含む)を受けた	加入している健康保険組合などで実施した健康診査	個人で人間ドックなどを受けた	学校で実施する健康診査を受けた	その他で受けた	健康診査は受けていない	無回答	上段：実数 下段：%	
									1,027 100.0	280 27.3

(問11で、「健康診査は受けていない」とお答えの方に)

問11-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。(○はいくつでも)

上段：実数  
下段：%

全 体	勤務先(含む)などでの実施をしない	受診方法がわからない	必要がない	時間がない	面倒である	健康に自信がある	病気になる医者にかかって	検査がいや	病気が怖い診断されるのが	費用がかかる	その他	無回答	上段：実数 下段：%	
													192 100.0	19 9.9

#### 4 高齢者施策

問12 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。  
(もっとも近い考え1つに○)

全 体	主に受けるが、介護を受けたい	主に介護を利用したい	高齢者向け住宅に	特別養護老人ホーム	介護付き有料老人ホーム	その他	わからない	無回答	上段：実数 下段：%	
									1,027 100.0	120 11.7

問13 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これからの高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思えますか。(○はいくつでも)

全 体	健康づくり・介護予防の充実	就労・社会参加の促進	在宅サービス(医療・介護・)	特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなど	高齢者向け住宅の整備・誘致	ひとり暮らしの支援	低所得者への経済的支援	特にない	無回答	上段：実数 下段：%	
										1,027 100.0	389 37.9

#### 5 子育て支援

問14 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。  
(○は2つまで)

上段：実数  
下段：%

全 体	配偶者・パートナー	その他の親族	職場の人	隣近所の人、知人、友人	保育園・認定こども園・幼稚園	・学校の先生	子ども家庭支援センター、児童館、あちやん天国など	センターの担当者(健診時などで) 保健所、保健	その他	特に相談しない	子育てを経験していない	無回答	上段：実数 下段：%	
													1,027 100.0	367 35.7

問15 あなたは、これからの区の子育て支援で何が重要と考えますか。  
(○は2つまで)

上段：実数  
下段：%

全 体	保育園・認定こども園・幼稚園・地域	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの保	子育ての充実	子どもの教育環境の整備	情報の提供や相談サービスの充実	公園の整備など、子どもが安心して育てることができるよう	母親とおよび増進	職業生活と家庭生活との両立	児童虐待防止対策の充実	経済的な支援の充実	特 に な い	無 回 答
1,027 100.0	422 41.1	400 38.9	73 7.1	147 14.3	67 6.5	182 17.7	44 4.3	202 19.7	77 7.5	107 10.4	101 9.8	101 9.8

## 6 障害者福祉

問16 障害のあるなしによって分け隔てすることなく、人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現が求められています。あなたは、この考え方を広く区民に定着させるために、何が重要だと思いますか。(○は2つまで)

全 体	障害を深める活動	障害参加できる人とのイベントの開催	学校を深める授業や活動の実施	町会での自治会などによる意識の高	社会福祉協議会や関係機関・意識	障害者の育成および活動支援	その他	無 回 答
1,027 100.0	335 32.6	293 28.5	481 46.8	170 16.6	101 9.8	258 25.1	34 3.3	46 4.5

上段：実数  
下段：%

問17 あなたは、これからの区の障害者支援施策で何が重要だと思いますか。(○は2つまで)

全 体	障害者雇用の拡大に向けた取	手当などの経済的な支援の充	デイケアや作業所など日中活	グループホームや入所施設な	障害を深める活動の充実	情報の提供や相談サービスの充	障害者虐待防止対策の充実	障害者がスポーツに親しめる	その他	無 回 答
1,027 100.0	459 44.7	190 18.5	367 35.7	192 18.7	224 21.8	136 13.2	78 7.6	105 10.2	32 3.1	53 5.2

上段：実数  
下段：%

## 7 男女共同参画社会

問18 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。  
(○はそれぞれ1つずつ)

	全 体	女 性 優 遇 が さ れ て い る	や や 優 遇 さ れ て い る 女 性 が	平 等 に な っ て い る	や や 優 遇 さ れ て い る 男 性 が	男 性 優 遇 さ れ て い る	無 回 答
(1) 家庭では	1,027 100.0	42 4.1	82 8.0	470 45.8	282 27.5	83 8.1	68 6.6
(2) 職場では	1,027 100.0	13 1.3	74 7.2	279 27.2	389 37.9	187 18.2	85 8.3
(3) 教育の場(学校・大学)では	1,027 100.0	5 0.5	34 3.3	770 75.0	103 10.0	16 1.6	99 9.6
(4) 社会活動の場では	1,027 100.0	7 0.7	59 5.7	434 42.3	389 37.9	56 5.5	82 8.0
(5) 法律や制度では	1,027 100.0	12 1.2	72 7.0	420 40.9	377 36.7	67 6.5	79 7.7
(6) しきたりや習慣では	1,027 100.0	5 0.5	29 2.8	159 15.5	532 51.8	229 22.3	73 7.1
(7) 政治の場では	1,027 100.0	9 0.9	21 2.0	159 15.5	428 41.7	334 32.5	76 7.4
(8) 全体としては	1,027 100.0	4 0.4	25 2.4	266 25.9	565 55.0	98 9.5	69 6.7

上段：実数  
下段：%

問19 あなた自身の仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について、望ましいと思うものはどれですか。（○は1つ）

全 体	仕 事 に 専 念 す る 方 が よ い	仕 事 以 外 の 方 を 優 先 す る 方 が よ い が、	仕 事 と 生 活 と を 同 じ よ う に 両 立 さ せ	仕 事 せ る 方 が よ い だ が、	仕 事 以 外 の 生 活 に 専 念 す る 方 が よ い	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
1,027 100.0	12 1.2	129 12.6	558 54.3	198 19.3	18 1.8	43 4.2	31 3.0	38 3.7

上段：実数  
下段：%



問20 問19の望ましい位置づけに対して、あなたの現在の状況は次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

全 体	仕事に専念している	どちら先かという 優先している	仕事と生活を 両立させている	どちらかという 優先させている	現在仕事を していない	その他	無 回 答
1,027 100.0	100 9.7	309 30.1	212 20.6	131 12.8	216 21.0	23 2.2	36 3.5

上段：実数  
下段：%

問21 あなたは、区が男女共同参画推進のための拠点として設置した女性センター「ブーケ21」を知っていますか。(○は1つ)

全 体	知っているし、 利用している	利用内容を知 っているが、活 動していない	利用内容を知 らないが、活 動内	知らない	その他	無 回 答
1,027 100.0	33 3.2	98 9.5	305 29.7	556 54.1	5 0.5	30 2.9

上段：実数  
下段：%

## 8 防犯対策

問22 あなたの住む地域で不安を感じる具体的な犯罪は何ですか。(○は2つまで)

上段：実数  
下段：%

全 体	ひったくり	空き巣	強盗	すり・置き引き	自動車(自 転車)泥棒・	振り込め詐欺	傷害・暴行	放火	痴漢・強 制わいせつ	少年犯 罪	子どもの 誘拐・連 れ去り	暴力団員 による犯 罪	悪質な客 引き	その他	特 に な い	無 回 答
1,027 100.0	79 7.7	271 26.4	67 6.5	39 3.8	111 10.8	155 15.1	67 6.5	89 8.7	76 7.4	78 7.6	145 14.1	17 1.7	8 0.8	43 4.2	305 29.7	21 2.0

問23 あなたが防犯のために実行していること、心がけていることは何ですか。  
(○はいくつでも)

上段：実数  
下段：%

全 体	自主的 な防犯 パト ロール など の活 動に 参加 して	区 の ホ ー ム ペ ー ジ 、 警 察 の 広 報 紙 な ど で 防 犯 に 関 する 情 報 を 得 て い る	何 か あ れ ば 警 察 や 区 な ど の 相 談 窓 口 に 行 く よ う に し て い る	日 ご ろ か ら 近 隣 住 民 な ど と 良 好 な コ ミ ュ ニ ケー ション を 保 つ よ う に し て い る	防 犯 性 能 の 高 い 鍵 や 窓 を 使 用 し た り 、 防 犯 カ メ ラ 、 セ ン サー 付 き ラ イ ト な ど の 防 犯 機 器 を 設 置 し て い る	警 備 会 社 な ど の セ キ ュ リ テ ィ シ ス テ ム を 利 用 し て い る	そ の 他	特 に 何 も し て い な い	無 回 答
1,027 100.0	16 1.6	205 20.0	133 13.0	206 20.1	145 14.1	146 14.2	31 3.0	427 41.6	20 1.9

問24 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。(○は2つまで)

上段：実数  
下段：%

全 体	区 内 の 犯 罪 発 生 状 況 や 防 犯 に 関 す る 情 報 の 発 信	住 ま い の 防 犯 設 備 整 備 費 用 の 助 成	地 域 の 防 犯 カ メ ラ や 街 路 灯 設 置 の 推 進	防 犯 講 座 ・ 講 演 会 な ど の 啓 発 活 動 に 関 す る ハ ン ド ブ ック の 配 布 や	学 校 や 児 童 館 な ど の 子 ど も の 安 全 対 策	通 学 路 や 公 園 な ど の 安 全 対 策	地 域 の 防 犯 パ ト ロ ール 活 動 へ の 支 援	そ の 他	特 に な い	無 回 答
1,027 100.0	219 21.3	131 12.8	520 50.6	30 2.9	241 23.5	309 30.1	227 22.1	25 2.4	57 5.6	28 2.7

## 9 生涯学習

問25 あなたはこの1年間に、余暇を活用してどのような趣味や自己啓発（講座・教室・学習会・講演会など）をしましたか（スポーツを除く）。  
 （○はいくつでも）

上段：実数  
下段：%

全体	健康（健康法、医学、栄養など）	趣味・運動など（舞踊、書道、レクリエーション、音楽、美術、華道、読書など）	職業上必要な知識・習得や資格の取得（料理、洋裁、和裁、編み物など）	家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）	教養的なもの（文学、歴史、科学、語学など）	情報端末（パソコンやタブレット）やインターネットに関すること（プログラムの使い方、ホームページの作り方など）	社会問題に関するもの（社会・時事、国際、環境など）	育児・教育（家庭教育、幼児教育、教育問題など）	ボランティア活動のために必要な知識・技能	自然体験やボランティア体験、職場体験などの活動	学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の公開講座	その他	何もししていない	無回答
1,027 100.0	187 18.2	332 32.3	198 19.3	97 9.4	177 17.2	78 7.6	54 5.3	59 5.7	27 2.6	31 3.0	34 3.3	12 1.2	373 36.3	37 3.6

（問25で、「1 健康」から「12 その他」のいずれかにお答えの方に）

問25-1 「どこで」または「どのように」活動しましたか。（○はいくつでも）

全体	区が行う講座や教室	カルチャーセンターなど民間の講座や教室	地域のサークル・グループ活動への参加	本やテレビ、ラジオ、ビデオ教材などの利用	職場のサークル・グループ活動	先生に付いての、個人レッスンの研修会・講座	学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の公開講座	大学、短期大学などへの社会人入学	その他	無回答
617 100.0	87 14.1	127 20.6	59 9.6	237 38.4	86 13.9	91 14.7	37 6.0	9 1.5	79 12.8	50 8.1

上段：実数  
下段：%

(問25で、「13 何もしていない」とお答えの方に)

問25-2 何もしていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

全 体	仕事 が忙 しい	家事 ・育 児な どが 忙し い	きつ かけ がつか めな い	費用 がか かる	講座 など の時 間帯 が希 望に 合 わな い	必要 な情 報(内 容・ 時間 ・場 所・ 費用 など) がな かな か	一 緒に 活動 する 仲間 がい ない	そ の 他	特 に理 由は ない	無 回 答
373 100.0	154 41.3	69 18.5	72 19.3	65 17.4	60 16.1	30 8.0	28 7.5	29 7.8	83 22.3	10 2.7

上段：実数  
下段：%

## 10 スポーツ

問26 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。  
(〇はいくつでも)

上段：実数  
下段：%

全 体	水泳 (水 中歩 行、 水中 運動、 アク アビ クス など を含む)	体 操(ラ ジオ 体操、 職場 体操、 ヨガ、 ピラ ティ ス、 太極 拳、 エア ロビ クス、 の健 康体 操な ど)	ジ ョギ ング、 マラ ソン	ウ オー キン グ、 散歩 (散 策、 ペッ トの 散 歩な どを 含む)	マ シ ン ト レ ー ニ ン グ (ラ ン ニ ン グ マ シ ン の 具を 使っ た運 動)	武 道(柔 道、 剣道、 空手 など)	テ ニ ス、 ソフ トテ ニス	屋 内球 技(バ レー ボ ール、 バド ミン トン 、卓 球な ど)	屋 外 の球 技(野 球、 ソフ トボ ール、 サツ カー、 フツ トサ ルな ど)	ゴ ルフ	ハ イキ ング、 キャン プ、 登山 など
1,027 100.0	174 16.9	308 30.0	173 16.8	516 50.2	144 14.0	15 1.5	39 3.8	34 3.3	40 3.9	155 15.1	85 8.3
	ス キー、 スノ ーボ ード、 スケ ート など	海 水浴 (遊 水)	シ ュ イ ン、 ヨッ トな ど	釣 り	ボ ー リ ン グ	サイ クリ ン グ	ニ ュ ー ス ポ ー ツ (グ ラ ウ ン ド ゴ ルフ、 キ ンボ ール、 ソフ トバ レー、 ペタ ンク、 ス ポ ー ツ 吹 き 矢 な ど)	ダ ン ス (フ ォ ー ク ダ ン ス、 ジ ヤ ズ ダ ン ス、 フラ ダ ン ス、 民謡 の踊 りを含 む)	そ の 他	ス ポ ー ツ や 運 動 は し な か つ た	無 回 答
	76 7.4	64 6.2	52 5.1	32 3.1	47 4.6	105 10.2	9 0.9	34 3.3	18 1.8	159 15.5	29 2.8

(問26で、スポーツや運動をしたとお答えの方に)

問26-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(○は1つ)

全 体	週に 3日 以上	週に 1〜 2日 程度	月に 1〜 3日 程度	3(年 月に 4〜 11 2日 程度)	年 に 1〜 3日 程度	わ か ら な い	無 回 答	上段：実数
								下段：%
839	172	309	193	77	47	9	32	
100.0	20.5	36.8	23.0	9.2	5.6	1.1	3.8	

問27 あなたは、区民のスポーツへの参加の機会を増やすために、区は今後どのようなことに力を入れたら良いと思いますか。(○は3つまで)

上段：実数  
下段：%

全 体	ス ポ ー ツ 施 設 の 増 設 ・ 充 実	学 校 体 育 施 設 の 開 放 ・ 整 備	施 設 利 用 時 間 の 拡 大	ス ポ ー ツ 行 事 ・ 大 会 ・ 教 室 の 開 催	障 害 者 を 対 象 と し た ス ポ ー ツ 教 室 や 体 験 会 の 開 催	地 域 に 対 す る 支 援 ス ポ ー ツ ク ラ ブ の 設 立 や 活 動	年 齢 に か か わ り な く 楽 し め る ス ポ ー ツ の 普 及	一 人 で も 参 加 で き る ス ポ ー ツ の 場 の 提 供	公 共 ス ポ ー ツ 施 設 で の 健 康 ・ 体 力 の 提 供	区 内 の ス ポ ー ツ に 関 す る 情 報 発 信	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答	上段：実数
														下段：%
1,027	456	146	237	127	22	78	217	323	89	141	40	119	46	
100.0	44.4	14.2	23.1	12.4	2.1	7.6	21.1	31.5	8.7	13.7	3.9	11.6	4.5	

## 11 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会

問28 2020年東京大会が開催されることについて、現段階でのお気持ちをお聞かせください。(○は1つ)

全 体	期 待 し て い る	ど ち ら か と い う と 期 待 し て い る	ど ち ら か と い う と 懸 念 が あ る	懸 念 が あ る	無 回 答	上段：実数
						下段：%
1,027	507	262	155	72	31	
100.0	49.4	25.5	15.1	7.0	3.0	

問29 2020年東京大会の開催に伴い、あなたが期待していることは何ですか。  
(○は3つまで)

上段：実数  
下段：%

全体	向上、障害者スポーツの普及など スポーツ活動の活性化（スポーツ参加意識の	健康づくりの推進	外国人との交流機会の増加	学校における国際教育などの推進	障害者支援やバリアフリー化などの福祉施策の推進	ボランティアやおもてなしなどの地域活動の活性化	地域の伝統・文化・観光資源の活用による中	五輪関連投資や消費増などによる経済活性化	防犯・防災対策の強化	幹線道路や公共交通の整備促進（道路の整備	外国人が円滑に移動できる多言語対応の取組	環境にやさしいまちづくりの推進（コミュニティ	その他	無回答
1,027 100.0	188 18.3	106 10.3	274 26.7	186 18.1	150 14.6	151 14.7	224 21.8	315 30.7	264 25.7	340 33.1	91 8.9	176 17.1	26 2.5	54 5.3

問30 2020年東京大会の開催に伴い、あなたが懸念していることは何ですか。(○は3つまで)

上段：実数  
下段：%

全体	海外観光客に対する受入準備の不足（外国	観光客の増加による治安・防犯・マナー面	観光客の増加による衛生面（感染症など）	大会開催に伴う道路規制や選手村の警備な	選手村工事などによる騒音や渋滞の発生	五輪関連以外の公共インフラ整備の遅延	材料費、人件費の高騰や便乗値上げなどに	区の財政負担の増加	その他	無回答	
1,027 100.0	250 24.3	318 31.0	704 68.5	306 29.8	204 19.9	113 11.0	104 10.1	331 32.2	228 22.2	44 4.3	42 4.1

## 12 施策の要望・評価

問31 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。満足度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つ)

	全 体	満 足	やや 満 足	普 通	やや 不 満	不 満	無 回 答	評 価 点 (点 数)	上段：実数 下段：%
(1) 子育て支援	1,027 100.0	69 6.7	167 16.3	499 48.6	85 8.3	37 3.6	170 16.6	0.85	
(2) 障害者福祉	1,027 100.0	31 3.0	74 7.2	683 66.5	58 5.6	14 1.4	167 16.3	0.29	
(3) 高齢者福祉・介護	1,027 100.0	30 2.9	108 10.5	629 61.2	101 9.8	22 2.1	137 13.3	0.13	
(4) 保健衛生	1,027 100.0	55 5.4	163 15.9	622 60.6	38 3.7	9 0.9	140 13.6	1.22	
(5) 男女共同参画社会の推進	1,027 100.0	22 2.1	63 6.1	716 69.7	51 5.0	12 1.2	163 15.9	0.19	
(6) 住宅対策	1,027 100.0	27 2.6	81 7.9	562 54.7	159 15.5	52 5.1	146 14.2	-0.73	
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1,027 100.0	87 8.5	242 23.6	389 37.9	148 14.4	38 3.7	123 12.0	1.06	
(8) 消費者生活対策	1,027 100.0	18 1.8	73 7.1	654 63.7	109 10.6	19 1.9	154 15.0	-0.22	
(9) 環境保全・公害対策	1,027 100.0	36 3.5	98 9.5	620 60.4	103 10.0	23 2.2	147 14.3	0.12	
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1,027 100.0	75 7.3	172 16.7	563 54.8	82 8.0	11 1.1	124 12.1	1.21	
(11) 駐車場・駐輪場の整備	1,027 100.0	31 3.0	83 8.1	492 47.9	205 20.0	92 9.0	124 12.1	-1.35	
(12) 道路環境整備、交通安全対策	1,027 100.0	41 4.0	130 12.7	570 55.5	121 11.8	35 3.4	130 12.7	0.12	
(13) 防災対策	1,027 100.0	40 3.9	130 12.7	631 61.4	75 7.3	18 1.8	133 13.0	0.55	
(14) 防犯対策	1,027 100.0	41 4.0	130 12.7	626 61.0	80 7.8	22 2.1	128 12.5	0.49	
(15) 再開発などによる地域整備	1,027 100.0	31 3.0	114 11.1	558 54.3	132 12.9	47 4.6	145 14.1	-0.28	
(16) 中小企業対策	1,027 100.0	19 1.9	30 2.9	696 67.8	90 8.8	25 2.4	167 16.3	-0.42	
(17) 学校教育の充実	1,027 100.0	38 3.7	106 10.3	620 60.4	78 7.6	17 1.7	168 16.4	0.41	
(18) 青少年対策	1,027 100.0	29 2.8	48 4.7	719 70.0	50 4.9	11 1.1	170 16.6	0.20	
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1,027 100.0	30 2.9	111 10.8	645 62.8	83 8.1	15 1.5	143 13.9	0.33	
(20) コミュニティの育成	1,027 100.0	19 1.9	58 5.6	689 67.1	84 8.2	16 1.6	161 15.7	-0.12	
(21) 観光振興	1,027 100.0	39 3.8	159 15.5	600 58.4	73 7.1	8 0.8	148 14.4	0.84	
(22) 地域情報化の推進(福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	1,027 100.0	20 1.9	99 9.6	626 61.0	93 9.1	13 1.3	176 17.1	0.12	
(23) 区の施策を総合的にみると	1,027 100.0	38 3.7	213 20.7	548 53.4	73 7.1	10 1.0	145 14.1	1.11	

満足度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

満足度評価点 = (「満足」の回答者数×10点 + 「やや満足」の回答者数×5点 + 「普通」の回答者数×0点 + 「やや不満」の回答者数×-5点 + 「不満」の回答者数×-10点) ÷ (回答者数 - 無回答者数)

この計算方法では、満足度の場合の評価点は、+10.00点～-10.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、+10.00点に近くなるほど満足度は高くなり、逆に-10.00点に近くなるほど不満足度が高くなる。

問31 あなたは、区の施策をどの程度重視していますか。重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つ)

	全 体	たい へん 重要	比 較 的 重 要	普 通	無 回 答	評 価 点 ( 点 数 )
(1) 子育て支援	1,027 100.0	488 47.5	179 17.4	135 13.1	225 21.9	7.20
(2) 障害者福祉	1,027 100.0	291 28.3	283 27.6	227 22.1	226 22.0	5.40
(3) 高齢者福祉・介護	1,027 100.0	418 40.7	217 21.1	179 17.4	213 20.7	6.47
(4) 保健衛生	1,027 100.0	280 27.3	320 31.2	211 20.5	216 21.0	5.43
(5) 男女共同参画社会の推進	1,027 100.0	96 9.3	293 28.5	406 39.5	232 22.6	3.05
(6) 住宅対策	1,027 100.0	240 23.4	299 29.1	270 26.3	218 21.2	4.81
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1,027 100.0	250 24.3	352 34.3	220 21.4	205 20.0	5.18
(8) 消費者生活対策	1,027 100.0	161 15.7	331 32.2	310 30.2	225 21.9	4.07
(9) 環境保全・公害対策	1,027 100.0	246 24.0	328 31.9	235 22.9	218 21.2	5.07
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1,027 100.0	207 20.2	347 33.8	264 25.7	209 20.4	4.65
(11) 駐車場・駐輪場の整備	1,027 100.0	188 18.3	316 30.8	314 30.6	209 20.4	4.23
(12) 道路環境整備、交通安全対策	1,027 100.0	243 23.7	328 31.9	241 23.5	215 20.9	5.01
(13) 防災対策	1,027 100.0	411 40.0	258 25.1	144 14.0	214 20.8	6.64
(14) 防犯対策	1,027 100.0	388 37.8	275 26.8	154 15.0	210 20.4	6.43
(15) 再開発などによる地域整備	1,027 100.0	177 17.2	302 29.4	327 31.8	221 21.5	4.07
(16) 中小企業対策	1,027 100.0	138 13.4	265 25.8	391 38.1	233 22.7	3.41
(17) 学校教育の充実	1,027 100.0	315 30.7	238 23.2	243 23.7	231 22.5	5.45
(18) 青少年対策	1,027 100.0	208 20.3	271 26.4	317 30.9	231 22.5	4.32
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1,027 100.0	118 11.5	320 31.2	370 36.0	219 21.3	3.44
(20) コミュニティの育成	1,027 100.0	106 10.3	302 29.4	392 38.2	227 22.1	3.21
(21) 観光振興	1,027 100.0	147 14.3	287 27.9	372 36.2	221 21.5	3.60
(22) 地域情報化の推進(福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	1,027 100.0	138 13.4	327 31.8	317 30.9	245 23.9	3.86

上段：実数  
下段：%

重要度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

重要度評価点 = (「たいへん重要」の回答者数×10点 + 「比較的重要」の回答者数×5点 + 「普通」の回答者数×0点) ÷ (回答者数 - 無回答者数)

この計算方法では、重要度の場合の評価点は、+10.00点～0点の間に分布し、+10.00点に近くなるほど重要度は高くなる。



問32 前問の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。  
1位から3位までを選んで番号を記入してください。

上段：実数  
下段：%

	全体	(1) 子育て支援	(2) 障害者福祉	(3) 高齢者福祉・介護	(4) 保健衛生	(5) 男女共同参画社会の推進	(6) 住宅対策	(7) 公園・緑地・水辺の整備	(8) 消費者生活対策	(9) 環境保全・公害対策	(10) 清掃・リサイクル事業の推進	(11) 駐車場・駐輪場の整備	(12) 道路環境整備、交通安全対策
第1位～第3位の累計	1,027 100.0	368 35.8	80 7.8	356 34.7	78 7.6	28 2.7	138 13.4	184 17.9	102 9.9	90 8.8	49 4.8	108 10.5	93 9.1
第1位	1,027 100.0	233 22.7	18 1.8	167 16.3	21 2.0	8 0.8	49 4.8	52 5.1	23 2.2	16 1.6	9 0.9	30 2.9	23 2.2
第2位	1,027 100.0	67 6.5	33 3.2	107 10.4	23 2.2	11 1.1	48 4.7	83 8.1	39 3.8	32 3.1	19 1.9	46 4.5	34 3.3
第3位	1,027 100.0	68 6.6	29 2.8	82 8.0	34 3.3	9 0.9	41 4.0	49 4.8	40 3.9	42 4.1	21 2.0	32 3.1	36 3.5
	全体	(13) 防災対策	(14) 防犯対策	(15) 再開発などによる地域整備	(16) 中小企業対策	(17) 学校教育の充実	(18) 青少年対策	(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	(20) コミュニティの育成	(21) 観光振興	(22) 地域情報化の推進（福祉・医療・生活） TVの整備促進など （ネットワーキング・C/A）	無回答	
第1位～第3位の累計	1,027 100.0	249 24.2	231 22.5	106 10.3	49 4.8	157 15.3	28 2.7	74 7.2	32 3.1	53 5.2	32 3.1	120 11.7	
第1位	1,027 100.0	73 7.1	57 5.6	29 2.8	18 1.8	37 3.6	1 0.1	12 1.2	13 1.3	9 0.9	9 0.9	120 11.7	
第2位	1,027 100.0	109 10.6	82 8.0	31 3.0	13 1.3	57 5.6	10 1.0	27 2.6	6 0.6	13 1.3	4 0.4	133 13.0	
第3位	1,027 100.0	67 6.5	92 9.0	46 4.5	18 1.8	63 6.1	17 1.7	35 3.4	13 1.3	31 3.0	19 1.9	143 13.9	

\*第1位～第3位の累計の無回答は第1位の値とした

<フェイスシート>

F 1 性別 (○は1つ)

全 体	男性	女性	無 回 答	上段：実数 下段：%	
1,027	421	589	17		
100.0	41.0	57.4	1.7		

F 2 年齢 (○は1つ)

全 体	20 歳 代	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	無 回 答	上段：実数 下段：%	
1,027	68	230	243	162	67	75	166	16		
100.0	6.6	22.4	23.7	15.8	6.5	7.3	16.2	1.6		

性別／年齢

上段：実数  
下段：%

全 体	男 性							女 性							性 別 ま た は 年 齢 無 回 答
	20 歳 代	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	20 歳 代	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	
1,027	28	87	104	78	32	26	66	40	143	138	84	35	49	100	17
100.0	2.7	8.5	10.1	7.6	3.1	2.5	6.4	3.9	13.9	13.4	8.2	3.4	4.8	9.7	1.7

F 3 あなたの職業は何ですか。(○は1つ)

全 体	自 営 業 (家 族 従 業 を 含 む)	勤 め 人	ア ル バ イ ト ・ パ ー ト タ イ マ ー	無 職 (主 婦)	無 職 (学 生)	無 職 (そ の 他)	無 回 答	上段：実数 下段：%	
1,027	170	474	84	164	14	101	20		
100.0	16.6	46.2	8.2	16.0	1.4	9.8	1.9		

F 4 あなたのお住まいの地域は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

全 体	京 橋 地 域	日 本 橋 地 域	月 島 地 域	無 回 答	上段：実数
					下段：%
1,027	242	312	455	18	
100.0	23.6	30.4	44.3	1.8	

F 5 現在一緒に暮らしているご家族の方は、あなたを含めて何人ですか。(○は1つ)

全 体	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人 以 上	無 回 答	上段：実数
								下段：%
1,027	228	372	210	142	48	6	21	
100.0	22.2	36.2	20.4	13.8	4.7	0.6	2.0	

F 6 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

全 体	持 家		借 家						無 回 答	上段：実数
	一 戸 建	分 譲 マ ン シ ョ ン	一 戸 建	社 、 都 市 再 生 機 構 ( 区 立 、 区 営 都 営 、 公 共 住 宅 ( 公 団 )	民 間 木 造 ア パ ー ト	民 間 鉄 筋 ア パ ー ト 、 マ ン シ ョ ン	社 宅 、 官 舎 、 寮	間 借 り 、 住 込 み		そ の 他
1,027	129	439	11	102	2	278	33	3	16	14
100.0	12.6	42.7	1.1	9.9	0.2	27.1	3.2	0.3	1.6	1.4

(F6で、「分譲マンション」、「公共住宅」、「民間木造アパート」、「民間鉄筋アパート、マンション」、「社宅、官舎、寮」とお答えの方に)

F6-1 お住まいの階層

上段：実数  
下段：%

	全 体	1 階	2 階	3 階	4 階	5 階	6 階	7 階	8 階	9 階	10 階 以上	無 回 答	1 ～ 5 階	6 ～ 9 階	10 階 以上
分譲マンション	439 100.0	4 0.9	30 6.8	40 9.1	35 8.0	25 5.7	27 6.2	39 8.9	29 6.6	22 5.0	126 28.7	62 14.1	134 30.5	117 26.7	74 16.9
公共住宅	102 100.0	2 2.0	5 4.9	4 3.9	2 2.0	4 3.9	1 1.0	1 1.0	8 7.8	2 2.0	37 36.3	36 35.3	17 16.7	12 11.8	37 36.3
民間木造アパート	2 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0
民間鉄筋アパート、 マンション	278 100.0	4 1.4	16 5.8	27 9.7	34 12.2	14 5.0	18 6.5	25 9.0	10 3.6	15 5.4	74 26.6	41 14.7	95 34.2	68 24.5	74 26.6
社宅、官舎、寮	33 100.0	1 3.0	1 3.0	0 0.0	2 6.1	1 3.0	0 0.0	2 6.1	0 0.0	1 3.0	7 21.2	18 54.5	5 15.2	3 9.1	7 21.2

F7 あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

全 体	ひとり暮らし	夫婦だけ(1世代)	夫婦と子どもだけ(2世代)	夫婦と子どもと親(3世代)	その他	無回答	上段：実数 下段：%
1,027 100.0	228 22.2	304 29.6	340 33.1	30 2.9	112 10.9	13 1.3	

F8 あなたの家族の状況は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

全 体	子どものいない夫婦	一番上の子どもが小	一番上の子どもが小	一番上の子どもが高	一番上の子どもが学	一番上の子どもが学	一人校卒業	独身	その他	無回答	上段：実数 下段：%
1,027 100.0	227 22.1	100 9.7	111 10.8	55 5.4	163 15.9	268 26.1	61 5.9	42 4.1			

ライフステージ

全 体	独身期	家族形成期	家族成長前期	家族成長後期	家族成熟期	老齡期	その他	無回答	上段：実数 下段：%
1,027 100.0	108 10.5	162 15.8	111 10.8	55 5.4	86 8.4	164 16.0	286 27.8	55 5.4	

## VI 使用した調査票



## 区政世論調査ご協力のお願い

日頃から区政の推進にご理解・ご協力いただきまして、ありがとうございます。

このたび中央区では、「第45回区政世論調査」を行うことといたしました。今回の世論調査は、満20歳以上の区民の皆さまを対象に、防災対策、高齢者対策、子育て支援などについてご意見を伺い、今後の区政推進の基礎資料として活用させていただくために実施するものです。

調査は無記名で行い、結果は統計的数値としてまとめますので、個人のお名前や回答内容が外部に漏れるなど、ご迷惑をおかけすることはありません。

また、この調査票は区の住民基本台帳から、統計的手法によって無作為に抽出させていただいた2,000人の方に送付させていただいております。

調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成27年5月

中央区企画部広報課

### ご記入にあたってのお願い

- ◇ 調査票には、あて名のご本人がご記入ください。
- ◇ 濃いえんぴつ、ボールペンまたは万年筆でご記入ください。
- ◇ お答えは、あてはまる回答の番号に○を付けてください。なお、複数回答もごございますので、○は（ ）の中に指定した個数まで付けてください。
- ◇ お答えの中で「その他」を選んだときは、その内容をできるだけ具体的に（ ）の中にご記入ください。
- ◇ 設問によってご回答いただく方が限られる場合がありますので、説明文や矢印に従ってご回答ください。特に説明のない場合は、次の設問にお進みください。

ご記入後の調査票は、同封の返信用封筒に入れて、5月25日（月）までにポストに投函してください。切手は不要です。

この調査についてご不明な点などがございましたら、下記までお気軽にお問い合わせください。



中央区役所 企画部 広報課 広聴係

〒104-8404 中央区築地1-1-1

電話 03-3546-5222（直通）

## 第 45 回区政世論調査

### 1 定住性

問 1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。(○は1つ)

- |           |            |             |
|-----------|------------|-------------|
| 1 3年未満    | 4 10～15年未満 | 6 20年以上     |
| 2 3～6年未満  | 5 15～20年未満 | 7 生まれてからずっと |
| 3 6～10年未満 |            |             |

問 2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。(○は1つ)

- |          |           |         |
|----------|-----------|---------|
| 1 非常に感じる | 3 あまり感じない | 5 わからない |
| 2 少しは感じる | 4 感じない    |         |

問 3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。(○は1つ)

- |              |             |         |
|--------------|-------------|---------|
| 1 住み続けたい     | 3 できれば転出したい | 5 わからない |
| 2 できれば住み続けたい | 4 転出したい     |         |

### 2 防災対策

問 4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。(○はいくつでも)

- |                         |                    |
|-------------------------|--------------------|
| 1 食料の備蓄                 | → ( ) 日分 (1人1日3食分) |
| 2 飲料水の備蓄                | → ( ) 日分 (1人1日3日分) |
| 3 簡易トイレの備蓄              | → ( ) 日分           |
| 4 家具類の転倒防止              |                    |
| 5 消火器・救急セットなどの備え        |                    |
| 6 バールやハンマーなどの救助用工具の備え   |                    |
| 7 貴重品を持ち出す準備            |                    |
| 8 風呂などへの水のため置き          |                    |
| 9 救命救助の講習会への参加          |                    |
| 10 町会・自治会などの地域の防災訓練への参加 |                    |
| 11 避難方法、避難場所の確認         |                    |
| 12 家庭での連絡方法などの話し合い      |                    |
| 13 建物の補強                |                    |
| 14 その他(具体的に             | )                  |
| 15 特にない                 |                    |



問5 大地震が発生した場合、家具の転倒やガラスの飛散により大けがをすることがあります。  
あなたのご自宅では、どのような備えを行っていますか。(〇はいくつでも)

- |                               |
|-------------------------------|
| 1 たんす、書棚など転倒しないよう固定している       |
| 2 テレビ、パソコンなど落下しないよう固定している     |
| 3 窓や食器棚などのガラス面に飛散防止フィルムを貼っている |
| 4 食器棚などに止め金具を付けている            |
| 5 家具の配置を工夫している                |
| 6 家具類がないため固定する必要がない           |
| 7 特に何もしていない                   |

問6 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所や救護所などの機能を持っています。  
あなたは、ご自分の地域の「防災拠点」を知っていますか。(〇は1つ)

- |         |                   |        |
|---------|-------------------|--------|
| 1 知っている | 2 知っているが、場所はわからない | 3 知らない |
|---------|-------------------|--------|

(問6で、「1 知っている」または「2 知っているが、場所はわからない」とお答えの方に)

→ 問6-1 この防災拠点の災害時の運営を円滑に進めるため、町会・自治会や防災区民組織が防災拠点運営委員会をつくり、防災訓練の実施や日頃から防災について話し合うなど、災害に備えた協力体制をとっていることをあなたは知っていますか。(〇は1つ)

- |         |                       |        |
|---------|-----------------------|--------|
| 1 知っている | 2 知っているが、活動内容はよくわからない | 3 知らない |
|---------|-----------------------|--------|

問7 大地震などの災害が起こり、自宅が火災や倒壊などにより居住できず防災拠点へ避難することになった場合、あなたが特に気がかりなことは何ですか。(〇はいくつでも)

- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| 1 水・食料          | 8 スペースの確保 |
| 2 トイレ           | 9 暑さ寒さ対策  |
| 3 プライバシー        | 10 ペットの世話 |
| 4 家族・友人・知人などの安否 | 11 その他    |
| 5 災害状況・対策などの情報  | (具体的に )   |
| 6 医療・医薬品        | 12 特にない   |
| 7 高齢者介護や乳幼児保育   | 13 わからない  |

問8 大震災などの災害が起こったら、お住まいの近くで、あなたが協力できると思う活動には何がありますか。(〇はいくつでも)

- 1 負傷者の応急手当
- 2 倒壊家屋などからの救出・救助
- 3 初期の消火活動
- 4 避難所での被災者の世話
- 5 救援物資の仕分けなどの防災活動への協力
- 6 外国語通訳・手話・建物の危険度判定など専門的スキルを活用した活動
- 7 インターネットによる情報収集や伝達
- 8 その他の支援活動 (具体的に )
- 9 協力できそうもない
- 10 わからない

問9 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

- 1 区のホームページ
- 2 ちゅうおう安全・安心メール
- 3 インターネット
- 4 ツイッターやフェイスブックなどSNS (ソーシャルネットワーキングサービス)
- 5 防災行政無線 (屋外スピーカー)
- 6 緊急告知ラジオ
- 7 ケーブルテレビ
- 8 その他 (具体的に )

※ 緊急告知ラジオ 大きな地震や水害など緊急を要する災害の発生時に自動的に電源が入り、地域コミュニティFM放送局 (中央エフエム) を活用して災害情報や避難情報などの緊急放送を受信できるラジオです。区では、平成23年度より区民の皆さまへ有償頒布を実施しています。

### 3 健康診査

※ 健康診査 勤務先で実施する定期健康診断、区や加入している健康保険で実施している健康診査、人間ドックなどです。がん検診は含みません。

問 10 あなたが加入している健康保険は次のどれですか。(○は1つ)

- 1 中央区国民健康保険
- 2 国民健康保険組合（自営業などの業種ごとに加入する健康保険）
- 3 健康保険組合
- 4 協会けんぽ（全国健康保険協会）
- 5 共済組合
- 6 後期高齢者医療制度
- 7 その他（具体的に )

問 11 あなたは、この1年間に健康診査（健康診断）を受けましたか。(○はいくつでも)

- 1 区で実施している健康診査を受けた
- 2 勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた
- 3 加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた
- 4 個人で人間ドックなどを受けた
- 5 学校で実施する健康診査を受けた
- 6 その他で受けた
- 7 健康診査は受けていない

（問 11 で、「7 健康診査は受けていない」とお答えの方に）

問 11-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない
- 2 受診方法がわからない
- 3 必要がない
- 4 時間がない
- 5 面倒である
- 6 健康に自信がある
- 7 病気で医者にかかっている
- 8 検査がいや
- 9 病気と診断されるのが怖い
- 10 費用がかかる
- 11 その他（具体的に )

#### 4 高齢者施策

問 12 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。

(もっとも近い考え1つに○)

- 1 主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい
- 2 主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい
- 3 高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい
- 4 特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい
- 5 介護付き有料老人ホームに入りたい
- 6 その他（具体的に )
- 7 わからない

問 13 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これからの高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思えますか。(○はいくつでも)

- 1 健康づくり・介護予防の充実
- 2 就労・社会参加の促進
- 3 在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実
- 4 特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致
- 5 高齢者向け住宅の整備・誘致
- 6 ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援
- 7 低所得者への経済的支援
- 8 特にない

問 13-1 問 13 で、あなたが○をした選択肢を含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

## 5 子育て支援

問 14 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。(○は2つまで)

1 配偶者・パートナー
2 その他の親族
3 職場の人
4 隣近所の人、知人、友人
5 保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間
6 保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生
7 子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など子育て支援施設
8 (健診時などで) 保健所、保健センターの担当者
9 その他 (具体的に )
10 特に相談しない
11 子育てを経験していない

※ 認定こども園 小学校に就学する前の子どもの教育・保育・子育て支援を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の役割を果たします。

問 15 あなたは、これからの区の子育て支援で何が重要と考えますか。(○は2つまで)

1 保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備
2 一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの保育サービスの充実
3 子育て仲間が交流し、情報交換のできる場の充実
4 子どもの健やかな成長のための教育環境の整備
5 情報の提供や相談サービスの充実
6 公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備
7 母親と乳幼児などの健康の確保および増進
8 職業生活と家庭生活との両立の推進
9 児童虐待防止対策の充実
10 経済的な支援の充実
11 特にない

※ 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

問 15-1 問 15 で、あなたが○をした選択肢を含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

--

## 6 障害者福祉

問 16 障害のあるなしによって分け隔てすることなく、人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現が求められていますが、あなたは、この考え方を広く区民に定着させるために、何が必要だと思いますか。(〇は2つまで)

- 1 障害や障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動
- 2 障害のある人とない人が共に参加できるイベントの開催
- 3 学校における障害者への理解を深める授業や活動の実施
- 4 町会・自治会などによる地域での共生社会への意識を高める活動
- 5 社会福祉協議会や関係機関・団体による共生社会への意識を高める活動
- 6 障害のある人に対するボランティアの育成および活動支援
- 7 その他 (具体的に )

問 17 あなたは、これからの区の障害者支援施策で何が重要だと思いますか。(〇は2つまで)

- 1 障害者雇用の拡大に向けた取り組み
- 2 手当などの経済的な支援の充実
- 3 デイケアや作業所など日中活動の場の充実
- 4 グループホームや入所施設など居住の場の充実
- 5 障害や障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動の充実
- 6 情報の提供や相談サービスの充実
- 7 障害者虐待防止対策の充実
- 8 障害者がスポーツに親しめる環境の充実
- 9 その他 (具体的に )

## 7 男女共同参画社会

※ 男女共同参画社会 男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的および文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担う社会のことです。

問 18 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

	1 女性 が優遇 されて いる	2 やや 女性 が優遇 されて いる	3 平等 になっ てい る	4 やや 男性 が優遇 されて いる	5 男性 が優遇 されて いる
(記入例) (1) 家庭では	1	2	3	4	5
(1) 家庭では	1	2	3	4	5
(2) 職場では	1	2	3	4	5
(3) 教育の場(学校・大学)では	1	2	3	4	5
(4) 社会活動の場では	1	2	3	4	5
(5) 法律や制度では	1	2	3	4	5
(6) しきたりや習慣では	1	2	3	4	5
(7) 政治の場では	1	2	3	4	5
(8) 全体としては	1	2	3	4	5

問 19 あなた自身の仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について、望ましいと思うものはどれですか。(○は1つ)

- |   |
|---|
| 1 仕事に専念する方がよい<br>2 仕事以外の生活も大事ではあるが、仕事の方を優先する方がよい<br>3 仕事と生活とを同じように両立させることが望ましい<br>4 仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい<br>5 仕事以外の生活に専念する方がよい<br>6 わからない<br>7 その他(具体的に ) |
|---|

※ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)

仕事と仕事以外の生活とのバランスを図ることにより、家庭や地域活動などに参加できる時間を確保しながら充実した生活を送ることが重要であるという考え方です。

問 20 問 19 の望ましい位置づけに対して、あなたの現在の状況は次のどれにあてはまりますか。  
(○は1つ)

- 1 仕事に専念している
- 2 どちらかといえば、仕事の方を優先している
- 3 仕事と生活とを同じように両立させている
- 4 どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている
- 5 現在仕事をしていない
- 6 その他（具体的に )

問 21 あなたは、区が男女共同参画推進のための拠点として設置した女性センター「ブーケ21」  
を知っていますか。(○は1つ)

- 1 知っているし、利用している
- 2 利用したことはないが、活動内容は知っている
- 3 利用したことはなく、活動内容も知らないが、施設があることは知っている
- 4 知らない
- 5 その他（具体的に )



## 8 防犯対策

問 22 あなたの住む地域で不安を感じる具体的犯罪は何ですか。(○は2つまで)

- |                    |                |
|--------------------|----------------|
| 1 ひったくり            | 9 痴漢・強制わいせつ    |
| 2 空き巣              | 10 少年犯罪        |
| 3 強盗               | 11 子どもの誘拐・連れ去り |
| 4 すり・置き引き          | 12 暴力団員による犯罪   |
| 5 自動車(自転車)泥棒・車上ねらい | 13 悪質な客引き      |
| 6 振り込め詐欺           | 14 その他         |
| 7 傷害・暴行            | (具体的に )        |
| 8 放火               | 15 特にない        |

問 23 あなたが防犯のために実行していること、心がけていることは何ですか。(○はいくつでも)

- |  |
|--|
| 1 自主的な防犯パトロールなどの活動に参加している                            |
| 2 区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている |
| 3 何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている                         |
| 4 日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている                 |
| 5 防犯性能の高い鍵や窓を使用したり、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している     |
| 6 警備会社などのセキュリティシステムを利用している                           |
| 7 その他 (具体的に )  |
| 8 特に何もしていない  |

問 24 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。(○は2つまで)

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 1 区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信            |
| 2 住まいの防犯設備整備費用の助成                 |
| 3 地域の防犯カメラや街路灯設置の推進               |
| 4 防犯対策に関するハンドブックの配布や講座・講演会などの啓発活動 |
| 5 学校や児童館などの子どもの安全対策               |
| 6 通学路や公園などの安全対策                   |
| 7 地域の防犯パトロール活動への支援                |
| 8 その他 (具体的に )                     |
| 9 特にない                            |

## 9 生涯学習

問 25 あなたはこの1年間に、余暇を活用してどのような趣味や自己啓発（講座・教室・学習会・講演会など）をしましたか。（スポーツを除く）（○はいくつでも）

- 1 健康（健康法、医学、栄養など）
- 2 趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）
- 3 職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）
- 4 家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）
- 5 教養的なもの（文学、歴史、科学、語学など）
- 6 情報末端（コンピューターやタブレット端末など）やインターネットに関すること（プログラムの使い方、ホームページの作り方など）
- 7 社会問題に関するもの（社会・時事、国際、環境など）
- 8 育児・教育（家庭教育、幼児教育、教育問題など）
- 9 ボランティア活動のために必要な知識・技能
- 10 自然体験やボランティア体験、職場体験などの活動
- 11 学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の公開講座
- 12 その他（具体的に )
- 13 何もしていない

（問 25 で、「1 健康」から「12 その他」のいずれかにお答えの方に）

→ 問 25-1 「どこで」または「どのように」活動しましたか。（○はいくつでも）

- 1 区が行う講座や教室
- 2 カルチャーセンターなど民間の講座や教室
- 3 地域のサークル・グループ活動への参加
- 4 本やテレビ、ラジオ、ビデオ教材などの利用
- 5 職場のサークル・グループ活動、研修会・講座
- 6 先生に付いての、個人レッスン
- 7 学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の公開講座
- 8 大学、短期大学などへの社会人入学
- 9 その他（具体的に )

（問 25 で、「13 何もしていない」とお答えの方に）

→ 問 25-2 何もしていない理由は何ですか。（○はいくつでも）

- 1 仕事が忙しい
- 2 家事・育児などが忙しい
- 3 きっかけがつかめない
- 4 費用がかかる
- 5 講座などの時間帯が希望に合わない
- 6 必要な情報（内容・時間・場所・費用など）がなかなか入手できない
- 7 一緒に活動する仲間がいない
- 8 その他（具体的に )
- 9 特に理由はない

## 10 スポーツ

問 26 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。(〇はいくつでも)

※ 運動の量や時間の条件はありません。

- 1 水泳 (水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む)
- 2 体操 (ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など)
- 3 ジョギング、マラソン
- 4 ウォーキング、散歩 (散策、ペットの散歩などを含む)
- 5 マシントレーニング (ランニングマシン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動)
- 6 武道 (柔道、剣道、空手など)
- 7 テニス、ソフトテニス
- 8 屋内球技 (バレーボール、バドミントン、卓球など)
- 9 屋外の球技 (野球、ソフトボール、サッカー、フットサルなど)
- 10 ゴルフ
- 11 ハイキング、キャンプ、登山など
- 12 スキー、スノーボード、スケートなど
- 13 海水浴 (遊水)
- 14 シュノーケリング、ダイビング、サーフィン、ヨットなど
- 15 釣り
- 16 ボーリング
- 17 サイクリング
- 18 ニュースポーツ (グラウンドゴルフ、キンボール、ソフトバレー、ペタンク、スポーツ吹き矢など)
- 19 ダンス (フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、民謡の踊りを含む)
- 20 その他 (具体的に )
- 21 スポーツや運動はしなかった

(問 26 で、「1 水泳」から「20 その他」のいずれかにお答えの方に)

-> 問 26-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(〇は1つ)

- 1 週に3日以上
- 2 週に1～2日程度
- 3 月に1～3日程度
- 4 3ヶ月に1～2日程度 (年に4～11日程度)
- 5 年に1～3日程度
- 6 わからない

問 27 あなたは、区民のスポーツへの参加の機会を増やすために、区は今後どのようなことに力を入れたら良いと思いますか。(〇は3つまで)

- 1 スポーツ施設の増設・充実
- 2 学校体育施設の開放・整備
- 3 施設利用時間の拡大
- 4 スポーツ行事・大会・教室の開催
- 5 障害者を対象としたスポーツ教室や体験会の開催
- 6 地域スポーツクラブの設立や活動に対する支援
- 7 年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及
- 8 一人でも参加できるスポーツの場の提供
- 9 公共スポーツ施設での健康・体力相談体制の整備
- 10 区内のスポーツに関する情報発信
- 11 その他(具体的に )
- 12 わからない

※ 地域スポーツクラブ 地域が主体となって運営し、学校など身近な施設において子どもから大人まで誰もが気軽にスポーツ、レクリエーション、文化活動を楽しめるスポーツクラブです。地域の皆さんは、会員、運営スタッフ、指導者としてクラブに参加することができます。中央区では平成25年2月に月島地域を拠点とする「中央区地域スポーツクラブ大江戸月島」が設立されました。

## 11 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会

問 28 2020年東京大会が開催されることについて、現段階でのお気持ちをお聞かせください。

(○は1つ)

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1 期待している         | 3 どちらかというと懸念がある |
| 2 どちらかというと期待している | 4 懸念がある         |

問 29 2020年東京大会の開催に伴い、あなたが期待していることは何ですか。(○は3つまで)

- |   |
|---|
| 1 スポーツ活動の活性化（スポーツ参加意識の向上、障害者スポーツの普及など）    |
| 2 健康づくりの推進                                |
| 3 外国人との交流機会の増加                            |
| 4 学校における国際教育などの推進                         |
| 5 障害者支援やバリアフリー化などの福祉施策の推進                 |
| 6 ボランティアやおもてなしなどの地域活動の活性化                 |
| 7 地域の伝統・文化・観光資源の活用による中央区の魅力・知名度の向上        |
| 8 五輪関連投資や消費増などによる経済活性化                    |
| 9 防犯・防災対策の強化                              |
| 10 幹線道路や公共交通の整備促進（道路の整備・拡幅、基幹的交通システム導入など） |
| 11 外国人が円滑に移動できる多言語対応の取組                   |
| 12 環境にやさしいまちづくりの推進（コミュニティサイクルの導入など）       |
| 13 その他（具体的に )                             |

※ コミュニティサイクル 貸出・返却のための拠点（サイクルポート）を複数設置し、どのサイクルポートでも自転車を借りられ、返却できるネットワーク型のレンタサイクルです。

問 30 2020年東京大会の開催に伴い、あなたが懸念していることは何ですか。(○は3つまで)

- |                                      |
|--------------------------------------|
| 1 海外観光客に対する受入準備の不足（外国語や異文化への対応の不足など） |
| 2 観光客の増加による日常生活の不便さ（交通混雑、買物不便など）     |
| 3 観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念             |
| 4 観光客の増加による衛生面（感染症など）の懸念             |
| 5 大会開催に伴う道路規制や選手村の警備などによる日常生活への影響    |
| 6 選手村工事などによる騒音や渋滞の発生                 |
| 7 五輪関連以外の公共インフラ整備の遅延                 |
| 8 材料費、人件費の高騰や便乗値上げなどによる物価上昇          |
| 9 区の財政負担の増加                          |
| 10 その他（具体的に )                        |

## 12 施策の要望・評価

問 31 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。また、その施策をどの程度重視していますか。満足度と重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	満足度					重要度		
	1 満足	2 やや満足	3 普通	4 やや不満	5 不満	1 たいへん重要	2 比較的 重要	3 普通
(記入例) (1) 子育て支援	○1	2	3	4	5	○1	2	3
(1) 子育て支援	1	2	3	4	5	1	2	3
(2) 障害者福祉	1	2	3	4	5	1	2	3
(3) 高齢者福祉・介護	1	2	3	4	5	1	2	3
(4) 保健衛生	1	2	3	4	5	1	2	3
(5) 男女共同参画社会の推進	1	2	3	4	5	1	2	3
(6) 住宅対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(8) 消費者生活対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(9) 環境保全・公害対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1	2	3	4	5	1	2	3
(11) 駐車場・駐輪場の整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(12) 道路環境整備、交通安全対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(13) 防災対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(14) 防犯対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(15) 再開発などによる地域整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(16) 中小企業対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(17) 学校教育の充実	1	2	3	4	5	1	2	3
(18) 青少年対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1	2	3	4	5	1	2	3
(20) コミュニティの育成	1	2	3	4	5	1	2	3
(21) 観光振興	1	2	3	4	5	1	2	3
(22) 地域情報化の推進 〔福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など〕	1	2	3	4	5	1	2	3
(23) 区の施策を総合的に見ると	1	2	3	4	5	-	-	-

問 32 問 31 の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。1位から3位までを選んで番号を記入してください。(1~22 までの番号)

第1位	第2位	第3位

### <フェイスシート>

多くの設問にお答えいただきありがとうございました。あと少しお聞かせください。

これからお聞きすることは、これまでのお答えの内容を統計的に分類するためのものです。ご協力をお願いします。

F 1 性別 (○は1つ)

1 男性	2 女性
------	------

F 2 年齢 (○は1つ)

1 20歳代	3 40歳代	5 60~64歳	7 70歳以上
2 30歳代	4 50歳代	6 65~69歳	

F 3 あなたの職業は何ですか。(○は1つ)

1 自営業 (家族従業を含む)	3 アルバイト・パートタイマー	5 無職 (学生)
2 勤め人	4 無職 (主婦)	6 無職 (その他)

F 4 あなたのお住まいの地域は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 京橋地域 (八重洲2丁目、京橋、銀座、新富、入船、湊、明石町、築地、浜離宮庭園、八丁堀、新川)	
2 日本橋地域	{
本石町、室町、本町、小舟町、小伝馬町、大伝馬町、堀留町、富沢町、人形町、小網町、蛸殻町、箱崎町、馬喰町、横山町、東日本橋、久松町、浜町、中洲、八重洲1丁目、日本橋、茅場町、兜町	
3 月島地域 (佃、月島、勝どき、豊海町、晴海)	

F 5 現在一緒に暮らしているご家族の方は、あなたを含めて何人ですか。(○は1つ)

1 1人	3 3人	5 5人
2 2人	4 4人	6 6人以上 (     人)

F 6 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

持家	1	一戸建	
	2	分譲マンション ( 階)	
借家	3	一戸建	
	4	公共住宅 (区立、区営、都営、公社、都市再生機構 (旧公団)) ( 階)	
	5	民間木造アパート ( 階)	
	6	民間鉄筋アパート、マンション ( 階)	
	7	社宅、官舎、寮 ( 階)	
家	8	間借り、住込み	
	9	その他 (具体的に	)

F 7 あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1	ひとり暮らし	
2	夫婦だけ (1世代)	
3	夫婦と子どもだけ (2世代)	
4	夫婦と子どもと親 (3世代)	
5	その他 (具体的に	)

F 8 あなたの家族の状況は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1	子どものいない夫婦	
2	一番上の子どもが小学校入学前	
3	一番上の子どもが小・中学生	
4	一番上の子どもが高校・大学生	
5	一番上の子どもが学校卒業	
6	独身	
7	その他 (具体的に	)

※ ご協力ありがとうございました。

調査結果の概要版が必要な方は、以下の欄に住所・氏名をご記入下さい。

概要版ができ次第、送付いたします。(9月下旬予定)

住 所 中央区 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_



## 第45回 中央区政世論調査 報告書

---

平成27年9月

刊行物登録番号

27-045

- 発行 中央区企画部広報課  
中央区築地1丁目1番1号  
電話 03(3546)5222(直通)
- 実施 株式会社 市川環境アセス  
葛飾区水元6丁目1番12号  
電話 03(6672)4956(代表)
-